

畝傍地区

〔四条〕

○寺尾勤録、四条村明細

延享年間

(大福・広吉寿彦藏)

一、高五百六拾貳石四升壹合

四条村

内 ○壹斗九升壹合

大工高

但し△拾四石九斗八合

返り地高共

内 拾四石九斗七升八合

荒引

残五百四拾七石六升三合

毛附

内訳

一、高五百三拾貳石壹斗五升五合

本高分

此取米四百八拾壹石六斗

九ツ五厘

但し元高五百四拾七石壹斗三升三合

一、高拾四石九斗八合

返り地分

此定取米拾石壹斗六合

但し定取無役之管前々方定取米拾石九斗壹升八合之處、勘定之節夫口米本高並ニ可致□四斗四升七合夫米三斗五合口米ニ分ケ如右甲辰年改之

一、高六斗三升七合

新田

内三升七合辰改出

無役

此定取米四斗五升五合

一、米七斗八升五合

藪年貢

一、米拾六石八斗五升五合

夫米

一、米拾四石七斗七升七合

口米

納合米五百貳拾四石六斗四升

檢地 文祿四年

本馬三十郎打

奥津新内 打

宗 且 打

小左衛門打

上野十右衛門打

松山源右衛門打

但し本高八百七拾六石五斗之処

四拾六石卷斗

式拾石

式百六拾三石式斗六升七合

但し当時御料ニなる小泉堂村分

残高五百六拾式石四升壹合

内拾四石九斗八合

但し元禄二己巳より如斯

御朱印之御本高ニ成村方江荒引ニ成

除地
一、鎮守 春日大明神

同断
一、鎮守 春日大明神

同断
一、鎮守 高木宮 コツキ 宮司 寺下百姓治兵衛

一、峯山大明神 本社 光明皇后

脇立 住吉大明神

八幡大神

四条 小泉堂 慈明寺

右宮郷 山本 大谷 吉田 大窪 畝傍

畝傍地区

年貢地
一、道場 一向宗郡山光慶寺末寺

同断
一、道場 一向宗京東の坊末寺

除地
一、神武天皇御陵

右御陵敷地廻り四拾七間半之所、享保十七壬子年三月

廿八日、京都町奉行より為御改、与力飯室助右衛門同

心今井平太夫被遣、高札文言平田村石井村 (川丸) 同事ニ建

之、但敷札廻り田地東之方少し南江廻り、御料坤方

少し南江廻り、御料乾ノ方御領内御陵廻り四拾七間半

ハ荒芝ニ而無年貢

除地
一、惣堀 但シ村々東北西三方ニ在之

一、井手壺ヶ所 四分村之北ニ在之

一、出水壺ヶ所 四分村領之内ニ在之

但し年貢八斗四升七合、小房村七斗壺升三合四分村

江遣ス

一、御制札 忠孝毒薬切支丹

同領新町村

三五五

畝傍地区

延宝四丙辰年始て建之

除地

一、鎮守 光明皇后

年貢地

一、願專寺一向宗西本願寺末

一、板橋壺ヶ所 但し普請者御作事方

一、小入用者小房村江も懸る

○伏見家家来通行手形覚

(欠年) 午五月

(喜多堅治文書)

覚

○(印鑑)

一、人足 式人

一、軽尻 卷足

当家长

喜田九兵衛

(えり)

右者当家用向有之、和州高市郡四条村之令往來候、依

之定之賃錢受取之人馬、無遲滞繼立、船川渡等差支無

之様肝煎可致頼入候、以上

三五六

伏原殿

役所□(印)

午五月

伏見方和州八木迄

宿々問屋 役人中

川々 役人中

○安永講成員覚

(江戸後期)

(四条新町宮座文書)

講中次第

久米屋孫七

坊城屋新□

田葉粉屋六兵衛

細井戸屋治兵衛

御坊屋庄兵衛

かさや善兵衛

たばこや多兵衛

なわてや利兵衛

なわてや宇兵衛

かせ屋長兵衛

油屋小三郎

米屋儀兵衛

繩手屋長兵衛

南浦屋勘兵衛

安永講 乙飯七百六拾目

○小泉堂春日社取調書上帳

明治三年八月

(天図近世文書)

<p>明治三年 氏神取調書上帳 午八月日 高市郡 小泉堂村</p>

高市郡

小泉堂村

一、氏神春日大明神 有敵七敵式拾歩

祭神 (アキ)

敵傍地区

一、御鎮座之儀者相分リ不申候

一、社地之儀者村方之内除地ニ御座候

一、社殿 桁行 三尺
梁行 四尺

一、拜殿 桁行 三間
梁行 丈間

一、鳥居 八尺

一、石灯笼 四本

一、神劔宝物無御座候

一、神鏡 三寸壹面

一、氏子 当年限リ

一、玉籬 廻リ十一間

一、祭日 九月廿六日

一、神職人無御座候

一、宮座 伝次郎 興兵衛 平四郎 利助 庄三郎

伊兵衛 彦四郎 彦太郎 弥三郎 新八

新兵衛 忠五郎 善四郎 平三郎 嘉兵衛

善右衛門

拾六人

一、直 大久保村住 筆^(カ)□も兼職

一、社頭修理向之儀者村高之内も仕、不足之分ハ村方一統寄進ニ而可仕候、

右之通今般御取調被仰出奉畏候、依而取糺悉ク奉申上候儀、聊相違無御座候、

高市郡小泉堂村

庄屋 伝次郎 ㊦

同断 利助 ㊦

年寄 善四郎 ㊦

同断 新八 ㊦

宮座惣代 善四郎 ㊦

奈良県

御役所

○宮講中雜費日記

昭和十五年〜昭和二十五年

(四條新町宮座文書)

○昭和十五年十月十二日

当家北西忠作

新体制ニ而講中申合セ、自肅自戒シテ子供ノ招待ヲ廃止シ、后四時氏神ニ参拜ノ児童ニ四ツノ講協同ニテ、一人拾錢程度ノ「パン」ヲ支給セリ、但シ費用ハ当家負担トス、尚其ノ他一切ノ節約ヲ実行申合セリ、本年ヨリ当夜ヨリ酒一本負担トス、(但シ一升)

○昭和十六年十月十二日

当家柳田善四郎

但シ十五年度ヨリサイダ三本、当家持、十六年度ヨリ酒ハ当家持以外ニ壺升計上スル事、柿ハ壺個拾錢ノ割ニテ計上スル、本年ハばん配給不足ニ付、参拜児童ニ五錢ノ壺個宛交附セリ、

○昭和十七年十月十二日

当家広谷喜一郎

十七年度ヨリ石井常次郎氏入講セリ、但シ本年は物資不足に付き、雜記帳二冊宛講中の小供に配符せり、

○昭和十八年十月十二日

当家石井常治郎

但し本年ヨリ白米三合持ヨル事、物資不足ノ折柄児童ニ
対スル支給ヲ廃止シ、各講ヨリ壹円式十五銭宛青少年団
へ寄付スル事、但シ当家持トス、本年度ヨリ神前供米
(神_レ氏祭)八神主ニ支給セザル_レ、当家当番ニ於イテ從
来神主ニ接待セシ事ヲ廃止ス、右ノカハリニ金壹円式十
五銭当家ヨリ出ス事、

○昭和十九年十月十二日

当家森田清五郎

但シ柳田俊一君出征中ニ付欠席ス、本年度ヨリ酒ハ当家
持トス、

○昭和貳拾年拾月拾貳日

当家米田啓治郎

終戦後の宮座にて特に物資不足の故を以て、各自罐詰壺
個宛持寄りてすき焼す、

○昭和貳拾壹年拾月十二日

当家北西忠作

本年ハ特ニ物資不足ニテ魚肉モナク、協議ノ結果牛肉ニ

畝傍地区

テスキ焼ス、

○昭和貳拾貳年拾月拾貳日

当家柳田善雄

○昭和二十三年拾月十二日

当家広谷喜代一

本年は柳田善雄殿欠席す、本年より講員申合せにより当
家渡しぜんざいする事、但し小豆參合時価相場にて講員
の負たん、砂糖はもちより、鏡餅は正月に備へる事を廢
し宮座当日に備る事、当家もちの酒壺升本年は九百七拾
円にして、サイダー壺本四拾円、但し六本当家より支出
の事、

○昭和二十四年十月十二日

当家石井常治郎

○昭和二十五年十月十二日

当家森田清五郎

└

〔山本〕

○山本村小物成場検地帳

延宝七年八月八日

(天図近世文書)

延宝七年未年

大和国高市郡山本村小物成場検地帳

八月八日

本多平八郎内

吉岡新左衛門

一、峯山

松山百六拾貳間
九拾五間

五町壹反三畝步 惣村分

此山手米壹石三升

一、藪三反五畝七步

此竹役米貳斗四升六合六勺

内

一、かいと

小竹藪四拾貳間
拾間三尺

壹反四畝貳拾壹步

孫四郎
孫市郎

此竹役米壹斗貳合九勺

一、かいと

小竹藪四拾貳間
貳間三尺

三畝拾五步

孫四郎
孫市郎

此竹役米貳升四合五勺

一、かいと
小竹藪拾四間
六間三尺

三畝壹步

庄五郎

此竹役米貳升壹合貳勺

一、かいと
小竹藪拾三間
拾間

四畝拾步

庄五郎

此竹役米三升三勺

一、かいと
小竹藪貳拾九間
拾間

九畝貳拾步

庄五郎

此竹役米六升七合七勺

右者大和国高市郡山本村御小物成場、検地依被仰付候、六尺間竿を以壹反三百步也、町反畝步委細書記帳面相極置者也

本多平八郎内

延宝七己未年

惣奉行

吉岡新左衛門印

八月八日

山田十郎右衛門印

元

多羅尾源太夫印

検地奉行

湯川兵太夫印

同

石橋八太夫印

同

花村平太夫印

同

難波市郎兵衛印

同

河本半左衛門印

同

毛利源五兵衛印

山本村庄屋

孫市郎印

同村案内者

孫四郎印

同

庄五郎印

墨付三枚之内落字付字削目なし

宮所善藏写 ㄥ

○山本村申年御物成目録

文化九年十二月

(地黄・長村正裕文書)

申年御物成目録

山本村

高式百三拾九石壹斗六升六合七勺

畝傍地区

□貳百七石四斗七合

内

三拾八石三升八合貳勺四才七札 御定免

残□百六拾九石三斗六升八合七勺五才三札

又 五石八升壹合六才貳札 石別 三三升ツ、
□米

又 七石壹斗七升五合壹札 高石別 二□□
夫米

又 百八拾壹石六斗貳升四合八勺一才六札

又 拾貳石七斗壹升三合七勺三才七札 駄賃

石別 二七升ツ、

定成百九拾四石三斗三升九合

右之内引物

壹石六升九勺 峯山御林年貢

九斗六升貳合 井米

四石七斗三升 焼田御赦免

三石三斗 御□壳渡米

壹石五斗五升五合壹勺 先納方七月々十月迄米利割合

壹石 庄屋給

ノ拾貳石六斗八合

定成百九拾四石三斗三升九合

残米百八拾壹石七斗三升壹合

内

内御払

御引物

貳拾石八斗六合

西正月上ケ
大豆四十貳匁かへ

一、壹石六升九匁

峯山御林年貢

貳石

御扶持方米

一、三石三斗

御□壳渡米

貳拾石

公務方

一、壹石五斗五升五合壹匁

五十年御仕法□壳

百石

十月御払
石二五十六匁かへ

七月方十月迄利米

御残米

十一月御払

焼田方御赦免

三拾八石九斗貳升五合

五十三匁かへ

一、四石七斗三升

井米

右之通皆済也

一、壹石

庄屋給

文化九年

ノ拾貳石六斗八合

申十二月

残百八拾壹石七斗三升壹合

御会所様

内貳拾石八斗六合 大豆

一、貳石 御扶持方

一、貳拾石 公務方

一、百石 十月御払
石三五十匁かへ

御残米三拾八石九斗貳升八合

○山本村御引物覚

(江戸後期?)

(地黄・長村正裕文書)

山本村

┌

○溜池水出し御届状

文政元年七月二日

(地黄・長村正裕文書)

乍恐御届奉申上候

山本村 役人

字西垣外
一、溜池用水

右之用水此節少之水出シ申度候間、乍恐御届奉申上

候、以上

文政元年

山本村

寅七月二日

年寄 伊右衛門[㊦]

同断 宇兵衛[㊦]

御役所様

┌

〔四分〕

○寺尾勤録、四分村明細

延享頃

(大福・広吉寿彦藏)

一、イ高三百五拾三石五斗四升壹合

四分村

畝傍地区

イ但惣高

四百拾貳石八斗貳升之内五拾九石

貳斗七升九合

正徳二壬辰年飛驒村江分る

内 壹石八斗貳升六合者田成畑位違

内八石八斗四升六合

荒引出水床共

残三百四拾四石六斗九升五合

毛附

此取米貳百五拾五石七升四合

七ツ四分

一、高四斗壹升三合

此取米三升六合

新田 本高並

一、米八斗四合

藪年貢

一、米拾石六斗壹升九合

夫 米

一、米七石六斗八升六合

口 米

納合米貳百七拾四石四斗八升九合

檢地文祿四年九月廿日帳面之役人名無之

一、除地

鎮守 春日大明神

但し 四分繩手城殿高殿醜醐五ヶ村之鎮守也、

尤四分村宮元ニ而庄屋甚三郎宮司也

此外小房村法花寺村も加之

年貢地

一、西向寺 一向宗 曾根 名称寺
飯貝 本善寺末寺

郡山 光慶寺

一、正恩寺 浄土宗五位村称名院末寺

一、庄屋やしき無年貢

一、村々出水三ヶ所内壱ヶ所年貢地

一、大道筋石橋壱ヶ所 四條村 立会
大窪村

一、鎮守 四分村と一緒 同領小房村

一、道場 一向宗西本願寺末寺

一、新賀村之并手壱ヶ所

一、御制札 切支丹

一、△イ高五拾九石式斗七升九合

此取米四拾三石式斗六升六合

一、米壱石七斗七升八合

一、米壱石三斗壱升六合

納合米四拾六石九斗六升

検地帳面四分村一緒也

正徳ニ四分村より分る

一、道場 善行寺 一向宗摂州富田本照寺末寺

〔木殿〕

○寺尾勤録、木殿村明細

延享頃

(大福・広吉寿彦蔵)

一、高式百六拾五石壱斗

内四石式斗式升

□□高

城殿村

内拾式石式斗八升三合壱夕

荒引

残式百五拾式石八斗三升六合

此取米式百式拾三石七斗四升三合

九合 八ツ八分五厘

一、高六斗八升五合三夕

此取米六斗六合

但し先年庄屋と村人出入之節、余高ニなる

一、米八斗五升三合

藪年貢

一、米七石九斗七升四合

夫 米

一、米六石七斗五升六合

口 米

納合米貳百三拾九石九斗三升貳合

檢地 文祿四年九月

吉太衛門
熊右衛門

一、高百七拾九石貳斗四合

和田村高也

内延宝三卯年より分る

除地

一、鎮守 牛頭天皇

年貢地

一、光明寺 一向宗京都興正寺末

除地

一、薬師寺 浄土宗南浦村法然寺末

川原田中之北藪之内ニ有

一、村々出水一ヶ所 田中村領之内ニ在之年貢田中村江

出る

年貢地

一、田かへ池壺ヶ所

大道筋

一、石橋壺ヶ所 城殿大久保立合

一、庄屋やし記無年貢

右村名御朱印村目録之通り、向後木殿村と相改候

様、延享戊辰年申渡在之

和田村高之内

一、イ高百七拾九石貳斗四合

同村支配

此取米百五拾八石五斗九升六合

八ツ八分五厘

一、米五石三斗七升六合

夫 米

一、米四石七斗五升八合

口 米

納合米百六拾八石七斗三升

〔御坊〕

○御坊村国役大川掛帳請取帳

享和三年七月十五日

〔地黄・長村正裕文書〕

癸享和三年

国役大川掛帳請取帳

亥七月十五日

御坊村

去ル酉年分掛り高百石ニ付

銀貳拾貳匁六分七厘九毛宛

銀掛ヶ七月二十一日

村高百拾貳石貳斗四升三合

掛銀貳拾五匁四分六厘

又壹分八厘京都封包賃

合式拾五匁六分四厘

高壹石ニ付貳分三厘ツゝ

一、壹貳匁分七厘 藤兵衛

此せに 百三拾五文

一、壹匁貳分三厘 新七

此せに 百三十壹文

一、壹分八厘 久介跡伊八

此せに 十九文

一、貳分壹厘 伝三郎

此せに 貳拾貳文

一、四分四厘 清兵衛

此せに 四拾六文

一、壹分八厘 長右衛門

此せに 十九文

一、壹分貳厘 藤八跡徳松

此せに 拾貳文

一、壹匁九分壹厘 善四郎

此せに 貳百六文

一、壹分八厘 茂右衛門

此せに 十九文

一、六厘 靈光庵

此せ(マ)に 六文

一、壹分 儀八

此せに 拾文

一、九厘 宇兵衛

此せに 九文

一、七厘 忠兵衛

此せに 七文

一、三分四厘 佐次兵衛

此せに 三十五文

一、壹分壹厘 伝吉

此せに 拾壹文

一、九厘 彦五郎

此せに 九文

一、九厘 南町長四郎

此せに 九文

一、壹分壹厘 (カ) 兵次郎後家

此せに 拾壹文

一、八厘 半兵衛

此せに 八文

一、四厘 作兵衛

此せに 四文

一、壹分四厘 善六

此せに 拾四文

一、七厘 甚八後家

此せに 七文

一、三分貳厘 伊八

此せに 三拾三文

一、六分貳厘 平三郎

此せに 六拾四文

畝傍地区

一、七分四厘 茂兵衛

此せに 七拾六文

一、三分九厘 清六

此せに 四拾文

一、六厘 和平次後家

此せに 六文

一、六厘 弥助

此せに 六文

一、五分五厘 五兵衛

此せに 五拾七文

一、壹分貳厘 藤吉

此せに 拾貳文

一、七厘 忠三郎

此せに 七文

一、壹分壹厘 弥兵衛

此せに 百貳拾壹文

一、壹分八厘 大道平兵衛

此せに 拾八文

一、壹分壹厘 孫四郎

此せに 拾壹文

一、壹分貳厘 藤九郎

此せに 拾貳文

一、三分五厘 利助

此せに 三拾六文

一、貳分七厘 惣兵衛

此せに 貳拾八文

一、壹分九分六厘 介三郎

此せに 貳百拾文

一、九分 新兵衛

此せに 九十三文

一、八厘 中町平兵衛

此せに 八文

一、壹分三厘 与四郎後家

此せに 拾三文

一、^(卷)□分壹厘 清右衛門跡清藏

此せに 拾壹文

一、七分六厘 平七

此せに 七十八文

一、七分四厘 清七

此せに 七十六文

一、壹分貳分九厘 彦七

此せに 百三拾七文

一、九厘 喜兵衛

此せに 九文

一、四分壹厘 又兵衛

此せに 四拾貳文

一、九分五厘 長次郎

此せに 百貳文

一、四分貳厘 重太郎後家

此せに 四十三文

一、三分九厘 利兵衛

此ぜに 四十文

一、壹分壹厘 藤四郎

此ぜに 十一文

一、貳匁壹厘 重次郎

此ぜに 貳百拾五文

一、九厘 次郎吉

此ぜに 九文

一、壹匁壹分六厘 又三郎

此ぜに 百貳拾三文

一、五分七厘 信光寺

此ぜに 五拾八文

一、四分三厘 田出井宮講地

此ぜに 四十四文

一、壹分八厘 東ノ坪宮講地

此ぜに 拾八文

一、貳厘 善次郎後家

此ぜに 貳文

一、壹分六厘 与兵衛 甚七郎屋敷村請

此ぜに 拾六文

一、六分 今井米屋長兵衛

此ぜに 六拾貳文

銀ノ貳拾五匁七分五厘

錢ノ貳貫六百七拾四文

又寄違八拾貳文出ス

ノ貳貫七百五拾六文

内貳貫六百七十貳文請取

七月十九日清兵衛殿

残而八十四文不足

亥七月十六日

兼帯庄屋地黄村 甚兵衛

御坊村年寄 善四郎

同断 弥兵衛

○御坊村大川掛り並春日仮殿木掛銀請取帳

文化三年十月九日

(地黄・長村正裕文書)

坊村掛り

善四郎殿御仕かへ

二口ノ七拾九匁三分貳厘

利足壹匁壹分九厘 一ヶ月分

ノ八拾匁五分壹厘

右之割方

高壹石ニ付七分貳厘ツヽ

文化三年

大川掛り并春日仮御殿木掛銀請取帳

寅十月九日

御坊村

国役大川掛り銀、去丑年分高百石ニ付貳拾六匁八分九

厘ツヽ

寅八月掛り

御坊村

高百拾貳石貳斗四升三合

此掛り三拾匁壹分八厘

又貳分貳厘京納封代

合三拾匁四分

寅九月掛り

南都春日御祭礼仮御殿木掛

一、四拾八匁九分貳厘

坊村掛り

善四郎殿御仕かへ

二口ノ七拾九匁三分貳厘

利足壹匁壹分九厘 一ヶ月分

ノ八拾匁五分壹厘

右之割方

高壹石ニ付七分貳厘ツヽ

(※一部欠ク)

一、貳分五厘

弥平次

此ぜに 貳十八文

一、五分六厘

茂右衛門跡おツま

此ぜに 六十貳文

一、五匁九分四厘

善四郎

此ぜに 六百六十文

十月廿五日年貢方差引カ入済

一、三分壹厘

重兵衛

此ぜに 三十六文

一、貳分四厘 宇兵衛跡おしま

此ぜに 貳十七文

一、貳分八厘 治郎吉

此ぜに 三十一文

一、五分六厘 長四郎

此ぜに 六十貳文 善次郎方共

一、壹匁五厘 佐次兵衛

此ぜに 百十七文

一、貳分八厘 長兵衛

此ぜに 三十壹文

一、三分四厘 伝吉

此ぜに 三十八文

一、三分五厘 吉次郎跡おとよ

此ぜに 三十九文

一、貳分五厘 磯兵衛

此ぜに 貳十八文

一、壹分三厘 作兵衛

此ぜに 十五文

一、四分三厘 善六

此ぜに 四十八文

一、貳分四厘 甚八跡おりん

此ぜに 貳十七文

一、貳匁七分五厘 新兵衛

此ぜに 三百六文

一、貳匁九分八厘 大道伊八

此ぜに 三百三十壹文

一、貳分貳厘 平三郎

此ぜに 貳十五文

一、壹匁貳分壹厘 清六

此ぜに 百三十五文

一、貳匁壹分 茂兵衛

此ぜに 貳百三十三文

一、壹匁七分貳厘 五兵衛

此ぜに 百九十壹文

一、三分三厘 和平次

此せに 三十七文

一、壹分六厘 弥助

此せに 十八文

一、三分六厘 嘉兵衛

此せに 四十文

一、貳匁壹分七厘 弥三郎

此せに 貳百四十壹文

一、三匁六分壹厘 弥兵衛

此せに 四百壹文

一、五分四厘 半兵衛

此せに 六十文

一、四分五厘 孫四郎

此せに 五十文

一、八分五厘 宗兵衛

此せに 九十五文

一、三分九厘 藤九郎

此せに 四十三文

一、壹匁九厘 利助

此せに 百貳十壹文

一、貳分六厘 徳兵衛

此せに 貳十九文

一、六匁壹〔(破損)〕 助三郎

此せに 〔(破損)〕

一、三分〔(破損)〕 〔(破損)〕

此せに 〔(破損)〕

一、三匁貳分壹厘 平七

此せに 三百五十七文

一、貳匁三分 清七

此せに 貳百五十六文

一、貳分八厘 喜兵衛

此せに 三十壹文

一、四匁三厘 彦七

此せに 四百四十八文

一、壹匁貳分九厘 又兵衛

此ぜに 百四十三文

一、貳匁九分八厘 長次郎

此ぜに 三百三十一文

一、叁匁三分 十太郎跡おつ屋

此ぜに 百四十五文

一、壹匁貳分貳厘 利兵衛

此ぜに 百三十六文

一、三分五厘 藤四郎

此ぜに 三十九文

一、六匁貳分九厘 重次郎

此ぜに 七百分

一、三匁六分三厘 甚右衛門

此ぜに 四百三文

一、壹匁貳分三厘 信光寺

此ぜに 百三十七文

一、壹匁三分六厘 田出井宮講地

畝傍地区

此ぜに 百五十壹文

一、五分七厘 (車?) 東ノ坪宮講地

此ぜに 六十三文

一、五分貳厘 村屋敷甚七郎与兵衛

此ぜに 五十八文

銀ノ八拾匁九分九厘

錢ノ九貫百文

文化三丙寅年十月九日

庄屋 甚兵衛 ㊦

年寄 善四郎

同断 弥兵衛

十月十九日 一、六貫三百拾九文 請取

十一月二日 一、貳貫貳拾三文 請取

ノ八貫三百四拾貳文

又六百六拾文 善四郎直請取

又三十壹文 七兵衛年貢へ入

又五十八文 村屋敷年貢入

九貫百文請取

右之通帳面相済

寅十一月二日

御坊村御礼銭受納通知書

(江戸後期)

(地黄・長村正裕文書)

御坊村

一、貳拾疋 卯八朔御礼銭

一、三拾疋 辰ノ年頭御礼銭

一、三拾疋 右同断大庄屋御礼銭

八百文

代九匁六分

右之通御受取被下候

辰正月五日

長村甚兵衛

小松半次郎様

○畝火御坊信光寺太鼓楼等仕法帳

慶応三年正月

(慈明寺・細川弘光文書)

慶応三年
卯正月日

太鼓楼建立并ニ台所仕法帳

畝火御坊

一、此度畝火御坊太鼓楼建立并ニ台所仕法ニ付、年賦調

達講御人数貳百七十人ト相定メ、御壹人前々壹会ニ掛

金壹両宛、壹ケ年ニ六度調達、壹年半ニ掛金高九両と

して其内へ割戻シ、済満講ニ相成リ候事、

一、壹ケ年々々六度、貳ケ月めニ相催可申候、

一、返済之儀ハ左之仕法ヲ以、壹会ニ三十人宛割戻シ、

九会目□講ニ相成リ候事、

一、多人數之儀ニ付左之割合通振鬮ヲ以相渡、始メ壹番

与十五番ト三十番ト、鬮当リ之御方ハ□講迄之懸ケ金

受取、殘金相渡シ相除キニ相成リ候事、其外度々鬮当

リ之御方ハ後会々満講迄之掛金之内へ預リ置可申候

事、勿論鬮当御方ニも□講迄無滞御掛次可被下候、

一、会席掛金御持參無之御方ハ本鬮花鬮相除キ可申候事、

一、会度鹿末之割籠飯差出シ可申候事、

并ニ鹿末料トシテ金壺朱ツ、差上ケ申候事、

一、花鬮会度八十人ツ、相渡し可申候事、

壺番鬮当リ銀札十五匁、

但シ 式番方七拾九番迄三匁宛、

八十番鬮当リ 同式拾匁、

右之通り相渡し可申候事（以下略）

〔和田出屋敷〕

○田中村和田郷分地方免定

慶応二年十一月

〔天図近世文書〕

寅年免定之事

一、高四拾四石六斗七升五合九夕

田中村和田郷分地方

内

七石九斗九升七合

引方平均引

畝傍地区

七石

残式拾九石六斗七升八合九夕

此取米式拾四石九斗三升

右之通当御取箇相定候間極月十日迄急度可皆済者也

慶応二丙寅年十一月

引方増引

毛附

八ツ四分

嶋甚左衛門 ㊦

田中織衛門 ㊦

万喜力四郎 ㊦

吉川厚見 ㊦

多羅尾儀八出坂

田中村分地
市兵衛
吉左衛門

〔和田〕

○領内一円可相守条々書上

元禄六年六月六日

〔天図近世文書〕

可相守条々

一、御公儀御高札御ケ条書之通、

〔破損〕
一々堅可奉守

候、切支丹宗門

(破損)

末々之者迄無油断遂吟味、少

茂胡乱成者於有之ハ、早速可告来候、伝馬人足御触有之時者、夜雨風雪をいとはず、無遅々可相勤候、往来之道橋如有来念入可申事、

一、男女之衣服御法度之趣、堅(破損)分限相応(つゞ)守約可

着之召遣之者ハ猶以龜相成衣類可着、免許之外者刀指べからず、長脇指も可為無用、神事法事祝言等之諸式相応カかろく可仕候、膳部ニ木貝并金銀之箔ちりはめ候儀、堅令停止畢、万端不可及花麗振舞大酒無用神事法事祝言たりといふ共、一汁二菜酒三献ニ不可過之事、

一、如御大法上納皆済無之内ハ、其年之新米一円ちらすへからず、相背者於有之者急度可告来候、見のかしニ仕候ハ、御未進米五人組ニ弁させ可申候、無扨返済之子細於有之者、御年貢米残置、庄屋年寄ニ相断可任其意候、惣而常々五人組中間相互ニ異見仕、身を持立候様ニ可仕候、万端作法悪敷、料作不情ニ仕者於有之

者、庄屋年寄ニも相断五人組を發し其様子可告来事、

一、田畑少茂荒シ申間敷候、何連可申田畠有之時者庄屋年寄五人組遂僉儀、上納滞不申候様ニ支配可仕候、然と仕候観類無之独身之者煩申か、不及是非子細有之而田畠之仕付互成時迄、其村之惣百姓中相助、植付とらせ可申事、

一、自他入組之田畠山野之境、井水以下之儀、尤可守先規、公領他領江対シ新法之非分一円不可懸申、己の非分をのれとハ弁へかたき物ニ候間、大庄屋隣郷之庄屋共と令内談、此方之非分糺明仕候事專要也、□々僉儀之上無是非及公事候ハ、即日可告来候、公儀御奉行所江之訴状通答此方江無断不可差上事、

一、田畠永代之売買御公儀御法度之趣堅可奉守候、百姓入替之時分、又者無扨子細於有之者、奉行所江相断可受下知候、年季売之田畠山林も自今以後、弥郷代官并大庄屋之裏判を以売買可仕候、他領へ売之、或ハ質ニ入候儀一向堅令停止候事、

一、百性之跡式小分ケニ成候得ハ、共ニ牛馬持事ならず候、御公儀御代官下高拾石より内ハ分ケ申事御停止候間、自今以後御領下茂此旨堅可相守候、たとへ惣領たりといふとも、常々徒者ニ而耕作成かね可申者ニハ跡式譲るへからず、庄屋年寄共示合、相続可仕者ニ譲るへし、御公儀之田畠作りあらし候事、其恐不少候、惣領或ハ病者或ハ無甲斐証者者、其^(庶)子并兄弟甥杯之内無依怙最貞庄屋年寄共と吟味之上、可然者をえらミ、家督ニ立可申事、

附、養子入婿等ニ跡職を譲り、実子たりといふ共子余多有之輩并兄弟後家親類等ニ遺物令配分おいてハ、其身堅固之内庄屋年寄ニ相断、証文ニ載置へし、不孝不儀之族於有之ハ、重而可申断也、跡式及爭論違奉行所ニ之時、末期万端忘却之刻、背道理たる遺言一向相立申問敷事、

一、博突者百惡之源也、往々ニ申触候、^(ママ)嚴密之御法度弥堅可相守之、違背之輩者親子兄弟五人組庄屋年寄迄急

敵傍地区

度曲事ニ可申付候、宿仕候輩ハ本人ハ不及申、両隣向隣五人組迄可為曲事、博突之道具所持之輩者縦打不申候共其罪不可遁、博突之道具壳候商人於有之者、博突同罪ニ可申付候、頼母子堅停止之事、

一、売買者所之繁昌、国之要用也、日夜可励勤之、但国法を蔑ニし、非正道事をたくミ、或連署之神文或蜜々ニ致会合結徒党之類、実法商ひニあらず、皆貪欲狂惡之至也、取分米売買之輩相慎へし、博突ニ似たる商ひハ博突同罪ニ可申付、質屋之事、御公儀大法之通堅可相守之、尤無証人質物取へからず、質札ニ□と所付髓ニ書付、よめさるやうニ不可書之、あやしき質物者其所之庄屋年寄五人組ニ相断可取之、其質盜物と察入なから過分之利足有之ニ迷ひ、無断竊ニ取之輩、縦請人在之と云共僉儀之上盗人同罪ニ可申付、盜物と不知して取之候事も可在、盜賊穿鑿之時其盗人之□知候ハ、質札相改其□付有之質物者早速庄屋年寄ニ可相断、此方より失物相尋候時者一物茂かくすへからず、

隠シ置盗人白状之上又者脇より於露頭者、其科不可遁田、畠山林家屋敷之質入茂郷代官并大庄屋之裏判を以可取之、相對斗之証文者可為反古事、

一、旅籠屋之事御公儀道中万端御法式之通可相守之、一宿之人あまた在之、夜者盜賊のため、火用心のため旁以慥成不寝番差置無□事様ニ可仕候、煩候旅人有之時者貴賤ニよらず情ニ入いたわり、医者を引付可加療治、於令疎意ハ可為越度、病人及二三夜令止宿敷令死去ハ可達奉行所事、

一、町郷中徒党をたて或ハ、神水をのみ、或連判仕悪事を企候輩於有之者、早々可告来候、かくし置候ハ、庄屋年寄五人組可為同罪、

附、公事諍論之時与力方人仕可際事茂、横道之異見を加へ申候輩者後日ニ聞付候共、従本人重罪ニ可申付候、不孝其かくれ無之輩於有之者、縦父母者慈悲之余不訴之と云共、聞付次第遂吟味、依其品可申付、公事載許之時不孝露頭之輩者申分道理ニ似たり

といふとも、不孝之不実を以虚妄と察入可相捌候、惣而仁義を弁、生類を憐可申事、

一、手負欠落并遊女野郎之輩ニ仮初の宿も堅く令停止畢、^(マツ)綴附為親類他国遠方ニ在之年月通路無之、其有家不分明者ニ一夜之宿も借シ申ましく候、請人有之共常の家職なく、其体見届不申候者、又者浪人道心者等無吟味所ニ置問敷事、

附、狂氣無紛輩者押籠可置也、手放差置□事令出来者親類ハ不言、庄屋年寄五人組可為越度、酔犯度々及乱心輩茂狂氣人同事たるべし、町人并百性ニ不似合男たて、放埒之作法在之奴者、をのれとたくミたる大犯人ニ候、速可達奉行所也、其通ニ差置脇より聞候ハ、令僉儀、庄屋年寄可為曲事

一、他所之人於当領内人をあやまるか、外ニも曲事仕出シ候者有之時者、村中出合おしとめ置、早々注進可仕候、おしとめ申候事不成候ハ、何方迄成共跡をしたひ、其落着之所江付届仕様子可申来候、

附、切疵在之犯人者不及申ニ、行倒者有之時者番を
付置、可告来候、下として裁判仕間敷事

一、新規之寺社取立申候儀堅令停止畢、有来候寺庵住持
替之時、庄屋年寄其僧之由緒念入逐吟味可申候、胡乱
之出家ニ住持仕候せまじく候、

附、行脚之僧、道心者たりといふ共、不慥者寺庵ニ

留置申候事令停止候、其所之庄屋年寄ニ不相断、指
置□事出来之時者、住持之越度たるへし、此旨寺庵
江急度断置常々念入可申事

一、町郷中火事之節、風下四五軒之者之外者不殘急懸(懸)
付、精ニ入消可申候、御蔵ニ御米在之時者御蔵第一ニ
防キ可申候、惣而常々火用心專要ニ可仕候、出火之輩
逐吟味、猥成作法有之候ハ、依其品可令追放候、町
郷中へ盜賊入申候刻も不殘出合、手はしかく打留可申
候、火事盜賊之節者相互之事ニ候間、常々相凶仕置、
隣郷からも早速懸付、精ニ入可申候、但村之留守明不
申候様ニ半分残置、半分加勢可仕候、如此申付候上

ハ、或ハ我ま、申、或身かまへ仕出合不申候者於有之
者、急度可告来候、吟味之上曲事ニ可申付事、

一、付火、張紙、落文勿論、極悪之大罪也、火之札立ル
輩も放火人に準シ可処嚴科、私之遺恨身を全して可相
達之企ニして、無意趣其近隣難儀及ばせ候事倭茲極悪
之至也、金銀もらひ可申ために立る事も有べし、少分
たりと云共あとふへからず、内々ニ而とらせたる者於
有之者、後日ニ聞届候共曲事ニ可申付候、放火人并火
之札立たる者をとらへ、又ハ同類狂氣たりと云共、訴
人仕候ハ、其科を免し、犯人之財不殘とらせ、其上褒
美遣し、仇をなさぬ様ニ可申付、其趣を存知ながら隠
置、於不申出者後日ニ露頭仕候共可処罪科事、

一、御領下之者我ま、に引越、他所之村へ參申候をかく
し置候ハ、其村之庄屋年寄親類共迄曲事ニ可申付
候、無抛子細於有之者奉行所へ相断可申候、遠国へ參
候儀者不及申、他所へ之物參者相断、下知次第ニ可仕
候、尤他領之奉公人之請ニ立申間敷事、

一、往来之侍人をも召連候程之仁ハ不及申ニ、不礼之作
法致べからず、慇懃之会釈可仕事、

一、免状出申し追付、小百姓迄不残庄屋所へ立合、面々
之持高ニ来てもり、先例年貢米如何程と承知仕りを可
申候、余事之算用に追々可仕候、令延引まきりかし申
候、仕形於在之ハ可告来事、

一、免割并年中之小入用、庄屋百姓申立合吟味之上、印
をおし、其年之帳明ル二月晦日切年々差上ケ可申候、
前ニも如申付候、面々之印判念入可申候、紛失仕候ハ
、其子細大庄屋迄相断可申候事、

一、奉行郡奉行郷代官ハ不及申ニ、手代家来之者共江も
音信礼物馳走ケ間敷儀堅令停止候、売物も相場方下直
ニ売まじく候、代物当座ニ取申へし、金銀米銭かりそ
めニも堅かすましく候、其外ニも役人并手代家来共於
町郷中非儀之働有之候ハ、書付仕対シ、印ヲ押仰定
日ニ可差上之、少茂あたえなし不申候様ニ申付へし、
かくし置脇より露頭候ハ、曲事ニ可申付候、不見知

者役人之家来之由申、於町郷中非儀申者有之時者、お
し留置可告来、惣而於郷中作を荒し、非儀仕候者有之
候ハ、跡をしたひ聞届可告来事、

右二十一ヶ条之趣、当領内之輩一々得心仕、堅可
相守候、違背之輩於有之者、可処罪科候、其輕重
ハ可位其品也、

元禄六癸酉年

水上権太夫

六月六日

(花押)

○寺尾勤録、和田村明細

延享年間

(大福・広吉寿彦蔵)

イ惣高六百七拾四石六斗七合

和田村

一、イ高式百八拾三石六斗六升六夕

八ツ壱分五厘

一、米三斗

山年貢

一、米三斗式升九合

藪年貢

一、米八石五斗壱升

夫 米

一、米七石四斗六升五合 口米

納合米貳百六拾四石八斗七合

檢地文祿四年

小林九郎右衛門
柴田新兵衛

一、高三拾七石八斗九升五合四夕

右者同村助九郎方元祿六癸酉年分る

一、鎮守 田中村立会

年貢地
一、稱讚寺 一向宗今井町順明寺末寺

除地
一、薬師堂

一、池壺ヶ所 和田石川田中城殿四分四條八木高殿八ヶ

村立会

但し豊浦村領也右池江水入井手壺ヶ所、是又豊浦村

領右高引ニ成

一、村々山水三ヶ所 除地之内

内壺ヶ所和田石川立会

一、庄屋やし(屋敷)記無年貢

一、イ高三拾七石八斗九升五合四夕

同村
助九郎方

畝傍地区

此取米三拾三石壺斗五升八合 八ツ七分五厘

一、米壺斗四升

山年貢

一、米五斗壺合

藪年貢

一、米壺石壺斗三升七合

夫米

一、米壺石

口米

納合米三拾五石四斗八升六合

○田中村和田郷免定

明治元年十一月

(天國近世文書)

辰年免定之事

一、高百貳拾九石壺斗七升壺合壺夕

田中村
和田郷

内

三拾貳石貳斗七升

稲作当檢見引

殘九拾六石九斗壺合壺夕

毛附

此取米八拾壺石三斗九升七合

八ツ四分

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会、無甲乙致割合、極月十日迄急度可皆濟者也

明治元 戊辰年十一月

神 沢 隼 馬[㊦]

田 中 織 衛 門[㊦]

吉 川 厚 見[㊦]

村 瀬 丈 右 衛 門[㊦]

多 羅 尾 儀 八[㊦]

中 谷 栄 次 郎[㊦]

林 伝 八 郎[㊦]

棚 橋 伊 左 衛 門[㊦]

内 藤 伊 織[㊦]

田中村庄屋年寄惣百姓

〔田中〕

○寺尾勤録、田中村明細

延享年間

(大福・広吉寿彦蔵)

一、高四百式石式斗

田中村

内拾三石六斗八升三合

荒引

残三百八拾八石五斗壹升七合

毛附

此取米三百三拾九石九斗五升式合 七ツ七分五厘

一、高六斗八升

新田本高並

此取米五斗九升五合

一、米壹石五斗

山年貢

一、米壹石六斗五升五合

藪年貢

一、米拾式石八斗六合

夫 米

一、米拾石式斗九升八合

口 米

納合米三百六拾五石六斗三升六合

檢地 文禄四年九月廿日

石田李頭

一、高百七拾三石八斗四升七合 延宝三卯年和田村之内

分る

除地

八幡宮

田 中 立 会

一、鎮守 天照太神宮 春日大明神

同断 一、小宮 弁才天

年貢地

一、法満寺 浄土宗知恩院派無本寺

除地

一、大仙寺 一向宗西本願寺派今井町順明寺末

年貢地

一、堀巻ヶ所

一、大川用水之樋巻ヶ所

但し、芝荒米五斗ツ、雷村江遣ス

一、石橋巻ヶ所 田中 立会

一、大井手巻ヶ所 田中 立会

一、庄屋やしき無年貢

一、御制札 切支丹

和田村之内

一、高百七拾三石八斗四升七合

同村 支配

此取米百五拾貳石壹斗壹升六合 八ツ七分五厘

一、米五石貳斗壹升五合 夫 米

一、米四石五斗六升三合 口 米

納合米百六拾石八斗九升四合

○上飛驒村側と高殿村水利穩濟取替一札

天保二年八月

(田中区有文書)

為取為一札之事

一、高殿村井手樋尻中堤杭筋新規成儀いたし候趣ニ而、

上飛驒村を京都表江出訴仕度旨御願所表江書付差上候

処、右願書御領分御役所様江御振出ニ相成候付、右樋

尻水懸り之田中村小山村相手、高殿村組合大庄屋三人

江取曖被仰付、依之右場所御見およひ之上、精々双方

江利害申聞給り、旁双方とも屈伏仕隠濟相整ひ候訳左

之通、

一、右樋尻中堤杭筋いたし候付、任取曖此度樋尻方中

堤迄壹丈七尺明キ定メ、尤用水引取之儀者古来より

仕来通、互ニ重頭ケ間鋪儀致間敷筈、

一、別所村領蒲池南境、上飛驒村字池之側并字ふけ与

申田地式枚有之候処、右池を西手江用水引取之儀、

是迄手畦江四本通し之処、彼是申出候付、別所村并

高殿村を御預り所御役所様江願出候処、郷宿対談被

仰付候得共、相濟兼候而御手放し相成候処、前書之

樋尻穩濟ニおよひ候上者、是茂右同様是迄互ニ仕来

畝傍地区

り通可仕筈、

右之通式ケ所共此度任取暖隠濟相整ひ候上者、以後右
一件ニ付聊拒障申分無御座、猶再論ケ間敷儀者決而不
仕筈ニ而、濟口通り無違失急度相守可申候、為其為取
替一札依而如件、

天保二卯年八月日

高殿村

庄屋 卯平次 印

年寄 八郎兵衛 印

百姓代 弥兵衛 印

別所村

庄屋 武兵衛 印

年寄 藤次郎 印

百姓代 善次郎 印

上飛彈村

田中村

小山村

御役人中

前書之通此度取暖双方納得及隠濟候儀、相違無之候条、

依之奥印如件、

八釣村大庄屋

井村次郎兵衛印

醍醐村同断

森村庄左衛門印

小房村同断

前部吉兵衛印

右文面之証札飛彈村方ニ相預り始末致罷在候付、右写書
其御村方江取引致置候処如件、

辛卯年八月日

飛彈村

庄屋 勝次郎 印

年寄 儀兵衛 印

田中村

庄屋 和乎次殿

○高殿村・醍醐村と田中村・木殿村并手争い

濟し取替証文

天保五年六月十一日

(田中区有文書)

為取替置申濟証文之写

高市郡

高殿村

醍醐村

願人方

役人共

同郡

田中村

木殿村

相手方

役人共

惣百姓共

右者相手両村之井手飛鳥川筋ニ式ケ所有之候処、急水之節重頭ニ堰留候ニ付、下郷江要水下リ不申候段難渋ニ付、去々辰年九月三日御願奉申上候処、同六日相手方一同御召出被成下難有奉存、御日限ニ双方罷出相手方返答書奉差上候ニ付、御糺之上対談被仰付候得共相濟不申、八釣村大庄屋次郎兵衛御召出ニ相成候上、右一件取曖被仰付難有奉存候、依之取調へ之上引合給リ候得共相

敵傍地区

濟兼、両組合大庄屋両人方精々世話いたし候得とも、穩濟行届不申候付、御上様方段々御糺之上、双方江厚御利害被仰渡、恐入奉畏、猶茂双方江引合仕候処、百姓繁多之時節ニ相成候ニ付、御日延等御願奉申上候中、御憐愍を以北八木村源三郎御召出し之上取曖被仰渡、一同難有奉存候、同人方精々引合給リ候所、相手村方ニ井手式ケ所有之候ニ付、免角穩濟出来兼候間、取曖并組合大庄屋共方恐多御願ニ御座候得共、前書式ケ所井手一ヶ所ニ被成下度段御願奉申上候之処、双方とも同領之儀ニ付穩濟出来候ハ、可然取斗可仕候様以御憐愍被仰渡、難有奉存候、依之^(カ)双方江引合仕候所、今般曖ニ任せ和談内濟仕候訳、乍恐左之通、
雷村領ニ有之、

一、上井手巷ヶ所相用ひ候筈、

但、御上様方御普請所ニ付、蛇籠留杭之儀者在来通り
同断、裏杭巷間ニ巷本打、尤井手急水ニ而危く相成候節者、早速手当いたし置、御上様江御注進申

上候間、御奉行附(九)ニ而早速御普請被成下候筈、

一、同所井手裏土砂留石籠壺通相用ひ候事、

但、此籠留杭壺間ニ壺本宛籠切ニ打込事、

一、同所水取口石籠壺通相用ひ候事、

但、此籠留杭壺間ニ壺本宛籠切ニ打込事、

一、同所水取口板樋内法下地壺尺壺寸巾壺尺五歩之所、

以來相改壺尺五寸四方ニ相仕立可申筈、尤長(八九)に先規通

リ之事、

但、向後伏替之節者則村之内江及沙汰ニ可申筈之事、

一、同所大道下夕是迄箱樋伏越之処、此度堀上尤石橋ニ

可仕筈之事、

ノ

右五点

此度任取曖ニ双方納得之上無申分此表取定候事、

田中村領ニ有之

一、下井手壺ヶ所此度御憐愍ニ而御取払之事、

但、此跡石籠壺通ニ而土砂留杭壺間ニ壺本宛籠切ニ打

込事、

一、同所待井手(持力)此度御憐愍ニ而御取払ひ之事、

但、此取払跡右同断之事、

一、同所土砂留同断之事、

一、同所水取口此度御憐愍ニ而御取払之事、

ノ右四点

此度任取曖、双方納得之上此表申分無之候事、

右之通此度取曖ニ任せ、双方納得之上川筋場所絵図面并

一札等為取替、無滞内済相整ひ候段、全御威光之御蔭故

与一同難有奉存候、然ル上ハ永久右濟口通り急度相守

合、聊違背仕間敷候、依之双方百姓惣代組合大庄屋取曖

人共一同連印を以済証文奉差上候、右之趣御聽届被為成

下候ハ、方々難有奉存候、以上、

前書之通今日済証文差上御聽届ニ相成候付、其表写取、

為後日一同為取替置申処仍而如件、

天保五年六月十一日

醍醐村

庄屋 庄右衛門 ㊦

年寄 喜八郎 ㊦

同断 利助 ㊦

百姓惣代 又次郎 ㊦

高殿村

庄屋代 弥兵衛 ㊦

年寄 八郎兵衛 ㊦

同断 吉右衛門 ㊦

百姓惣代 平五郎 ㊦

田中村

庄屋 和平次 ㊦

年寄 清次郎 ㊦

同断 源右衛門 ㊦

百姓惣代 茂平次 ㊦

木殿村

庄屋 甚兵衛 ㊦

年寄 彦四郎 ㊦

○田中村宗門改帳

弘化四年

弘化四年	宗門御改帳
淨土宗	淨土宗
融通宗	融通宗
八十人以上	八十人以上
五人組	五人組
宗門寄	宗門寄
六冊	六冊
高市郡	田中村

同断 久次郎 ㊦

百姓惣代 利兵衛 ㊦

醍醐村

大庄屋 庄左衛門 ㊦

小房村 大庄屋

吉兵衛 ㊦

北八木村 取噺人

源三郎 ㊦

八釣村 大庄屋取噺人

次郎兵衛 ㊦

(天図近世文書)

畝傍地区

(前略)

五人組帳

組頭

万 蔵

助右衛門

半兵衛

源 次

与 助

五人

組頭

与 平次

佐 太郎

栄 次郎

大 助

佐 兵衛

九 兵衛

六人

高市郡

田中村

組頭

助 九郎

喜右衛門

平 兵衛

善 吉

兵 太郎

弥右衛門

宇 兵衛

七人

組頭

次郎兵衛

奈 良七

清 次郎

忠 蔵

こ の

五人

組頭

彦 兵衛

和 七

佐 兵衛

儀 助

茂 七

す 彖

六人

組頭

安 兵衛

儀 兵衛

善 七

利 兵衛

清 六

五人

組頭

市 兵衛

忠 治郎

清右衛門

庄 治郎

久 七

と く

六人

右之通相違無御座候

弘化四丁末年三月

田中村年寄

宗 助

年寄

清 次郎

庄屋 和 平次

宗門御改奉行

瀬尾隼見殿

鈴木数馬殿

(本文書次に引続き)

組頭

吉 兵衛

利 兵次

清 兵衛

源 兵衛

弥 兵衛

伊 助

六人

組頭

要 助

孫 次郎

甚 兵衛

久 兵衛

宗 兵衛

み よ

六人

組頭

次郎兵衛

奈 良七

清 次郎

忠 蔵

こ の

五人

弘化四丁未年

高市郡

宗門御改寄帳

田中村

三月

宗門御改三冊之奇(寄)

本家人數合

貳百七拾三人

男 百四十一人
女 百三十二人

浄土宗人數合

百拾七人

男 六拾三人
女 五十四人

但し融通宗共浄土宗合之内へ加入

浄土真宗人數合

百五拾六人

男 七拾八人
女 七拾八人

竈數合五拾五軒

当村寺式ヶ寺

浄土宗

法満寺

無住

浄土真宗

大仙寺

同断

(出生人覺、略)

(相果縁付人覺、略)

一、御押卷人(御師九)

中村忠治郎

一、当年人々ニ下男下女無御座候

一、牛七疋

畝傍地区

右之通宗門御改三冊之奇(寄)、書面之通相改相違無御座候

弘化四丁未年三月

田中村年寄

助印

宗

同断 清次郎印

庄屋

和平次印

宗門御改奉行

瀬尾隼見殿

鈴木數馬殿

○田中村和田郷分地方免定ノ事

慶応二年十一月

(天図近世文書)

寅年免定之事

一、高四拾四石六斗七升五合九勺

田中村和田郷分地方

内

七石九斗九升七合

引方平均引

七石

引方増引

三八九

残式拾九石六斗七升八合九勺

毛附

此取米式拾四石九斗三升

ハツ四分

右之通当御取箇相定候間、極月十日迄急度可皆済者也、

慶応二丙寅年十一月

嶋甚左衛門[㊦]

田中織衛門[㊦]

万喜力四郎[㊦]

吉川厚見[㊦]

多羅尾儀八出坂

田中村分地

市兵衛
吉左衛門

○庄次郷卒株讓渡取替一札

慶応二年十一月

(天図近世文書)

差入申為取替一札之事

一、私義御上様^〆苗字帯刀^〆老人承之、御扶持方并ニ格式

共頂戴仕罷来り候処、難相勤候ニ付此度其許殿江讓リ

可申候、依之為礼銀子ト八百目被遣^〆請取申^〆宛実正

也、然ル上者御上様江名前切替之義御届ケ奉申上候

処、苗字帯刀ハ切替ニ相成、御扶持方格式ハ切替相成

不申候故、表向者私名前ニ御座候得共、前書約定之通

苗字帯刀御扶持方格式共不殘讓リ渡シ可申上者非常并

ニ勤向キ之義其元殿^〆御勤可被下候、尤御扶持方之処

私方江請取不申其許殿江御受取可被成候、尚又後年ニ

至り次目之節逆も、其元殿^〆如何様にも御勝手ニ切替

之上御受可被下、私義ハ少も差構へ無御座候、為後念

取替セ一札仍而如件、

元治元年

甲子五月日

飛鳥村
郷卒株讓主

庄次[㊦]

世話人^〆□□村

孫右衛門[㊦]

田中村

清六殿

○田中村和田郷辰年免定之事

明治元年十一月

(天図近世文書)

辰年免定之事

一、高百式拾九石壹斗七升壹合壹勺

田中村

和田郷

内

三拾式石式斗七升

稲作当檢見引

残九拾六石九斗壹合壹勺

毛附

此取米八拾壹石三斗九升七合 八ツ四分

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会無甲乙致割合、極月十日迄急度可皆濟者也、

明治元戊辰年十一月

神 沢 隼 馬[㊦]

田 中 織 衛 門[㊦]

吉 川 厚 見[㊦]

村 瀬 丈 左 衛 門[㊦]

多 羅 尾 儀 八[㊦]

○田中村村中難渋ニ付御歎願書

嘉永四年九月十六日

(天図近世文書)

乍恐御歎奉願上候

田中村

役人

一、当村之義ハ御領分之内ニも稀成惣作地等多、就而者御上納其外諸借財買掛リ等多分相嵩、極難渋人共多人數出来、此上百姓相統難仕、旁々組合大庄屋猪左衛門殿江相歎出、同人義も当村へ立越、取調ハ勿論難渋立直リ之仕法人御差加被成下度、俱々御歎奉願上與候ニ付、御憐愍を以則北八木村平沼源三郎、目附庄屋四条村徳兵衛共御呼出し、難渋立直リ之仕法人御差加被成

中谷栄次郎[㊦]

林 伝 八 郎[㊦]

棚橋伊左衛門[㊦]

内 藤 伊 織[㊦]

田中村庄屋年寄惣百姓

下、段々取調旁々銀主江引合中ニ御座候、然ル処当御

領分村々ハ勿論、御預所町村方当村方難波人共相手

取、諸式売物代滞御願被申上、既今十六日ニも夫々御

呼出しニ相成、召連罷出居候得共、此上濟方之御沙汰

被成下御受申上候共、何れ仕法立出来候上ならてハ濟

寄もいたし兼候ニ付、何共恐多御願ニ御座候得共、御

願被申上候新訴追訴共、当村方難波立直リ之仕法年限

中、願人方差扣被仰付被下度、村役人共方御敷奉申上

候、尤御慈悲を以此義御聞濟被成下候ハ、御願掛リ

之口々ハ村役人方仕法人共ト申談、急度濟方之引合可

仕候間、何卒前文御賢察被成下、仕法年限中願人方江

願差扣呉候様被仰付被下度、幾重ニも紐而御敷奉願上

候、

右之趣御聞届被為成下候ハ、千万難有奉存候、以上、

田中村

嘉永四亥年九月十六日

年寄 助九郎

同断 彦兵衛

同断 清六

庄屋 市兵衛

高取
御役所様

○田中村租税之事

明治五年二月

(天図近世文書)

未年租税之事

村高四百貳石八斗八升之内

高市郡

一、高三百四拾六石七斗六升貳合六夕

田中村

内

拾四石壹斗貳升壹合五夕

永荒川成山崩西堤切
石砂入引

残高三百三拾貳石六斗四升壹合壹夕

高免四つ九分六厘七毛余

此取米百七拾貳石貳斗三升七合

毛付免五つ壹分七厘八毛内
元定免八つ四分

此訳

高三百拾四石九斗五升三合九夕

本田畑

此取米百五拾七石三斗八升

高拾七石七合貳夕

屋敷

此取米拾四石貳斗八升六合

新畑本高並方
屋敷成

高六斗八升

此取米五斗七升壹合

此納取

米五拾七石四斗壹升貳合

三分一米金納

代金貳百兩三分三朱分

永四文五分

但壹石三付
金三兩貳分

米百拾四石八斗貳升五合

二方米納

外

一、米壹石五升

山年貢

一、米壹石六斗五升五合

藪年貢

一、米五石二斗四升八合

口米

一、米貳斗六升壹合

定見取

一、金壹分壹朱分

金納入目

永貳拾六文九分

但壹兩二付
永貳文

納合

金貳百壹兩壹分壹朱分
永三拾壹文四分
米百貳拾三石三升九合

前書之免割を以、其村大小之百姓入作之者迄立会之上可致割賦、且皆濟ニ付請取手形と引替一紙遣之間、重テ手

畝傍地区

形類差出候とも可為反古もの也、

明治五年 申年二月 奈良県 高取庁

高取藩印

右村

庄屋

年寄

惣百姓

○田中村御免御用捨米認帳

明治五年五月

(天図近世文書)

明治五年

御免御用捨米認帳 下用

壬申五月上旬

田中村用
年寄
辰巳清六

(米右帳ノ内容、奥書ノミ記ス)

貢米書上ケ帳

田中村

一、反別合式拾三町四反九畝拾分

田畑屋敷共
但本郷

三九三

此高三百四拾六石七斗六升貳合六勺

内訳

拾三石六斗八升三合 永荒川成山崩引

此反別壹町分

四斗三升八合五勺 去酉堤切土砂入引

此反別四畝三分

八斗四升九合六勺 無地高村弁引

無反別

殘反別貳拾貳町四反五畝七分

此高三百三拾壹石七斗九升壹合五勺 本郷

此取米貳百三拾貳石八斗貳升七合 上納

一、反別合九町三反七畝拾貳分 田中村

此高百貳拾九石壹斗七升壹合壹勺 和田郷
和田畑とも

内

高壹石八升五合八勺 無地村弁引

無反別

殘高百貳拾八石八升五合三勺

此取米九拾壹石三升六合 上納

文久二壬戌年 米三百拾四石八斗六升三合 本郷和田郷共

同三癸亥年 一、同三百拾四石八斗六升三合 同断

元治元甲子年 一、同三百三石六斗九合 同断

慶応元乙丑年 一、同貳百七拾八石三斗四升五合 同断

同二丙寅年 一、同貳百拾貳石六斗貳升四合 同断

同三丁卯年 一、米貳百六拾四石三斗五合 同断

明治元戊辰年 一、同貳百八拾三石六斗五升五合 同断

同二己巳年 一、同百八拾壹石四斗八升九合 同断

同三庚午年 一、同貳百三拾石九斗三升九合 同断

同四辛未年 一、同貳百三拾石九斗三升九合 同断

合米貳千六百拾五石六斗三升壹合

但壹ヶ年ニ付 同断

貳百六拾壹石五斗六升三合壹勺 上納

外ニ

同断

同断

一、米壹石五升

山年貢

一、同壹石六斗五升五合

藪年貢

一、同七石八斗四升六合九勺

口米

但和田郷共

一、同貳斗六升壹合

定見取

○和田郷耕地合併条件ニ付取替証

明治八年十月

(田中区有文書)

印紙

為取換証

一、從來和田村田中村木殿村之三ヶ村者、各郷附ニ而和田郷与名称致来候耕地有之、今般御改正ニ就而者和田之名唱ヲ以、和田村反別帳簿江合併組入候得者、諸掛リ割賦金之儀者、三ヶ村ニ而從前郷仕格有之候儀ニ付、今度合併上ニ候者諸費掛リ金之筋者從來之方法決而取崩し申間敷候、仍而為取換議定書如件、

第五大区八小区

高市郡和田村

明治八年亥十月

百姓惣代 森川佐重郎

畝傍地区

年番仕長 安川万平(朱印)

田中村

總代御中

○用水冷水交合ニ付出入濟口取替証券

明治九年八月十一日

(田中区有文書)

濟口取替証券

第四大区拾八小区

高市郡上飛彈村

同大区同小区同郡

小山村

用水冷水(交カ) 水出入

式ヶ村願人

第五大区八小区

高市郡田中村

井戸持五名相手

一、飛鳥川流枝川、同郡田中村并小山村上飛彈村合三ヶ村用水引之通井、田中村之内字ヲ、イセキ申所ニ御座候、私共儀右通井之南側江明治五年申年井戸掘立、右

三九五

用水引之通へ冷水ヲいたし候ニ、用水と冷水と□水被^(交カ)在、就而者憐村高殿村用水引通井江も程近ク、依テ同村へ流水相増、上飛彈小山村流水減し候のみならず、右井戸を冷水口土砂流れ込、右井戸を冷水之儀用水通井へ冷流レ之義不相成段、戸長役所へ御届ニ相成、種々御同所ニ而御説諭之上、□明罷在^(下脱カ)被度、改テ右井戸冷水之儀ハ新規ニ通井ヲ附可申候、決而用水引之□流ニ通井へハ冷水不致候約定、且又右新通井掘立候上者、用水引川之上へ掛樋御かけさせ被下可申約定、尤此掛樋之儀、供水之砌差支候ハ、用水引掛リ之三ヶ村を誰によらず取除申候而茂、一切共情無之筈規定候、三ヶ村用水之義ハ従前之通相守、相互ニ和親□尽し水分可仕候、依而為後日濟口取替証券如件、

右

上飛彈村

年番仕長 川本弥八郎 ㊦

小山村

年番仕長 米田嘉重郎 ㊦

(※末尾、田畑上下田畑の詳細記述ナシ)

文禄四年八月廿三日
和州高市郡石川村御檢地帳

田中村へ

〔石川〕

○石川村文禄檢地帳写

文禄四年八月二十三日

(山田小三郎文書)

田中村

井戸持主 梅本彦七

米田菊次郎

米田槽次郎

右五名代 川端善七 ㊦

奥田茂七 ㊦

年番仕長 中嶋清七郎 ㊦

田畠合式拾九町九段四畝十八步

分米三百九拾三石九斗三升

内山畠之荒 拾七石七斗貳升廿五合

右ハ御檢地ヨうつし申所実正也、少も相違無之故、各々

判致置申候以上 但紙數上かきかミ共墨付五拾五枚在、

寛永拾四年

丑ノ十二月十六日

くミおや 与 四郎

同 甚 助

地下人 次郎兵衛

庄 屋 助次郎

庄 屋

くミおや 才 五

○石川池床高並露高覚之帳

寛永十九年三月九日

(山田小三郎文書)

壬 寛永拾九年

石川池床高之帳

午ノ 三月九日

ツナカケ 下田四畝拾歩 四斗七升六合

同 下畠貳拾歩 六升七合

同 下畠壹畝五歩 壹斗貳升八合

同 下田壹畝六歩 壹斗貳升八合

同 下田壹畝六歩 壹斗貳升八合

同 下田五畝拾八歩 七斗貳升八合

同 下田三畝拾貳歩 三斗五升貳合

同 下田五畝貳拾九歩 六斗三升

同 井ヶケヒ 下田五畝拾五歩 七斗壹升三合

同 下田四畝九歩 八斗貳升五合

石川 蔵

同 与 一郎

同 左衛門二郎

同 同 人

同 左衛門五郎

同 五郎兵衛

同 左衛門二郎

同 同 人

同 才 五郎

同 又 蔵

下田六畝九歩	九斗四升五合	同	庄	助
下田三畝拾五歩	四斗五升五合	かる	三郎	五郎
中田貳畝三歩	貳斗七升六合	同	同	人
中田壹反七畝六歩	貳石貳斗貳升六合	同	同	人
下田壹合貳畝	壹石三斗貳升	石川	助	五郎
下田貳拾三歩	七升七合	同	同	人
下島貳歩	五合	同	五郎	作
下田壹反五畝拾歩	壹石六斗八升五合	同	孫	三
下田壹畝拾歩	壹斗四升七合	同	左近	五郎
下田貳畝拾貳歩	壹斗九升貳合	同	作	藏
下田九畝拾八歩	壹石五升五合	同	甚	一助
下田壹畝	壹斗一升	同	小	助
下田貳畝貳拾四歩	壹斗七合	同	甚	一助
下田六畝廿歩	七斗貳升七合	同	宗	五郎

下田壹反四畝廿歩	貳石貳斗	同	孫	七郎
下田七畝貳歩	八斗九升八合	かる	源	七郎
下田五畝拾歩	七斗一升五合	石川	又	藏
下田壹反九畝六歩	貳石壹斗壹升貳合	同	仁右衛門	
下田壹反貳畝六歩	壹石貳斗三升貳合	同	左近	五郎
下田九畝拾五歩	壹石四升五合	同	甚	吉
下田壹反壹畝六歩	壹石貳斗六升五合	同	左衛門	二郎
下田壹反六歩	壹石壹斗貳升貳合	同	左衛門	五郎
下田壹反壹畝拾歩	壹石貳斗四升七合	かる	三郎	五郎
下田壹反拾四歩	壹石四斗八升四合	石川	甚	吉
下田九畝六歩	壹石五合	同	同	人
下田六歩	貳升	同	宗	五郎
下田壹反六畝拾歩	壹石六斗九升七合	同	弥	助
下田壹反八歩	壹石壹斗貳升九合	同	二郎	兵衛

同	下田五畝	五斗五升	同	助二郎	同	下畠式畝	式斗四升	同	才五郎
同	下田耆反耆畝六步	耆石式斗八升三合	同	勘十郎	同	下畠耆畝	荒耆斗五升	同	弥太郎
同	下田耆反八步	耆石耆斗耆升四合	かゝる	弥一郎	同	下畠式畝廿五步	三斗四升	同	孫三
同	中田耆畝廿步	式斗一升七合	同	人	同	下畠式畝廿步	三斗式升	同	甚介
同	中田耆反三畝拾步	式石三斗式升	同	与三五郎	同	下畠式畝式拾步	三斗式升	同	宗五郎
同	下田耆反三畝耆步	荒耆石五斗六升	石川	五郎	同	下畠四畝	四斗八升	同	又三郎
同	下田八畝五步	耆石式斗	同	助五郎	同	下畠四畝廿三步	五斗七升三合	同	助次郎
同	下田七畝拾八步	耆石耆斗四升	同	甚二郎	同	下畠四畝廿式步	六斗三升式合	同	万五郎
同	中田耆畝耆步	耆斗三升	同	弥介 助五郎 与三郎	同	下畠四畝廿式步	四斗三升	同	孫七郎
同	下田式畝拾五步	式斗七升五合	同	久助	同	下畠式畝廿八步	耆斗八升八合	同	人
同	下田式畝拾五步	式斗七升五合	同	万五郎	同	下畠五步	式升	同	人
同	井ヶ畠 中畠耆畝拾步	耆斗四合	同	甚二郎	同	下畠拾式步	四升八合	同	万五郎
同	下畠式畝四步	式斗八升八合	同	作藏	同	下畠三畝廿式步	四斗四升八合	同	弥介
同	下畠拾六步	六升四合	同	宗五郎	同	下畠式畝廿八步	三斗五升式合	同	甚介

畝傍地区

同 下畠三畝 三斗六升 久 助

同 下畠式拾四步 老斗式升八合 同 人

同 下畠三畝廿步 四斗老升六合 万五郎

池はた 上畠拾步 四升 同 人

同 下畠九畝 老石老斗四升 同 喜 介

池しり 下畠三畝 三斗式升 同 弥 介

高池くひと上六 高かへのちのふるい(?) 式斗 同 孫市郎

畝合四町式拾步

分米合四拾八石三斗四升五合 池床高十一^(カ)極

右之通り相違無御座候、以上、

四条庄屋 庄兵衛 ㊦

寛永拾九年 同 理兵衛 ㊦

午三月九日 山本庄屋 孫一郎 ㊦

大窪村庄屋 源 助 ㊦

年 寄喜 助 ㊦

四〇〇

同 久兵衛 ㊦

畝火村庄屋 与 助 ㊦

同 小右衛門 ㊦

久米村庄屋 善 慶 ㊦

年 寄 せんかく ㊦

和田村庄屋 茂兵衛 ㊦

年 寄 弥七郎 ㊦

石川村

庄屋

年寄

惣百姓中江

壬 寛永拾九年

石川池床露高覚之帳

午 三月九日

一、四町式拾步 池床

分米合四拾八石三斗四升五合池床高 十一極として

(貼紙)

此取米五拾三石壹斗七升九合五夕

石川露高之夏

ハナ□□
一、拾三步

高四升八合

石川源助

同 一、壹畝拾貳步

壹斗五升四合

同 与三郎

同 一、壹畝四步

七升

同 左近五郎

同 一、拾五步

三升壹合

同 人

同 一、廿三步半

式口ノ式斗三升

同 人

同 一、拾五步

式升

同 五郎作

同 一、四步半

六升四合

同 孫三

同 一、拾四步

五升四合

同 五郎作

一、拾六步半
ミヤノマへ北

壹斗五升四合

同 善兵衛

一、壹畝拾九步
へカダ

五升四合

同 甚助

一、拾貳步
穴口

六升五合

同 万五郎

タウシアン
一、貳拾六步

九升

助三郎

一、貳拾四步七厘

壹斗貳升八合

同 人

一、拾八步七厘

九升

清十郎

一、壹畝九步
五たんだ

壹斗九升貳合

与一郎

畝合壹反貳畝拾步

分米合壹石四斗四升四合

和田領露高之夏

くろ田
一、貳畝拾六步半

三斗壹升七合

ワダ 茂兵衛

同も、田
一、壹畝廿五步半

式斗六升四合

同 人

同 一、廿壹步

壹斗七合

きとの 甚太郎

同 一、廿四步

五斗三升三合

ワダ 甚七郎

一、壹畝廿三步

三斗七升七合

宗兵衛

一、貳畝拾八步

畝合壹反三步

甚 藏

分米合壹石五斗七升四合

大窪領露高之夏

畝傍地区

畝傍地区

ほそかわ
一、壹畝廿五歩

武斗七升五合

与兵衛

りうげ

一、武拾五歩

壹斗貳升五合

甚兵衛

わきだ
一、拾歩

五升

源 助

畝合三畝

分米四斗五升

露高合三石四斗六升八合

惣合五拾壹石八斗壹升三合池床高
露之高

外ニ高壹石ヲ壹石壹斗ニ極して、

(貼紙)

此取米五拾六石九斗九升四合三夕十一ニ極して

七石八斗壹合 五条野之領池床高十一ニ極して

内池郷割付

貳石三斗五升

大窪村

七斗八升五合

畝火村

五斗九升七合

久米村

壹石六斗四升

和田村

壹石四斗八升

四条村

八斗貳升

石川村

壹斗貳升九合

山本村

合七石八斗壹合

拾七町四反九畝拾歩

四条村

此高九石八斗三升四合六夕

壹町五反三畝貳歩

山本村

此高八斗六升三夕

貳拾七町七反六畝拾歩

大窪村

此高拾五石六斗九合四夕

九町貳反六畝廿五歩

畝火村

此高五石貳斗壹升貳合夕

七町七畝四歩

久米村

此高三石九斗七升五合四夕

拾九町四反壹畝廿六歩

和田村

此高拾石九斗壹升九合八夕

九町六反壹畝廿五歩

石川村

此高五石四斗九合三夕

町合九拾貳町壹反六畝拾貳步

右之通惣池郷立合、此帳仕リ申所実正也、毎年池郷立会算用仕リ、石川へ算用相立可申候段、如何様之儀御罷候共、於此年貢者一言相背妨申間敷候、為後日池郷連判仍而如件、

寛永拾九年

午ノ三月九日

四条村庄屋	庄兵衛
同	理兵衛
山本村庄屋	孫一郎
大窪村庄屋	源助
同	年寄喜助
同	久兵衛
畷火村庄屋	与助
同	年寄小右衛門
久米村庄屋	善慶
同	年寄せんかく
和田村庄屋	茂兵衛
同	年寄弥七郎

石川村

畷傍地区

庄屋

年寄

惣百姓中江

紙数八枚

十六枚但上紙共合帳

○寺尾勤録、石川村明細

延享年間

(大福・広吉寿彦蔵)

一、高三百九拾三石九斗三升

石川村

此取米貳百七拾五石七斗五升壹合 七ツ

一、米三斗九升五合

山年貢

外五合御陵山年貢卯年引

但し壬子年從公儀御引米

一、米五斗壹升

藪年貢

一、米拾壹石八斗壹升八合

夫米

一、米八石三斗

口米

納合米貳百九拾六石七斗七升四合

檢地帳面役人之名印無之

敬傍地区

除地 一、鎮守

山王権現
春日明神

同断 一、鎮守

花蘭明神

年貢地 一、宗福寺

浄土宗見瀬村阿弥陀寺末寺

同断 一、本明寺

右同断

一、孝元天皇陵

右敷地廻り五拾間 但高札文言外村御陵同前

年貢地池郷^右納る
一、池巻ヶ所

除地

一、村々出水巻ヶ所 石川和田立会

一、石橋巻ヶ所 石川久米立会

一、庄屋やし^(屋敷)記無年貢

但し当庄屋より支配

○石川村免定之事

宝曆十一年十一月

(山田小三郎文書)

巳年免定之事

一、高三百九拾三石九斗三升

石川村

四〇四

内式拾五石五斗四升 稲作当檢見引

残三百六拾八石三斗九升 毛付

此取米貳百五拾九石七斗壹升五合 七ツ五厘

一、米三斗九升五合 山年貢

一、米五斗壹升 藪年貢

納合米貳百六拾石六斗貳升

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会、無甲乙致割
合急度可皆済者也、

宝曆十一年巳十一月

塚嶋專助^印

山口清太夫^印

鈴木忠太夫^印

渡辺官兵衛^印

吉岡惣左衛門^印

石川村庄屋年寄惣百姓

○石川村免定之事

寛政二年十一月

(山田小三郎文書)

戌年免定之事

一、高三百九拾三石九斗三升 石川村

内式拾三石貳斗九升 引方平均引

残三百七拾石六斗四升 毛附

此取米貳百六拾壹石三斗壹合 七ツ五厘

一、米三斗九升五合 山年貢

一、米五斗壹升 藪年貢

納合米貳百六拾貳石貳斗六石

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会無甲乙致割合、極月十日迄急度可皆濟也、

寛政二年戊十一月

辻倉 太[㊦]

中川久平[㊦]

宮川庄太夫[㊦]

中谷主馬[㊦]

吉岡惣左衛門[㊦]

石川村庄屋年寄惣百姓

○丈六道ニ付石川久米兩村取替証文

天保二年七月

(山田小三郎文書)

為取替証文之事

一、丈六道普請之儀者、先規より久米村石川村兩村立会普請ニ仕来リ候、勿論諸入用等半掛リ仕候事、

一、此度相改右兩村相談之上、相定候通り左ニ記之

一、丈六道筋ニおひて旅人并非人杯行倒、病氣ニ而煩候節者、互ニ兩村を精々世話仕、尚又道筋之端より式間通り入込候而も兩村江相懸リ候事、

一、同断ニ付若病死変死等在之候ハ、其村領より御地頭御番所表御届ケ可被下候、尤願之節者兩村之内何れ村々有之候共、耆人宛御番所表江御出可被下候、諸入用之儀者其村方ニ御始末可被下候、尤右等ニ付帳面諸入用算用之節ハ、兩村役人兩人立会算用可致約速^(東九)ニ御座候、依之諸入用相掛りもの者久米村六部所相懸リ、石川村四部所懸リ候約束ニ御座候事、

一、其外不寄何事、右通筋ニ而不時難出来仕候節も右同
断、両村方始末可仕候事、

前文之通両村立会相談之上相定申候、右定之通後々迄堅
相守可申候、然ル上者向後入用之儀ニ付、不正之儀者決
而申間敷候、為後証庄屋年寄村惣代連印為取替一札仍而
如件、

天保貳年辛卯七月

高市郡久米村

村惣代 市三郎 ㊦

右同断 武兵衛 ㊦

同村

年寄 善五郎 ㊦

同断 源三郎 ㊦

庄屋 太助 ㊦

同郡

石川村御役人中

村惣代中

○石川村亥小入用帳

天保十年十二月

(山田小三郎文書)

天保拾年
亥小入用帳
十二月
石川村

天保拾亥年村方御收納目錄

一、高三百九拾三石九斗三升

内式拾三石壹斗五升 御平均免引

八石八斗貳升貳分 旱損皆無御用捨引

残三百六拾壹石九斗五升八合 七ツ五リン

此御取米貳百五拾五石壹斗八升

一、高拾四石貳斗六升八合 無地高

七ツ五リン

此御取米拾石五升八合

又四斗貳升八合 夫米

三斗壹合八夕 口米

拾石七斗八升七合八夕

一、村方毛附高取立免 七ツ式歩六厘壹毛五才

引残り四合

但村弁之儀者委細扣帳ニ有之候間、御用之節者何時ニ
而も差上可申候

百姓惣代 庄兵衛 ㊦
同 断清九郎 ㊦

一、米百七拾石壹斗貳升三夕

二方米

割方請扨目録

同三斗九升五合

山年貢

一、米百七拾石壹斗貳升三夕

二方米

同五斗壹升

藪年貢

同八拾五石六升壹夕

三分一

同拾壹石八斗四升五合壹夕

夫米

石ニ付六拾七匁八分

同七石六斗五升五合五夕

口米

代銀五ノ六百九拾九匁三厘

合百九拾石五斗貳升五合八夕

一、拾石

御囲糶米

右被下置候御免定拜見之上、御年貢御上納書面之通、庄

一、七石

御春屋米

屋年寄組頭惣百姓立会相改候処、少茂相違無御座候、仍

一、拾貳石九斗壹升六合

御扶持米

而如件、

一、三石

御用捨米

石川村

庄 屋小三郎 ㊦

一、六拾壹石

御置米

年 寄兵次郎 ㊦

一、七拾石

御蔵御払米

組 頭伝兵衛 ㊦

一、六斗壹升

十二月銀納

同 断忠八 ㊦

一、貳拾六石

子六月延米

同 断助市郎 ㊦

敵傍地区

小入用寛

戊十二月分
一、貳拾目五分

郷蔵番所屋根葺入用

一、貳拾六匁八分五厘

豊浦池床小入用先入不足

一、九匁九分壹厘

御春屋米欠七升八合代

一、四拾四匁八分三厘

郷蔵破損入用

一、五匁四分壹厘

四条村池米直合

一、拾六匁六分七厘

大久保村同断

ノ百貳拾四匁七分七厘

此り拾四匁九分

元利ノ百三拾九匁七厘

亥正月分
一、壹匁

勸化式口

此り壹分壹厘

元利ノ壹匁分壹厘

二月分
一、貳匁

稻荷様御供料

一、百五拾六匁

置米共四石直合

一、五匁六分四厘

同断掛ちん

四〇八

一、三拾貳匁三分貳厘

四兵衛、藤右衛門南都帳外入用

一、拾三匁五分

宮破損入用

ノ貳百九匁四分六厘

此り拾八匁八分五厘

元利ノ貳百廿八匁三分壹厘

三月分
一、貳百四拾七匁三分五厘

置米共四石直合金直合共

一、四匁三分貳厘

同断掛ちん

ノ貳百五拾壹匁六分七厘

此り拾八匁八分七厘

元利ノ貳百七拾匁五分四厘

四月分
一、三匁三分

御扶持米欠

一、拾四匁壹分

抗五尺六尺四拾三本代

一、三拾三匁九分六厘

非人病氣入用

ノ五拾壹匁三分六厘

此り三匁八厘

元利ノ五拾四匁四分四厘

五月分
一、四拾四匁貳分五厘

番所破損入用

一、壹匁八分 延米掛ちん

ノ四拾六匁五厘

此り貳匁七厘

元利ノ四拾八匁貳分貳厘

六月分

一、壹匁八分

延米掛ちん

一、四匁五分八厘

延米入用

一、拾貳匁貳分

置米入用

一、八匁壹分

目溢七斗八合代

一、壹匁貳厘

延米殘銀掛ちん

一、三拾壹匁七分九厘

日待造用

ノ五拾九匁五分六厘

此り壹匁七分九厘

元利ノ六拾壹匁三分五厘

七月分

一、三拾五匁三厘

粃米欠鼠喰三斗五升代

一、四拾壹匁四分

丈六非人行倒入用久米村と割合

一、百貳拾四匁九厘

大庄屋夏割

一、百拾三匁七分五厘

御宿飯代

一、三拾八匁八分五厘 豊浦井手掛り

一、貳拾七匁五分 番人給五斗代

一、拾五匁 見瀬村□市兵衛野初穂料

一、百貳拾壹匁貳分貳厘 又吉不納銀

一、五拾三匁壹分七厘 御日待東方西方造用

一、拾五匁五分 番人扶持不足余内

一、拾六匁 杉式駄代

ノ六百壹匁四分壹厘

又八百貳匁九分四厘 戊十二月迄亥六月まで
七ヶ月分ノ高

ノ壹貫四百四匁三分五厘

内出目

一、貳拾九匁八分 すゝ簾代

一、三匁 御講御膳料

引殘壹ノ三百七拾壹匁五分五厘

此掛り高

三百七拾九石六斗六升貳合

高石ニ付三匁六分割

畝傍地区

差引四匁七分壹厘割不足

又、壹匁八厘戌年割不足

ノ五匁七分九厘不足

七月分

一、四拾壹匁四分八厘 宗福寺破損入用

一、貳拾六匁貳厘 御春屋米郷蔵米欠貳斗代

一、拾七匁五分 粃米七石直合

一、拾七匁九合八厘 村地崩所杭代

ノ百貳匁九分八厘

此り九匁貳分七厘

元利ノ百拾貳匁貳分五厘

八月分

一、拾貳匁三分 聖護院宮様御通りニ付入用

一、三拾目 伊勢河井太夫任官遣り

ノ四拾貳匁三分

此り三匁壹分七厘

元利ノ四拾五匁四分七厘

九月分

一、貳匁 勸化貳口

一、四分五厘 三分一掛ちん

一、壹匁貳分

ノ三匁六分四厘

此り貳分貳厘

元利ノ三匁八分六厘

十月分

一、三匁四分

一、廿四匁八分四厘

一、拾貳匁四分八厘

一、六匁八厘

一、壹匁六分

一、四分八厘

一、七匁五分九厘

ノ五拾六匁四分七厘

此り貳匁五分四厘

元利ノ五拾九匁壹厘

十一月分

一、三分

一、四匁四分

一、壹匁 五月御神湯料

同断

三分一掛ちん

四兵衛拜借村まとい

藤右衛門同断

藤八同断

勸化貳口

御拜借掛ちん

飛弾村善行寺遣す

京都山ノ井殿勸化

三分一掛ちん

〆五匁七分

此り壹分七厘

元利〆五匁八分七厘

十二月分

一、貳百八拾壹匁貳分六厘

大庄屋組割掛り

一、七拾貳匁八分八厘

和田池小入用掛り

一、八拾七匁五分六厘

石川池小入用掛り

一、百三拾目

豊浦池床小入用先入

一、拾五匁五分

粃米納入足

一、六拾七匁壹分壹厘

御扶持米納入足

一、四拾九匁六分

御扶持米
(まきこう?)

一、百五匁

御藏駄ちん銀

一、拾壹匁四分

三分一入用

一、貳匁貳分七厘

三分一残銀掛ちん

一、四拾四匁六分三厘

土佐郷宿飯代

一、三拾貳匁

銅葉拾六〆目代

内四匁三分貳厘

御上様方下り

引残廿七匁六分八厘

一、百貳拾五匁

粃口拾俵
(まきこう?) 米貳百代

一、五拾六匁四分四厘

国役掛り

一、五拾三匁

年中庄屋筆墨紙代

一、五石貳斗

庄屋給米

一、壹石四升

兩年寄給米

一、壹石五斗

肝煎給米

一、五斗

番人給米

一、五升

藤木村地余内

一、壹斗貳升三合貳夕

山年貢不足

一、九斗貳升壹合壹夕

村地大輕池米

一、貳升

弥三郎屋敷道年貢

八口〆九石三斗五升貳合三夕

代銀五百八拾四匁六分四厘 石ニ付 六拾貳匁五分

一、六匁

肝煎 (?) くい代

一、五匁

宗門帳書ちん

一、貳匁

納所節唐箕損料

一、拾壹匁

藏番油代

一、貳拾目 氏神年中油代

一、九匁 和田前川掛り

一、拾五匁 肝煎余内今年切

一、三匁 年中まとい、ろうそく代

一、八匁七分 年中茶代

一、拾匁 宗福寺年中寄合余内

一、九拾五匁 年中仕切酒代

一、九百六拾五匁貳分五厘 村地換銀

一、五拾七匁八分四厘 村役人組頭村惣代立会算用造用

廿九口 貳匁九百貳拾壹匁七分八厘

又、貳百貳拾六匁四分六厘 七月の十一月迄五カ月分高

三百四拾八匁貳分四厘

内出目

三百八拾四匁壹分九厘 御講割戻し通

引残貳百七拾六匁四匁五厘

此掛り高

三百四石七斗五升八分五夕

高石ニ付 九匁七厘割

右割方ニ而壹分壹厘割通

内三匁貳分 去成年割不足

引残三匁八厘 割不足

一、銀壹百三百六拾六匁七分四厘年中人足夫代 纏蕎麦出物代

此残り高

三百七拾九石六斗六升貳合

高石ニ付 三匁六分割

右割方ニ而 七分六厘割通

右之通小入用諸人足庄屋年寄組頭惣百姓立会算用仕候

処、少茂相違無御座候、若算違等有之候得共、相互ニ元

米元銀ニ而取引可仕候、為後日仍而如件、

天保拾年亥十二月

石川村

百姓惣代 庄兵衛印

同 断清九郎印

組 頭治兵衛印
同 断小八郎印

○彦治郎往来手形

天保十三年三月

(山田小三郎文書)

往来手形之事

一、植村出羽守殿領

和州高市郡石川邨
彦治郎

右者先祖代々浄土宗ニ而、拙寺檀那ニ紛無御座候処、

今般依心願、西国卅三所并諸国神社仏閣參詣仕度段願

出候ニ付、則任其意往来手形相渡候、然ル上者国々所

々川々御関所無相違御通可被下候、若此者行暮病死等

仕候ハ、其所々御作法通取片付可被下候、為後証仍而

往来手形如件、

天保十三年 壬寅三月日

畝傍地区

和州高市郡見瀬邑

阿弥陀寺^④

御関所

御役人中

○御年貢不納ニ付潤徳家財附立帳

嘉永三年四月七日

(山田小三郎文書)

嘉永三年

石川村

一家中

御年貢不納ニ付潤徳家財附立帳

戊四月七日

組頭一統
村役人

(長帳)

一、仏たん

壹本

一、神棚

一、鍋釜

□三枚、釜式ツ、罐子壹ツ、

一、座敷障子

九本

一、柱掛板

貳枚

- 一、つりなんと 沓ツ
- 一、加(こ)口(こ) 七枚
- 一、たらい 式ツ
- 一、桶 十
- 一、馬轡 沓
- 一、濟棚(角?) 沓通
- 一、丈間四、五寸 かもい
- 一、風呂 沓通り
- 一、丈間杉板 沓本
- 一、桶 八ツ
- 一、脇棚 沓ツ
- 一、葉たんす 一本
- 一、たい不入(マ) 沓本

○石川溜池ニ付十ヶ村規定書

嘉永七年六月

(山田小三郎文書)

嘉永七
甲寅年六月日
石川溜池規定書

石川溜池床通井高御上納其外右池ニ附諸入用割方規

定書

- 一、中田合三反五畝拾歩 但シ中田沓反ニ附 御高沓石三斗盛
- 一、下田合三町拾九歩 但シ下田沓反ニ附 御高沓石沓斗盛
- 一、此高四石五斗九升三合式夕九才
- 一、此高三拾三石六升九合六夕四才
- 一、上畑合拾歩 但シ上畑沓反ニ附 御高沓石式斗盛
- 一、此高四升
- 一、中畑合沓畝拾歩 但シ中畑沓反ニ附 御高沓石盛

此高壹斗三升三合三夕三才

一、下畑合六反三畝廿八步 但シ下畑壹反ニ附

御高八斗盛

此高五石壹斗壹升四合五夕九才

池床惣

畝高合四町貳拾步

御高合四拾貳石九斗五升八夕五才

外ニ五石壹斗九升四合壹夕六才 過高池床余内ニ
石川村江相渡ス筈

右者寛永年中池床取極メ帳面ニ、上中下之高盛差別無
之候ニ附、此度対談之上田畑上中下高盛いたし、向後

右過高之儀池郷一同承知仕候ニ付、永世過高米ニ附故
障無申分、在来之通池床余内ニ石川村江相渡し候約定

仕候上者、後年ニ至リ候而も減し方等決而申懸間敷筈

ニ規定仕候事、

一、式斗

此分石川村孫市郎地
字池首ト字文六ト替地之余内

三口合四拾八石三斗四升五合壹才

是乃三ヶ村通井床之事

点數拾七口

一、畝合壹反貳畝拾步

石川村新通井床
畝高

畝傍地区

御高壹石四斗四升四合

点數七口

一、畝合壹反三步

和田村領新通井床
畝高

此高壹石五斗七升四合

点數三口

一、畝合三畝

大久保村領新通井床
畝高

此高四斗五升

新通井高合三石四斗六升八合

合五拾壹石八斗壹升三合

池床新通井高其
元高ニ御座候

此納米五拾六石九斗九升四合三夕

右者池床并通井年貢、元高壹石ニ附壹石壹斗宛往古々仕
来リニ而、池郷中々石川村江相納来リ候儀者在来、尤此

壹石壹斗之内七斗五合者御地頭様并新通井床年貢元高江
相納、差引殘米三斗九升五合之儀者夫米口米、尚又三ヶ

村通井床地役并ニ石川村江替地余内池床地役掛リ共、石
川村江受取可申約定書面之通是迄差別無之故、彼是出入

いたし居候処、此度双方池郷并取嚙両人立会之上、明細
ニ相改熟談仕候訳則左之通り、

前書御高池郷村々水懸リ、田地九拾貳町壹反六畝拾貳步

江割附水掛リ、田地壹反ニ付五升六合式夕三才宛ニ御座候、尤池郷村ニ請高左之通

一、拾七町四反九畝拾歩 四条村領
池掛リ田地ノ

此受高九石八斗三升四合六夕

但シ 此納米六石九斗三升三合三夕九才 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、壹町五反三畝貳歩 山本村領
池懸リ田地ノ

此受高八斗六升三夕

但シ 此納米六斗六合五夕壹才 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、貳拾七町七反六畝拾歩 大久保村領
池懸リ田地ノ

此受高拾五石六斗九合四夕

但シ 此納米拾壹石四合六夕三才 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、四町六反三畝拾貳歩半 畝火村領
池懸リ田地ノ

此受高貳石六斗六合貳夕五才

但シ 此納米壹石八斗三升七合四夕 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、四町六反三畝拾貳歩半 御坊村領
池懸リ田地ノ

此受高貳石六斗六合貳夕五才

但シ 此納米壹石八斗三升七合四夕 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、七町七畝四歩 久米村領
池掛リ田地ノ

此受高三石九斗七升五合四夕

但シ 此納米貳石八斗貳合六夕五才 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、拾九町四反壹畝廿六歩 和田村出屋敷村城殿村
三ヶ村領池掛リ田地ノ

此受高拾石九斗壹升九合八夕

但シ 此納米七石六斗九升八合四夕六才 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

一、九町六反壹畝廿五歩 石川村領
池懸リ田地ノ

此受高五石四斗九合三夕

但シ 此納米三石八斗壹升三合五夕五才 御高壹石ニ附
御上納米七斗五合宛

高合五拾壹石八斗貳升壹合三夕

此納米合三拾六石五斗三升三合九夕

右者御高壹石ニ附七斗五合宛、村ニ石川村江御上納米ニ御座候事、

此内分ヶ

一、三拾石貳斗八升三夕五才 石川村方御地頭様江
元高壹石ニ附七斗五合納米

一、壹石壹升八合貳勺

石川村領新通井床
年貢右同斷

一、壹斗四升壹合

石川村孫市郎替地
年貢余内上納

一、壹石壹斗九合六勺七才

和田村領新通井床
大久保村領新通井床
年貢石川村此村へ受取

一、三斗壹升七合貳勺五才

年貢石川村此村へ受取

一、三石六斗六升壹合八勺六才

石川村池床余内

上納分米合三拾六石五斗貳升八合壹勺

右之通御地頭様并通井年貢德米替地余内共、池郷中村々

石川村江相納候上、前書割方を以地元石川村右御地

頭様江御上納、并其外三ヶ村江書面之通夫々相渡し可申

約定ニ御座候事、

前書約定之通池郷村々急度相守可申候、若御地頭様右御

年貢納方上下有之時者、其割方を以無故障村々可致御

上納約定之事、

外ニ

一、夫米壹石貳斗八升八合五勺三才

元高壹石ニ附三升宛之
掛り米ニ御座候

一、口米九斗八合四勺壹才

納米壹石ニ附右同斷

一、七升九合

石川村孫市郎替地
余内地役米

一、拾六石八斗壹升四合六勺五才

石川村池床地役
村小入用米相渡ス

一、五斗七升三勺八才

石川村領新通井床
地役米相渡ス

一、六斗貳升壹合七勺三才

和田村領新通井床
地役米相渡ス

一、壹斗七升七合七勺五才

大久保村領新通井床
地役米相渡ス

右三ヶ村合貳拾石四斗六升四勺五才

右地役米論談之儀、双方右今般取噺人源三郎、小三郎兩

人江相任セ、熟談仕候訳則左之通、

一、金百五拾兩也 此度取噺人右出金

一、同百兩也 双方池郷村々右出金

合金貳百五拾兩也

代銀

右銀子を以德米買求メ、其德米を以前書之地役米貳拾

石四斗六升四勺五才ヲ相立可申仕法立ニ候得共、差当

リ思ハ敷德米買求メ出来兼候ニ付、当分取噺人兩人之

世話ヲ以、植村領池郷并神保領池郷兩郷中江割合、別

紙ニ預リ証文取之貸附、尤其利足ヲ以相立可申約定ニ

御座候、尤米直段高下ニ而過不足可有之、依之不足之

節者池郷村々方足米可仕、過米有之節者割戻しニ可相成筈之事、

一、溜池水割雜用并普請其外臨時諸入用之儀者、往古方毎年十一月五日、池郷立会勘定帳面地元石川村ニ有之先例之帳面之通、双方急度相守割合相掛リ可申事、右之通寛永年中并慶安年中証拠ヲ以、此度惣池郷立会相改、一同連席之上規定仕候上者、永世無違失惣池郷中急度相守可申候、依之約定書ニ村々并取唆人連印為取替置申処仍而如件、

嘉永七年

甲寅六月日

植村出羽守殿御領分

高市郡石川村

庄屋 弥平次 ㊦

年寄 嘉八郎 ㊦

同 小八郎 ㊦

百姓惣代 作次郎 ㊦

同領同郡和田村

庄屋 佐平次 ㊦

年寄 伊兵衛 ㊦

同 喜右衛門 ㊦

同領同郡城殿村

庄屋 甚兵衛 ㊦

年寄 佐助 ㊦

同 久治郎 ㊦

同領同郡和田村之内

出屋敷村

庄屋 清次郎 ㊦

年寄 利右衛門 ㊦

同 重太郎 ㊦

同領同郡四条村

庄屋 惣左衛門 ㊦

年寄 市良兵衛 ㊦

同 平三郎 ㊦

神保三千次郎殿御知行所

同郡大久保村

庄屋 善次郎 ㊦

年寄 与右衛門 ㊦

同 久次郎 ㊦

百姓惣代 久左衛門 ㊦

同知行所

同郡敵火村

庄屋 清 六 ㊦

年寄 嘉兵衛 ㊦

同 弥 七 ㊦

同知行所

同郡久米村

庄屋 半次郎 ㊦

年寄 善兵衛 ㊦

同 市三郎 ㊦

同知行所

同郡御坊村

庄屋 文 六 ㊦

年寄 善右衛門 ㊦

同 彦 七 ㊦

同知行所

同郡山本村

庄屋 孫市郎 ㊦

年寄 権右衛門 ㊦

同 利右衛門 ㊦

植村出羽守殿御領分

十市郡北八木村

取喰人 源三郎 ㊦

同領高市郡四条村之内

新町方

同断 小三郎 ㊦

○蚊帳借用証文

安政五年四月二十一日

(山田小三郎文書)

蚊帳借用証文之事

六拾番

一、木綿薄黄八六蚊帳 壹張

当四月廿一日迄 釣賃銀拾貳匁定

来ル八月十日迄 内札六匁入

敵傍地区

引残(アキ)

右之通蚊帳借用申処実正也、尤返済之儀者、来ル八月十日限、右蚊帳并釣賃銀共無遅滞返済可仕候、若相滞候ハ、不抱本人ニ引請人ハ相弁急度返済可仕候、為後日蚊帳借用証文依而如件、

安政五年年

和田村 蚊帳借用主

四月廿一日

利右衛門

田中村 引請人

おこの

石川村作治郎殿

○石川村可納租税之事

明治二年十一月

(山田小三郎文書)

巳年可納租税之事

一、高三百九拾三石九斗三升

石川村

内

百貳拾壹石八斗八升八合五夕

稲作当檢見引

壹石三斗九升九合五夕

田綿当御用捨引

四二〇

残貳百七拾石六斗四升貳合 毛附七ツ五厘

此取米百九拾石八斗三合

一、米貳斗七升八合

山年貢

一、米五斗壹升

藪年貢

納合米百九拾壹石五斗九升壹合

右之通当巳御年貢其外共書面之通相極條、村中大小之百姓入作之者迄立会、無甲乙令割、当極月十日迄急度可皆濟もの也、

明治二己巳年

十一月 高取藩

印

右村

庄屋

年寄

惣百姓

○石川村高反別仕訳帳

明治五年四月二十六日

(山田小三郎文書)

明治五年
高反別仕訳帳
壬申四月廿六日
石川村

(*末尾集計のみ)

寄ノ覚

反別式拾九町壹反六畝九歩

惣村高ニ面(ママ)

高三百九拾三石九斗三升

内

高拾式石八斗壹升八合

無反別無地高村弁

三町三反五畝式拾歩

田池床反別

高四拾石五斗四升四合

六反五畝歩

畑池床反別

高七石六斗壹合

壹反式畝拾歩

田池通井床反別

高壹石四斗四升四合

畝傍地区

拾壹町四反拾六歩

上田反別

高百七拾壹石壹斗三升四合

五町壹反九畝拾四歩

中田反別

高六拾七石四斗式升三合六夕

式町八反三畝拾歩

下田反別

高三拾壹石壹斗七升八合

式反七畝式拾歩

下々田反別

高式石六斗三升四合

四反式畝七歩

上畑反別

高六石七斗式升式合

式町五畝拾壹歩

中畑反別

高式拾五石四升五合七夕

壹町五反三畝拾式歩

下畑反別

高拾五石五斗九升式合七夕

五反八畝拾四歩

下々畑反別

高三石三斗三升三合式夕

七反式畝式拾五歩

屋鋪反別

畝傍地区

高八石四斗五升九合八夕

明治五年

壬申四月

高市郡石川村

年寄 山田作治郎

同断 岡崎善三郎

庄屋 大田弥平次

奈良県

御役所

○石川村租税上納割賦帳

明治六年十二月

(山田小三郎文書)

<p>当酉租税上納割賦帳</p> <p>大和高市郡 石川村</p>

当酉壹ヶ年免定
一、反別式拾九町壹反六畝九分

高市郡
石川村

此訳

田反別式拾三町壹反九畝分

此貢米百四拾七石九斗八升七合 去申同

内訳

反別拾九町七反壹畝分

本田

此貢米百九石三斗四升八合

反別三町三反五畝廿分

池床

此貢米式拾八石五斗八升四合

反別壹反式畝拾分

通井成

此貢米壹石壹升八合

無反別

無地村弁

此貢米九石三升七合

畑反別五町九反七畝九分

此貢米四拾式石八斗壹升六合

内訳

反別四町五反九畝拾四分

本畑

此貢米三拾壹石四斗九升三合

反別七反貳畝廿五分

屋敷

此貢米五石九斗六升四合

反別六反五畝分

池床

此貢米五石三斗五升九合

納合米百九拾石八斗三合 去申同

右者酉租稅書面之通候条、総百姓立会、無甲乙割賦致

決算来ル二月限急度上納可致もの也、

明治六年酉十二月

奈良県

印

右村

戸長

副戸長

総百姓

○石川村本明寺由来記

(欠年)

(山田小三郎文書)

本明寺由来

石川村

山田小三郎

石川記

一、当村者石川鷹の旧地にして後世其名を呼伝ふ村統の社地花揃の御神者 神武天皇の御后にてまし(マコ)す故、諸人及び女性乃宜なるよし哉守護セ玉ふ、扱また御産神 山王権現 春日大明神と崇奉るハ三輪明神と御同徳にして、疫病を除かせ玉ふにより、医業及び諸人渴仰セハ厚き加護に預るへし、則居村に天明の比より寛政に至り迄(マコ)数年の日參怠慢なくして立身衆民に秀てたる事、是偏に御産神乃守護にあらずや、誠に神ハ人の敬ひによりて威を増し、人ハ神の加護によりて運を添ふといふ事諸人知る処なれば、信仰有へき事、但し節分の夜格を用ひ来者事、此御神の所縁たりし事

也、次ニ春日乃御神は許々止魂ノ尊の御孫天津児根屋(マツ)命、神護景雲乃年三笠山に御影向なセ玉ふにより、春夏秋冬及びはるを掌り(ツカサヘ)惠美厚きゆへ春日大明神と崇奉る、然る後当村乃鎮守と勸請し奉るハ、御神慮乃深き(フカキ)故なれハ尤可仰事也、扱また同地に勸請し奉る牛滝大明神と崇奉るハ、牛頭天皇乃御事則天照皇太神宮乃御弟素戔鳴尊にて、高天原より朝鮮乃国及び根の国に行玉ひ、稲田姫を妃として八重垣の宮において牛を□初玉ふ故、牛滝の御尊号是あり、其外何国にても牛滝明神と申せハ皆御同神にて在しける(ママ)、次ニ太神宮常夜灯の神地者旧例を卒、享和二の年九月十六日再建し奉るは伊勢天照皇太神宮ハ不及申、外宮天御中主尊豊受皇太神宮と申奉りて、生を得るもの此御神の惠美を受さるものハあらし、次ニ野神権現と崇奉り、榎を以て御神躰として村人敬ひ奉る事宜なる、元來此御神ハ御饒神と申奉りて、稻生大明神と御同徳にて、伊勢外宮の御同躰也、次ニ幸神塚者猿田彦命と申奉り、往來を守

らせ玉ふ故往古諸人旅立乃日にハ花を以て道中乃無事を祝ひし事是あり、此花を道辻山野乃幸神塚に献備致しけるより、饒別の古説に今是あるとそ、

本明寺の事

一、抑和高州市郡石川村廢精舎本明寺の由來來を尋るに、人皇三十一代敏達天皇卷曰日本書紀敏達天皇十三年の春二月癸巳朔庚子日難波の吉士木蓮子を遣シて新羅に使ひせしむ、遂に任那(ミヤ)にゆき秋九月百濟より來たる鹿深の臣、弥勒の石像一軀をもてり、佐伯の連仏の像一軀をもてり、是歲蘇我馬子の宿禰其仏の像二軀をませて、乃鞍部の村主り司馬達等池の辺の直氷田を遺し(遺方)、四方に便して修行者をとひまかしむ、於是たミ播磨の国ヲおいて僧還俗の名ハ高麗ノ恵使をゑき大臣乃□□しなす司馬達等か女者くをいへてせしむ、善信といふ年十一歳なり、また善信尼の弟子式人いへてせしむ、其一ハ漢人夜菩の女(由豆)豊女名を禪藏尼といふ、其二ツハ錦織壺の女石女名ハ惠善尼と馬子

なを仏の法により三人の尼を崇敬し、乃三人の尼を以て氷田の直達とにさつて衣食をまつらしむ仏の^(マツ)仏の殿を宅の東の方につくりて弥勒の石の像ませまつる三人の尼をませて大会の設齋此時達等仏の舍利を齋食の上に得たり舍利を以馬子宿禰に献而、馬子の宿禰試に舍利を以て鍊質の中に置鍊の鎚を振て打其質と鎚と悉に摧壞られて舍利をハ摧毀るへからず、また舍利を水ニ投入ければ心の願ふ処にまに／＼水に浮ひ沈む、是によりて馬子宿禰池の辺の氷田司馬達等仏の法をたもちうけな^(マツ)こなひする事おこたらず馬子宿禰また石川の宅において仏殿をつくり納む仏の法の初る事はよりしとおこれり右日本紀見へたる処にて大和国高市郡石川村ハ往昔蘇我の馬子の宿禰か宅地なりしを寺となし善信禪蔵惠善の尼三人を住しめ石川寺と称す

吾願に仏法の起りし縁故なり然るヲいつしか仏殿僧舎も荒變して平田となり今はわつか浄土宗の梵刹一字ありて本明寺といふハ其古趾なり、本尊ハ釈迦如来の像

敬傍地区

を安置し寺前の石塔者馬子のために古しへ建たりししるしなりとそ、敏達天皇十三年より今□文化十四年迄千式百三十年の星霜^{セイキョウ}を経たり誰もむかしをしれハさうめ□□(以下白文)

一、抑華嚴寺ハ

人皇三十七代孝徳天皇五年蘇我氏石川麿と心を合せ天皇乃為ヲ石川の里北ノ山に造立ありしとかや、是則華嚴宗の始なり、其後六十六代一条院の御宇長元七年檢校善妙法華八講を修行初めし其時稻五百束を施入し玉ふ其田地をハ八講田といふて石川の里にありて其名に今残るとそ

二ノ巻終

〔大輕〕

○寺尾勤録、大輕村明細

(延享頃)

(大福・広吉寿彦蔵)

一、高百八拾式石式斗五升七合

大輕村

四二五

此取米百三石八斗八升六合

五ツ七分

一、米四斗四升五合

藪年貢

一、米五石四斗六升八合

夫米

一、米三石壹斗三升

口米

納合米百拾貳石九斗貳升九合

檢地文祿四年八月廿五日

石田奎頭

除地

春日明神
熊野權現

年貢地

一、法輪寺 浄土宗見瀬村阿弥陀寺末寺

一、道場 一向宗今井順明寺末寺

一、村池壹ヶ所

一、庄屋やしき無年貢

○大輕村免状之事

文久二年十一月

(醍醐・平井良朋文書)

戌年免定之事

一、高百八拾貳石貳斗五升七合

大輕村

内

七石三斗五合

稲作当檢見引

残百七拾四石九斗五升貳合

毛附

此取米百貳石三斗四升七合

五ツ八分五厘

一、米四斗四升五合

藪年貢

納合米百貳石七斗九升貳合

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会無甲乙致割合、極月十日迄急度可皆濟者也、

文久二年十一月

嶋 甚左衛門

田中 織衛門

駒井与 左衛門

万喜力 四郎

林 伝八郎

大輕村庄屋年寄惣百姓

○難渋人へ御救い御願書

元治元年八月

(醍醐・平井良朋文書)

元治元年
 子八月日
 大輕村
 御願書役印帳
 兼帯住屋
 平井理助
 壺番

乍恐御歎キ奉願上候

高市郡

大輕村

役人

一、当村武助儀去ル酉年新百姓御願奉申上候者御聞届ケ
 被為成下、御憐愍ヲ以同暮家普請料御銀被為下し置頂
 戴仕、其後相統米と御願奉申上得者年々相統米ニ被為
 下置難有頂戴仕候、一姓相統仕候へ共、当夏以來も天
 氣打続、右新百姓之義ニ付作毛取上候もの者無之候
 故、御上納取結之手当無之候故、御時節柄ニ恐多御願
 御座候へ共、当暮ニ取続飯米被為下し置候様重々御願
 御座候へ共、乍恐此段本人連印ヲ以、村役人より幾重
 ニ茂絶而御歎奉願上候、

右之趣御聞届ヲ被為成下候得者千万難有奉存候、以
 上、

元治元年
 子八月日

大輕村

新百姓人

武助印

年寄

清右衛門印

同断

徳兵衛印

兼帯庄屋

平井利助印

高取

御役所様

乍恐御歎キ奉願上候

大輕村役人

伊助

平四郎

清兵へ

友七

善兵へ
利右衛門

右之者共儀御高少ミツ、所持仕候百姓ニ御座候処、極難

波人之儀ニ付村役人とも存し勘弁ヲ以相続方世話いたし

呉候得共、右之内ニも老衰并ニ喰立之子供を抱、其日も

送り兼候実ニ困窮人之儀故、是迄毎年御歎奉願上御救米

等難有頂戴為仕罷有候得共、近年時節悪敷候旁ニ候故

難立直り兼候故、当年御救米と奉願上呉候様段ニ相歎

キ立候ニ付、恐多御願候へ共村役人方御歎願奉申上候、

御時節柄何共恐多ク御歎キ御座へ候とも、右難波之者と

も故御取立被為、思召格別之厚御慈悲を以御救米被為下

置度幾重ニも縋而奉願上候、

右之趣御聞届キ被為 成下候へ共千万難有奉存候、以上、

元治元年

子八月日

大輕村

百姓代

藤四郎

組頭惣代

惣右衛門

年寄
清右衛門

同断
徳兵衛

兼帯庄屋
平井利助

高取

御役所様

乍恐御歎キ奉願上候

大輕村役人

一、当村之儀者御高百八拾式石余之内百石斗ニも畑高ニ

御座候、然ルニ当夏畑方立毛相仕付候処旬気も宜敷旁

困窮之者共銘ニ仕合先ニ而肥し等もかり受差入太切ニ

修理仕罷有候処、其後追ニ照重り、古来稀成ル大旱魃

ニ而、皆無同様損毛ニ相成候就而者小前一同村役人方

江当村之儀者外村と者違、畑方多分之処右体早損を請

肥ニ代を相失ひ、所詮此上百姓相続難出来者勿論、御

太切之御年貢も取繕ひ六ヶ鋪段、歎鋪旨申之、当年之

儀者別段御手厚畑方御用捨米奉願上候可呉ニ候様頼リ

と相歎立罷在候付、御時節柄何共恐多く御願ニ御座候得共、格別之厚御憐愍ヲ以、畑方多分之村方、当年稀成旱損を相請、相統兼候百姓御引立ト被為思召、御手厚畑方御用捨米被為下置度、幾重ニも御慈悲ニ取縋而御歎奉願上候、

右之趣御聞届ケ被為 成下候ハ、千万難有奉存候、

以上、

大輕村

百姓代

藤四郎

組頭惣代

惣右衛門

年寄

清右衛門

同断

徳兵衛

兼帯庄屋

平井利助

高取

御役所様

乍恐御歎キ奉願上候

敢傍地区

大輕村

役人

一、当村之儀者先前ハ極困窮村ニ御座候ニ付、是迄蒙御憐愍ヲ難有奉存罷在、然ルニ当子田方稻木綿作仕付後、旬氣宜敷定メ而豊作年と相心得、難波之者共銘々仕合先ニ而肥しかり受、差入丹誠を尽し居処、其後長々日照り相続キ、作物一体存外旱損ニ相成候ニ付而ハ、小前一同村役人方江素ハ困窮之村方近年悪敷年柄打統難波立直り兼居候ニ、此節諸色稀成大高直ニ相進(カ)ミ必至難波ニ陥り罷在候上、右体旱損ニ而肥し代手当テを失ひ、此儘百姓相統難出来者勿論、御收納取繕ひ六ヶ鋪次第ニ付、右始末御歎キ申上、当年別段御手厚キ御用捨米奉願上呉候様、頗リニ相歎出候ニ付、不奉願恐を、此段御歎願奉申上候、何卒格別之御憐愍ヲ以、困窮村之上、当年大旱損ニ而尚又難波弥増必至と差詰候百姓御引立として御手厚キ御用捨米被為下置度、幾重ニも縋而御歎奉願上候、

四二九

敬傍地区

右之趣御聞届ケ被為 成下候ハ、千万難有仕合奉存候、以上、

元治元

子年八月

大輕村

百姓代

藤四郎

組頭惣代

惣右衛門

年寄

清右衛門

同断

徳兵衛

兼帯庄屋

平井利助印

高取

御役所様

覚

一、八拾壹歳

惣八母

に印

右之通相違無御座候、以上、

元治元年

子八月廿五日

大輕村

年寄

清右衛門印

同断

徳兵衛印

兼帯庄屋醜齋村

平井利介印

高取

御役所様

○質素儉約風儀取締御請書

明治元年十一月

(醜齋・平井良朋文書)

明治元年

御趣意御請書帳

辰十一月日

大輕村写

奉差上御趣意御請書

先年方質素儉約之義、且男女衣類其外奢ケ間敷儀相慎候様度ニ相触候処、年久敷相立候得者自然相弛ニ御制

度を取失ひ花美之風俗ニ押移り御領内之輩衣食住と茂奢不少自然農業商売等疎ニ相成不実不法之所業致し候もの有之哉ニ相聞候、依而此度相改左之通り被仰出候銘々分限ヲ悟り御趣意無違失聊費無之様相心得孝道職業可相働候、

一、男女共衣類下着ニ迄木綿ニ限り可申度、
但し他出之節も可為同様事、

一、婦人髪髻リ之義并井かんさし壹本櫛壹枚限りされ類掛候義堅ク停止之度、

一、羽織木綿ニ限り夏向麻勝手次第之事、

一、日傘是迄停止之処婦人者白張不苦紺天蛇目等者決而不相成候事、

一、丸桃灯^(燈)停止之度、

一、御家中役人初メ其外江賄賂之義是迄年寄ヲ以相贈り候者有之趣相聞江候以來別而嚴敷被仰出候間聊たり共相贈申間敷候受納致候者勿論相贈候もの茂急度咎可申附事、

一、音信ニ附贈答土産別增長致し猥ニ相成候哉ニ相聞候以來真之作リ草ニ而聊野菜物等者別段無余之品ハ^(ことごと)皆ク停止之度、

一、酒妻遊興ケ間敷義^(ことごと)皆ク停止之度、

一、博奕之義御法度者申迄も無之処、心得違之者多ク有之哉ニ相聞不埒之度ニ候、以來一限嚴敷御穿鑿有之候間其旨可相心得度、

附リ万一見遣候者有之候節ハ其村役人共可為越度事右之通被仰出候間町在役人共方精々申聞取締皆ク為相守不相用者有之候得者早々可申出候、尚折々郷廻り差出し候間停止之品相用者見咎候得者其品取上急度咎可申附候、

右条々被仰出候ニ附当村小前末々迄御趣意通り無違失急度相守可申候、万一心得違之者有之候得者如何様ニも被仰付候、依之一統連印仕御請書奉差上ケ候、以上、

明治元年辰十一月日

嘉八郎印 …… 伊 助印 …… 喜 助印

ふ じ印 同 忠兵衛印

清右衛門印 同 芳兵衛

久四郎印 同 文兵衛印

ひ ろ印 同 市郎兵衛印

藤四郎印 同 德兵衛印

伊兵衛印 同 惣右衛門印

友 七印 兼帯庄屋 平井利助印

武 助印 組頭 惣兵衛印

但し式さつ之内
壹さつ大庄屋江上ケル

内

式拾四石式升九合五夕 稻作当檢見引

残百五拾八石式斗式升七合五夕 毛附

此取米九拾式石五斗六升三合 五ツ八分五厘

一、米四斗四升五合 藪年貢

納合米九拾三石八合

右之通当已御年貢其外共書面之通相極条、村中大小之百姓入作之者迄立会、無甲乙令割賦、当極月十日迄急度可皆濟者也、

明治二〇年 高取藩 十一月

右村

庄屋

年寄

惣百姓

」

○大輕村可納租税之事

明治二年十一月

(醍醐・平井良朋文書)

巳年可納租税之事

一、高百八拾式石式斗五升七合

大輕村

○大輕村租税賦役之事

明治三年十一月

(醍醐・平井良朋文書)

午年租税賦役之事

一、村高百八拾貳石貳斗五升七合 大榎村

此取米八拾四石九合

米四斗四升五合 藪年貢

米五石四斗六升八合 夫米

米貳石五斗三升四合 口米

都合米九拾貳石四斗五升六合

内

貳拾八石三合 三分一米金納

殘米六拾四石四斗五升三合 米納

前書之通当午十二月十日限可皆納者也、

高取

明治三年庚午十一月 藩庁□(朱印)

右村

庄屋

年寄

惣百姓

〔見瀬〕

○見瀬村文禄檢地帳

文禄四年九月二十日

(見瀬区有文書)

二帖ノ内	九帖ノ内在之
和州高市郡三瀬村御檢地帳	
小林九郎右衛門打口	

(前略、末尾集計ノミ)

以上

上田 壹百五拾六石八斗貳升七合

中田 七拾七石壹升壹合

下田 五拾壹石四斗貳升五合

上畠 壹百拾石七斗壹升六合

中畠 八拾九石九斗壹合

下畠 八拾五石七斗壹升三合

畝傍地区

下々畠 六石九斗七合

田畠合五百七拾八石七斗壹合

分米 六百九拾壹斗壹升

此内拾貳石四斗九升 荒

文祿四年九月廿日

石田柰頭(花押) ㄥ

○見瀬村免定之事

正徳三年十一月七日

(見瀬区有文書)

巳ノ年免定之事

高六百九拾石壹斗壹升五合

見瀬村

内九斗九升六合

川成

取米五百拾六石八斗三升九合

外

一、高八斗八升六合

新田

取米六斗六升五合

本高並

一、米三升

山年貢

四三四

一、米壹石五斗四升

數年貢

右之通惣百姓寄合、無高下様致割符、極月十日以前急度皆済可仕者也、仍如件、

正徳三年巳ノ十一月七日

赤方理兵衛㊦

三宅左七㊦

林十左衛門㊦

見瀬村庄屋惣百姓中㊦

○奉公人他領方引戻調一札

宝曆五年八月廿二日

(見瀬区有文書)

一札之事

一、御他領江勤候男女奉公人取戻し可申様、去暮も被仰出候所、或ハ日雇与名附、又ハ手伝杯与申立遣置候者共有之由、達御聞申ニ付、此度細切ニ相改可申様被仰出奉畏候、以来者他領奉公之儀、急度為勤間敷候、日雇手伝等ニ無之行掛ケ戻り様ニ御改可申候為其印形如

此候、已上、

宝曆五年亥ノ八月廿二日

見瀬村組頭

茂兵衛○

同断宇兵衛○

(以下三十七名連印略)

庄屋年寄中

○見瀬村寅年免定

寛政六年閏十一月

(醍醐・森川康男文書)

寅年免定之事

一、高六百九拾石壹斗壹升五合

見瀬村

九斗九升六合

川成山崩永荒引

内 三拾三石八斗九升壹合六夕

当不毛付引

六拾八石九斗貳升六合九夕

稲作当檢見引

四拾四石五斗八升四合

畑方当御用捨引

残五百四拾壹石七斗壹升六合五夕

毛付

此取米三百八拾壹石九斗壹升

七ツ五厘

一、高八斗八升六合

新田

此取米六斗貳升五合 本高並

米三百八拾貳石五斗三升五合

一、米三斗

山年貢

一、米壹石五斗四升

藪年貢

納合米三百八拾四石三斗七升五合

外大豆壹石五斗五升

当不毛付之内毛替見取

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会無甲乙致割合、極月十日迄急度可皆濟者也、

寛政六年寅閏十一月

辻

倉太

稲村

隆次

中川

久平

浜田

半左衛門

宮川

庄太夫

中谷

新兵衛

見瀬村庄屋年寄惣百姓

○見瀬村土砂留証文

天保十四年九月

(醍醐・森川康男文書)

差上申土砂留証文之事

一、毎年度々被仰出候山方川筋土砂留之儀、弥以急度奉相守候事、

一、山方はけ申所筋芝を付萱葎木苗何ニ而茂其所地心相応之物植附土砂流不落様仕候事、

附リ、山方土砂流可出方角焼畑切畠等新規ニ仕間敷候、并新屋敷緞先年屋敷跡たり共年来中絶之所者御届ケ可申上候事、

一、川面杭筋等仕川苾致シ水行少茂滞リ不申様仕候事、

一、川筋川端新開之儀者不及申□開或者藪生出シ堤築出シ其外何ニ而茂新規成仕川面狭メ申間敷事、

附リ、川筋川端田畑かこひに成可申所者御願申上御檢分之上御差図請可申候并橋普請仕候節茂右同様ニ

仕候事尤通并筋投渡シ橋たりとも新規之儀御届ケ申上御差図請可申候事、

一、川筋破損并山方崩所并手通井崩等迄其節早速御注進可仕候、少茂隱置申間敷候、惣而不依何事ニ山方平場

共土砂うごかし候儀、及多分候義者急度御届ケ申上、御差図請可申候事、

右之条々毛頭相背申間敷候、若相違成儀御座候得者、如ケ様ニ茂可被仰付候、為後日庄屋年寄連印仍而如件、

高市郡見瀬村

天保十四卯年

年寄 又四郎

九月

同断 佐兵衛

兼帯庄屋 醍醐村

喜八郎

土砂留

御奉行様

○見瀬村五人組帳

弘化三年三月

(醍醐・森川康男文書)

丙弘化三年

五人組帳

午三月

高市郡

見瀬村

組頭

権兵衛 ㊦

要助 ㊦

要蔵 ㊦

伊兵衛 ㊦

りよ ㊦

ノ五人

組頭

庄次郎 ㊦

りつ ㊦

儀助 ㊦

甚兵衛 ㊦

重兵衛 ㊦

ノ五人

組頭

忠兵衛 ㊦

佐兵衛 ㊦

佐助 ㊦

畝傍地区

組頭

兵次郎 ㊦

儀兵衛 ㊦

なを ㊦

宇右衛門 ㊦

ちか ㊦

高市御改後別宗
相成候事

ノ六人

組頭

弥兵衛 ㊦

りゑ ㊦

伊右衛門 ㊦

善四郎 ㊦

きぬ ㊦

ノ五人

組頭

佐兵衛 ㊦

小三郎 ㊦

文次郎 ㊦

柳介 ㊦

与兵衛 ㊦

喜兵衛 ㊦

ノ六人

組頭

弥七 ㊦

吉兵衛 ㊦

利介 ㊦

清兵衛 ㊦

利兵衛 ㊦

ノ五人

組頭

弥次兵衛 ㊦

重三郎 ㊦

清兵衛 ㊦

嘉兵衛 ㊦

しゅん ㊦

ノ五人

万吉 ㊦

みつ ㊦

ノ五人

組頭

七兵衛 ㊦

弥五郎 ㊦

吉兵衛 ㊦

源四郎 ㊦

れん ㊦

ノ五人

組頭

喜兵衛 ㊦

半兵衛 ㊦

弥兵衛 ㊦

もん ㊦

平助 ㊦

ノ五人

四三七

畝傍地区

組頭

甚三郎

しま

宇兵衛

忠兵衛

藤兵衛

五人

組頭

忠九郎

いち

弥助

奈良次

清次

五人

組頭

庄治

彦市郎

きう

善兵衛

組頭

新三郎

源右衛門

与七郎

徳兵衛

きよ

五人

組頭

茂平治

新助

彦兵衛

庄兵衛

かね

五人

組頭

儀助

嘉兵衛

喜七

伊介

喜助

五人

組頭

嘉平治

佐助

喜右衛門

安兵衛

嘉助

五人

組頭

久四郎

半兵衛

喜市郎

れん

善三郎

治兵衛

六人

組頭

小四郎

四三八

新助

五人

組頭

作兵衛

源助

ひろ

庄次郎

源兵衛

五人

組頭

惣七

忠兵衛

佐七

与兵衛

藤吉

武兵衛

六人

組頭

宇平治

半次郎 ㊟
 惣右衛門 ㊟
 清六 ㊟
 甚兵衛 ㊟
 太四郎 ㊟
 伊八 ㊟
 源八 ㊟
 惣兵衛 ㊟
 嘉助 ㊟
 忠兵衛 ㊟
 五人 ㊟
 惣兵衛 ㊟
 ます ㊟
 ゆか ㊟
 酒判 万吉 ㊟

吉兵衛 ㊟
 惣次郎 ㊟
 とよ ㊟
 千代 ㊟
 五人 ㊟
 佐太郎 ㊟
 林平 ㊟
 弥右衛門 ㊟
 りう ㊟
 善右衛門 ㊟
 五人 ㊟
 儀兵衛 ㊟
 ひで ㊟
 とめ ㊟
 たき ㊟

善兵衛 ㊟
 千代 ㊟
 六人 ㊟
 弥八郎 ㊟
 かち ㊟
 捨奈 ㊟
 のゑ ㊟
 まつ ㊟
 万右衛門 ㊟
 六人 ㊟
 嘉兵衛 ㊟
 いし ㊟
 わき ㊟
 彦三郎 ㊟
 ひろ ㊟
 まき ㊟

泰之助 ㊟
 酒判 清兵衛 ㊟
 六人 ㊟
 長七 ㊟
 いと ㊟
 たけ ㊟
 きく ㊟
 鶴まつ ㊟
 みつ ㊟
 六人 ㊟
 宇右衛門 ㊟
 つる ㊟
 祐輔 ㊟
 藤介 ㊟
 しほ ㊟
 長蔵 ㊟

敵傍地区

六人

三拾組

六人

此人数寄百六拾壹人

右之通少し茂相違無御座候、以上、

弘化三年

丙午三月

見瀬むら年寄

四良兵衛團

同断

弥四郎團

同断

又四郎團

兼帯庄屋醍醐村

喜八郎團

宗門御改奉行

太田八郎右衛門殿

瀬尾集見殿

○見瀬村宗門改人数寄帳

弘化三年三月

(醍醐・森川康男文書)

四四〇

丙弘化三年
宗門御改人数寄帳
午三月
高市郡
見瀬村

宗門御改人数寄

本家者四百五十七人内 男貳百拾五人 女貳百四拾貳人

浄土宗百三拾貳人内 男六拾七人 女六十五人

浄土真宗三百貳拾六人内 男百四拾八人 女百七十八人

真言宗五人内 男四人 女壹人

借家者百六拾八人内 男八拾三人 女八十五人

浄土宗八拾六人内 男四拾六人 女四十人

浄土真宗八十式人内 男三十七人 女四拾五人

惣人数合六百三拾壹人内 男三百貳人 女三百拾九人

竈数合百六拾四軒内 本家百拾三軒 借家五十壹軒

外ニ煙亡壹軒

非人番巻軒

当村ニ寺四ヶ寺

一、浄土宗阿弥陀寺

出家貳人

一、浄土真宗福栄寺

出家三人
女壹人

一、同宗称名寺

出家三人
女壹人

一、真言宗安養寺

無住ニ御座候

右出家寺手形取之差上可申候、

当村江入人出生人之覚

浄土宗

一、去御改後利助倅米蔵儀者出生加入仕候、

右同断兵次郎嫁んめ儀御領内土佐町小梅姉貫請加入仕

候、

右同断同人孫周吉之儀ハ出生加入仕候、

右同断市郎兵衛倅米蔵儀ハ同郡吉田村伝兵衛倅貫請加

入、

右同断儀助娘ゑい儀ハ出生加入仕候、

右同断善三郎倅久吉儀者出生加入仕候、

浄土真宗
一、右同断吉兵衛弟喜兵衛儀ハ先年同郡香久山へ縁付仕

所此度不縁ニ付戻り加入、

右同断寄兵衛倅徳三郎儀ハ先年田原本藤八方江縁付仕

候所此度不縁ニ付戻り加入、

右同断宇兵衛娘くま儀ハ出生加入仕候、

右同断弥次兵衛倅久吉之儀ハ出生加入仕候、

右同断弥四郎娘とみ之儀者出生加入仕候、

右同断小三郎娘たけ之儀ハ出生加入仕候、

右同断弥八郎徳藏はる兩人儀ハ葛下郡新庄村宇兵衛貫

請加入ニ

右同断茂平次娘きく之儀ハ出生加入仕候、

右同断嘉兵衛娘とめ之儀ハ出生加入仕候、

右同断清兵衛倅伊介女房きり之儀ハ宇陀郡西山村武兵

衛娘貫請加入仕候、

右同断伊右衛門養子庄九郎之儀ハ御領内田中村忠七□

□貫請加入、

右同断同人孫槽吉之儀者出生加入仕候、

右同断弥右衛門娘つゆ之儀者出生加入仕候、

右同断半兵衛悻菊松儀ハ出生加入仕候、

右同断とよ悻佐吉之儀ハ十市郡山の坊村伝兵衛悻貫請

加入仕候、

右同断嘉助悻吉藏之儀ハ出生加入仕候、

右同断さく娘しの之儀ハ同郡久米村伊兵衛娘貫請加入

仕候、

右同断彦市郎悻吉助女房しな之儀同郡橋村与兵衛妹貫

請仕候、

増ノ式十四人 内 男拾三人
女十一人

当村ノ養子縁付病死人之覚

一、^{浄土宗}去御改後兵次郎娘もんの儀ハ葛上郡御所町重兵衛方

江縁付除ク、

右同断同人娘たかの儀ハ大軽村嘉兵衛方へ縁付送り除

ク、

右同断伊八妹いしの儀者土佐町久兵衛方江縁付送り除

ク、

右同断源右衛門娘みつの儀ハ相果除ク、

右同断藤兵衛の儀者相果除ク、

右同断右兵衛悻忠藏相果除ク、

右同断寄市郎悻亀市の儀ハ相果除ク、

右同断佐助母もとの儀者相果除ク、

^{浄土真宗}右同断ちよ娘みつ之儀同郡鳥屋村伊八方江縁付送り除

ク、

右同断作兵衛悻宇藏之義者相果除ク、

右同断佐兵衛之儀者相果除ク、

右同断惣右衛門悻徳藏儀者相果除ク、

右同断松之助姉ふじ之儀ハ大軽村清次方江送り除ク、

右同断きの悻房吉之儀者不縁ニ付今井町兵助方江戻し

送除ク、

右同断善善兵衛妹とくの儀者相果除ク、

右同断源助悻岩松の儀者相果除ク、

右同断寄七弟宇之助之儀者八木村之百姓勝手ニ付引越

送り遣ス、

右同断とよ妹つねの儀同郡尾曾村清三郎方へ縁付送り

遣ス、

右同断寄右衛門姉さくの儀ハ大榎村伊助方江縁付送り

遣ス、

減シ人ノ拾九人内男九人
女九人

指引五人増人ニ御座候、

一、当村ニ 牛三疋

右之通相違無御座候、

御領内者奉公人之覺

一、弥四郎下男大榎村伊助宗旨ハ代々浄土宗ニ而則当村

阿弥陀寺旦那ニ紛無御座候、

一、利助下男大榎村久兵衛宗旨ハ代々真言宗ニ而則久米

村久米村旦那(寺カ)ニ紛無御座候、

ノ式人

他領者入奉公人覺

一、弥四郎下女きよ儀者同郡河原村半兵衛娘宗旨ハ代々

浄土宗ニ而則当村阿弥陀寺旦那(無カ)ニ紛御座候、

一、佐兵衛下女とめ儀者吉野郡下市村利兵衛娘宗旨ハ代

々浄土宗ニ而則同村西光院旦那ニ紛無御座候、

一、庄次郎下男同郡久米村喜兵衛宗旨ハ代々真言宗ニ而

則同村久米村旦那ニ紛無御座候、

一、又四郎下男吉野郡洞川村伝兵衛宗旨ハ代々浄土宗ニ

而則同村竜光寺旦那ニ紛無御座候、

一、忠兵衛下女よし義ハ吉野郡増口村源兵衛娘宗旨ハ代

々浄土真宗捨垣本村弘願寺旦那ニ紛無御座候、

右五人者其儀者他領者寺手形類族手形取置申候間御入

用節ハ何時成とも指上可申候、

出奉公人之覺

一、清兵衛忰伊助儀者今井町清六方江遣ス、

一、佐助儀者同郡敵火村弥三郎方江遣ス、

一、喜右衛門弟常松儀者妙法寺村忠兵衛方へ遣ス、

ノ 四人男斗

右之通奉公人出入少しも相違無御座候、已上、

弘化三丙午三月

見瀬村年寄

四郎兵衛印

同断

弥四郎印

同断

又四郎印

兼帯庄屋醍醐村

喜八郎印

宗門御改奉行

太田八郎右衛門殿

瀬尾集見殿(集)

○見瀬村類族改帳

弘化三年三月

(醍醐・森川康男文書)

丙弘化三年

類族御改帳

午三月

高市郡

見瀬村

一、市良兵衛忩米藏儀ハ当午式才同郡吉田村伝兵衛忩實

請候、尤宗旨ハ代々浄土宗ニ而、則同郡五井村称名院

且那ニ紛無御座候所、此度市良兵衛同宗見瀬村阿弥陀

寺且那ニ罷成候、

類族受

弥右衛門印

一、弥八郎忩徳忩四才、娘はる二才儀、右兩人儀ハ葛下

郡新庄村宇兵衛忩娘宗旨ハ代々浄土宗ニ而則同村桂雲

寺且那ニ紛無御座候所、此度弥八郎同宗見瀬村福栄寺

且那ニ罷成候、

尤類族受

弥五郎印

一、清兵衛忩伊助女房きり儀ハ当午三十六才宇陀郡西山

村武兵衛娘實請候、宗旨之儀ハ代々浄土宗ニ而則同村

慶恩寺且那ニ紛無御座候所、此度清兵衛同宗見瀬村村

名寺且那ニ罷成候、

尤類族受

甚兵衛印

一、とよ忩佐吉儀ハ当午三才十市郡山の坊村伝兵衛忩實

請候、宗旨八代々浄土真宗ニ而則同村阿弥陀寺旦那ニ
(無欠力)
紛御座候所、此度とよ同宗敵火村信光寺旦那罷成候、

尤類族受

吉兵衛[㊦]

一、きく娘この儀ハ当午三才同郡久米村伊兵衛娘貫請
候、宗旨八代々真言宗ニ而則同村久米寺旦那ニ紛無御
座候所、此度きく同宗見瀬村福栄寺旦那ニ罷成候、

尤類族請

嘉兵衛[㊦]

右書面之通宗旨相改寺手形類族手形請人方取置候間、以
来御用之節者何時成共差上可申候、尤切支丹宗門之儀者
不及申上、転候者之宗ニ而茂無御座候、若人数之内御法
度之宗類与申訴人御座候得者、何方迄茂罷出急度申訳ケ
可仕候、為後日宗門御請負一札依而如件、

弘化三丙午三月

見瀬村類族受人

弥右衛門[㊦]

弥五郎[㊦]

甚兵衛[㊦]

敵傍地区

吉兵衛[㊦]

嘉兵衛[㊦]

見瀬村年寄

四郎兵衛[㊦]

同断

弥四郎[㊦]

同断

又四郎[㊦]

兼帯庄屋醍醐村

喜八郎[㊦]

宗門御改奉行

太田八郎右衛門殿

瀬尾集見殿

○見瀬村長寿人改帳

弘化三年三月

(醍醐・森川康男文書)

丙弘化三年

長寿人御改帳

午三月

高市郡

見瀬村

覚

一、当午八拾壹歳 ちよ母 とめ

右之通ニ御座候、以上、

弘化三年

丙午三月

見瀬村年寄

四郎兵衛 ㊦

同断

弥四郎 ㊦

同断

又四郎 ㊦

兼帯庄屋 醍醐村

喜八郎 ㊦

宗門御改奉行

太田八郎右衛門殿

瀬尾集見殿

○村方難渋者御容赦米覚

弘化三年十一月二十四日

(醍醐・森川康男文書)

覚

一、納米五石

村方一駄

一、同米壹石

新百姓 嘉助

一、同米五斗

同断 佐蔵

一、同米三斗

因窮ニ付新百姓 ちよ

六石八斗

右者村方一駄并新百姓為取続、難渋之者共江書面之通御用捨米被為 下置候間、難有奉頂戴候、依之御礼御受書奉差上候、右之趣御聞届被 成下候ハ、難有仕合奉存候、以上、

弘化三年

午十一月廿四日

高市郡見瀬村

嘉助

佐蔵

同村年寄

ちよ

又四郎

喜八郎

高取

御役所様

〔南妙法寺〕

○寺尾勤録、妙法寺村明細

(延享年間)

一、高百拾六石六斗六升

内三升

残百拾六石六斗三升

此取米六拾壹石八斗壹升四合

一、高壹斗壹升八合

此取米壹斗

一、米六石壹斗壹升九合

一、米壹石九斗五升

一、米三石五斗五合

一、米貳石九斗九合

納合米七拾五石五斗八升七合

檢地文祿四年九月廿日

除地 一、鎮守 春日大明神、但し社無之

畝傍地区

(大福・広吉寿彦蔵)

妙法寺村

荒引

毛附

五ツ三分

新

本高並

山年貢

藪年貢

夫米

口米

石田李頭

年貢地 一、徳応寺 一向宗葛下郡今市村現徳寺末寺

○宮講座所決メニ付一札

明和八年九月八日

(吉田勝司文書)

一札之事

一、私共從中古宮講始メ候処、神事之節座所無御座候付甚ダ難儀仕、依之元講中へ徳応寺明観様ヲ以相頼申候へ共、不得心ニ御座候故、段々相頼候処、各々方之座所左ニ取右ニ四尺下ケニ而、座所広サ一間ニ取申候様御得心罷下辱存候、尚又後ニ至座取少茂上ケ申間敷候、若□殿立候節床五寸下ケニ普請可仕候、此以後神主ハ不及申、御馳走向一切前々之通御勤可被下候、向後少茂申分無御座候、為後日仍而一札如件、

明和八年卯九月八日

講中惣代 源 七

甚兵衛

伊兵衛

四四七

○旧新講中悶着下濟証文写

明和九年十月十一日

(吉田勝司文書)

乍恐奉差上濟証文事

一、先達而神座論之儀ニ付、元講之者共ハ新講之者共相
手取、御訴訟奉願上候所、御上様御苦勞奉成候義恐
多、依之御下ケ奉願上候而村役人共ハ双方迄利界申聞^(疑)
和談仕其訳、

一、新講御幣之儀者元講当屋ハ年々使ヲ請、袖子遣し湯
御幣切申候事、

一、同断御神供之儀者元講当屋数次御捧御下ケ、膳一膳
元講迄可致受納、但シ百灯壺対双方相わけ可申事、

一、御祭礼參詣之義者元講当屋ハ年々新講迄使ヲ請參詣
可致、座上之義元講左、新講右相定メ申候事、

一、平日御神前御勤之義ハ古来之通一疎ニ可相守候事、
右之通村役人取暖候所、双方相互ニ申分聊無御座候、依

之乍恐連印濟証文奉差上候、已上、

明和九辰年十月十一日

妙法寺村元講惣印形

新講同断

取扱 庄屋 年寄

寺社奉行様

御役所様

右御役所様奉成御苦勞元講新講之訳相定メ之事、然上
者新講ハ何事よらず珍義申かけ、又ハ致懸ケ候ヘハ其
年之神主ハ差留メ可申候、其外新講ハ講中之内ニ珍義
取上候ヘハ、神主ハ不及申相除キ可申候、為其相定連
印形依而如件、

元講中惣印形

○妙法寺村免定之事

天保十五年十一月

(吉田勝司文書)

辰年免定之事

一、高百拾六石六斗六升

妙法寺村

内

三升

川成山崩永荒引

式拾五石壹斗七升

稻作当檢見引

残九拾壹石四斗六升

毛附

此取米四拾九石八斗四升六合

五ツ四分五厘

一、高壹斗八升八合

新田

此取米壹斗貳合

本高並

ノ米四拾九石九斗四升八合

一、米六石壹斗壹升九合

山年貢

一、米壹石九斗五升

藪年貢

納合米五拾八石壹升七合

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会、無甲乙致割

合、極月十日迄急度可皆済もの也、

天保十五甲辰十一月

米沢規矩助㊦

高瀬権馬㊦

脇坂四郎右衛門㊦

横小路門内㊦

中谷新兵衛㊦

妙法寺村庄屋年寄惣百姓

○後役兼帶庄屋へ諸帳渡覚

文久元年八月

(吉田勝司文書)

文久元年
諸帳面渡シ帳
酉八月日
妙法寺村 先庄屋 喜平治

覚

一、文化巳年并ニ天保五午年

二册

一、田畑名寄帳

壹册

一、山藪名寄帳

四册

一、農業作帳

三册

一、寛延式巳年

壹册

一、高附帳

三册

一、万延元年

四册

一、申年小入用帳

四四九

万延式四年	壹冊	万延元年	壹冊
一、宗門下帳		一、申年田畑免割帳	
万延元申年		嘉永四亥年	
一、稲作御検見下帳	壹冊	一、山番ちん割付帳	壹冊
寛政六寅年		安政六未年	
一、田並帳	壹冊	一、□御講割合帳	壹冊
安政三辰年		安政四巳年	
一、梵鐘之儀ニ附書付帳	壹冊	一、御困粃米割附帳	壹冊
安政五年年		安政式卯年	
一、殿様御姫様御婚禮御酒料割合帳	壹冊	一、畑並御数帳	壹冊
安政五年年		延享四卯年	
一、御地頭様法度申渡候連印帳	壹冊	一、山藪ならし高帳	壹冊
安政三辰年		寛政七卯年	
一、出作山番ちん割附帳	壹冊	一、畝詰旱損場仕出シ帳	壹冊
嘉永七寅年		文化十二戌年	
一、御枘改帳	壹冊	一、御普請所願帳	壹冊
嘉永七寅年并ニ安政式卯年		文化十二戌年	
一、質素儉約取締連印帳	式冊	一、田綿願上帳	壹冊
安政一卯年		一、御地頭様座頭願の趣写帳	壹冊
一、御本山様三季御冥加帳	壹冊	明和四亥年	
延享一丑年		一、御定書帳	壹冊
一、祠道銀帳	壹冊	一、合鑑京大仏明暗寺出張所	印鏡壹枚
嘉永五子年		一、印鑑 西大寺	印鏡壹枚
一、不毛附毛願帳	壹冊	一、田畑并ニ山林共譲り主方引請鑑札	七本
一、差上規定取締書帳	壹冊	一、まとい大燈燈共	式ツ
天保十一・十四年	式冊		
一、下役給米料割合帳			
嘉永三酉年			
一、分銅員数書帳	壹冊		

一、太鼓

壺ツ

一、水籠

五ツ

右之通諸帳面相渡可申候、以上、

文久元年

当村

西八月十七日

先庄屋

御預り庄屋

喜平治

藤井勘左衛門様

○難渋人宛御用捨米請取帳

文久元年十二月

(吉田勝司文書)

文久元年

西十二月日

御用捨米請取帳

妙法寺村
難渋人共

一、納米壹斗五升受取

利兵衛

一、同壹斗五升右請取申候

半右衛門

畝傍地区

一、同壹斗五升受取

政 八

一、同壹斗五升受取

まつ

一、同壹斗五升受取

喜助

一、同壹斗五升受取

喜市郎

一、納米式斗五升受取

伝右衛門

右之通御用捨米極難渋人共江被為下置、難有慥ニ頂戴可仕候、

かの

文久元年

組頭惣代

西十二月日

弥三郎

預り庄屋

百姓惣代

藤井勘右衛門様

忠三郎

年寄

又兵衛

○村名まぎれ易く改称御願

明治十三年十一月十三日

明治十三年十一月十三日

(吉田勝司文書)

四五一

四五一

畝傍地区

村名改称御願

堺県大和国高市郡

妙法寺村

一、戸数廿五戸

一、反別拾七町五反八畝拾貳步

一、地価金五千七百三拾六円六拾四銭三厘

当村之儀者、在来同郡ニ妙法寺村ト称スル村名式ケ所在之、就而者是迄諸御達向キ其他之御用ニ数多差支之儀、

□□来甚困却不尠候ニ付、今般更ニ南妙法寺村ト改称仕度候間、此段絵図面相添、村民一同連署ヲ以奉願上候也、

明治十三年十一月十三日

右村

吉田嘉平[㊦]

(外二十二名連印略)

組頭 菱田忠五郎○

総代 吉田喜平二○

戸長 島田忠九郎

右之通相違無御座候也、

四五二

右村惣代

吉田喜平二[㊦]

(地図略)

〔久米〕

○久米寺式法条目写

享保六年五月

^{チカワツクダノリ}
(竹川忠紀文書)

定条目

一、薬師堂式法之儀如前之可相勤毎年正月朔日ハ八日迄之内、朝夕住持不残出仕勤行仕并七日心経刷住持地僧立会寺ニ而仕、則八日初会式ニ而散物午之刻迄住持江渡午之刻ハ暮迄其外不残薬師之支配ニ而御座候事、

附リ忌服又者穢有之ものハ出仕無用之事、

一、住持者看坊ニ而從殿様被仰付候通、護摩修業仕御札供物指上候事、

一、正月十一日十二日両日一万卷之心経誦誦仕則御札差^後

上候事、

前
一、正月九日薬師藏開と申祝義御座候事、

一、毎年二月朔日方三日迄朝夕法会仕并三日壹千卷之心
經住持地僧立会相勤候事、

一、毎年二月十五日薬師堂之法会ニ相極り、諸方方參詣
有之事ニ候前日方地僧方方堂之式法如前ニ相勤、当日
者猶以可相勤住持も勤行懈怠有間敷候事、

一、卯月八日勸仏地僧方方飾申候事、

一、毎月朔日八日天子様御公義様御祈禱住持地僧立会勤
行仕候、則八日薬師之御供地僧差上住持地僧として戴
申候事、

一、毎年極月廿日薬師之煤払ニ相定、地僧之内上座十二
人罷出薬師堂諸堂迄不残煤払之祝義仕給候事、

一、惣而伽藍方前々方地僧仲間として相守、不断之散物
等も其年之年預方へ納置勘定相立候、弥以猥ニ不仕薬
師入用之外余銀有之分ハ毎年極月廿日住持地僧庄屋立
会遂算用帳面ニ記置判形を加へ相談之上証人を慥ニ取
置預ケ可申候、其外年中之義無沙汰ニ無之様ニ相勤候

敬傍地区

而次之年番江相渡可申事、

一、極月廿六日薬師之餅春ニ相定候祝義是又如前ニ可致
事、

一、惣而堂塔之儀ニ付御本山且御地頭様へ勸進奉加之義
申立候者、住持地僧庄屋相談之上可申上自分之了簡ニ
而忝人立願申間敷事、

附り其外願訴訟之義有之候共一分之了簡ニ仕間敷
候、但自分之願ハ各別之事、

一、薬師境内者横五十間長百間御座候、右者從御公儀様
被下置候除地ニ御座候ニ付竹木伐採候事堅御停止被仰
付御制札之面も急度相守可申候事、

一、毎年下刈等地僧并庄屋立会候而相談之上入札ニ而為
払勘定を相立可申事、

附り立木枝木等自分之了簡ニ而切取申間敷候作物ニ
も構ひ候而不切して不叶時者御役所江願候而可請指
図事、

右先規之趣御役所様へ以書付申上候処、尤被御召此旨無

四五三

懈怠相守可申旨被仰付候之間右ヶ条之通自今已後急度護
守可仕者也、

和功久米寺地僧一さ

享保六年

五月日

玄 識印

円 識印

養 順印

養 春印

円 教印

玄 春印

御室様

御役人中様

○久米寺由来写

明暦元年三月

(竹川忠紀文書)

乍恐奉差上口上書之覚

一、靈禪山久米寺大伽藍之由来と申候者、人王三十四代

推古天皇之御宇、聖德太子久米之皇子御二方之御開基

ニ而、七堂伽藍御建立ニ御座候、然ニ先年兵乱之砌殊

外及大破、修覆自力ニ難叶候ニ付、軒朽瓦落而終ニ兵

火の為ニ破滅仕候、甚以敷敷奉存候得共、東塔院宿住
地僧再建之義御願申上候御事、

一、御公儀様江御願申上候ニ付、御地頭様方芝山ニ而御

座候処へ、東西五十間南北百間之定杭罷成下有之候

而、松木を植付候様被仰渡、御制札被下置竹木切取申

間敷様被仰付候御事、

一、久米寺東塔院と申寺へ右方内屋敷ニ而住持居被申候
(看カ)宥坊ニ而西之坊と申候而、無常の寺御座候跡大破ニお

よひ候ニ付、東塔院へ引移り、西之坊再建仕候迄借置

候御事、

一、久米寺ト申寺号者伽藍之寺号ニ御座候、本堂御薬師

之儀者地僧方持来り申候而、葦錢其外諸事地僧支配ニ

仕候而、地僧村役人等立会算用仕候、修理破損等も地

僧村役人相談之上ニ而致し来申候事、

一、地僧共御薬師之算用等申候者、毎年極月廿日上拾式

人住持村之庄屋本堂之内ニ而中食罷下候、又同極月廿

七日ニ上六人之者共正月御借を拵へ、是も上六人住持

被_(前カ)下候、又正月九日御薬師之セちと申住持地僧共不殘
中食罷下候御事、

一、御薬師境内百間ニ五十間、此内ニ而北之端ニ而鳥壹
反斗り御座候、其外内屋敷ニ古境内御座候、此内ニも
少し鳥御座候、境内之鳥者此式ヶ所ニ御座候御事、
一、村氏神者境内之外ニ南之端ニ三反斗り御座候御事、
一、境内之落葉下草等御薬師之ものニ候ハバ、御制札之
通竹木之儀者一本も切申事成不申候御事、

一、久米寺地僧之義者先年者六拾人余も御座候由ニ徳分
も無御座候故、只今者四拾五人ニ而御座候、地僧株家
数八拾軒余御座候右_カ得度成者地僧之内ニ而師匠を頼
ミ申候而、一老二老へ申入地僧_カ名を付申候而、又住
持へ頼申候而授り事致し来り申候御事、

一、毎年正月七日ニ心経刷と申本堂へ上拾式人之者共集
り、則弘法大師御作り罷成候心経之板御座候、是を每
年六拾六枚宛押し、則又八日之九ツ時分本堂ニ而住持
地僧立会心経又者秘鍵又者護摩小之法事御座候、則此

半日九ツ迄御薬師參錢之義者先年_カ住持方へ遣し来り
申候故、今ニ渡し申候御事、

一、伽藍本堂ニ而正月朔日_カ八日迄、且暮修正会御座
候、是も住持地僧立会勤申候、又十一日十二日心経一
万卷宛御祈禱御座候、毎月朔日又者八日法事御座候、
是者天子様国体安穩御公儀様御武運長久之御法事執行
仕候御事、

一、毎月上六人下六人之内_カ上下老入ツ、出会仕、且暮
月ニ五日宛本堂之勤行当り番と申勤来り申候御事、
右之通往古之形ニ而毛頭相違無御座候、以上、

和嘉久米寺地僧一_カ

明曆元年乙未
三月
亥 乘印
教 識印

三月

清 運印
教 順印
善 宗印
養 識印

御本山

御室様

住持

昌

雄印

春

正印

長

玄印

知

言印

浄

真印

宗

園印

○久米村事状書上覚

(天保、弘化頃?)

(竹川忠紀文書)

○久米寺秘宝天満へ出開帳覚

寛政十年二月〜六月迄

(竹川忠紀文書)

寛政十年午六月日
大坂天満不動寺ニテ
秘鍵大師出開帳記
并居開帳
本尊天得如来開帳

(※表紙ウラニ記ス)

(二月十四日)

当寺者七ツ立、高田小休、関屋小休、河劬柏原中食、

平ノ小休

神保磯三郎殿知行所

和州高市郡久米村役人

惣高六千六拾六石余

村数拾九ヶ村御座候

内当村高五百拾壹石

内壹石三斗壹升八合九夕壹才

荒高

一、御取箇七ツ九步四厘六毛余

不熟之年ハ格別の御容免御座候、

一、上納其年内ニ皆済仕候、

一、南北六丁、東西八町

一、田合テ式拾八町八反壹步

一、畑方合テ拾四町壹反六畝廿四步半

コボレ口松屋小休、生玉無量寿庵入、
 婦仏ハ五月五日立、河劬柏原泊、六日関屋中食、高田
 小休、
 久米寺婦仏也、大群集くく、

惣合四拾貳町九反六畝廿五步五厘

外ニ小物成藪竹五束上納、但シ南都請負人ハ銀納

仕候、

一、当村家数八拾軒、村内ニ浪人者無御座候、

人数三百五拾七人

男百八拾三人
女百七拾四人

但シ 牛拾三疋

神保磯三郎殿役所 池尻村与申所ニ御座候、

支配役人

岩村為右衛門
吉川三右衛門

夫米

石ニ付三升ヅ、

口米

石ニ付三升ヅ、

駄賃米

石ニ付七升ヅ、

世之中之夏春作六七步之毛上ニ御座候、尤綿作之儀ハ

生立宜敷様相見へ申候、

宗門改毎年三月ニ御座候、

殿様御役去ル酉ノ九月ハ数寄屋橋御門番被仰付候、

靈禪山東塔院久米寺、境内南北百間、東西五拾間、本

堂六間四面、本尊丈六薬師如来、聖徳太子之御作ニ御

畝傍地区

座候、

多宝塔式間四面、仁和寺御室御所ハ被下置候塔也、

大師堂三間四面

地藏堂三間四面

観音堂三間ニ三間半

荒神堂式間四面

鐘楼堂式間四面

御供所式間半
五間半

一、寺壺ヶ寺境内南ニ氏神之地有

南北式拾五間

東西三拾間

氏神之社天満宮本社壺間四面、三社之御神社有之、熊

野権現壺社、

畝火山地頭之山ニ御座候、峯ニ神宮皇后之社御座候、
(功)

社僧壺人御座候、一山之高五石式斗六升五合五才

支配 壺石六斗四升八合 畝火村

壺石六升九夕

山本村

七斗式合六夕

慈明寺村

壺石八斗五升四合

大谷村

右之山之巡リニ陵ハ

懿徳天皇

四五七

畝傍地区

安寧天皇

綏靖天皇

仙人之由来ハ高市郡生ニして、葛城山ニ而修行被致、其上竜門之岩家ニ於て仙術を請、久米里ニ落、百姓と相成、其後西方へ飛行被致候、弘法大師御誕生讃岐国多戸郡ニして、久米里ニ而大塔之大日経説法被致、其上真言宗弘められ高野山ニ入滅被致候、

〔畝傍〕

○畝火村小物成場検地帳

延宝七年八月八日

(天図近世文書)

延宝七己未年

大和高市郡畝火村小物成場検地帳

八月八日

本田平八郎内

吉岡新左衛門

延宝三卯山新開

マナゴ山
一、下畑貳拾壹間

七畝歩

甚七

此分米六斗三升 但斗代九斗

同
一、同
中茶畑六間
五間 壹畝歩

同

人

此分米壹斗三升 但斗代壹石三斗

同
一、同
下畑拾五間
八間貳尺五寸

四畝六歩

同 人

此分米三斗七升八合 但斗代九斗

同
一、栗山
下畑貳拾間
拾貳間貳尺

八畝七歩

甚右衛門

此分米七斗四升壹合 但斗代九斗

同
一、同
中茶畑貳拾間
拾貳間貳尺

八畝七歩

同 人

此分米壹石七升 但斗代壹石三斗

同
一、寺ノ内
中畑四拾壹間
三間貳尺

四畝拾七歩

市右衛門

此分米五斗貳合 但斗代壹石壹斗

同
一、寺ノ内
中畑八間
三間三尺

貳拾八歩

六郎兵衛

此分米壹斗三合 但斗代壹石壹斗

同

一、中田八間 五間三尺 壹畝拾四步

同 人

此分米貳斗五合 但斗代壹石四斗

同

トウイン
一、中畑拾間 壹畝貳拾壹步

市右衛門

此分米壹斗八升七合 但斗代壹石壹斗

宇万願ノ院
一、下畑拾壹間 六間三尺 貳畝拾貳步

六郎兵衛

此分米貳斗壹升六合 但斗代九斗

カイトウ
一、中畑貳間 九間 貳拾三步

同 人

此分米八升四合 但斗代壹石壹斗

右之寄

一、中田 壹畝拾四步 但斗代壹石四斗

此分米貳斗五合

一、中畑 七畝貳拾九步 但斗代壹石壹斗

此分米八斗七升六合

一、下畑 貳反壹畝貳拾五步 但斗代九斗

此分米壹石九斗六升五合

畝傍地区

一、中茶畑 九畝七步 但斗代壹石三斗

此分米壹石貳斗

反合四反拾五步

分米合四石貳斗四升六合

右之外

字西辻
一、小松山百貳拾間 七拾四間 貳町九反六畝步

此山手米七斗四升 百性持

字長山
一、草山百五拾間 貳拾七間 壹町三反五畝步

此山手米六升 百性持

同峯山
一、小松山貳百間 百貳拾間 八町步 同断

此山手米壹石六斗

一、藪三反拾貳步 但壹尺八寸繩

此竹役四朱五分

内

□内
小竹藪 三拾九間四尺 貳拾六步 庄介

此竹役壹分三里

敵傍地区

同

小竹藪十三間
三間三尺

壹畝拾六步

喜三十郎

八月八日

惣奉行

吉岡新左衛門印

此竹役貳步三里

元

山田重郎右衛門印

小竹藪十四間貳尺四寸
十間

四畝貳拾四步

甚右衛門七

同

多羅尾源太夫印

此竹役七步壹里

檢地奉行

湯川兵太夫印

同

小竹藪拾三間三尺
八間

三畝十八步

甚七

同

石橋八太夫印

同

小竹藪十三間
九間

六畝貳拾七步

惣村之分

同

花村平太夫印

此竹役壹朱貳部

小竹藪十七間
十壹間

九畝貳十七部

六郎兵衛

同

河本半左衛門印

此竹役壹朱四步七里

小竹藪十八間
三間

貳畝貳拾四步

同人

同

毛利源五兵衛印

此竹役四步貳里

同

甚左衛門印

右者大和国高市郡敵火村、御小物成場檢地依被仰付候、

六尺間竿を以壹反三百步也、町反畝歩員數討代高下分量

委細書記帳面相極置者也、

墨付六枚落字付字削目なし

延宝七己未年 本多平八郎内

宮所善藏写

┌

○深田溜池規定書

明治十三年八月

(山本・高岡公之文書)

明治十三年八月
深田溜池規定書
大和国第四大区二小区
高市郡深田池郷中

深田池郷村中規定盟約書

一、字深田池総合反別六町式反歩

内

官有地池敷反別五町八反歩

但、官有地水面ハ畝火村地図ニ悉皆記入相成、他ニ記入無之、為念茲ニ登錄候事、

此訳

反別式町九反歩

畝火村所轄

反別壹町四反五畝歩

久米村所轄

反別壹町四反五畝歩

池尻村所轄

民有地池敷反別四反歩

畝傍地区

此德米壹石八斗九升式合九勺

此訳

反別三反三畝歩

久米村民有地

此改正定約米壹石式斗五升

反別六畝歩

畝火村民有地

此改正定約米四斗四升式合九勺

反別壹畝歩

池尻村民有地

此改正定約米式斗

右民有地四反歩之儀者、元池床預り来三石七斗八升五合八勺、池郷中ヨリ久米村畝火村池尻村之三ヶ村に従前渡来候処、明治八年地租御改正一般地稅減租之御仁旨ヲ蒙り候ニ付、池郷村ヨリ民有地池床所持之三ヶ村江照会、協議之上、池床元預り米総高之内、半額減米之熟談相整、前記載之通米壹石八斗九升式合九勺、池郷村ヨリ三ヶ村江年々可相渡決ニ付、則池敷米及各村江可渡定約米左ニ記ス、
一、米壹石八斗五升九勺 畝火村渡米高

敵傍地区

内訳

米四斗四升式合九勺

米七升八合

米三斗

米壹斗壹升五合

米三斗五升

米三斗壹升五合

米三升

米貳升

米貳斗

一、米壹石貳斗五升

但民有地池床米并ニ記載ス定高

一、米六斗九升八合式勺

内訳

米貳斗

米壹斗五升式合四勺

米貳升五合八勺

民有地池敷米前記定高

元年貢与内

樋板挿抜人足米

字宮ノ後宮ノ前
新道井与内

荒崩与内

字井手上土取場
年貢米

池田ニ付帳籍記手数米

字大井手東側田地
式坪荒与内

字大井手板外シ
人足与内米

久米村渡米高

池尻村渡米高

民有地池敷米前ニ記ス
定高

字込通井与内米

元年貢分与内

米五升

米壹斗五升

米壹斗貳升

一、米三斗三升

内訳

米貳斗

米五升

米八升

一、米七升

但池出水之節見廻リ与内米

一、米貳升七勺

大久保村渡米高

但、字向土花通井、年貢元四升壹合四勺之処、民有地
池敷米ト同様地稅減租ニ付、協議之上半額之減米熟議

相整、式升七勺可相渡定約、

右之通郷村中一同協議之上、完成米取究示談相整候、就

而者毎年池郷村吏立会、郷費計算之際、前記定ノ米時之

米価石代相場ヲ以、六ヶ村ト無滞渡シ方可取扱候事、

水込人足賃米

元年貢詣掛リ物ニ
付与内米

字通井与内米

山本村渡米高

字大井手板掛外シ
人足与内米

池用ニ付帳籍記載
手数米

字ツユマタケ上戸
樋ニ付荒地与内

四条村渡米高

一、池郷各村田面水掛総反別、且大井手之上下ヲ以、反

ノ上掛リ、反ノ下掛リト名称区分左ニ、

池掛リ田地総反別四拾七町三反歩

八ヶ村

内

反別拾貳町六反三畝歩

反ノ上掛リ

但大井手ノ上掛リヲ以、従来反ノ上ノ名称ヲ有ス、

井手水不掛故ヲ以、諸掛リ米ノ内壹反歩ニ付五合宛

ノ引米スル事、

反米三拾四町六反七畝歩

反ノ下掛リ

但大井手ノ下掛リナルヲ以、従来反ノ下ノ名称ヲ有

ス、井手水懸リニ付諸掛リ米ハ壹反歩ニ付五合宛ノ

指米スル事、

池郷各村水掛反別左ニ

一、反ノ上反別四町三反貳畝歩

池尻村

一、反ノ上反別六反歩

久米村

一、反ノ上反別六町九反四畝歩

敵火村

一、反ノ上反別七反七畝歩

大久保村

従是下掛

一、反ノ下反別壹町七反五畝歩

大久保村

一、反ノ下反別九町八反八畝歩

山本村

一、反ノ下反別拾五町八反九畝歩

四条村

一、反ノ下反別三町四反貳畝歩

慈明寺村

一、反ノ下反別三町四反貳畝歩

寺田村

前記反別各村従来水懸ニ付、水割之儀者水賦帳簿記載
通遵守、自恣無之様可致候事、

一、当溜池定式諸費及水割費修宮繕臨時入費等之儀者、

毎年池郷八ヶ村立会、諸費精算簿ヲ製シ、郷村江賦課

シテ速ニ受払可致、尤立会之者必計算割賦方相違無之

旨ヲ記シ、該帳簿ニ捺印可致事、

一、溜池樋管式ケ所及池浚堤坊修宮繕大井手井路修宮繕

ノ箇所生候際者、池郷村吏立会帳簿決定之上着手ヲ為

シ、該費金者池郷中水懸リ反別ニ賦課徵集可致事、

右深田郷溜池之儀者往古ヨリ八ヶ村之共有養水ニシテ、

各村耕地相統致来□ルニ、該池地床ニ官有地ト民有地ノ

二種ヲ混淆シテ錯雜タリ、鄉村ノ多キト実地ノ錯雜トニ
抛リテ、^(ト)□モスレハ葛秣之萌ヲ生ス、之レ鄉村中相互ニ

共和一ナラスシテ隔意ヲ抱キ、狐疑ト狡猾ニ涉リ憤起ス

ルモノナリ、明治戊辰ノ御維新御訂正之令厚ク、同年地

租御改正一般減租之御旨趣、^(租稅) 国朝之鴻恩重大ナルヲ不知

シテ、陳ハ民者皇国ノ民ニシテ一邑一郷モ僕一家ナリ、

何ソ自恣私情ニ流レ一聯郷村ニ本物之闕ク事ヲ覺エサラ

ンヤ、己ヲ責、己レヲ顧ミ、淳直之道ヲ履行スル時ハ不

明葛秣之論ナク、互ニ補育協力ヲ施行セハ広益ヲ有シ、

幸福ニ至ル、因テ原来此溜池ニ付新変及私情之論端ヲ開

ク村方有之候得者、原被ニ亘ル入費悉皆發言之村方ヨリ

弁償支出可為致決議ニ付、此規約聊違失無之様村内通牒

シテ、永延親睦共和可致、為其郷中一統連署捺印候者

也、
但官有地之儀ハ三ヶ村之所轄ニシテ、区域□□ナルニ

付該三ヶ村及池郷村協議之上、明治八年地租御改正之

際、敵火村ヨリ池反別五町八反歩一致ニ書上為致、別

地引図ニ於テモ敵火村所屬之地図ニ相頭シ在之候間、
郷中之レヲ可存事、

大和国第四大区二小区高市郡

敵火村

總代 植田忠次郎

組頭 吉村 伊平

久米村

總代 増田市三郎

組頭 小松半治郎

池尻村

總代 中西善太郎

組頭 若林 源七

大久保村

總代 竹中久次郎

組頭 竹中 与郎

山本村

總代 高岡 与平

組頭 若林孫三郎

四條村

總代 牧本徳三郎 ㊦

組頭 宮下与三郎 ㊦

慈明寺村

總代 細川長三郎 ㊦

組頭 松室久四郎 ㊦

寺田村

總代 松村 新七郎 ㊦

組頭 山崎惣五郎 ㊦

取唆人 四條村

宮下与三郎 ㊦

慈明寺村

同 細川長三郎 ㊦

前書之通協議確定ニ依リ奥書候也、

第四区二小区

戸長

柴田嘉一郎 ㊦

┌

〔鳥屋〕

○鳥屋村檢地帳（写）

文祿四年八月二十五日

（鳥屋区有文書）

四十番	文祿四年
志帖	四帖分内ニ在之
和笏高市郡鳥屋村	御檢地帳
八月廿五日	上野十右衛門
	毛利吉左衛門
	打口

（*末尾集計のみ）

上田 拾町四反七畝壹歩

中田 七町壹反九畝廿五歩

下田 七町貳反九畝廿七歩

上畠 七町七反七畝十七歩

中畠 五町三反八畝三歩

下畠 四町五反壹畝廿四歩

田畠合 四拾貳町六反四畝七歩

畝傍地区

四六五

分米合 五百貳拾七石七斗六升

此内 十七石八斗 荒

文録^(録)四年

九月廿日

石田奎頭 書印

改

明治元辰十月十一日

年寄

久右衛門

同断

善左衛門

同断

重 助

庄屋

孫 八

○高取川筋砂井手ニ付差上申一札写

寛文十三年六月一日

(鳥屋区有文書)

差上申一札之事

- 一、従先規鳥屋村江植村右衛門佐様御領分取候井手
- 二、新規ニ石を置候段不届之仕合急度可被仰付候得

共、此度ハ御赦免被成難有奉存候、扱又土木^(標)すへ候、

則川之なかれ之ま、砂切ニ床少茂上ケ申間敷候、先規

方すへ申土木口式尺三寸五分廻リ、木口一尺九寸式

分廻リニ御座候、此木方少々大小ハ相對ニ仕ふせ可申

候、土木すへ候節ハ立会すへ候て、先規之通土俵置可

申候、以來如此ニ被為仰付、毛双相背申間敷候、重而

不届キ成義仕候ハ、何ケ様共曲事ニ可被仰付候、其

時一言之御恨々申上間敷候、為後日之状仍而如件、

神保左京下

鳥屋村庄屋

寛文十三年

徳右衛門印

丑ノ六月朔日

同村年寄

治郎兵衛印

同断

惣兵衛印

同断

太兵衛印

御番所様

鳥屋村方差上ケ申候手形之うつし、已後為無違乱見瀬
村へ遣し候、以上、

番所御印

○大和高市郡烏屋村小物成場檢地帳

延宝七年八月八日

(烏屋区有文書)

延宝七己未年

大和高市郡烏屋村小物成場檢地帳

八月八日 本多平八郎内 吉岡新左衛門

寛文七未敷新開

ふなまへ

一、屋敷 拾七間 三間三尺

式畝歩 四郎三郎

此分米式斗六升

但斗代壹石三斗

延宝三卯敷新開

南口

一、上畑 拾壹間式尺 三間三尺

壹畝拾歩 庄兵衛

此分米壹斗七升三合

但斗代壹石三斗

寛文拾貳子敷新開

上のたん

一、屋敷 拾五間 七間三尺

三畝式拾三步 弥兵衛

此分米四斗九升

但斗代壹石三斗

畝傍地区

寛文拾貳子敷新開

上のたん

一、下畑 拾六間 拾間

五畝拾歩 弥兵衛

此分米四斗八升

但斗代九斗

寛文拾貳子敷新開

上のたん

一、中畑 拾六間 拾三間

六畝式拾八歩 弥兵衛

此分米七斗六升三合

但斗代壹石壹斗

延宝三卯敷新開

北口

一、上畑 式拾四間三尺 式間

壹畝拾九歩 小兵衛

此分米式斗壹升式合

但斗代壹石三斗

延宝貳寅敷新開

やくてんじ

一、下畑 拾六間 三間式尺

壹畝式拾三步 徳右衛門

此分米壹斗五升九合

但斗代九斗

右之寄

上畑式畝式拾九歩

此分米三斗八升五合

但斗代壹石三斗

中畑六畝式拾八歩

此分米七斗六升三合

但斗代壹石壹斗

下畑七畝三步

四六七

此分米六斗三升九合

但斗代九斗

屋敷五畝貳拾三步

此分米七斗五升

但斗代壹石三斗

反合貳反貳畝貳拾三步

分米合貳石五斗三升七合

右之外

たかゝい 小松山 百四拾三間

貳町八反六畝步 惣村分

此山手米壹斗貳升三合

なかくて

一、草山 六拾六間

壹町貳反七畝拾八步 惣村分

此山手米壹斗貳升七合

一、藪壹反四畝八步

此竹役小竹貳束貳分

但壹尺八寸繩

内

かいと

小竹藪 拾四間 拾壹間 五尺四寸

五畝拾七步

四郎三郎

此竹役小竹八分六厘

かいと

小竹藪 拾四間 壹間 拾四步

茂 助

此竹役小竹七厘

かいと

小竹藪 九間 三尺

拾四步

市 助

此竹役小竹七厘

かいと

小竹藪 八間 五尺

拾六步

兵 四郎

此竹役小竹八厘

かいと

小竹藪 五間 貳間 壹尺

拾壹步

善 十郎

此竹役小竹六厘

かいと

小竹藪 八間 拾六間

四畝八步

吉 兵衛

此竹役小竹六分六厘

かいと

小竹藪 拾五間 三尺

貳畝拾八步

小 助

此竹役小竹四分

右者大和国高市郡鳥屋村御小物成場檢地依仰付候、六尺間竿を以壹反三百步也、町反畝步員數斗代高下分量委細書記帳面相極置者也、

本多平八郎内

(巳)

惣奉行

延宝七巳未年八月八日

吉岡新左衛門

元

山田十郎右衛門

同

多羅尾源太夫[㊦]

檢地奉行

湯川兵太夫[㊦]

同

石橋八太夫[㊦]

檢地奉行

花村平太夫[㊦]

同

難波六郎兵衛[㊦]

同

河本半左衛門[㊦]

同

毛利源五兵衛[㊦]

鳥屋村庄屋

徳右衛門[㊦]

同村案内者

次郎兵衛[㊦]

同

宗兵衛[㊦]

同

小助[㊦]

墨付六枚之内落字付字削目なし

┌

○宣化帝陵小物成上納覚

享保十三年八月二十三日

(鳥屋区有文書)

畝傍地区

覚

大和国高市郡鳥屋村之内

宣化帝陵

右知行所收納高之内ニ而無御座候、小物成場ニ而御座候、東西三十六間南北五十六間之所、古来[㊦]字名ミサ[㊦]ンザイ与申小山ニ而、鳥屋村江枝木下[㊦]苜等取来[㊦]候、御年貢八升宛南都御代官所江上納仕来候、元録^(録)十年丑九月南都御奉行所[㊦]御改之節、右之内頂二十間廻[㊦]り陵之所[㊦]合六勺御年貢引ケ残而、七升八合四勺宛至只今相納申候、右陵之中者枝木下[㊦]苜等不仕候、右之通御座候、前々御改之通少[㊦]茂相違無御座候、并前方指上候[㊦]絵図茂相違無御座候、以上、

享保十三[㊦]戊申年

八月廿三日

鳥屋村庄屋

治兵衛[㊦]

同村年寄

四平[㊦]

同断

茂平[㊦]

同断

彦市[㊦]

四六九

桑原八左衛門殿

桑原彦右衛門殿

年寄

○皇陵ニ付御達状

享保十七年五月十九日

(天図近世文書)

宣化天皇齊明天皇陵京都從御奉行所御改御高札被成御渡、其後御役人下差、段々被仰渡之次第被成御承知候、向後右之通無相違様、弥以入念急度相守可申之間、御意之趣仍而如件、

○御陵改ニ而小物成地面變更口上書

宝曆五年十二月

(天図近世文書)

乍恐口上書を以奉申上候

高市郡鳥屋村

享保十七年
子五月十九日

三輪覺丞

宅 □ (花押)

榑原次郎左衛門

武 朝 (花押)

長野五郎大夫

昌 業 (花押)

時田伝之丞

政 □ (花押)

鳥屋村

庄 屋

一、当村御小物成御檢地帳面小松山并式ヶ所之草山、御年貢米都合五斗五升ニ有之候処、元禄拾壹寅寅年陵御改之砌、御垣之内壹合六勺御免許ニ而引ル、相殘候御年貢米を以上納仕来り候、尤先規御小物成御檢地帳面ニ相違仕候故別紙ニ奉言上候、以上、

宝曆五亥年十二月

庄や 喜八郎印
年寄 善兵衛印

古市

御役所様

○支配村々組替仰付控

宝曆八年三月

(天図近世文書)

支配村々組替仰付控

嶋田忠右衛門儀、今度江戸表江罷下り候ニ付、拙者方江相願候者、其身輕キ者ニ御座候所、段々結構被召仕、其上御勘定方迄被仰付、重疊難在冥加至極奉存候、然ル処諸役入込上納之節、別而御用向繁多相成、其節者手余リ愚盲之身、若間違等茂可在御座哉と千万無竟束奉存候、依之弱村五ヶ村土橋村兼帯被仰付、右之村々成共何卒被相輕メ被下候様ニと、段々口上ニ而相願、尤右之趣拙者迄書付を以相願度内意申立候所、書付を以急度相願候儀者無用ニ可致段申聞取上ケ不申候所、たとへハ江戸表江罷下り候以上ニ而成共、江戸御役人中江内々御願見申度段申置罷下り候ニ付、江戸表江罷下り右之趣口上ニ而相願候所、右拙者申聞候同(種力)意之事ニ而一向取上ケ無之事候、然所忠右衛門種物年

敬傍地区

来之儀ニ而道中ニ而別而再発、右ニ付氣力も薄罷成、數多之御用向相拘候儀甚難儀候趣、又々無拋相願申立候ニ付、何茂相談之上相伺候所、病氣之所被届御聞願之通、畝火村大久保村山本村慈明寺村大谷村兼帯、土橋村支配御免被成下候、然共先達而代官頭取茂被仰付、其上勘定方吟味役相務候儀ニ候得ハ、右支配村御免被成候へ共、猶又向後式拾ヶ村共万事鎖細之事ニ而茂遂吟味、是迄五ヶ村取扱心持ニ而取斗候様、此度御書付を以被仰付候、

一、忠右衛門儀、先達而代官頭取、其上勘定吟味役被仰付置候事ニ候、不寄何事ニ愆而願訴訟支配之代官共江申立候通、鎖細(項)之儀ニ而も其時々島田忠右衛門方江急度相届候様ニ、村々江為念申渡置候様被仰付候、依之村々江右之趣為念書付を以申付候、急度相守可申候、
一、忠右衛門支配之村々今度御免ニ付、右之村方水谷文右衛門、桑原五郎右衛門江支配被仰付候、則支配村割左之通候、

妙法寺村 地黄村 寺田村 慈明寺村 吉田村

古川村 池尻村 大久保村 畝火村 御坊村

右拾ヶ村水谷文右衛門江支配被仰付候、

土橋村 五井村 忌部村 山本村 大谷村 久米村

小山田村 川原村 鳥屋村 箸喰村

右拾ヶ村、桑原五郎右衛門江支配被仰付候、

宝曆八戊寅年三月

○砂井手ニ付見瀬村庄屋宛一札控

宝曆九年七月十七日

(鳥屋区有文書)

一札之事

一、其村領内字砂井手与申所ニ当村掛リ用水井手之義者、寛文中及出入南都御番所様方被為仰付候節之証文其村ニ有之候由、然共土木留杭自然与高相成候ニ付、土砂堰留井手股堤毎度崩損シ、御普請掛リ其村難儀之由、尤土木井手之義与有之、故先規証文之通相改被申度、既ニ出訴可被成処、久米村武兵衛執燮ニ被罷

出其趣(カ)

一、当時川床堀レ用水難揚候ニ付、其儘差置被下候間、

留杭之高サ土木方尺ニ此度相究置候事、

但シ杭打候節者其村江案内可申候、万一高候ハ、相究之通リ打下可申候、

一、右留杭之高サ預御了簡之内股堤御普請之節者当村役

人内証ニ而立会、入用銀高ニ而半分可致申事、

一、川毎ニ掛置候水刎梁此度限り取捨、水行流之儘ニ可

致事、

右之通取燮相調御得心之上内済ニ相成、互ニ申分無御座候、然上者古証文両通之通り并此度執燮ニ相成、暫ク預御了簡候、右書面之外ニ新規成義仕間敷候、為後証仍而一札如件、

鳥屋村年寄

彦三郎

宝曆九年

同

善兵衛

同

同

平助

庄屋

喜八郎

同

取噯人久米村
武兵衛

見瀬村

庄屋

年寄中

右之通一札見瀬村江相渡シ置申候、

○砂井手ニ付一札之事

宝曆九年七月十七日

(鳥屋区有文書)

一札之事

一、当村領字砂井手与申所ニ有之候其村用水井手之義、出入ニ茂可相成候所、久米村武兵衛殿^(ママ)而相納候、然ル所右濟証文ニ暫預御了簡候与申儀ニ御指支右濟状此方江御渡無之候、依之此度曾我村助七郎殿御挨拶ニ而及熟談無滞相濟、則濟口証文此方江請取申候、尤暫預御了簡候与申言者、先規而通之証文双方相守候為書入候義ニ而、外ニ存寄無之候、右用水之義ニ付少茂指構成儀無御座候、為後日仍而如件、

見瀬村藤屋

弥三郎[㊦]

畝傍地区

宝曆九年

卯閏七月十七日

同村年寄

弥市郎[㊦]

同

茂平次[㊦]

同

吉助[㊦]

庄屋

権兵衛[㊦]

取噯人曾我村

助七郎[㊦]

鳥屋村

庄屋

年寄中

○御救米ニ付申説御下知書之写

明和三年十月二日

(鳥屋区有文書)

四十三はん之内
御下知書之写シ

鳥屋村

明和三丙戌年十二月七日写之

申渡之覚

四七三

一、御領下村々困窮之段追々被為聞召、式拾ヶ年以來度

々余時之御救米被下、又ハ年賦拝借等被仰付、年々之不作ニ付、御免米不被下年茂無之候、先規方御掟之通村々急度相守、村入用等迄格別減少候様相成候故、先者取統来リ候併下地衰弊之事ニ候得者近年とても同様之困窮ニ而難相統者茂有之段、地役人共方段々申上候事ニ候得者、当年者御役替リ其上御姫様御婚禮等ニ而格別余時之御物入多ク、下地御大借之上、此節御新借江戸大和凡千両ニおよび、必至と御手詰リ、御公儀茂漸被遊御動候上、当年茂作毛及不熟候由ニ而、先達而相願是又不得止事毛見被仰付、旁当暮如何御仕廻可被遊哉与、御物成米過半御借用方江御返済御手詰リニ付、何様之儀ニ而も不被為能御了簡ニ候得共、百姓一同困窮之段被為聞候而者朝暮被惱御心頭、当年御借用方及三千両候御大借之上、又々御才覚御新借ヨ以、式拾ヶ村惣郷下江現米三百石御救米被下置、此三百石被下切ニ候条、莫大之御慈悲難有奉存、村々帳面之通配分頂

戴可仕候、

一、右之通結構御憐愍被成下候上ニ茂、本作之者共小百姓ニ至而者、夫食茂行詰リ、御上甚御不如意ニ而、去年も御免米御新借ヨ以被下置候程之儀故、早却ニ不被為能御了簡、此節迄不被及御沙汰候、然レ共被捨置かたく思召候ニ付、右之通惣郷下江三百石御救被成下候上、式拾ヶ村并洞村迄為相統別段ニ当米式百石御延米ニ被成下、村々致所持候田畑相応ニ割付、帳面之通拝借被仰付、其上右返納之義ハ無利拾ヶ年賦ニ被仰付候而、毎年十月廿五日限り村々支配之代官共江定之通無相違上納可仕候、重々之御憐愍御時節柄及候たけハ結構ニ御手当被成下、御艱難之御誠勿躰なき御義、冥加之程を相弁へ、心之放逸を相慎、面々儉約第一ニ相守リ農業出情、百姓相統可仕旨被仰出候、且又当春罷下リ候九ヶ村之者共法外之段、御憐愍を以急度御叱リ被差置候上者、此度御救等之不被及御沙汰ニ候義ニ候得共、重々広太之御慈悲を以、拾ヶヶ村同様ニ御救米并

拜借被仰付候間、別而難有奉存、此後ハ弥急度相守可申候、

一、右惣代之者於和州御慈悲ヲ忘却仕、返而御憐愍ニ募リ、心得違も有之候様ニ相聞ヘ候、此後右躰之心得違ニ而、御憐愍ニ募リ無法之義有之候ハ、当人ハ不及申、村役人組者迄急度同罪ニ御仕置可被仰付候、重々之御厚恩一同ニ難有奉存、農業出情可仕候者也、

江戸役人

崎 平 内

明和三丙戌年

檀次郎左衛門

三 又 市

崎 善左衛門

志 弥次兵衛

内弥市右衛門

和州役人

岸 權 太 夫

嶋 忠右衛門

一、今度御領下御救米并拜借米等成下候被仰渡之御書付、尤代官共始村々庄屋小百姓ニ至迄不殘可被申渡

候、其上ニ而惣百姓共右御書付之御請書差上候様ニ為致可申旨被仰付候間、其趣ニ取計可被申候、尤右段々之御憐愍被成下候上者、又候心得違之儀も有之、無法之願等差出候ハ、如何様之御仕置ニ茂可被仰付候、其節一言之儀申上間敷与申趣ニ為相認、惣印形取可被申候、惣村々一紙ニ者成不申候ハ、村切りニ成共書付印形不殘取可被差越候、以上、

内芝弥市右衛門

戌十月二日

志波弥次兵衛

崎山善左衛門

三 輪 又 市

檀原次郎左衛門

崎 山 平 内

岸上權太夫殿

嶋田忠右衛門殿

○鳥屋村上納覚控

明和三年十一月

(天國近世文書)

畝傍地区

大和国高市郡

鳥屋村 江戸迄海法百廿里余

殿様御知行

高五百式拾九石式斗九升九合

内巻石五斗三升九合 增高新開畑共

外二

一、式反式畝式拾三步

新開御小物成御檢地
御帳面之通り

此分米式石五斗三升七合

一、四町巻反三畝拾八歩 右同断小松山草山式口

此山手米五斗五升

内巻石六夕 元禄十一寅年御陵改之節引ル

残五斗四升八合四夕

一、藪巻反四畝八歩

(竹役少)
右同断小役竹

此竹役小竹式束式歩

右御小物成御年貢、大坂辻六郎左衛門様へ上納仕候、

一、五畝

往古方庄屋敷除地

右御知行高并御小物成場除地等、随分入念相改候所、少

も相違無御座候、以上、

明和三戌年

鳥屋村庄屋

善兵衛印

同村年寄

彦三郎印

同

伊兵衛印

小百姓惣代

彦市印

鳥屋村

一、三斗巻升御小物成場所へ

右ハ公義御檢地帳ニハ無之候得共、前々方定御小物

成上納仕候、

右之通相違無御座候、以上、

明和三丙戌年十一月

鳥屋村庄屋

善兵衛印

同村年寄

彦三郎印

同

伊兵衛印

小百姓惣代

彦 市印

右之書付致判形、明和三丙戌十一月ニ御屋舖江差上申候写、但し式通別紙也、

○池尻村用水はり留杭腐朽ニ付、立会一札之事

明和七年九月

(鳥屋区有文書)

立会一札之事

一、池尻村用水はり留杭之義ハ、久米源五郎かゝるとも式拾八間河上ニ御座候又はり留杭々、鳥屋村下ノ井手迄六拾三間之間数定ニ候処、右はり留杭腐リ無御座ニ付、此度立会定之通りはり留杭相改打申候、尤はり留杭之義ハ何方ニ而茂川真中ニ打申候得共、先規定之繪図ニ鳥屋村やきれ広芝ニ御座候、又腐候而者如何と存、相對之上河端水きわニ打申候、勿論右はり留杭ニ付、少茂申分無御座候、為念之立会証文仍而如件、

明和七庚寅年九月

久米村庄屋

武右衛門㊦

敵傍地区

同村年寄

喜市郎㊦

同断

半兵衛㊦

同断

新次郎㊦

池尻村庄屋

甚藏㊦

同村年寄

忠九郎㊦

同断

善六㊦

鳥屋村庄屋

善兵衛㊦

同村年寄

彦三郎㊦

同断

伊兵衛㊦

同断

作兵衛㊦

○溜池ニ不法仕一同詫差入一札

寛政六年八月

(天図近世文書)

差入申一札之夏

一、鳥屋村溜池用水出切不申候所、先月廿五日夜私共心

四七七

得違を以申合、魚取ニ馳込候所奉蒙御差当打驚、早速其場逃去申候、乍然当年早魁之上当時穂出江至而大切之時節ニ御座候所、未用水相残候内池中江馳込、水を濁候段甚不届之義ニ付、既御役所御吟味ニ茂可相成之所、御山方御支配江向私共不埒無調法之段村役人中

〇御侘被成下、何卒御慈悲之御取斗御座候様段ニ歎訴罷申上候ニ付、此度之義者格別之御慈計を以隱便ニ被成置被下候段、重畳難有仕合ニ奉存候、然上者已来右躰不届之義決而仕間敷、屹御受合申候、若此上右村上下之池并ニ深田池等ニ而、自然心得違不埒之義仕候者如何様共御申立可被成候、縦如何躰御咎相蒙候共及其期一言申分無御座候、為後証一札仍而如件、

鳥屋村

孫兵衛

源兵衛

重次郎

寛政六年

平八郎

寅ノ八月

孫八郎

宇兵衛

忠八郎

治助

善八郎

平兵衛

利兵衛

重藏

新七郎

弥七郎

清右衛門

清八郎

新六郎

九郎兵衛

新右衛門

喜八郎

長四郎

孫七郎

利右衛門

弥三郎

庄屋
年寄中

勘兵衛[㊦]
源治郎[㊦]
彦五郎[㊦]
善治[㊦]

○善導寺と新墓所ニ付争論一札

文化七年八月六日

(天図近世文書)

差入申一札之事

一、國中八拾八ヶ寺墓所之内、高市郡見瀬村善導寺支配墓郷之儀者、見瀬村五条野村大輕村石川村久米村鳥屋村右六ヶ村ニ而、右之村方^(ムシ)□往生人御座候節者、善導寺墓江葬送仕来りて御座候処、其御村方領内ニ新規墓所取繕ヒ被申候ニ付、先年彼是争論之儀出来、依之去ル文化二丑年四月ニ私仲間惣代之者共々其御村方役人衆中相手取、南都御番所様江出訴ニおよばれ、彼是出入ニ相成候処、郷者亭主大和屋三郎兵衛と申仁、取暖

敵傍地区

致挨拶被與候ニ付、双方致納得、下濟相調、就夫為後証相互ニ取り替かせ一札差入、何事も隱ニ相納リ罷在候処、近来又々致再発、意隔之儀出来、既ニ南都表江出訴申上、御苦勞ニ相成候様成行キ罷在候処、其御村方道場之御住持方御触頭敵火御坊信光寺殿江右争論之趣書付を以被申上、且葬式之禰、自紛ニ昧之儀ニ付故障之筋出来、葬取片付及延候^(引続之)ニハ、御寺法御差支ニも可相成哉之趣、具ニ御届被申上候由ニ付、信光寺殿ニも難捨置振合ニ被存、依之今般不存寄、右信光寺殿何角取暖御挨拶被下、精々御理解被為聞候ニ付、此段難慙心存候故、双方致得心、相互ニ和熟相調ヒ申候処、聊相違無御座候、猶此上者先年南都表ニ而為取替申置候一札之趣、急度相守可申儀ニ御座候、尤惣代方先年其御村方役人衆中迄、差入被置候為取替一札左之通、

為取替申一札之事

一、國中八拾八ヶ寺墓所之内、高市郡見瀬村善導寺墓郷

四七九

之儀者、見瀬村五条野村大輕村石川村久米村鳥屋村右六ヶ村之儀者、右村方ニ往生人有之節者、從先規善導寺墓江葬送有之処、其御村方領内新墓江葬送被申候処、右ニ而者御当国者勿論、五畿内聖リ仲間差支ニ相

成候へ者、失古規致迷惑候ニ付、不得止事今般各々相手取新規墓所取拵候段南都御番所様江御吟味御願奉申上候処、对談被為仰付被下候、然ル処右一件ニ付挨拶人方双方江理解有之、互ニ得心之上左之通致内濟候、

一、其御村方之儀者、善導寺墓郷之儀ニ候、以来迎も農初穂之儀者是迄之通年々両度被差遣被下候筈、尤善導寺ニ付普請等有之候節者見瀬村役人中江応対之上、入用割合被下候筈、

一、向後往生人有之候節者、先規之通善導寺江葬送可有之旨、若勝手ニ付御村方新墓ニ而御取片付有之候節者、善導寺市兵衛御頼可被下候筈、尤布施物之儀者御当人身分ニ応シ被下候筈、

右之通双方得心ニ而一件下濟相調候上者、以来右ニ付、

故障無御座候、仍而為後証為取替申一札如件、

文化式丑年

国中八拾八ヶ寺聖リ惣代
平群郡長安寺村

四月二日

平兵衛

葛下郡当麻村
角兵衛

鳥屋村庄屋

伊兵衛殿

同村年寄

善兵衛殿

右之通去ル文化二丑年四月ニ為取替一札、相互ニ差入取置一件致落着、下濟相調候事ニ御座候、然ルニ今般又候致再發、彼是爭論之儀出来罷在候処、信光寺殿方御取唆御挨拶被下、依之右致再發罷在候意隔之儀、隱ニ和合相調ヒ、且又左ニ箇条相立何事茂後々故障之筋無之様、又候相互ニ為取替一札差入候儀ニ御座候、右ヶ条之趣左之通、

一、鳥屋村庄屋年寄并組頭衆中、夫婦死去被致候節者、

善導寺墓江葬送御座候筈、尤右之外者先年為取替一札通施主人之勝手ニ随ヒ願望ニ相任セ取斗御座候御約諾

二候事、

一、地藏山墓所之儀、此以後鳥屋村と舟附山と右両村持合墓ニ可致候、乍併鳥屋村ニ往生人有之、自然同日に舟附山村ニも往生人有之候時者、舟附山ニ用捨御座候而、時刻少し遅ク致し被呉候哉、又者翌日ニ而も取行斗被致候歟、何分差支ニ不相成様取斗被申候筈、尤右様和合相調候上者、何時ニ而も右之墓所迄、舟附山方葬送被致候而茂聊差支故障之筋一切申間敷候事、右前文ヶ条之趣、聊無違変、此以後急度相守可申候、右之通此度信光寺殿御挨拶ニ而双方致得心、隠ニ下濟相調候儀、相違無之候、依之後々違乱妨無之様、為後証為取替一札仍而如件、

文化七年午

八月六日

舟附山村支配人

高市郡常門村

忠 六

同郡見瀬村

市兵衛

平群郡長安寺村

平兵衛

鳥屋村庄屋

弥三郎殿

年寄

甚兵衛殿

舟附山年寄

彦市郎殿

鳥屋村組頭惣代

孫三郎殿

右之通和睦相調候段聊相違無之候、自然違変之儀在之候ハ、拙寺迄其沙汰可有之候、左候ハ、可然及取斗可申候、仍而為入念如斯候、以上、

敵火御坊

信光寺

○上納金先納一札之事

文化八年十月

(天國近世文書)

先納一札之事

一、御地頭并江戸御役所表、近年御勝手向甚夕御不如意ニ付、是迄致仕送候銀主方月賄金差下し不申候、依之

御陣家始江戸御屋舖御差支ニ相成候故、必至御難被被為成候ニ付、当十月方先納銀被仰付、則御領分高割ニ被為致候段、尤当村方壱ケ年ニ都合掛リ銀高拾四五貫目余相掛リ、村方夫々高割ニ被致候得共、大金故中々行届不申候得者、御太切之御用金御差支ニ候而ハ、御上様へ申訳も無御座候ニ付、当役人中江御頼申上候、右先納之儀ハ他借ヲ以御差支無之様御用達可被下候、然ル上ハ右地借限ハ、毎年十月御上納銀ヲ以御算用可被成候、万一御役所表方如何様之儀出来候とも、当役人中之御世話ニ相成リ候銀子、夫々高割ニ仕候而成共相掛リ、少茂其元中江御難儀毛頭相懸ケ申間敷候、為後日村方一統運印、仍而如件、

文化八年末ノ十月

鳥屋村

勘治郎印

(他五十一人連印、略)

組頭 増田 秀白

(他八人連印、略)

庄屋 弥三郎 殿
 年寄 甚兵衛 殿
 同断 彦市郎 殿
 同断 甚太郎 殿

○見瀬村野井戸掘迷惑ニ付歎キ御願書

天保七年二月二十一日

(鳥屋区有文書)

乍恐書付を以歎キ御願奉申上候

神保磯三郎殿知行所

高市郡鳥屋村役人

一、天保四巳歳於六月ニ、当村川筋上井手裏替戸方凡拾三間余東側、見瀬村権右衛門田地江農井戸掘、昼夜嚴敷水替上ケ候得者、右井手先揚戸樋方流水之儀相後レ、井手先用水之差支之義ハ少々之事ニ候得ども、格別干損之御替戸口溜水ニ相拘リ、此段歎ケ間敷ト奉存、右井手東面之田地見瀬村領分ニ罷在候へバ、則先年面側之田地江農井戸掘、其砌彼是論談ニ相成、役人共方数度面会之上挨拶差入、段々頼ミ出候ニ付、依之

稻濟熟談之義ハ、廻リ四尺五寸、四方深サ八尺、尤以
 来田地へ小池并ニ農井戸掘候砌、両村役人立会差支無
 之上、可然様取ル一札取置可仕候、右を以此度之義者
 難捨置ト奉存、其節見^(禮)せ村役人江応対仕、先年取ル一
 札乍差入古井戸相浚候杯ト申募リ、此義斗^(計)ニ而者無之、
 井手両傍之田地ニハ数多可有之ト我儘重頭之申方、其
 儘捨置候而ハ古井戸ト申立、此上干損之年柄ニおゐて
 浚掘ト音立農井戸出来候而ハ、村方一同難浚仕歎ケ間^(マコ)
 敷義罷有候、権右衛門古井戸申居候へ共、右躰新規成
 義ト奉存^(ママ)辟令古井戸成共及中絶ニ候ハ、願出御赦免
 之上ト奉存、一節見^(切カ)せ村方引合も無御座候、先年取ル
 一札差入置候義沙汰も罷有候ト奉存、右様重頭ニ仕候
 義者当村へ差入置候一札反古仕、前文奉申上通古井戸
 ト申立、以来東面之田地江勝手ニ相成候場所へ願出、^(西カ)
 農井戸浚掘致ス手立ト相見へ、古井戸難捨置ト奉存候
 得共、急銘之役人共穿方無之、先怨悔後悔仕歎ケ間敷^(ママ)
 次第ニ奉存候、則見^(禮)せ村領分ニハ鯉井手申用水掛^(看脱カ)リ之

歌傍地区

田地、尤往^(古カ)後方東面之邊ニ三拾間余農井戸一節無^(切カ)之義
 ニ御座候、尤其砌方二三ヶ歳延日仕候義ハ、川末見^(禮)
 せ村領分ニ候て違論相重リ候而者村方困窮之百姓共諸
 費等相掛リ候而ハ歎ケ間敷義ニ御座候、用水之差支ニ
 茂相成不申候ハ、不苦候へ共、尤井手溜水ニ茂相拘
 リ、当村領下ノ井手上ニ候ハ、流水相後レ揚戸樋方^(切カ)
 一節出水不申、干損之年柄ニ至リ井手掛リ者共難浚
 仕、歎ケ間敷次第ニ罷有候、乍恐格別之御隣愍御掛ケ
 被為成下、右井戸取払被為仰附候ハ、役人共ハ勿
 論、小前共厚ク仕合ト奉存、右願之段奉御願上候、
 右之趣何卒御聞届ケ被為成下候ハ、广大之御慈悲ト如
 何斗敷難有仕合可奉存候、以上、

鳥屋村年寄

善兵衛^(印)

天保七歳

同断

申二月廿一日

同断

孫八郎^(印)

同断

彦三郎^(印)

庄屋

孫三郎^(印)

庄屋

孫三郎^(印)

高取土砂留
御奉行様

○見瀬村新規農井戸掘迷惑ニ付急御願状

天保十年六月

(鳥屋区有文書)

乍恐急御願奉申上候

神保三千次郎殿知行所

和州高市郡鳥屋村

役人共

相手

植村出羽守殿御領分

同州同郡見瀬村

兼帯庄屋

同州同郡阿部山村

喜八郎

年寄

弥市郎

同断

佐兵衛

同断

善九郎

農井戸地主

権右衛門

相手見瀬村之もの共規定ヲ破り、新規農井戸ヲ掘、水漕上ケ候ニ付、当村用水ニ差支、稻毛生育ニ相障候故、引合仕候得共、不当之儀斗申募り取敢不申候ニ付、無惣急御訴訟、

一、平田川筋之内相手見瀬村領ニ当村用水井手古来在来候処、右井手凡四拾間計下川中ニ水漕所御座候、是ハ旱魃之節ハ此漕所を井手通井江水漕上ケ、井手水与合水仕、夫々田地へ掛ケ入、尚右漕所を凡一丁半斗リ川下ニ下之井手号し、是又当村用水井手御座候而水引取候義、自然濁水之節者川上へ川中砂張分水引取、稻作生育仕来り候義御座候、然ル処右漕所を凡拾六間斗東へ方、見瀬村領田地之内へ新規ニ広サ六尺四方、深サ凡壹丈二三尺余之井戸堀、水漕上ケ候ニ付、当村漕所江水涌キ不申、且又川筋砂張分ケ候へ共、下井手へも少も水涌キ下り不申、全以此度見瀬村ニ堀候農井戸水脈ニ通り相見候、悉ク夫へ水涌キ込、当村用水場者殊更ニ水涸、一向水涌キ不申、甚以難渋仕候ニ付、右井戸之儀ハ新規之事故、相止メ可申様、段々

先方村役人并地主へ掛合仕候へ共承知不仕、勿論右川筋当村用水場近辺ニおゐて、仮令見瀬村領内たりとも当村用水ニ差支候間、農井戸并小池等も当村へ掛合、当村承知之上ニ無之候而者勝手儘ニ堀申間鋪旨、先年々規定御座候而、此儀者先方村役人始小前一同能々承知乍罷有、此度其約定ヲ違、右躰理不尽之儀仕候段、何共難得其意奉存候、尤篤与承合セ候処、見瀬村ニ者右農井戸堀候共、漸田地四五反斗相養候儀之由、当村之儀者右川筋用水ヲ以而、凡廿丁程之田地ヲ相養候儀ニ御座候間、尚以当惑仕候、就中当年者先達而方照統雨降不申候故、川筋流水無之、水掛リ之場所茂天水同様ニ而養水無御座候、田地干割れ稻葉赤枯ニ相成、此上水続キ不申候得者、既ニ毛替不仕者相成間敷哉ト歎ケ敷、殊ニ当時稻作修理最中之処、外ニ用水無御座候故、色々丹誠仕昼夜水ニ苦心様々手ヲ尽し候得共、何分前文之見瀬村井戸差支ニ相成、水手工夫尽果、右川筋水掛リ式拾丁斗之稻作、折角是迄作立候ニ今更見捨

敬傍地区

候方外無御座、猶又御收納ニ抱リ候之儀ニ而、誠以重々歎ケ敷奉存候ニ付、種々見瀬村江応対仕候得共、只々不埒之儀申居候ニ付、此節柄之儀最早此上者暫時茂難差置、無拗乍恐急御願奉申上候、何卒御賢慮ヲ以前文之趣被為聞召訳、相手見瀬村名前之もの共被為召出、急速右之井戸相潰シ当村用水差妨不仕義者勿論、以来規定通り相守、新規之義仕出し不申様、嚴敷被為仰付被為成下度、縋て奉願上候、

右之趣御聞濟成下候得者、御影ヲ以而無滯稻作生育可仕与、御厚恩之御程冥加至極難有仕合奉存候、以上、

天保十亥年六月日
和州高市郡鳥屋村
百姓惣代
孫七郎印

年寄
善兵衛
病氣ニ付代
善七印
庄屋
孫三郎印
京
御奉行様

○小屋谷池等ニ付為取替規定書之事

嘉永三年二月

為取替規定書之事

一、当村領字小林田地続キ其御村領字貝吹山与申所、新規ニ立木相育候一条并小屋谷用水溜池水分石ニ附、故障此度南都御番所様江御訟訴相成候処、双方御召出之上、御憐愍ヲ以下方ニ而内済可仕旨、厚キ御利解被為成下難有恐入罷有候、折節同郡妙法寺村忠兵衛殿取曖被下候ニ附、双方任其意内済相調候訳左之通、

一、其御村領字貝吹山与申所へ、新規ニ立木相育候ニ附、当村領字小林田地日蔭ニ相成往々差支之趣ニ付、則取曖人ニ相任セ、右日蔭為余内銀志貫五百目ヒ差出糙ニ受取申候、然ル上者仮令後世ニ至迄立木如ケ程^(被)ニ相育候共、双方無申分内済相調候事、

附 領境道方南北長サ拾八間之間、老間半通り立木相育不申筈、

一、其御村領小屋谷用水溜池ニ有之水分石ニ附、皮是故^(被)

障出来候所、今般双方立合、弥平次所持之田地岸ニ扣石双方立会ニ而伏置、尤扣石天場方水分石天場迄六寸下ケニ而伏置候上ハ、互ニ申分無御座候、若兩方共普請仕候節者双方立合可仕約束、且水込張之儀者但捨樋ニ不抱分石限リ溜置可申約定ニ而、内済相調候上者相互ニ向後故障申間敷候事、

附 両石印書

兩村立合 水分石 兩村立合 扣石

右之通約定相調候上者、自今以後互ニ故障申分無御座候、為後日為替一札依而如件、

嘉永三庚戌年

二月日

北越智村

村惣代

宇兵衛[㊦]

年寄

勘三郎[㊦]

庄屋

孫次郎[㊦]

妙法寺村

取曖人

忠兵衛[㊦]

鳥屋村

御役人中

○鳥屋池ニ付差上申規定証文之事

安政四年五月

(鳥屋区有文書)

差上申規定証文之事

一、往古^(ミサンザイ)鳥屋村領字見三才与申所ニ有之候溜池之儀者、同村始奥ニ連印罷有候村々拾巻ヶ村之溜池ニ而、養水引取方之儀者先前方時割ニ仕、沓番水入下リ時割通入水相濟候而も、水難行届候ハ、引続式番水与相定時割切替、下郷方入上リ魚取水ニ相成候迄者残水有無ニ寄、幾番ニ而も時割ニいたし引取候儀、先規仕来有之候、尤右池魚^(取)鳥殺生之儀者御地頭様方御制禁之場所ニ御座候、然ル処近年來追々土砂流込、池床殊之外埋レ候而、先年之様水行届兼候ニ付、池郷一同打寄候砌者浚之儀申談候得共、池床手広之場所不成容易義ニ而、兎角熟談難行届、空敷年月相送候得共、最早此儘難捨置、尤右池之儀溜池ニ者候得共、込池も同様水濟込候場所ニ御座候ハ、毎年秋捨水出シ切候共、明年養水之障リ相成候儀も無之、依而池郷一同熟談之上、

敵傍地区

每春鯉子金魚入札払、又者八九月之頃養水不用之時節至リ、高水ニ而魚取為致、泥樋被放置候ハ、多分泥濟出浚之一□ニも可相成ト、右兩年一ヶ年挾ニ致度、相談一決之上、嘉永弍酉年四月中御地頭様江願出、御聞濟之上右故障なく取斗来候処、去ル子年丑年者稀成干魃ニ而、魚取年杯与申無差別張出ニ相成、翌寅年者順氣程能養水入用之年柄ニも無之、魚取勝泥樋被放候処、尚又卯年も照続、水出いたし残水相成候処、池元鳥屋村申候ニ者、魚取水相成候残水者、池元支配ニ可致与申之、池郷一同ニ者右様之年柄ニ者池郷一同江引取可申与彼是故障出来、既ニ御地頭様江双方方御願出可申処、其砌御勤役大庄屋松田久兵衛殿、去ル酉年池郷一同熟談之上、御地頭様江御願奉申上候趣意者亡却致候哉、尤も無之者右様之故障出来可申義も有之間敷、厚御利解一同致恐伏、全左様心得違之儀も其節無念故之儀而、早束池郷一同及示談、向後故障無之様取極メ可致処、松田久兵衛殿死失被致延引ニ相成候ニ

四八七

付、此節大庄屋衆豊作目附衆御取扱を以、取極規定左
之通、

- 一、右池魚取勝之年者、残水池元鳥屋村支配可仕候事、
- 一、同池之魚池郷方売払之年者残水池郷支配ニ可仕候
事、

前書之通規定仕候得共、池郷時割養水引足不申候、然
又者魚取水分量与者、下へ水相成候節者、池元并池年
番村役人方御地頭様江御窺可申上、御差凶次第取斗可
申候事、

右三ヶ条者此度取極候規定ニ而、此外仕来之儀者先規
在来之通、相心得候儀者池元鳥屋村始池郷一同聊無亡
失相守、故障無之様得与熟談之上取締仕候段、全御利
解之御蔭故与一同難有奉存候、依之池郷村々庄屋年寄
村惣代連印を以、規定証文差上置候、以上、

鳥屋村

安政四丁巳年

五月日

惣代 善 助
 年寄 善太郎

同 孫 八

同 善 七

庄屋 善兵衛

池尻村 惣代 源 七

年寄 市郎兵衛

同 善太郎

庄屋 重兵衛

箸喰村 惣代 平四郎

年寄 治右衛門

同 吉右衛門

同 善次郎

同 善次郎

吉田村 惣代 藤兵衛

畝傍地区

慈明寺村
 惣代 治 助
 庄屋 喜市郎
 同 佐 助
 年寄 長 助
 惣代 太 助
 大谷村
 惣代 勘右衛門
 庄屋 惣三郎
 同 忠兵衛
 年寄 治兵衛
 惣代 治兵衛
 古川村
 惣代 嘉兵衛
 庄屋 伊兵衛
 同 忠次郎
 年寄

寺田村
 惣代 与次兵衛
 年寄 新 七
 庄屋 甚 助
 惣代 久 助
 年寄 喜兵衛
 庄屋 久兵衛
 同村御領方
 惣代 治 助
 年寄 助 七
 庄屋 利兵衛
 同 与八郎
 同 善太郎
 年寄 久 助

雲梯村

年寄

清兵衛[㊦]

同

忠右衛門[㊦]

庄屋

治右衛門[㊦]

五井村

惣代

彦助[㊦]

年寄

惣七[㊦]

同

又次郎[㊦]

兼帯庄屋

源次郎[㊦]

小松半次郎殿

吉村源次郎殿

豊作目附

勘兵衛殿

○鳥屋池ニ付差上申別紙規定証文之事

安政四年五月

(鳥屋区有文書)

差上申別紙規定証文之事

一、往古^カ鳥屋村領ニ有之字見三才与申養水溜池魚取殺生之儀、仮令水鳥たりとも先前^カ御制禁之場所ニ而、養水迎も幾何年立候而も御困詰故、近年來右池床夥敷埋レ候ニ付、池床掘浚之助情相成候様、池郷示談之上仕法立出来、則右池之魚隔年入札を以売払、尤壳代銀者池床掘浚之入用足シ銀ニ可仕約定一決仕、然ル処右魚壳払之上、魚歩割拾壹歩ニ割渡可申候、尤此壹步者時之大庄屋衆并池年番方江差出可申候間、可然様御取斗可^也ヒ下候、若割渡之節鯉數都合ニ付端鯉ニ相成候而も、端鯉者右御同人衆江相納可申候、就中右魚取勝之年者、壹步割出之為見代而人足式人算用江差扣江可申候事、

右之通規定取締急度相守可申候、勿論池郷之内無躰之故障決而申間敷候、為後日魚割賦之規定連印之証文差上申候、以上、

安政四丁巳年

鳥屋村

惣代

五月日

善

助[㊦]

敬傍地区

藤兵衛	吉田村	同	同	年寄	箸喰村	庄屋	同	年寄	池尻村	庄屋	同	同	年寄
惣代	善次郎	吉右衛門	治右衛門	平四郎	惣代	重兵衛	善太郎	市郎兵衛	源七	善兵衛	善七	孫八	善太郎
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

治助	慈明寺村	庄屋	同	年寄	大谷村	庄屋	同	年寄	古川村	庄屋	同	年寄
惣代	喜市郎	佐助	長助	太助	惣代	勘右衛門	惣三郎	忠兵衛	治兵衛	嘉兵衛	伊兵衛	忠次郎
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

年寄 久 助
 同 与八郎
 同 善太郎
 寺田村 与次兵衛
 惣代 新 七
 年寄 甚 助
 忌部村 久 助
 惣代 喜兵衛
 年寄 久兵衛
 庄屋 久兵衛
 同村御領方 治 助
 惣代 助 七
 年寄 利兵衛
 庄屋

雲梯村 清兵衛
 年寄 忠右衛門
 同 治右衛門
 庄屋 彦 助
 惣代 七
 年寄 又次郎
 同 兼帯庄屋 吉村源次郎
 五井村

○不如法虚無僧取締達

(江戸後期)

達

(天図近世文書)

一、近年不如法之者數多有之候ニ付其村々江月々見廻り
旁々為致順村候、若不埒之もの有是候ハ、当人江御申
聞可被成候、尤見曲り之節毫錢目も不及出錢候、右持
參帳面へ見廻り相濟候之調印可有之者也、

京大仏

明暗寺

見聞役杉山素扇印

卯五月

○鳥屋村小物成銀上納受取覚

慶応元年十二月二十二日

(天図近世文書)

覚

一、銀四百六拾九匁四分三厘五毛

右者当丑年小物成銀上納ニ付請取候、以上、

大津御役所

慶応元年十二月廿二日

古川右八郎印

○渡世坊の修行者取締覚書

慶応三年

(天図近世文書)

敵傍地区

述

一、先年来其村方江当宗門躰修行者數多罷越、就中無心
合力或無料之止宿相頼もの有之、農業渡世之妨ニ相成
難涉ニ付取締被願出、依是取締計置候条、先役追々交
代ニ付、尚亦今般改而印書指入申候、若不如法之者於
有是而者差留置、當時今井町明暗寺取締処迄可申出
候、其砌ハ早速出張致し候、村方難涉無之様可及取斗
者也、

京大仏

虚靈山明暗寺

印

南都出張処

出役 快道

印

今井南町見聞役

杉山素扇

印

慶応三年

卯

○出稼之間田畑処置方一札

明治三年八月

(天図近世文書)

四九三

差入申一札之事

一、近年困窮弥増他借モ多分出來候ニ付、百姓相統難成
 候ニ付、此度大坂表江出持ニ參度候間、田畑之儀者元
 銀戻り差入申置、年限者当年々來ル亥年迄六ヶ年切
 ニ御^(渡力)□候、屋鋪地之義者其儘致置候、六ヶ年之内急度
 相戻り相統可仕候、若又六ヶ年之内戻り不申候得者、
 親類并ニ本家兩所々急度相立可申候、為後日差入申置
 一札仍而如件、

鳥屋村当人

孫次郎^印

本家

増田周伯^印

親類

清三郎^印

同 御役人中

明治三年八月

○村方諸帳簿及諸道具目録帳

明治三十年二月十日

(天図近世文書)

明治卅年
 村方諸帳簿及諸道具目録帳
 二月十日
 元総代
 酒本音松

村方諸帳面并諸道具目録

- 一、書類袋入 四つ
- 一、宮様諸道扣帳 貳冊
- 一、川掘及道作扣帳 貳冊
- 一、金棒但外田中ニ有之 壹本
- 一、太鼓但外田中ニ有之 壹個
- 一、廿八ノ量但外田中ニ有之 壹個
- 一、洞加□ 壹個
- 一、蜻蛉量但内田中ニ有之 壹個
- 一、弓張提灯箱入但箱壹つ 三個
- 一、高張提灯□□幟共 貳個
- 一、タコアシ但外田中ニ有之 壹個

- | | | | |
|---------------------------|-------------|--------------------------------------|----|
| 一、水籠拾五 | 元三役人々
有之 | 一、雷村領ニ有之出水定約書 | 壹通 |
| 一、乘駕籠 | 壹荷 | 一、明治八年度農帳 <small>和田郷
本郷共</small> | 八冊 |
| 一、水団扇 | 壹本 | 一、山籤地価地租取調帳 | 壹冊 |
| 一、竹箸子但中嶋分家有之 | 壹個 | 一、地券帳写名寄帳 | 三冊 |
| 一、上井手下出水番割帳 | 壹冊 | 一、等級人名簿 | 壹冊 |
| 一、和田池ニ付安川万平差入書 | 壹通 | 一、旧戸長へ引継目録袋入 | 壹袋 |
| 一、田畑宅地山籤免状辻 | 式通 | 一、墓地取広ニ付願書 | 壹通 |
| 一、明治八年和田村反別三ヶ村一手帳 | 壹冊 | 一、組頭願書控 | 壹通 |
| 一、明治九年收穫取調帳 | 壹冊 | 一、地券請書 | 式冊 |
| 一、明治八年反別帳 | 壹冊 | 一、墓地地券 | 三通 |
| 一、明治九年
明治十一年 地価名寄帳和田郷共 | 三冊 | 一、共有地之名簿 | 式冊 |
| 一、村方一統定期帳 | 壹冊 | 一、抵当割印簿 | 壹冊 |
| 一、明治九年田畑宅地反別收穫地価地租帳 | 式冊 | 一、地券書替布告 | 壹冊 |
| 一、戸籍帳三冊之内 | 壹冊 | 一、農井戸取調書控 | 壹冊 |
| 一、□□料連名簿 | 壹冊 | 一、字下垣内出水木殿村為取替候 | 壹通 |
| 一、椅子 | 壹個 | 一、字全所木殿村差入書控 | 壹通 |
| 一、諸事實物帳 | 壹冊 | 一、字全所田村伝治ヨリ差入書 | 壹通 |

一、当村集会之定約書

壹通

一、明治九年收穫地価地租取調書

壹冊

一、仝村草苳定約書

壹通

一、弁天社明細帳

壹冊

一、明治廿年地価地租名寄台帳

壹冊

一、弁才天社什宝器物取調帳

壹冊

一、明治廿年度量簿

七冊

一、仝圖面

壹通

一、明治七年度全圖

壹通

一、官有地河川堤坊道路井溝反別取調書

壹冊

一、明治八年度全圖

壹通

一、官有地反別取調帳

壹冊

一、明治廿年度切圖

壹通

一、仝圖面

壹通

一、明治廿年土地調查名挙記

壹枚

一、博奕定約書

壹通

一、明治廿年地押調査許可濟

拾貳冊

一、明治廿七年宮様定約書

壹通

一、明治廿壹年度全圖

壹通

一、明治廿九年大久保ヨリ新池ニ付差入書

壹通

一、明治廿貳年地籍官有之部

壹冊

一、申年大井手夏割冬割帳

貳冊

一、明治廿貳年地籍全圖

壹冊

一、申年夏割算用帳

貳冊

一、明治廿叁年飛地組入任せ書

壹通

一、申年冬割算用帳

壹冊

一、明治廿壹年飛地為取替候

壹通

一、酉年人足帳

壹冊

一、墓地連名記簿

壹冊

一、酉年村方取替帳

壹冊

一、土地台帳騰本

壹冊

一、明治廿二年地価民有之部

壹冊

一、明治廿一年飛地組入式号書

壹冊

右之通り諸帳簿引次之処、若相違有之候得者左ノ立会人

立会仕訳可仕候也、

明治卅年

二月九日

惣代

杉本□次郎殿

立会人

辰巳豊吉[㊦]

元総代

酒本音松[㊦]

〔西池尻〕

○旗本神保氏銀子預り状

文化九年四月

(中西警盛文書)

預申銀子之事

一、銀苞貫目也

右者神保磯三郎就要用、慥受取預申処実正也、返済之儀者来ル十月限、元利共無相違可致返済候、縦内外如何様之故障出来候共、聊無違変返済可申候、為後日依如件、

文化九壬申年四月

高橋安次郎[㊦]

畝傍地区

伊東半蔵[㊦]

水谷文右衛門[㊦]

他出無印

岩村利右衛門

他出無印

井上丹右衛門

盤子村善兵衛
受人

北花内村^(カ)

吉右衛門殿

○旗本神保氏知行地村々産業風俗相改書

天保十五年五月

(中西善盛文書)

御領下之産業風俗之次第具達

御聴候処兎角作方不熟、其上肥代高直、下人給分一倍ニ相成、おのづから村々及困窮候段被為聞召候得共、從來御勝手向御不如意之処、去ル^(成)戊午御家督已来打統臨時御物入不少、其上上野火之御番、駿府御加番、御勤夥敷御用途ニテ、誠ニ御高不相応、莫大之御大借ニ相成、御公務且御家中御扶助等、必至与御差支之御時節、御手詰被

四九七

遊候得共、思召ニ不被為叶何卒取統御公辺向御勤、御家中御扶助并不作等ニ而、百姓共及難儀候節者御赦被遊度与の御儀ニ而、江戸表御入用是迄仲茂御切詰、專御儉約被為用候、猶又此度諸事格外御省略、当卯年方来ル未年迄五ヶ年之間嚴敷御儉約被仰出候、就而者近来百姓共身

持風儀不宜分際不相応ニ成行、自然衰微ト相成候儀者、下々奢之筋方敗壞いたし候儀心附不申、且天氣之寒暖氣

候之順逆茂可有之候得共、作毛不熟故与申儀者畢竟耕

□^(作カ)怠候儀与思召候、右之次第ニ而者上々御為ニ茂不相成

候間、向後随分万事勘略いたし、農家想^(想)応之身持勸農第

一之儀思召候、依之箇条を以申渡置候様被仰出候、左之

通、

一、村方諸色進物之事、

年始八朔上江献候儀定法之通勿論ニ而、此表ニ被差

置候御家来之内、役人斗江右両度者祝儀□迄輕品可

差出候、尤前々之通り御領下惣而百姓共方大庄屋方

迄右之品相渡、役人江右祝儀届候事者大庄屋共限る

べく候、惣庄屋年寄者屋敷江一通り之一札可相動候、此外平常屋敷内役人江聊之品たり共相贈候義堅可致無用候、尤役人妻子親類祝儀音物、平日届もの決而可為無用事、

一、惣村方壹ヶ年両度之進物之事、

右進物役人江大庄屋方取次候事前々方茂随分手輕取斗候様可致候、尤御制法洩レ候儀致間敷候事、

一、庄屋年寄小百姓屋敷江^(あ)間之見廻之事、

庄屋年寄共五郎□村方用向之節者格別、平日見廻等之儀無益之事ニ候、就中小百姓之儀者農業之妨相成候間、已来堅令停止候事、

一、普請場見分并檢見之節、菓子酒都而食物之事、

村方普請之儀者其場所少も早く出来候儀勿論ニ候、毛見之手間不取様ニ心入者役人百姓共日□之事ニ

候、酒食之雜費有之間敷候、茶煙草盃^(杯)者格別、酒食

差出候儀者前々方被仰出有之候得共、近年別而猥之

趣相聞候、以来者普請檢見用向共ニ役人罷出候節、

弁当為致持參候、若夜ニ入候者送り提灯可致無用候、尤不叶時者松明用ひ可申事、

一、庄屋年寄小百姓ニ至迄結紬^(マゴ)之衣類用ひ間敷事、

装束之品より押移り奢之筋ニ相成候、庄屋年寄小百姓ニ至迄、結紬^(マゴ)之衣類他郷之出立たり共堅用ひ申間敷候、婚礼之節過分之衣類、或者乗物を用ひ、またハ妻子下女等ニ至迄、籠甲之櫛笄、銀之かんさし杯用ひ候趣茂相聞候、向後右之類令停止候間、堅用ひ申間敷事、

一、村算用寄合之事、

村々ニ而寄合候節、酒食之類出候儀、前々々度々々申渡置候趣茂有之候付、有間敷事ニ者候得共、兎角等閑之趣相聞、旁近年者別而村々入用茂相嵩^ミ候由相聞不埒之至候、困窮之砌小百姓者猶更為難義候間、向後者茶多葉粉^(粉)盆之外一切無用可致候、尤手間とらさざる様可取斗事、

一、祭并連座之事、

村々神事ニ付他客招候儀令停止候、勿論祭礼之事ニ候得者、一村切ニ而夜宮斗祭り、其家内限りニ而わざと祝可申事、

一、正月餅搗之事、

右祝餅斗ニ而飯斗ニいたし申間敷候、勿論親類たり共相互ニ飾餅等取遣り不致、わざと干魚之類ニ而祝可申事、

一、三月雛祭り之事、

雛祭りいたし候儀者勿論、飴物取やり可令無用事、

一、五月節句之事、

木綿幟并絵入之儀^(しきた)為来り候共可為無用候、紙幟ニ而わざと祝置、飴もの并配り物取やりかたく令停止候事、

一、中元祝儀之事、

是迄儉約用ひ候趣ニ者候得共、向後相互ニやぶ入かわせ□為致間敷候事、

一、參宮之節逆迎之事、

右參宮留守見廻并さか迎等者決而申合致間敷候、尤宿元之ものは勝手次第、他人向堅^(迎)可令無用候事、

一、衣類諸法度之事、

毎年正月村々江申渡候箇条之通、弥無油断相心得、結紬之類者勿論、妻子等縮緬之頭巾日傘等大庄屋たり令停止候事、

一、不幸之節之事、

随分手輕ニ可致候、為悔相越候もの酒食之類差出間敷候、野辺送り之儀是迄檀那寺并無縁之僧出候得共、以來者自分且那寺親類共其村組合限りニ而葬送可致候、右之外無縁之僧俗決而其席江罷出間敷候事、

一、村々若者共寄合之事、

右寄合候儀何レ之為ニ茂不相成、無益之事ニ寄集リ^(憑)布而過酒等いたし、隙を費シ耕作之妨ニ相成候間、已來右躰之もの於有之者廻り役人急度可致詮儀候事、

一、百姓耕作無油断稼可申事、

平日農家之稼働怠有之ニ付、段々困窮ニせまり、おのづから未進等出来、身上之障リニ候、万事を打捨農業精出し可申候、隙有之故自然与奢侈ニ推移リ、^(擬カ)□^(擬カ)心之事杯音信贈答酒食之費をいたし候族も有之趣相聞候、向後何事ニよらず、もてなし之仕方百姓仲間一統出会等ニ至迄、酒食嚴敷出し申間敷候、村々

一同急度可相守候事、

一、博奕之事、

前々より嚴敷被仰出候得共、兎角末々之もの行届兼候様相聞不埒之至、勿論右之類惣而賭之諸勝負決而令停止候事、

一、地役并足輕共廻り之事、

勘定方之者壹ヶ月兩度ツ、小者召連可相廻候、代官同断足輕共ハ時々相廻り、右御制法之趣相背族有之候ハ、相改召捕候筈ニ候、御法度之趣若不相用もの者吟味之上、当人者勿論村役人過料可被仰付候、

右之趣、享保十四酉年、享和二戌年、被仰出候得共、猶又此度相改、箇条相増、惣百姓江御憐愍之筋ニ候間、當年方来ル末年迄五ヶ年之間、御制度之趣^(マツ)急度可相守候、若於相背者嚴敷遂詮儀、曲事可被仰付候、仍如件、

天保十五年五月

(※かなりの飛筆の写して読み難いが、神保旗本領村々宛のものである。)

○池尻村八幡宮宮、新规定取替書

嘉永五年二月

(中西善盛文書)

規定為取替一札之事

一、当村八幡宮之儀者池尻垣内とも一躰之氏神ニ而、別段宮講中を立置、社中境内宮寺自大破ニ相成難捨置、無惣修覆差加候節者、前々方有之候宮講銀之内、利潤を以助力差加候儀、且又宮寺住僧入寺退寺留主居差置候節も講中取扱、村方一流相談之上村役人衆江申立、評義熟談之上御上様江奉願上候先例ニ御座候処、近頃講中共も追々困窮致、不足講銀之義も甚不融通相成、

敵傍地区

就而者万事省略専ら可相用心得、却而致庵末、先規之例を取失候趣、村方一流猥り之心得被成、神慮之程も不顧得手勝手ニ取扱候事共御見咎ニ相成、右之次第大庄屋衆中方御糺ニ相成候処、一言之可申上様無御座奉恐入候、依之村方熟談之上、向後永ク取締之規定此度相改左之通、

一、御殿様方米五斗

御初穂料被下置候、但シ宮住寺江相渡ス、

一、金百疋

御燈明料被下置候、但シ右同様江相渡ス、

一、米壹石

御宮講中文配田地之内方、但シ同僧江扶持米相渡ス、

一、銀五匁

御燈明料御宮地之内ニ而、講中方同僧江相渡ス、

一、同拾五匁

御燈明料村惣高方、同僧江相渡ス、

一、正五九月

此三ヶ度之内志ヶ度之銀式匁宛、都合六匁御膳料として同僧江相渡ス、

一、五月十月

御初穂村方家別一流方、同僧江相納可申候事、

一、五月半夏生

毎年稲毛無滞植附出来候節、御宮様江御酒献上料式匁、同僧江相渡し可申候事、

一、五月十月

両度之秋新作柴家別、壹束宛、同僧江相渡可申候事、

一、毎年八朔之祝ひ御膳料式匆同僧江相渡し可申候、

候事、

一、御宮住寺柴薪入用之節者、鏡内御林之内村人足を以
拵可申候事、

右之通此度相改、村方一統得与熟談之上、弥々取締人氣
打揃候ニ付、前書ヶ条之儀聊違背不仕、永々相守可申
候、依之御宮講中与并村役人中与之宛名々為取替、一札
を以右取締相互ニ堅ク相守可申候、為後日連印一札依而
如件、

一、御宮住寺入寺并退寺之節ハ、度毎御役所様江村役人
方其訳御届可申上事、仮令住持無之留主居差置候節た
りとも、同様相心得可申事、

を以右取締相互ニ堅ク相守可申候、為後日連印一札依而
如件、

一、御宮鏡内破損ニおよび候節者、講中ハ村役人中江早
々申出、不捨置普請可仕事、

嘉永五壬子年二月日

池尻村

宮講惣代 利兵衛

一、臨時雨乞ニ付願込願満之節者、壹ヶ度ニ御膳料式匆
宛住持江相渡可申候事、

同断 清右衛門

善太郎

一、正月十五日八月御神事御代參之節、是迄迎も同様之
事ニ者候得共、講中共一流無滞御出向ひ可仕候、右相

十兵衛

濟候上者大窪村并講中共之内、当夜番之者ハ両度之御
膳、御役所様江持參可仕来之通り候事、

源四郎

一、御宮御田地始末前々之通講中ニ相限支配可仕候事、

弥平治

一、御宮鏡内垣詰之儀、毎年村人足を以可仕候事、

治兵衛

一、前書毎年住寺江渡方口々の分、村役人方相渡し可申

半治郎

市良兵衛
市三良

久 治^印
 甚右衛門^印
 甚兵衛^印
 伊 介^印
 忠 介^印
 又右衛門^印
 与 助^印
 源 七^印
 清 兵衛^印
 藤右衛門^印
 清 助^印
 喜右衛門^印
 三右衛門^印
 善 三郎^印
 宗 介^印
 善 四郎^印
 弥 介
 庄 治郎
 武兵衛

同村
 御役人衆中

○旗本神保氏家土宅屋根替割付廻章

(江戸後期) 七月十八日

(中西善盛文書)

以廻章を□啓上候、残暑之節ニ御座候摺、各々様にハ御
 堅勝ニ被成御勤珍重ニ奉存候、然者御陣内御士家之屋根
 替、御普請方より被仰渡候ニ付、来ル廿二日頃方取懸リ
 度与奉存候間、左之村々江小麦藁割符之通、日限無遅滞
 御陳内江御差出可被下候、日限書印無之御村方者一兩日
 前ニ沙汰仕候間、左様御手引可被下候、先者右御案内迄
 如此ニ御座候、以上、

七月十八日

年番池尻村 善太郎
 同断吉田村 忠次郎

一、百五拾^ノ 箸喰 村来ル廿二日早朝
 御持參可被下候

敵傍地区

- 一、貳百 古河村 来ル廿二日早朝 御持參可被下候
- 一、百 大谷村
- 一、貳百 慈明寺村
- 一、百五拾 寺田村
- 一、五拾 忌部村 来ル廿四日早朝 御持參可被下候
- 一、八十 五井村 来ル廿四日早朝 御持參可被下候
- 一、五拾 妙法寺村 来ル廿四日早朝 御持參可被下候
- 一、七拾 土橋村 来ル廿四日 御持參可被下候
- 一、七拾 地黄村 来ル廿四日 御持參可被下候
- 一、百五拾 山本村
- 一、貳百五拾 大窪村
- 一、五拾 御坊村
- 一、百五拾 畝傍村
- 一、貳百五拾 久米村
- 一、貳百五拾 鳥屋村
- 一、貳百 池尻村
- 一、貳百 吉田村

右村々御役人中様

○戸田大和守出向沙汰書

（文久二年）
戊十一月十三日

覚

戸田和三郎内

林金三郎

長持壺棹

此人足四人

合羽籠壺荷

此繼人足貳人

兩懸壺荷

此繼人足貳人

谷森外記

矢盛式部

兩懸式荷

此繼人足貳人

駕籠式挺

此繼人足六人

渥見祖太郎

永田市郎左衛門

星野堅藏

林藤左衛門

兩掛四荷

此繼人足八人

平坂信八郎

黒瀬敬介

加藤郁之助

久任田市右衛門

石川佐十郎

吉田精一郎

乘駕籠三挺

此繼人足六人

兩掛三荷

此繼人足六人

小林仙三

敞傍地区

長持袴棹

此繼人足四人

今村又藏

角井民之助

兩懸三荷

此繼人足三人

此繼人足四拾三人

休昼食

十五日 柳本

十六日 慈恩寺村

十七日 上野

十八日 土佐

十九日 池尻村

廿日 下平田村

廿一日 柏原村

泊

十五日 三輪

十六日 多武峯

十七日 吉野

十八日 八木

廿一日 御所村

畝傍地区

五〇六

廿二日
門前村

廿二日
高田村

廿三日
下田村

廿四日
河内国国分

右者御陵御用ニ而、明後十五日奈良表出立、川内国国分迄罷越候ニ付、於宿ニ書面之人足無滞差出、休泊差支無之様相心得可給候、以上、

戌十一月十三日

戸田越前守内

石川左十郎

奈良方

河内国国分迄

宿々向御中

○中西氏宛山陵用務呼出状

(文久二年?)
十一月二十一日

(中西善盛文書)

(表方キ)
軽子村

中西善太郎殿

戸田大和守内

小林仙三

□御用向

(内容)
以手紙申入候、然者山陵之儀ニ付御面談申度儀有之候へば、来ル廿五日昼迄八木市木原屋嘉右衛門方迄、印形持参ニ而可被罷越候、尤代人ニ而者面談いたし兼候付、本人可被罷出候、已上、

十一月廿一日

小林仙三

中西善太郎殿

○中西氏へ山陵守戸申付状

(慶応元年?)
丑十二月

(中西善盛文書)

池尻村

善太郎

綏靖天皇

安寧天皇

懿德天皇

山陵御修補御成切ニ付其方□□□□守戸申付候間、大切

ニ可奉守護候、尤身分等之儀者追而御沙汰可有之候

事、

但右御用向ニ□□候節者苗字帶刀御免之心得ニ而相

勤可申事、

五十二月

○明治二年可納租稅之事

明治二年十二月

(西池尻区有文書)

已年可納租稅之事

和州高市郡

一、高三百五石五斗六升

池尻村

此訖

田方式百五拾八石五斗壹升壹合六夕六才

内 高三石三斗三升三合三石三才

陵敷地引

内 高式拾三石五斗九升

皆無引

小以高式拾六石九斗二升三合三夕三才

殘高式百三拾壹石五斗八升八合三夕三才

此取米七拾九石八斗三升七合

畑高四拾七石四升八石三ツ四才

内 高三斗壹升壹合四夕

陵敷地引

高拾貳石九斗九升式合五才

永荒陣屋敷引

畝傍地区

小以二百拾三石三斗三合六夕

殘高三拾三石七斗四升四合七夕

此取米拾六石貳斗九升五合

内訖

二百貳拾四石四斗八升式合六夕

本畑

此取米拾石三升八合

二百九石貳斗六升式合壹夕四才

屋敷

此取米六石貳斗五升七合

取米合九拾六石壹斗三升式合

米九拾貳石八斗六升式合

内 此金七百八拾四匁分永式拾五文三分 石代金納

米三石貳斗七升

米納

一、米二石八斗八升四合

口米

此金式拾四疋壹分永百七文壹分

一、米壹斗八升壹合

御伝馬宿入用

此金壹匁貳分永式拾八文七分

一、米六斗四合

六尺給定

此金五匁永百壹文壹分

五〇七

一、金三分四文八分

御藏前入用

納合 米三石式斗七升
金八百拾六匁永拾七文

右者当已御年貢其外共書面ノ通相極条、村中大小之百姓
入作之者迄不殘立会、無甲乙令割賦致皆濟ニ付、小手形
引替一紙遣りもの也、

明治二己年十二月

奈良県御役所囀

右村庄屋

年寄

惣百姓

○明治六年租税免定之事

明治六年十二月

(西池尻区有文書)

未年租税免定之事

大和国高市郡

池尻村

一、高三百五石五斗六升

此訊

田高貳百五拾八石五斗壹升壹合六夕六才

内高三石三斗三升二合三夕三才 陵敷地引

殘高貳百五拾五石壹斗七升八合三夕三才

此貢米百四拾壹石壹斗四升七合

畑高四拾七石四升八合三夕四才

内高三斗壹升壹合四夕

外高貳斗七升八夕

殘高四拾六石七斗三升六合九夕四才

此貢米拾七石三斗壹升六合

貢米合百五拾八石四斗六升三合

米拾四石

田米正納

米百貳拾七石壹斗四升七合

田米石代

内 此永四百三拾八貫九百拾壹文四分

米拾七石三斗壹升六合

畑米石代

此永五拾九貫七百三拾五文

一、米四石七斗五升四合

口 米

此永拾六貫三百九拾九文九分

納合 米拾四石

金五百拾五匁永四拾六文三分

右者去々未年租税書面之通致皆濟候ニ付、於先具可相渡

処、廢臈相成候ニ付、此度小手形引替一紙相渡もの也、

明治六年十二月

奈良県 奈良県

⑨

右村

戸長

副戸長

総百姓

○元旗本神保氏壳附建物代価請取書

明治十年十月六日

(中西善盛文書)

記

一、金貳百拾五円也

右、明治十年九月廿日為□置候壳附書点数記載建物代価

(虫入)

正ニ請取候処如斯候也、

四大区式小区高市郡

池尻村

明治十年十月六日

神保 幽山 ⑩

四大区式小区高市郡

畝傍地区

同村
中西善太郎殿

○元旗本神保氏花園山壳渡証文書

明治十一年十一月六日

(中西善盛文書)

奉願山地壳買之事

大和国第四大区式小区

高市郡池尻村

壳渡人 神保 幽山

大和国高市郡池尻村の内

字花園山

一、山反別式町三畝五步

但立木在之

此山税米壹石四斗

同村

此地代金貳拾壹円五拾錢 買受人 中西善太郎

右地所今般相變之上、壳渡且買受郷中積リ熟談相整候ニ

(之)

付、壳買之儀御聞濟之上ハ、同人名前ノ券証直ニ同人江

御下ケ被成下渡、依之正副戸長奥印ヲ以此如奉願上候、

以上、

明治十一年十二月六日

右壳渡人

神保 幽山印

右買受人

中西 善太郎印

前書願之趣双方相願候故、情実相違無御座、依私共連印ヲ以此如上伸仕候也、

副戸長

井村 正作印

戸長

柴田 嘉一郎印

堺県令税所篤殿

〔吉田〕

○吉田村山役覚

延宝五年七月四日

(東坊城・村島兵治文書)

覚

一、武斗 山役

右之場所三ヶ所

内分

吉田村

字西山、村より山迄六丁立八拾間横五拾三間

松山持主久助

字宮山、村より山迄三拾間立五拾間横式拾間

芝山持主清左衛門

字同村の山迄三拾間立百拾間横式拾間

芝山小松少有持主清左衛門

右之者共より御年貢上納仕来申候、三拾四年以前寛永拾四年申ノ年中坊長兵衛様御代官之時より上ケ来申候、其以前者存知不申候、

右之通少も相違無御座候、以上、

延宝五年

吉田村庄屋

清左衛門

巳ノ七月四日

同村年寄

三郎四郎

○吉田村小物成場検地帳

延宝七年八月八日

(天図近世文書)

延宝七_{己未}年
大和高市郡吉田村小物成場檢地帳
八月八日
本多平八郎内
吉岡新左衛門

寛文十一亥山新開

一、宮山下々畑四拾間 三反三畝拾歩 清左衛門
式拾五間

此分米式石五斗 但斗代七斗五升

延宝四辰山新開

一、西山下々畑六間 壹畝歩 久助
五間

此分米七升五合 但斗代七斗五升

反合三反四畝拾歩

分米合式石五斗七升五合

右之外

一、西山小松山百間 式町五反六畝式拾歩 久助
八拾九間

此山手米三斗六升

畝傍地区

一、宮山小松山九拾三間 壹町五反五畝歩 清左衛門
五拾間

此山手米壹斗九升

右者大和高市郡吉田村御小物成場、檢地依被 仰付
候、六尺間竿を以壹反三百歩也、町反畝歩員數斗代、
高下分量委細書記帳面相極置者也、

延宝七_{己未}年八月八日 本多平八郎内

惣奉行 吉岡新左衛門印

元 山田十郎左衛門印

同 多羅尾源太夫印

同 檢地奉行 湯川兵太夫印

同 石橋八太夫印

同 花村平太夫印

同 難波六郎兵衛印

同 那須猪太夫印

同 吉田源助印

同

同

吉田村庄屋

清左衛門印

同村案内者

三郎四郎印

同

与九郎印

同

甚四郎印

同

平次郎印

墨付三枚之内落字付字削目なし

宮所善藏写

○吉田村御物成御目録

万延元年十二月一日

(松村輝雄文書)

申歳御物成御目録

御高 式百五拾三石七斗四升四合八夕

御引 百七拾式石五升七合六夕

内 拾九石式斗壹升壹合五夕三才

式石三斗四升五合五夕壹才

三石壹斗

御定免

御救米

畑綿御免被下

拾石三斗五升

残引 百三拾七石五升五夕六才

七石六斗壹升式合三夕四才四札

夫米高石二三升宛

四石壹斗壹升壹合五夕壹才七札

口米引高石二三升宛

合百四拾八石七斗七升四合四夕式才壹札

拾石四斗壹升四合式夕壹才 駄賃米七升宛

定成百五拾九石壹斗八升九合

内 百拾石

式石五斗

拾式石四斗八升三合六夕

大豆年寅酉之正月五日
納石二式百三拾五匁替

引残米三拾四石式斗五合四夕

内 四斗五升五合

壹斗九升五合七夕

永荒定引
御林年貢

九斗七升八合五夕

西山新開年貢

五斗

井手米

六斗七升七合六夕五才

御蔵屋鋪
庄屋敷とも

壹石

庄屋給米

六石

江戸御奉公人
式人之給米

引残米貳拾四石三斗九升八合五夕五才

吉田村

万延元年

年寄 弥八郎

申十二月朔日

同断 藤兵衛

庄屋 忠次郎

御役所様

○吉田村小物成上納請取書

文久元年

(松村輝雄文書)

酉年納銀之事

神保三千次郎知行

大和高市郡 吉田村

高貳石五斗七升五合

高三ツ八分

一、米九斗七升九合

一、米五斗五升

小松山年貢

畝傍地区

小以米壹石五斗貳升九合

此銀百九拾四匁六分六厘

一、米四升六合

此銀六匁八厘六毛

合銀貳百目七分四厘六毛

右小物成銀上納ニ付請取候、以上、

大津御役所

文久元酉年

柴山順左衛門

八戸厚十郎

三宅 順助

中嶋 剛一

○御陵修理ニ付居宅等引払入費言上書

元治元年七月

(松村輝雄文書)

乍恐書付ヲ以奉申上候

一、当村方

御陵御兆域内居宅之分引払被仰渡候処、右入用奉申上候様被仰渡候ニ付、左ニ奉申候、

畝傍地区

弥兵衛居宅

取払

一、人数五拾八人

此貸銀貳百六拾壹匁

但壹人ニ付四匁五分ツ、

一、稲家壹ヶ所 桁行^{式間}五間 同断

一、長家壹ヶ所 桁行^{式間}三間

一、長家壹ヶ所 桁行^{式間}三間

右四ヶ所取払

譲り主

清兵衛[㊤]

買主

嘉兵衛[㊤]

村方持家

借家人

伊助
甚右衛門

一、長家桁行^{式間}五間

此工数三拾六人

大工手間

但壹人ニ付六匁五分ツ、

此工数三人

此貸銀拾九匁五分

但壹人ニ付六匁五分ツ、

此人數八拾人

此貸銀三百六拾匁

但壹人ニ付四匁五分ツ、

右者^式割壹人前百八拾匁ツ、相渡ス、

村方持家

借家人

源助
たか

一、長家 桁行^{式間}四間半

此工数三拾貳人

大工手間

但壹人ニ付六匁五分ツ、

すゑ家引料

一、本家壹ヶ所 桁行^{式間}六間 但惣瓦

一、土蔵壹ヶ所 桁行^{式間}三間 但惣瓦

一、別座敷壹ヶ所 桁行^{式間}六間 但惣瓦

右三ヶ所引料請負

此貸銀六百八拾匁

すゑ[㊤]

一、土蔵壹ヶ所 桁行^{式間}式間

但惣瓦

右者^式割三百四拾匁ツ、

清兵衛[㊤]

合銀壹貫七百六拾貳匁五分

是迄忠次郎貸家ニ借家罷在候、

清兵衛

右之者すゑ居宅仕切致引越住居仕候、

是迄忠次郎貸家ニ借家罷在候、

忠八

右之者忠次郎取払家引請、自分普請仕住居仕候、

右之通り聊以相違無御座候、此段御尋ニ付奉申上候、以

上、

神保山城守地行所

和劔高市郡

元治元年
子七月日

吉田村

年寄 嘉兵衛

同断 藤兵衛
庄屋 弥八郎

御役所様

御役所様

○吉田村名寄帳

慶応元年十二月

(松村輝雄文書)

畝傍地区

慶応元年	名寄帳
丑十二月日	吉田村扣

忠次郎	拾八石壹斗五升壹合
弥市郎	拾九石貳斗四升三合五夕
弥八郎	拾壹石八斗三升四合五夕
治右衛門	拾貳石五斗六升四合壹夕
嘉兵衛	六石貳斗三升四合
平右衛門	四石三斗壹升三合
宇市郎	拾三石五斗七升七合四夕壹才
惣兵衛	拾三石貳斗四升五合五夕
藤兵衛	八石五斗六升九合
仁兵衛	九斗六升貳合
すゑ	拾三石三斗三合五夕
みさ	拾六石壹斗六升六合六夕九才五札

幸四郎 拾三石壹斗壹升四合

清兵衛 三石九斗三升九合五夕

興助 拾壹石七斗三升三夕九才

忠八 六石貳斗七升五合

利兵衛 壹石八斗五升三合

庄助 五石四斗壹升七合

忠三郎 六石五斗四升壹合

甚右衛門 貳石八斗三升七合六夕

伊右衛門 壹石五斗貳升三合

利八 四石八斗三升九合

源助 四石七斗三升

藤助 五石四斗九升壹夕

半四郎 三石九斗五升八合

瀉地 貳石壹斗壹升九合

御藏屋敷 九斗三升貳合

庄屋屋敷共

池床 五斗七升三升四夕

神田伊勢講 壹石八升

道場地 貳石四升九合七夕

寄合地 貳石八斗九升七合

自在講 三斗五升六合

宮講地 壹石六斗六升五合

伊勢講地 貳石三斗三升九合六夕

御講地 四斗七升九合

講中地 五斗九升七合

高拾貳石九斗六升八合七夕

輕古市郎兵衛 五石七斗六升五合四夕

善太郎 九斗八合

かるこ 二石二斗八合

長兵衛 八斗九合四夕

池尻村 七

池尻村 四斗八升

彦四郎 貳石七斗三升四合

坊城村 助

善助

大谷村
長 助 卷石三斗六升五合

古河村
治右衛門 卷石壹升三合

武右衛門 八斗八升五合

高拾六石壹斗六升九合八夕^(計算不食マ)

御宮免^ノ 式拾壹石五升三合壹夕七才五札^(七)

御救米^ノ 式石五斗八升八夕四才

是乃無地荒高

源八郎 卷石四斗七升貳合

多 郎 式斗三升五合

甚四郎 三斗四升五合

甚 六 三升

三 郎 五斗五升三合

与七郎 三升三合

彦 七 式斗八升九合

治 郎 式斗四升

畝傍地区

孫重郎 三斗三升六合

惣五郎 三斗九升六合

竹 松 七升貳合

滿 々 六升九合九夕

孫 六 三斗貳升八合

孫重郎 八斗壹升六合

又三郎 七升貳合

孫重郎 八斗六合八夕

是ハ三畝之内古河村附落

高六石八升八合七夕

惣高合式百四拾七石四斗九升八合六夕五札

引^ノ百六拾九石五斗四夕五札

内

四斗五升五合 永荒定引

式拾式石式斗三升五合三夕五才 御定免

式石六斗八升九夕壹才 御救米

残引百四拾四石壹斗貳升九合壹夕四才五札

七石四斗貳升四合九夕五才九札 夫米高石ニ三升宛

四石三斗貳升三合八夕七才五札 口米引石ニ三升宛

合百五拾五石八斗七升七合九夕七才九札

拾石九斗壹升壹合四夕六才 夕賃米七升ツ、

定成百六拾六石七斗八升九合四夕四才

内引ケ物

壹斗九升五合七夕

御林年貢

九斗七升八合五夕

惣山新開年貢

五斗

井手米

六斗七升七合六夕五才

御藏屋敷

庄屋敷代

壹石

庄屋詰米

合三石三斗五升壹合八夕五才

右之帳面少茂相違無御座候、若横道成儀仕置、後日相知
れ候ハ、如何様之曲事可被仰付候、以上、

慶応元年

十二月日

吉田村

年寄 嘉兵衛

同断 藤兵衛

庄屋 弥八郎

森出順輔殿

○吉田村宗旨人別御改帳

慶応三年三月

(松村輝雄文書)

慶応三年

宗旨人別御改帳

卯三月日

吉田村扣

一、浄土真宗北越智村浄宗寺旦那

藤兵衛 家内 三人

一、浄土真宗八木村西福寺旦那

与 助 家内 七人

一、浄土真宗今市村現得寺旦那

忠三郎 家内 四人

- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
源四郎[㊦]
家内^ノ 貳人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
仁兵衛[㊦]
家内^ノ 壹人
- 一、浄土真宗御所町円照寺且那
嘉兵衛[㊦]
家内^ノ 六人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
弥八郎[㊦]
家内^ノ 九人
- 一、真言宗久米村久米寺且那
伊三郎[㊦]
家内^ノ 三人
- 一、浄土宗曾我村光岩院且那
とめ[㊦]
家内^ノ 四人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
甚右衛門[㊦]
家内^ノ 六人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
忠治郎[㊦]
家内^ノ 五人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
庄助[㊦]
家内^ノ 五人
- 一、浄土真宗八木村西福寺且那
たみ[㊦]
家内^ノ 六人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
利八[㊦]
家内^ノ 四人
- 一、浄土真宗八木村西福寺且那
たか[㊦]
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
宇市郎[㊦]
家内^ノ 七人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
惣兵衛[㊦]
家内^ノ 五人
- 一、信言宗久米村久米寺且那
藤助[㊦]
家内^ノ 七人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
利兵衛[㊦]
家内^ノ 貳人
- 一、浄土真宗今井町称念寺且那
源助[㊦]
家内^ノ 三人
- 一、信言宗久米村久米寺且那
幸四郎[㊦]
家内^ノ 六人
- 一、真言宗久米村久米寺且那
みさ[㊦]
家内^ノ 四人
- 一、浄土真宗北越智村浄宗寺且那
忠八[㊦]
家内^ノ 貳人
- 一、浄土真宗八木村西福寺且那
清兵衛[㊦]
家内^ノ 八人
- 一、浄土真宗八木村西福寺且那
弥右衛門[㊦]
家内^ノ 貳人

畝傍地区

一、浄土真宗八木村西福寺旦那

い き 団

一、浄土真宗畝火御坊信光寺（尊）第子

吉田村
安寧寺
得聞 団

右之帳面庄屋年寄立会吟味仕、少茂不審成得無御座候、
不寄何事御公儀様御法度之儀、違背不仕候様、吟味仕、
差上可申候、為後日之奥印、依而如件

慶応三卯年三月日

年寄 嘉兵衛 ④
同断 藤兵衛 ④
庄屋 弥八郎 ④

崎山吉左右衛門殿

吉川嘉左右衛門殿

森出 順 輔殿

「

新沢地区

〔北越智〕

○寺尾勤録、北越智村明細

(延享年間)

(大福・広吉寿彦藏)

一、高拾九石 免状御料並

北越智村

此取米五石九斗五合

三ツ壺分五厘余
但シ亥之年分

一、米五斗七升

夫 来

一、壺斗八升

口 米

納合米六石七斗四升五合

檢地文禄四年九月

御牧勤兵衛

但シ、惣高貳百三拾五石六斗八升七合、内拾九石分

御年貢相納、残高者先年郡山下、其後御料と成

○北越知御成箇免定

天保五年十二月

(吉田忠繁文書)

新沢地区

午年御成箇免定

一、高貳百拾六石六斗八升七合

高市郡

北越知村

内

貳拾六石五升九合三夕 永荒引

貳石九斗九升七合九夕 当午稲作旱損皆無引

残高百八拾七石六斗貳升九合八夕 毛付

此取米九拾五石九升九合 高四つ三分八厘九毛内
毛付五つ六厘八毛余

此取

高百八拾石貳斗六升五合壺夕

本田畑

此取米九拾四石五斗三升八合 免五つ貳分四厘四毛余

高六斗三升

去ル丑 起 返

此取米壺斗五升八合

免貳つ五分

高三石貳斗六升

去ル丑起返 雜木立

此取米壺斗九升五合

免六分

高三石四斗七升四合七夕

去ル丑起返 同 断

此取米貳斗八合

免六分

米壺升 見取

取米合九拾五石壺斗九合

納訳

九石五斗壹升壹合 十分一大豆銀納

八拾五石五斗九升八合 九分米銀納

外

米四斗九升 小物成米

銀貳匁四分 藪役

米貳石八斗六升八合 口米

銀七厘 口銀

米四斗三升四合 六尺給

米壹斗三升 御伝馬宿入用

銀三拾貳匁五分 御蔵前入用

右之通御領所当午御成箇相極候、村中大小之百姓出作之
もの迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五
日限急度皆済可仕者也、

天保五年十二月

吉川三右衛門[㊦]

村田丈四郎[㊦]

瀬尾権兵衛[㊦]

駒井孫太夫[㊦]

村瀬丈左衛門[㊦]

右村

庄屋

年寄

惣百姓

○北越知村御成箇免定

天保七年十二月

(吉田忠繁文書)

申年御成箇免定

一、高貳百拾六石六斗八升七合

内

貳拾六石五升九合三夕 永荒引

残高百九拾石六斗貳升七合七夕

此取米七拾貳石三斗九升三合

此訳

高百八拾三石貳斗六升三合

此取米七拾壹石八斗三升貳合

高市郡

北越知村

毛付

高三つ三分四厘壹毛内
毛付三つ七分九厘八毛内

本田畑

免三つ九分貳厘内

高六斗三升

此取米壹斗五升八合

高三石貳斗六升

此取米壹斗九升五合

高三石四斗七升四合七夕

此取米貳斗八合

米壹升 見取

取米合七拾貳石四斗三合

納訳

七石貳斗四升

六拾五石壹斗六升三合

外

米四斗九升

銀貳匁四分

米貳石壹斗八升七合

銀七厘

米四斗三升四合

米壹斗三升

去ル丑

起返

免貳つ五分

去ル丑起返

雑木立

免六分

去ル巳起返

同断

免六分

十分一大豆銀納

九分米銀納

小物成米

藪役

口米

口銀

六尺給

御伝馬宿入用

銀三拾貳匁五分

御蔵前入用

右之通御領所当申御成箇相極候、村中大小之百姓出作之者迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日限急度皆済可仕者也、

天保七申年十二月

吉川三右衛門◎

村田丈四郎◎

瀬尾権兵衛◎

林 小左衛門◎

村瀬丈左衛門◎

右村

庄屋

年寄

惣百姓

○座頭官制紊リニ付取締覚

天保八年正月

覚

(吉田忠繁文書)

一、諸国座頭共官列為可進何国迄茂勸化助成を請候儀、蒙御免諸国江罷通候処、近年多分在之中紛敷盲目共入交來、取計方拒候儀有之、旁以拙者主人辻檢校江取斗之義被頼出ニ付、今般被令承知候條、以後条々節者当方へ可被差向候、自然故障申者有之時者、其所ニ留置被申出候ハ、早速役人可被差遣候、尤官物取計料年々相納候、其村方へ外方如何様之義出來候共、当方へ引受、少しも役界相懸不申仍如件、

天保八酉年正月

桜井 厩辻 檢校内

用人 谷

庄九郎

高市郡 北越知村

○不法虚無僧取締通達書

天保九年七月

(吉田忠繁文書)

証文

一、当村之儀者当代当戌ニ相改、虚無僧留場ニ仕置候処
 実正也、自今当村迄立入役本江参り、中飯又者無合力

等六ヶ敷儀申掛候得者、役本ニ留置早々役僧差向、宗門之法通ニ急度取締、人足賃迄此方より相弁、其村方迄役界相申間敷為後日、如件、

天保九戌歲七月改之

京大仏

明暗寺出張所

(黒印)

高市郡北越知村

庄屋

年寄

衆中

○鳥獸野荒シニ付鉄砲拝借証文

天保十三年二月

(吉田忠繁文書)

奉差上鉄砲証文之事

一、鉄砲壹挺

玉目三匁式分
長三尺七寸

持主

庄右衛門

一、右者当村之儀者、山崎同様之所ニ御座候、猪鹿兎諸鳥多出、作毛喰荒シ候ニ付、兼而番等付置、可成丈追退候得共相退不申、百姓甚難渋仕候、依之威シ鉄砲拝

借仕、猪鹿兔諸鳥出候節斗り玉込不申、藥計ニ而威シ申度奉願上候処、御間届ニ被成下、当寅三月方来卯三月迄、鉄砲御貸下ケ被成下難有奉存候、何時ニ而茂御差凶次第返上可仕候、尤出火等之^(ニ而カ)焼失仕候歟、又者持主相果候得共早速御窺可申上候、若威シ^(ニ脱カ)宓寄玉込惡事仕間敷、勿論他人へ者不及申、仮令親子兄弟たりとも堅ク^(度)借申間敷旨被仰渡奉畏候、右被仰渡之趣相背候得者本人者不及申、庄屋年寄五人組迄如何様之越度ニ茂可被仰付候、為其証文奉差上候依而如件、

但シ、当年者鉄砲御改之上御焼印成下候而御渡奉、^(ママ)慥ニ請取候、然ル上者本文之通大切ニ相守可申、勿論焼印之外紛敷鉄砲取扱申間鋪段被仰渡、本文限り月差上候様被仰渡、重々承知奉畏候、以上、

天保十三年寅二月

高市郡北越智村

年寄 庄右衛門[㊦]

組頭 権次郎[㊧]

同断 勘兵衛[㊨]

兼帯庄屋常門村

清左衛門

高取

御役所様

○浪人旅僧修験誓女座頭等取締触書

(江戸後期)

(吉田忠繁文書)

近年浪人杯と申村々百姓家江参り合力を乞、少分之合力錢杯遣し候得者悪口いたし、或ハ一宿を乞泊、病氣杯と申四五日可致逗留候、内ニ者品々難題を申懸、合力錢余計ねだり取候段、粗相聞不屈之至候、以来右躰之者罷越候ハ、其辺之穢多非人ニ為召捕、関八州伊豆甲斐之国者公事方御勘定奉行江召連罷出、其余之國々ニ而者、御料者御代官、私領者領主地頭江召連可出候、勿論何様ニ申候共決而止宿不為致、苗字帯刀いたし候者江壹錢之合力茂致間敷候、

一、旅僧修験誓女座頭之類物貫共、志次第之報謝を受相對ニ而宿を借可申処、近年押而宿を取、或ハねたりケ

間敷儀申懸候者有之段粗相聞、是以不届之至候、以来
右躰不法之者ハ前ヶ条同様為召捕召連可出候、若於相
背者其村方可為越度者也、

右之趣御料私領寺社領等不洩様相触、村々ニ而為写取
村々入口高札場、或ハ村役人之宅前杯江為張置可申
候、

午十月

右之通先年被仰渡申触候趣、弥無違失相心得可申候、

戌二月

高取役所

┌

○北越知村御成箇免定

嘉永六年十二月

(吉田忠繁文書)

丑年御成箇免定

一、高貳百拾六石六斗八升七合

高市郡

北越知村

内

拾七石三斗八升九合五夕

永荒引

九拾貳石八升七合九夕

当丑稲作早損皆無引

残高百七石貳斗九合六夕

毛付

此取米四拾五石貳斗四升壹合

高貳つ八厘八毛内
毛付四つ貳分貳厘内

此取

高八拾五石壹斗七升貳合壹夕

本田畑

此取米四拾壹石貳斗九升五合

免四つ八分四厘八毛余

高六石七斗三升四合七夕

雜木立

此取米五斗三升九合

免八分

高七石貳斗三升八合

天保十四卯起迄
右同断

此取米四斗三升四合

免六分

高壹石四斗三升壹合八夕

同年起迄
右同断

此取米四升三合

免三分

高六斗三升

起返

此取米壹斗七升

免貳つ七分

高貳石三斗七升貳合

屋敷

此取米壹石壹斗八升六合

免五つ

高六斗壹升八合

天保十四卯改
屋敷成

此取米三斗九合

免五つ

高三石壹升三合

同年改

畑田成

此取米壹石貳斗六升五合

免四つ貳分

米壹升 見取

取米合四拾五石貳斗五升壹合

納訳

四石五斗貳升五合

十分一大豆銀納

四拾石七斗貳升六合

九分米銀納

外

米四斗九升

小物成米

銀貳匁四分

藪 役

米壹石三斗七升貳合

口 米

銀七厘

口 銀

米貳斗四升九合

六尺給

外米壹斗八升四合者損毛高九拾貳石八升七合九夕

掛り候分当丑年御免除

米七升五合

御伝馬宿入用

外米五升五合者右同断

銀拾八匁六分九厘

御蔵前入用

新沢地区

外銀拾三匁八分壹厘者右同断

右之通御預所当丑御成箇相極候、村中大小之百姓出作之者迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日限急度皆済可仕者也、

嘉永六丑年十二月

西嶋源左衛門[㊦]

多賀逸平[㊦]

三好伝左衛門[㊦]

築山甚五左衛門[㊦]

村田丈四郎[㊦]

右村

庄屋

年寄

惣百姓

○北越知村割附目録

慶応四年三月

(吉田忠繁文書)

卯年割附目録之事

一、高式百拾六石六斗八升七合

高市郡

北越知村

五二七

新沢地区

内

拾五石九斗六升九合五夕

永荒引

拾三石七斗式升九合六夕

当卯稻作早損皆無引

殘高百八拾六石九斗八升七合九夕

毛付

此取米九拾石六斗九升五合

高四つ壺分八厘六毛内
毛付四つ八分五厘余

此取

高百拾六石三升八合壺夕

田方

此取米六拾七石五斗式升九合

免五つ八分式厘内

高式石四斗式升

寛政五丑起返
雑木立

此取米壺斗九升四合

免八分

高壺石四斗三升壺合八夕

天保十四卯起返
右同断

此取米四升三合

免三分

高七石式斗三升八合

同年起返
右同断

此取米四斗三升四合

免六分

高五拾石五斗五合三夕

畑方

此取米式拾石式斗式合

免四つ

高六斗三升

寛政五丑
起返

此取米壺斗七升

免式つ七分

五二八

高式石三斗五升

寛政五丑起返
文政四巳起返
雑木立

此取米壺斗八升八合

免八分

高壺石九斗六升四合七夕

文政四巳起返
安政四巳免増
右同断

此取米式斗五升五合

免壺つ三分

高壺石四斗式升

安政四巳起返
右同断

此取米壺斗八升五合

免壺つ三分

高式石三斗七升式合

屋敷

此取米壺石壺斗八升六合

免五つ

高六斗壺升八合

天保十四卯年
屋敷成

此取米三斗九合

免五つ

米壺升 見取

取米合九拾石七斗五合

納訳

九石七升壺合

十分一大豆銀納

八拾壺石六斗三升四合

九分米銀納

外

米四斗九升

小物成米

銀貳匁四分

藪 役

米貳石七斗三升六合

口 米

銀八厘

口 銀

米四斗三升三合

六尺給

米壹斗三升

御伝馬宿入用

銀三拾貳匁五分

御藏前入用

納合米九拾四石四斗九升四合
銀三拾四匁九分八厘

外

高拾九石

私領越石

此取米七石九斗五升三合

右者去卯御取箇相定候間、同十二月廿日限、合皆濟ニ付書面之通割附目錄相渡候、村中大小之百姓出作之者迄茂立会、無相違可致割合者也、

慶応四戊辰年三月

植村駿河守内

中山 基次[㊟]

嶋田 耕助[㊟]

村田 文四郎[㊟]

新沢地区

村瀬 丈左衛門[㊟]

築山 甚五左衛門[㊟]

右村

庄屋

年寄

惣百姓

○越村同様の御引方御歎願書

明治二年七月三日

(吉田忠繁文書)

乍恐御歎願奉願上候

御領所高市郡

北越知村

一、今般御年貢御定免御取定被成下難有奉存候、然ル処当村者山寄ニ而、天水谷々数多御座候難渋之村方ニ而、廿ヶ年以前より無難ニ毛上取合候年者三ヶ年丈ニ而、其余拾七ヶ年者皆々難毛ニ御座候、其上当村方ニ植村羽前守越石高拾九石有之処、地所無之村余内ニ相成、村方々年々差出居、誠ニ難渋ニ而段々村方衰微ニ相成、則文化程度迄当村家数四拾軒有之候処、村方困窮弥

増潰家出来、当村ニ而者家数拾壹軒ニ御座候、然ルニ
 当組合村之内、越村者当村同様難村ニ而、年々御取箇
 右躰同様見競ニ相成候村方ニ御座候処、今般御取定被
 成下候御定免、当村と者越村者余程御引方ニ相成有之
 候付、当村之儀茂御引方被成下度御歎奉願上呉候様、
 村方百姓一同相歎居候付、御受書印形不仕と申訳ニ而
 者無御座候得共、右次第ニ付此段御歎奉願上候、尚委
 細之儀者、口上ニ而可奉申上候、何卒恐多御儀ニ御座
 候得共、出格之御慈悲ヲ以右之趣御聞届被為成下候ハ
 、難有奉存候、已上、

明治二巳年七月三日

北越知村

庄屋 孫次郎 印

年寄 安右衛門 印

百姓代 勘次郎 印

奈良府

租税御役所様

〔観音寺〕

○村中相究申一札之支控

宝永七年八月十一日

〔新堂・江南房次郎文書〕

相究申^(極力)一札之支

- 一、申未進銀之儀当暮ニ高割ニ致シ相掛リ可申事、
- 一、古作阿弥陀寺御未進有之、当暮ニ村中寄合了簡致シ
可申事、
- 一、同村伊勢講畑、是又御未進有之候、右同断、
- 一、又次郎大分御未進有之候ニ付、村中寄合了簡之上双
方へ相懸リ可申事、
- 一、彦右衛門不埒之儀、村中寄合、右同断、
- 一、其外村人^(不力)無相応成御未進有之候者、相談之上了簡可
申事、
- 一、当村毛付高之内三石余相違有之候、重而小前帳名寄
帳吟味致相知れ候者、向後高ヲ改其主ニもたせ、高二

応シ両方割符致事、

右之通当暮ニ村中寄合相談之上、埒明可申候、為後

日連判依而如件、

宝永七年

寅ノ八月十一日

庄屋 武兵衛[㊤]

年寄 小平次[㊤]

同 半三良[㊤]

同 彦介[㊤]

庄屋 彦四郎[㊤]

年寄 勘兵衛[㊤]

同 善七[㊤]

(組頭十人略)

右之通双方立合相談之上相極、相違無御座候、以上、

新堂村大庄屋

仁兵衛殿

観音寺村庄屋

彦四郎[㊤]

同 武兵衛[㊤]

「

○庄屋御本ニ相定申一札之事控

宝永七年八月十一日

(新堂・江南房次郎文書)

今度庄屋御本ニ被為仰付

候ニ付相定申一札之事

一、観音寺村御免定、忝本ニ御請申筈之事、

一、観音寺村領内、如何様之不時成儀出来候共、惣村懸

リニ致可申事、

一、道橋川崩如何様之儀有之候共、右同断、

一、両池かゝ井戸等迄、如何様之不時成儀有之候共、村

支配ニ可致事、

一、当村寺道場之儀、尤高敝宗門御改銘々支配致候得

共、是又惣村之寺ニ存候得ハ、如何様之儀出来候共村

支配ニ可致事、

一、田地之内普請所杭木人足被下候外ハ、銘々地主之支

配ニ可致事、

一、双方田地之内売買有之候共、村並之筈ニ可致事、

一、当村へ入人之儀ハ、村中不残相談之上、御願可申上

事、

一、人足ぬか藁被為仰付候節ハ、惣村中^(無執力)方御用相違指引

可仕事、

一、当村百姓分ハ如何様之儀出来候共、銘々支配可仕事、

一、当村乞食番、尤宗門御改一方之支配ニ致候得共、是

又如何様之儀出来候共、双方支配ニ可致事、

右之通村中相談之上相極申候、向後如何様之儀有之候

共、新規成儀申間敷候、為後日連判仍而如件、

宝永七年

寅八月十一日

観音寺村庄屋

武兵衛印

同村庄屋 彦四郎印

同村庄年寄 勘兵衛印

同 善七印

同 小平次印

同 源太郎印

同 彦介印

(組頭、百姓、三十二名略)

右之通双方立合相談之上、相違無御座候、自今以後互ニ少茂申分無御座候、以上、

観音寺村庄屋

武兵衛印

同 彦四郎印

新堂村大庄屋

仁兵衛殿

○観音寺村御免定写

元文五年十二月一日

(新堂・江南房次郎文書)

元文五年

申ノ御免定 写

十二月朔日

一、高八百三拾九石四斗六合

観音寺村

内 百七石壹斗四升七合

当稲作檢見引

内 百三拾九石五斗

当田綿用捨引

拾貳石

当畑綿用捨引

残テ五百八拾石七斗五升九合

毛付

此取米三百壹石九斗九升五合

五ツ式分内

一、米五斗三升

山年貢

一、米壹石五合

藪年貢

納合米三百三石五斗三升

一、九石壹斗六合

口米

一、貳拾五石三升五合

夫米

都合三百三拾七石六斗貳合

内

百石六斗五合

三分一米

代九貫五百拾貳匁八分四リ

石九十四匁五分

残り貳百三拾七石六合

三分二米

内

百拾五石

林久三郎殿

○寺尾勤録、観音寺村明細

延享年間

(大福・広吉寿彦蔵)

一、高八百三拾九石四斗六合

観音寺村

新沢地区

内。四石八斗九升三合

大工高

此取米四百三拾六石四斗九升壹合 五ツ式分

一、米五斗三升

山年貢

一、米壹石五合

藪年貢

一、米貳拾五石三升五合

夫米

一、米拾三石壹斗四升壹合

口米

納合米四百七拾六石貳斗貳合

檢地文祿四年九月十六日

御牧勘兵衛

除地

一、鎮守

三拾八社

同断

一、観福寺 浄土宗京黒谷末寺

同断

一、和田寺 禅宗河州丹南郡今井村法雲寺末

年貢地

一、阿弥陀寺 浄土宗葛上郡玉手村万願寺末寺

同断

一、道場 一向宗西本願寺末

御所南方大川筋

一、稲葉井手懸り

本馬村 出屋敷村

北十三村 南十三村

(楯殿カ) 根成村

常門村 萩本村

寺田村 茅原村 観音寺村

一、常門村井手 但し、観音寺村江も式丁程懸り

一、村池三ヶ所

一、御制札 切支丹

〔常門〕

○常門村免定之事

万治元年十二月二日

(弓場豊文書)

戌年免定之事

一、高千拾四石五斗七升貳合 常門村

内五拾六石三斗四升 当くさりニ引

取米四百八拾八石六斗九升八合 田畑方

右之通惣百姓寄合無高下様ニ致割付、壬極月十日以前

皆済可仕者也、仍如件

万治元年

戌極月二日 井川市左衛門[㊦]

常門村

庄屋

惣百姓中

○常門村免定之事

天和二年十一月十二日

(弓場豊文書)

戌之年免定之事

一、高千拾四石五斗七升貳合 常門村

内五石壹斗 当不作ニ引

残高千九石四斗七升貳合

取米五百四拾五石壹斗壹升四合

右之通庄屋惣百姓立会無高下様致割符、極月廿日以前

急度皆済可仕者也、仍如件

吉川角右衛門(印ナシ)

天和貳^壬戌年十一月十二日

三好数右衛門[㊦]

井川市左衛門[㊦]

常門村百姓中

┌

○常門村免定之事

宝永元年十一月

(天國近世文書)

申之年免定之事

一、高千拾四石五斗七升貳合

常門村

取米五百七拾三石貳斗三升四合

内

米貳拾五石四斗 当木綿免引

残ル取米五百四拾七石八斗三升四合

右之通惣百姓立合無高下様ニ致割付、極月廿日以前急度

可致皆済者也

宝永元甲申年霜月

吉川 兵 蔵 ㊦

田原十兵衛 ㊦

竹崎兵左衛門 ㊦

三好覚左衛門 ㊦

常門村惣百姓中

┌

申之年免定之事

一、高千拾四石五斗七升貳合

常門村

内

三拾五石六斗貳升

当腐引

拾壹石七斗六升八合

水押綿用捨

残高九百六拾七石壹斗八升四合

取米五百七石七斗七升貳合

右之通惣百姓立合無高下様ニ致割符、極月廿日以前急

度可致皆済者也

享保元申ノ十一月十七日

吉川 新 平 ㊦

竹崎兵左衛門 ㊦

三好覚之進 ㊦

田原十兵衛 ㊦

常門村

惣百姓中

┌

○常門村免定之事

享保元年十一月十七日

(弓場豊文書)

新沢地区

○疱瘡麻疹御薬被為下候ニ付言上

享保十六年一月二十二日

(弓場豊文書)

五三五

乍恐書付以奉言上候

一、抱瘡麻疹御薬之方書被為仰下難有拜上仕候、尤去ル
戌ノ秋冬三十才以下者大方相煩難義仕候、□少之子共
(マ) 共人相果申候、残者旧冬本腹仕只今相煩候もの無御座
候ハ、未用不申候故御断奉申上候、以上、

享保十六年亥正月廿二日

常門村庄屋

宇兵衛

年寄

善六

今井

御役所様

○常門村拾ヶ年御免定写

享保十六年十月

(弓場豊文書)

拾ヶ年御免定之写

和州高市郡常門村

惣高千拾四石五斗七升貳合

享保六丑ノ年

一、四百八拾八石九斗八升六合 植村刑部様御知行所

- 同 七寅ノ年 五百六石六斗六升壹合 右同断
- 同 八卯ノ年 四百五拾九石七斗九合 右同断
- 同 九辰ノ年 三百五拾八石貳斗八升四合 右同断
- 同 十巳ノ年 四百五拾八石八斗八升貳合 右同断
- 同 十一午ノ年 五百拾壹石八斗七升七合 右同断
- 同 十二未ノ年 五百三拾石壹斗貳合 右同断
- 同 十三申ノ年 三百九拾九石四斗壹升六合 右同断
- 同 十四酉ノ年 五百四拾四石九斗五升三合 御料御代官所 幸田善太夫様御支配
- 同 十五戌ノ年 三百八拾七石六斗壹升六合 右同断

右之通ニ御座候以上、

享保拾六年亥十月日

常門村庄屋

宇兵衛

同断

善六

同村年寄

半次郎

同断

半兵衛

今井

御役所様

○飢人多数ニ付夫食御拝借御願

享保十八年一月十四日

(弓場豊文書)

乍恐書付ヲ以奉願候

一、当村飢人七拾六人夫食之義、去子冬^{十六人として}御願奉申上候、去冬^{十六人として}年越、村方長百姓之内、菜葉其外米抔式三斗宛あつめ、都合三石七斗是迄相渡シ介抱仕罷有候、最早此上少も施行致者無御座候、右人数之外次第飢人多ク罷成、難義仕候間、乍恐御慈悲ヲ以、夫食御拝借被為成下候様ニ奉願上候以上、

享保十八年

丑正月十四日

高市郡常門村

庄屋 宇兵衛[㊦]

年寄 利兵衛[㊦]

同断 徳兵衛[㊦]

今井

御役所様

○御免定双方庄屋方割賦状

享保十八年三月

(弓場豊文書)

新沢地区

享保拾七年

亥ノ年御免定之面双方割賦

高千拾四石五斗七升式合

内 五百八拾五石壹斗六升七合 善六方
四百貳拾九石四斗五合 宇兵衛方

内

三百八拾六石九斗九升四合 当量損くさり引

内 貳百貳拾六石八斗四升壹合 善六方
百六拾石壹斗五升三合 宇兵衛方

残ル高六百貳拾七石五斗七升八合

内 三百五拾八石三斗貳升六合 善六方
貳百六拾九石貳斗五升貳合 宇兵衛方

高ニ五ツ壹分六厘七毛

取米三百貳拾四石貳斗七升
内 百八拾五石壹斗四升七合 善六方
百三拾九石壹斗貳升三合 宇兵衛方

米八斗 藪開見取

取米合三百貳拾五石七升

内

石四拾七匁八分
三拾貳石五斗七合十分一

代銀壹貫五百五拾三匁八分三厘

内 拾八石五斗壹升四合七斗 善六方
代八百八拾五匁
拾三石九斗壹升貳合三斗 宇兵衛方
代六百六拾五匁壹厘

五三七

百八石三斗五升七合三分一
石四拾七匁二分

代銀五貫百拾四匁四分四厘

六拾壹石七斗壹升五合六夕六才 善六方

内 代式九百拾貳匁九分八厘 宇兵衛方

四拾六石三斗七升四合三夕四才

百八拾四石貳斗六合三分二厘納

内

百壹石五斗 双方方粗納

残テ八拾貳石七斗六合

内

四拾八石七斗六升惠米
石貳拾四匁五分

代銀壹貫百九拾四匁六分貳厘

貳拾八石壹斗貳升貳合九夕 善六方

内 代式六百八拾九匁壹厘 宇兵衛方

貳拾石六斗三升七合壹夕

三拾三石九斗四升六合
石四拾七匁二分

代銀壹貫六百貳匁分五厘

拾八石貳斗四升七合四夕四才 善六方

内 代式八百六拾壹匁貳分八厘

拾五石貳斗四升五合五夕六才

代式七百拾九匁五分九厘

宇兵衛方

八斗 藪開見取

代三拾七匁八分

是村下直四拾目ニ而亥ノ暮取此弁村へ
ル夫石惠米割不掛分高直ニ成

米合三百貳拾五石七升

内 百貳拾六石六斗七夕 善六方

九拾六石壹斗六升九合三夕 宇兵衛方

代銀合九貫四百六拾五匁分五厘

内 五貫三百四拾八匁七厘 善六方

外二

一、九石八斗七升四合 御口米 石五拾貳匁二分

代銀五百拾五匁四分三厘

内 五石六斗九升五合 善六方

代式百九拾七匁分九厘 宇兵衛方

内 四石壹斗七升九合

一、貳拾八石七斗七升八合 夫米

一、六斗九合 御伝馬宿

代銀壹貫三百八拾七匁七厘

石四拾七匁二分 善六方

拾六石九斗五升

内 代式八百目四厘 宇兵衛方

拾貳石四斗三升七合

代式五百八拾七匁三厘

宇兵衛方

一、三石 山年貢

一、壹石八升 藪年貢

二口代銀百九拾貳匁五分八厘
石二四拾七匁貳分

右之通御免定を以、双方立会算用割賦致シ、相違無之候、以上、

子ノ三月

常門村庄屋善 六匁

年寄半次郎 匁

庄屋宇兵衛 匁

年寄利兵衛 匁

○常門村年貢可納割付之事

元文四年十一月

(弓場豊文書)

未御年貢可納割付之衷

大和高田市郡

常門村

一、高千拾四石五斗七升貳合

内貳石三斗八升五合 当未臯損不毛付引

残高千拾貳石壹斗八升七合

此取米三百八拾壹石九斗三升五合 免三ツ七分七厘三毛

新沢地区

一、米八斗

取米合三百八拾貳石七斗三升五合

此取

三拾八石貳斗七升三合

百貳拾七石五斗七升八合

貳百拾六石八斗八升四合

外

一、米三石

一、米壹石八升

一、米拾壹石六斗四合

一、米壹石九斗壹升九合

但村高之内五拾五石三斗壹升六合大工煙亡高除之

一、米六斗九合

納合米四百石九斗四升七合

右者当未年御成箇書面之通候間、大小之百姓出作之者迄不殘立会、無甲乙致割賦、来ル極月中急度可令皆濟者也

者也

元文四年未十一月

(花井) 花庄九郎

五三九

藪開見取

十分一大豆銀納

三分一米銀納

三分二米銀納

山年貢

藪年貢

口米

六尺給米

御伝馬宿入用

右村

庄屋

年寄

惣百姓

┌

○常門村御成箇免定

寛保二年十一月

(弓場豊文書)

戌年御成箇免定

和州高市郡

常門村

一、高千拾四石五斗七升貳合

此取米四百三拾九石貳斗八合 高四ツ三分貳厘九毛内

米八斗 藪開見取

取米合四百四拾石八合

納訳

四拾四石壹合 十分一大豆銀納

三百九拾六石七合 九分米銀納

外

一、米三石

山年貢

一、米壹石八升

藪年貢

一、米拾三石三斗貳升三合 口米

納合米四百五拾七石四斗壹升壹合

米壹石九斗壹升九合

六尺給

外 米六斗九合

御伝馬宿入用

銀百五拾貳匁壹分九厘

御蔵前入用

是者去酉大川通御入用掛多候ニ付当戌御免除

右之通当戌御成箇相極候、村中大小之百姓出作之者迄

も立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日限

急度皆済可仕者也

与三右衛門

寛保貳年戌十一月

七右衛門

十郎兵衛

理助

権内

十蔵

治平

源太夫

右村

庄屋
年寄
百姓共

┌

○常門 出入訴状返答扣
萩本

天明五年六月

(日本地名学研究所蔵)

天明五巳年六月

常門 出入訴状返答扣
萩本

柏原村
勘十郎

乍恐書付ヲ以御願奉申上候

高市郡常門村
萩本村

一、重坂川通葛上郡柏原村領字上ノ岩鼻と申所ニ、当村用水井堰有之候、然ル処字前川と申川、柏原村北ノ方右岩鼻井堰之少シ上之方へ流落候而、専兩村之用水ニ仕来候、

一、右柏原村之東ノ方ニ字あしほりとやら申所ニ、同所彦右衛門所持之田地凡弍反歩余有之由、右田地へ相懸り候用水者、柏原村南ノ手より流レ来候井手水ヲ相掛ケ候と相見へ申候、

新沢地区

一、昨十八日字前川ニ杭筈土木等を入会候而、当年新規ニ水堰留メ、右之田地へ水入レ申候、尤逆水之儀故、至而高ク堰留メ不申候而者水入不申、仍之殊之外水たへ候付、西村之用水至而□差支ニ相成、全新規之儀故、両村井手郷之者共一同甚相怒リ、右杭筈等既取退ケ可申旨、度々申之罷在候処、大勢さわぎ立候義者、却而がさつケ間敷相当り候間、何分急速御見分御願申上、御上様ニ而筋目之御誘可奉蒙候間、今暫差扣候様村役人共方精々を尽、井手郷之者共申宥メ罷在候而、右井手郷惣代弍三人、右地主彦右衛門方へ遣応対致させ候処、彦右衛門申候ハ、前年右地ハ前川之水相懸ケ候得共、纔三反たらず之田地へ、相懸ケ候儀故、近年者井堰を致し、堰留之儀も不致中絶ニ相成候得共、当年者至而之早魁故、以前之通堰留候杯と絶言語候無跡方偽リ無筋斗リを申出し罷在候、尤兩村老年之もの共ニも、右前川方逆水を差留メ、水入候儀者古来方決而見聞及び候義者無御座、新規無筋之企御座候故、相

怒罷在候、

一、既去々卯年右彦右衛門儀、水車相企候砌も、両村井手郷者共へ対談之上、一札取置申候文言之内、其村方字岩鼻用水井堰之上ニ而水車企申候、尤両村用水之透間斗リ、借リ水ヲ以水車稼仕度、然ル上者年々苗代水堰揚之時節も、専用水御揚取之中ハ水車相休可申、猶用水差構ニも可相成義も難斗、向後用水差妨ニも相成候処、井手郷方被申立候ハ、水車相止メ可申旨、本人□一家儀□村役人連印之一札取置申候、

右躰両村大切之用水ニ候故、以来纔ニ而も堰留メ右之田地江水入させ候而者、両村并懸り之田地大ニ用水不足仕候義眼前之御事、勿論後代迄之不益井手郷之□相求候義、千万歎ケ敷奉存候故、不得止事乍恐御願奉申上候、何卒御慈悲ヲ以右彦右衛門急速御召出、御吟味之上右堰留置候杭榑土木等、急々取退候而、以来右前川水入不申様被為仰付被下候様奉願上候、此段御聞届被成下格別之御憐愍ヲ以□当御役所様ニ而急度被為仰

付被下度奉上申候、若相濟不申候ハ、無抛重訴ニも可仕、何分暫時も難捨置、殊ニ當時至而旱魃之砌ニ候故、甚難儀ニ相成罷在候、此段何卒御慈悲ヲ以御聞届被為成下候ハ、千万難有可奉存候、以上、

天明五年

巳六月廿日

高市郡常門村

庄屋 五郎兵衛印

同断 清左衛門印

年寄 和 助印

同断 新 七印

同郡萩本村

庄屋 吉右衛門印

年寄 良 助印

高取

御役所様

右願有之候故同廿一日、中山□兵衛殿、駒井喜作殿、御兩人御給分として出屋敷年預太左衛門方へ被出有之、一通り御尋有之、古市御役所へ差出有之候、延享元子年六月相認出候御普請、五十ヶ年帳満

願寺川筋四ヶ所之内故、其趣ヲ以返答書左之通、尤返答書差出候ハ廿二日ノ朝也、廿一日場所御給分給^(カ)候ハて廿日夜白雨有之岩崎方家居水つき無^一有付ヲ以相願候付廿日夜残取^一尤兩岸ノ土俵杭ハ有之候、

乍恐以書付返答奉言上候

葛上郡柏原村

勘十郎

一、柏原村領字片ふけ井手之儀、懸反別式反七畝歩ニ而、諸入用相掛難義ニ付、水沢山之節者貰水仕、常井手ニ不仕候得共、古來^カ水取入用之節ハ、井手揚水取來候、右井手揚入用難義ニ付、奉此節車井手有之に付、当年之処此井手^カ水取申度段、下郷井司常門村宗十郎と申ものへ、柏原村善兵衛与申ものヲ以頼遣候処、下^{シモ}ニ而水揚候様申候ニ付、無抛古來^カ之場所江水せき揚候処、此節川床已前^カ堀レ候付、水たゝへも多ク、重高ニ相見ヘ候ニ付、下郷^カ段々不理屈ヲ申出既御上様

新沢地区

之奉成御苦勞恐入奉存候、右地所ハ滿願寺川筋ニ而、以前花井庄九郎様御代官之節、御手当等頂戴仕候義有之、古市御役所之節延享元年子六月帳面等差上置有之候場所ニ而御座候、此度下郷与及出入候而者、何共懸リ反別無數、甚難渋之義ニ御座候間、何卒御慈悲ヲ以下郷納得仕候様被為仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上、

天明五巳年六月廿一日

葛上郡柏原村

勘十郎

庄や弥十郎

年寄弥兵衛

同 吉次郎

御役所様

口上

一、当御領所ニ相成候而^カ之例、十六年已前明和七寅年水取候所水たゝへ候而、難義之旨常門村五郎兵衛^カ申

五四三

越候ニ付、勘右衛門取斗ニ而上水はね遣申候、

一、十五年以前明和八卯年水取候所、前年之通上水はね遣申候、

一、九年已前安永六酉年水取候所、何之申分も無御座相

濟来申候、右之振合ニ而御座候、此度も水入候而跡ハ

上水はね遣可申心底之所、下郷カかさツニ致し、廿日

之夜貝ヨ吹大勢下カ登候而、既井堰手掛可仕様子相見

ヘ候、以前カ片ふけ井手下ノ橋カ上ヘハ、下カ瀬堀仕

候事も不致、枝川ニ而御座候、向後是等之訳もかさツ

ニ不仕様被為成下度、此段奉申上候、

巳六月廿一日

葛上郡柏原村

勘十郎印

庄ヤ弥十郎印

年寄弥兵衛印

同儀助印

御給分

御役人中様

奉差上済証文之事

一、満願寺川筋、柏原村氏神森カ東方道ノ西側ニ而、右村勘十郎当時所持式反余之田地ヘ、去巳六月濁水之

砌、堰留候而用水入取候ニ付、下郷常門村藪之木村、

右両村カ同六月ノ御出訴仕候所、右堰留杭筋速勘十郎

方カ取払候、其上双方御吟味之上御憐愍ヨ以同八月十

三日、高田村庄屋喜助新庄村庄屋庄右衛門ヘ取暖相談

下済為致候様被仰付奉畏、段々双方掛合、精々挨拶仕

出入一件取暖人右両人江貫ヒ請、以来互ニ無申分相談

下済仕候ニ付、乍恐御断奉申上候、猶先達双方カ差上

候訴通とも御下被成下候様奉願上候、誠ニケ様ニ下済

相調候故偏ニ御威光故与難有奉存候、仍而乍恐連印済

証文奉差上候、以上、

〔其時発訴ニ右川筋前川通り御書上ケ被下候所、柏

原村ニハ満願寺川筋と唱来候由与右済証文満願寺川

筋と書上候〔^(段カ)御座候事、

天明六年八月十日

常門村庄や

清左衛門印

同

五郎兵衛印

年寄

新 七印

同断

□ 七印

萩木村庄や

良 助

年寄

善 八

井出守常門村

惣十郎

柏原村

勘十郎

庄や

弥十郎

年寄

弥兵衛

新庄村庄や

挨拶人庄七郎

高田村庄や

同断喜 助

高取
御役所様

新沢地区

右之通出入一件此度拙者共 兩人江貫 (ムシ) 双方御

得心之上、下濟相調申候、仍之最初御役所様へ差上

有之候訴書者柏原村方之返答書共右之通願下ケ候上、

猶又双方村役人中封印ヲ以、右訴通共拙者共兩人へ封

印之儘髓相預リ置申候、然ル上者以来先規之通御心得

被成、近村之儀ニ候ハ、御互ニ睦敷可被成候、猶此段

柏原村へも申通添 (ムシ)

高田村庄や

喜 助

新庄村庄や

庄右衛門

午八月十日

井出郷

常門村

萩本村

役人中

○常門村宗門改帳寄帳写

文化五年二月

(弓場豊文書)

新沢地区

以上、

五四六

文化五年

文化五年

高市郡常門村

辰二月

大和高市郡常門村宗門御改帳式冊分寄帳

辰二月

庄屋 清左衛門

年寄 源 七

同断 弥 太郎

同断 利 兵衛

(帳)

浄土宗

一、家數合九拾貳軒

内寺三軒
去御改卜同事

高取

御役所

人數合三百三拾九人内男百七拾老人内僧貳人

浄土真宗

一、家數合拾五軒去御改卜同事

人數合七拾六人内男三拾貳人
女四拾四人

○常門村御成箇免定

文化十三年十二月

(弓場豊文書)

惣家數合百七軒内寺三軒
去卯御改卜同事

人數合四百拾五人内男貳百貳人内僧貳人
女貳百拾貳人

去御改後增人拾七人内男拾人
女七人

去御改後減人拾人内男五人
女五人

差引七人增牛七疋
馬無御座候

右者当村宗門御改帳式冊分惣寄書面之通相違無御座候、

子年御成箇免定

高市郡

一、高千拾四石五斗七升貳合

常門村

内

九斗五升六合 卯石砂入末川成引

残高千拾三石六斗壹升六合

毛付

此取米四百三石壹斗九合

高三つ九分七厘三毛余
毛付三つ九分七厘七毛内

米四斗四升四合 見取

┌

取米合四百三石五斗五升三合

納訳

内藤善左衛門[㊦]

右村

四拾石三斗五升五合

十分一大豆銀納

庄屋

三百六拾三石壹斗九升八合

九分米銀納

年寄

外

米三石

山年貢

米壹石八升

敷年貢

銀六匁

水車運上

米拾貳石貳斗貳升九合

口米

銀壹分八厘

口銀

米貳石貳升九合

六尺給

米六斗九合

御伝馬宿入用

銀百五拾貳匁壹分九厘

御藏前入用

右之通御預所当子御成箇相極候、村中大小之百姓出作之者迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日限急度皆済可仕者也

文化十三年十二月

村田丈四郎[㊦]

村瀬平格[㊦]

宮川庄太夫[㊦]

○隔年庄屋病氣ニ付御願奉申上候

文化十四年九月十一日

(弓場豊文書)

乍恐以書付御願奉申上候

高市郡常門村

一、当村隔年庄屋清左衛門儀病氣ニ付、去月三日退役御願奉申上候処、跡役村方ニ而相定、其上御願奉申上候様被仰付候ニ付奉畏、村方ニ而入札仕候処、則宇兵衛江多札ニ付同月廿二日以書付清左衛門退役御願申上、尤跡役之儀ハ右宇兵衛江被仰付被下度段御願奉申上候処、翌廿三日宇兵衛御召出シ之御差紙奉頂載、難有帰村仕、然ル処右宇兵衛病氣ニ付悴清兵衛代^(かわり)ニ罷出候処、本人罷出候様被仰付、依之帰村仕又々翌日右宇兵

衛儀ハ病氣故、御用之儀者伴清兵衛江被仰付被下度段、村役人連印之以書付奉願上候処、本人病氣ニ候ハ、快氣次第罷出候様被仰付奉畏、依之四月晦日右宇兵衛并村役人百姓惣代清左衛門病氣ニ付代人罷出候処、清左衛門休役之儀御聞届被為成、下候跡役右宇兵衛江被仰付候処、宇兵衛儀病氣ニ付御太切之役儀難相勤候訳、段々御断奉申上候処、從御上様御利解被仰付候ニ者、村方よりも札数□ハ、□依いたし候事と被存候間、先相勤若シ難相勤候ハ、村方ニ而跡役相定、御願奉申上候様被為仰付、恐入奉畏難有婦村仕候処、過日病氣全快之躰と相見江不申候故、庄屋嘉右衛門江宇兵衛病氣快氣仕候迄勤越いたし呉候様、右宇兵衛より相願候得共、嘉右衛門儀当春以来も病氣にて、未病氣も全快不仕、甚々難渋いたし居り候所、全役儀一日も相勤がたく候ニ付、早々交代も仕度奉存候ニ付宇兵衛段々懸ヶ合居候故、無抛只今迄相勤居候得共、尚又役人も夏多時節ニ相成、甚々迷惑仕候故、彼是御檢見時節

ニも差懸り候故、村方迄も右之訳相談仕候所、村方より申候ニ者、病氣ニ而難相勤候、御檢見時節難捨置候て、宇兵衛役儀御捨免之上、跡役之儀ハ以御賢慮、何連成とも被仰付被下度趣ニ而右之訳御願奉申上呉候様、村方より申之候ニ付、無抛以書付奉願上候、乍恐此段御賢考被為成下、右宇兵衛跡役之儀者急々何連成とも被為仰付被下度偏ニ奉願上候、右之趣御聞届被為成下候ハ、千万難有奉存候、以上、

文化十四年

常門村

丑九月十一日

当番庄屋 嘉右衛門

非番庄屋 宇兵衛

病氣ニ付代伴 清兵衛

年寄 源七

同断 嘉平

同断 利兵衛

百姓惣代 甚右衛門

高取御役所様

┌

○常門村御成箇免定

文政三年十二月

(弓場豊文書)

辰年御成箇免定

一、高千拾四石五斗七升貳合

高市郡
常門村

内

九斗五升六合 卵石砂入末川成引

残高千拾三石六斗壹升六合

毛付

此取米四百八石四斗貳升五合

高四つ貳厘六毛内
毛付四つ貳厘九毛余

米四斗四升四合 見取

取米合四百八石八斗六升九合

納訳

四拾石八斗八升七合

十分一大豆銀納

三百六拾七石九斗八升貳合 九分米銀納

外

米三石

山年貢

米壹石八升

藪年貢

銀六匁

水車運上

米拾貳石三斗(虫摺)八升八合

口米

新沢地区

銀壹分八厘

口銀

米貳石貳升九合

六尺給

米六斗九合

御伝馬宿入用

銀百五拾貳匁壹分九厘

御蔵前入用

右之通御預所当辰御成箇相極候、村中大小之百姓出作之者迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日限急度皆済可仕者也

文政三辰年十二月

村田丈四郎[㊦]

頼 瀬尾権兵衛(印ナシ)

村 瀬平格[㊦]

宮川兵左衛門[㊦]

内藤善左衛門[㊦]

右村

庄屋

年寄

惣百姓」

○萩本村明細書上ヶ帳

安政七年三月

(越智治喜文書)

五四九

安政七年

明細書上ヶ帳

申三月

大和国高市郡

萩本村

(前略)

耕作之間

男ハ蒔及繩なひ
女ハ木綿織糸つむき
稼仕候

田方凡

七歩通稲作
三歩通木綿并雜毛仕付申候

小作預ヶ田方

上田 壹反ニ付壹石四斗
中田 壹反ニ付壹石式斗

稻ハ

江内 早稲 中稲 高砂
二本木

晚稲 ちやくろほ

綿ハ朝鮮と申種ひろく蒔付申候

田方

植付ハ八拾八夜四五日前ニ苗代夜蒔付置、
五月節旬々半夏生迄苗植付申候

木綿ハ八拾八夜兩三日前ニ蒔付申候

木綿作肥シいたし反歩ニ付、菜種粕 壹駄式三歩ヲ仕入申候
壹駄五六歩

木綿ハ式百十日過分吹出シ申候

(下略)

○萩本村宗門改帳寄帳

弘化四年二月

(天図近世文書)

弘化四年

大和国高市郡萩本村宗門御改式冊分寄帳

未二月

三冊之内

惣家数合三拾式軒

内 寺道場式ヶ寺
去午御改卜同事

惣人数合百三拾五人

内 男 六拾六人
女 六拾九人

(牛) 去午御改以後減人四人

内 男 貳人
女 貳人

去午御改以後増人五人

内 男 貳人
女 三人

差引壹人増

右之通当村宗門御改帳式冊分寄帳、書面之通相違無御座候、以上、

弘化四年未二月

高市郡萩本村

庄屋 孫右衛門 印

高取 御役所

○常門村儉約申定連印帳

文久二年二月

(天図近世文書)

文久貳年 儉約申定連印帳 戌二月

儉約書

- 一、神事祭礼之儀者是迄之通相宮可申候、但宮座等之儀も神前之儀者随分大切ニ致し、其外之儀者成丈ヶ儉約ニ而諸支輕く相賄相勤可申事、
- 一、神事之節餅無用并客相招キ候儀堅致間敷候、親類たりとも酒肴等無用常躰ニ取斗可申事、
- 一、亥之子之節客相招キ候儀無用之事、
- 一、年中重箱物親類たりとも取遣り堅無用之事、

新沢地区

- 一、婚礼等之儀分限^方輕く致し馳走ヶ間敷儀決而致し申間鋪候、酒ハ常躰之盃ヲ以三献ニ限り祝儀相納候而有合候共大盃等一切出し申間鋪候、尤長座不致候而早速歸り可申事、

- 一、棟上其外祝儀事之節酒ハ式献ニ而祝儀相納盃さしおさへ等ニ而長座致し間鋪候、猶又大盃有合候共一切出シ申間敷早速引取可申事、

- 一、伊勢熊野其外所々江參詣之節留主見舞并土産物等輕キ品ニ而も取遣り無用之事、

但參詣下向之節悦ニ參り候共垣内切ニ致可申事、

- 一、正月年礼之儀三ヶ日ニ相勤可申、年玉等之儀者輕キ品ニ而も取遣り堅無用之事、
- 一、正月祝儀餅銘々家内之祝ひ斗ニ可致事、
- 一、正月中慰ニ事寄セ諸勝負ヶ間鋪儀何によらず堅致間敷事、
- 一、下駄雪踏草履等之儀目立候品相用ひ申間鋪事、
- 一、節会養父入等親類江參り候共平常之通ニ取斗可申事、

- 一、開帳其外見物事大勢以申合罷出候儀無用之事、
- 一、三月節句祝ひ之儀ハ家内限ニ致し少も費無之様可致事、

但初節句ニ而も音物取遣り堅無用之事、

- 一、連座之儀親類ニ而も相招キ申間鋪事、

- 一、五月節句祝ひ之儀家内限り致し費無之様可致事、

但初節句ニ而も音物取遣り堅無用之事、

- 一、盆之儀ハ村方相休候儀も十四日十五日両日ニ限り無

益之隙費シ申間鋪事、

- 一、百姓末々迄衣類之儀先達而被仰出候通相守可申事、

- 一、火之用心之儀常々無油断家内之者江申聞セ置入念氣

を附可申事、

- 一、不幸有之節大村ハ勿論小村ニ而も親類者格別之儀隣

家懇意之人ニ而も手伝可申哉相尋其家之勝手能キ様ニ

致し無益之費無之様取斗可申候、他所方之悔人迄も酒

出し申間敷矣、

- 一、他所ニ有之親類不幸有之節者村方之内より隣家之人

ニ而も世話相頼、悔ニ罷越候儀も本人江相尋其上申合
荒増悔ニ罷越候敷、又ハ惣代ニ而も參候敷、決而無用
と差留メ申候ハ、可任其意候、相互之事ニ候間無遠慮
世話人江申候而無益之費等無之様可致事、

- 一、年忌仏事永く相宮候様乍去随分軽く致し酒等一切出
し申間鋪事、

- 一、奉公人之儀主人方江奉公大切ニ相勤候様急度申聞

セ、不奉公致し不申様請人ニ相立候者方も猶更入念申

聞セ可申事、

- 一、小作年貢之儀是迄地主江納日限延引ニ相成地主方御

上納ニ手支難儀致候間此以後立毛取入次第手廻り致し

相納可申、尤十一月廿五日迄ニ相納可申候、右之心得

ニ而小作致し可申事、

- 一、此度淨国寺ニおいて村方一統立会候而去ル嘉永度成

年長尾村油屋伊右衛門殿方ニ而村借用銀有之候所右銀

返済ニ付村方一統申談候上村地并池床共入札之上売払

候而右代銀ヨ以及返済候、右ニ付近年村方追々困窮弥

増候ニ付村方一統申合式ヶ年之間請事檢約相談ニ候所

承知仕候ニ付前ヶ条書并左之通、

一、式ノ正月三月五月初節句ニ当り候方ハ客来之儀決
而無用之事、

右客来致候諸費と存村方江出銀

上々
一、銀五拾匁

上
一、同式拾五匁

上下
一、同拾五匁

中
一、同拾匁

中ノ下
一、銀七匁

下
一、同五匁

下々
一、同三匁

一、式ノ正月三月五月初節句之方江祝儀遣し候義堅無用

之事、右祝儀遣候為見替出銀

上々
一、銀五匁

上
一、同式匁五分

上ノ下
一、同壹匁五分

中
一、同壹匁

中ノ下
一、同七分

下
一、同五分

下々
一、同三分

一、神事連座客来決而無用之事、

右肴代と存村方江出銀

上々
一、銀式匁五分

上
一、同壹匁三分

上下
一、同壹匁

中
一、同八分

中下
一、同六分

下
一、同四分

下々
一、同式分

婚禮出銀

上々
一、銀百五拾目

上
一、同七拾五匁

上ノ下
一、同四拾五匁

中
一、同三拾匁

中ノ下
一、同式拾壹匁

下
一、同拾五匁

下々
一、同九匁

右之外ヶ条ニ相洩候儀も有之候得共、不依何事重箱物
取遣其外費ヶ間鋪儀有之候節ハ村役人江申談シ之上取
斗可申筈右之通り、村方一統申合之上者心得違無之候
様ニ急度相守可申候筈、若心得違申合相背キ候得者錢
壹貫文宛定過料村惣高江取之可申候、右之通村方一統
承知之上取極り申候、依之一統連印如件、

文久武成年二月

庄屋 源 七[㊦]

非番庄屋

安 治[㊦]

年寄

伊右衛門[㊦]

同

庄 蔵[㊦]

同

平右衛門[㊦]

百姓代

嘉右衛門[㊦]

(*以下八十四人略)

村御役人中

○稲木綿作共旱損ニ付御見分御願

慶応三年八月廿四日

(天図近世文書)

乍恐以書付奉御歎願候

和州高市郡常門村役人共一同奉申上候、当村方之儀当夏以来長々之旱魃ニ而田地養水難行届、稲作木綿作とも多分之損毛相立、逆も御定免相続相成候ニ付破免御検見入

之儀、小前一同申立相歎候間其段御歎願奉申上候処、右者破免等之儀者容易ニ御聞濟難相成儀ニ御時節柄旁以小前一同江得与利得申聞、定免相続可仕旨厚御利害之趣村役人共ニおゐる而奉恐伏罷在候得共何分多人数之小前のも共儀頻リニ難渋申立村役人共ニ申論候而已ニ而者相治り兼候ニ付何共奉恐入候儀ニ御座候得共、御出役様御差向被成下当村立毛旱損之場処一応御見分之上小前之もの共江厚御利解御諭被成下度此段乍恐御願奉申上候、右之趣御聞濟被成下候ハ、難有奉存候、以上、

慶応三卯年八月廿四日

常門村

小前惣代

源、太郎[㊦]

百姓代

嘉兵衛[㊦]

非番庄屋

森田源七[㊦]

庄屋

平右衛門[㊦]

中村勘兵衛様

御役所

○常門村家数人数公地社寺御調書上帳

明治二年四月

(天図近世文書)

明治二巳年	御調ニ付書上帳
四月日	大和国 高市郡 常門村

大和国高市郡
常門村

一、村高千拾四石五斗七升貳合

但シ領分知行所寺社領入組無御座候

一、戸数九拾九軒

一、人数四百七拾七人 内男貳百四拾人
女貳百三十七人

内社人 無御座候
内僧 三人

一、御普請所 貳拾九ヶ所

内用水堰 拾四ヶ所

川堤 九ヶ所

用水溜池 三ヶ所

新沢地区

板橋 三ヶ所

式内、稻代社 但シ末社無御座候

式外、三社明神

一、浄土宗寺 三ヶ所

一、御林 無御座候

一、御陵 無御座候

一、城陣屋番所 無御座候

一、御囲米蔵 組合村
岩ヶ所

右者今般御調ニ付取調候処、書面之通り相違無御座候、已上、

明治二己巳年

四月

高市郡常門村

百姓代

嘉兵衛 ㊦

年寄

伊右衛門 ㊦

同断

卯右衛門 ㊦

非番庄屋

源七 ㊦

庄屋

平右衛門 ㊦

五五五

奈良府出張

五条

御役所

○長寿ニ付御下金請印帳

明治二年九月八日

明治式年

長寿ニ付御下金請印帳

大和国高市郡

巳九月八日

常門村

(天図近世文書)

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

勘右衛門㊦

母とめ

当七十八才

与治郎㊦

母とめ

当辰七十式才

弥 助㊦

母きの

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

一、金貳百疋

并御添書壹通

当辰七十才

こ う㊦

当辰七十式才

そ ね㊦

当辰七十六才

宗 七㊦

妻ふみ

当辰七十才

き わ㊦

当辰七十壹才

房 吉㊦

母さよ

当辰七十三才

弥 七㊦

母くら

当辰七十式才

右之通我等長寿ニ付從御役所御下金并御添書壹通體ニ受
取申処如件、

明治貳年

巳九月八日

取次庄屋平右衛門殿

奈良県出張

五条御役所

○常門村御掟五人組帳

明治三年三月

(天図近世文書)

明治三年

御掟五人組帳

午三月

大和国高市郡

常門村

一、兼而被仰出候御制札并ニ追々御布告之趣弥以堅可相守事、

一、五人組之儀ハ町場ハ家並在郷者最寄次第家五軒宛組合ヲ立、悪事不致様互ニ可令詮儀事、

一、父母江孝ヲ竭シ家内親類睦間敷家業出情可致、若孝(ママ)行寄博勝而家業出情之もの有之者、其儘不差置可訴出

新沢地区

事、

一、村内ニおゐて変死其外都而異変之筋有之者至急可訴出事、

一、田畑永代売買制禁之事、

一、博奕賭之諸勝負制禁之事、

一、鉄砲之儀兼而貸渡し有之外隠持もの有之者可訴出事、

一、衣類諸道具等出所不分明之分不可買取事、

一、新規社寺建立并新規祭礼等不可成、且神仏開帳之儀免許無之分堅無用之事、

一、村内社人出家山伏借家之もの其外移多非人等ニ至迄胡乱成もの者住居為致間敷、且勸化配札等之もの当府免許之外一切為立入間敷事、

一、往還道橋者勿論堤川除キ之場所取役人共常々見廻り破損之場所ハ至急取繕置、猶農隙之節修理致候様小前末々迄申合置、洪水之節ハ村中之もの立出精々防方可致事、

一、村入用之儀可成丈ケ費ヲ省割合方都而正路ニ可致

五五七

事、

右之趣堅可相守もの也、

(以下村百姓人名略)

○常門村水車御調ニ付書上帳

明治三年六月

(天図近世文書)

明治三年

水車御調ニ付書上ケ帳

庚午六月

高市郡常門村

稼人平右衛門

高市郡常門村

稼人

平右衛門

文久貳壬戌年方拾ヶ年季
来ル未年迄

一、水車耆輪 但シ 輪三丈貳尺五寸
經壹丈五尺五寸

此冥加銀三匁貳分

但シ戌年ニ奉願上置候処、去々辰年御免定表ニ永五

拾三文三分有之候

右者今般水車御取調ニ付書面之通相違無御座候、以上、

明治三年

高市郡常門村

庚午六月

五五八

稼人

平右衛門[㊦]

右村年寄

伊右衛門(印ナシ)

庄屋

嘉兵衛(印ナシ)

奈良県租税

御役所様

○酒造改メニ付奉差上請書ノ事

明治五年二月

(天図近世文書)

奉差上請書之事

大和国高市郡

常門村

稼人平 太

元株高貳百八拾石
一、酒造高八拾石

醸造願高

醸造貳拾三石入桶

耆本

同 貳拾石耆斗入桶

耆本

同 拾五石九斗入桶

耆本

同 拾壹石入桶

外ニ拾貳石三斗入明キ桶

拾貳石壹斗入明キ桶

貳拾壹石四斗入明キ桶

貳拾壹石六斗入明キ桶

拾貳石六斗三升入明キ桶

拾貳石九升入明キ桶

古酒痛酒拾貳石三斗七升入桶

同 貳拾四石入桶

同 拾壹石五斗八升入桶

醸造高八拾石 辛未年仕込

此生酒七拾貳石

外ニ味淋酒壹石

右之通相違無御座候、以上、

明治五年

壬申二月

御出役御中様

新沢地区

○四拾七区戸籍取調書上ケ帳

明治五年二月

(天図近世文書)

壬明治五年
 申二月日
 奈良県第四拾七区
 区内戸籍取調書上ケ帳
 大和国高市郡
 常門村

第四拾七区ノ五番組

高市郡

常門村

戸數百拾四軒

内 社式社

寺三ヶ寺

家持六拾貳軒

借家卅七軒

人員四百六拾四人

内男 貳百四拾五人

五五九

新沢地区

十四以下 九拾人

十五以上 三拾四人

廿一以上 七拾人

四十以上 五拾人

六十以上 六人

出生人 拾七人

入籍人 八人

出籍人 八人

死亡人 無御座候

寄留人 拾五人

女 貳百拾九人

内十四以下 五拾八人

拾五以上 貳拾四人

廿一以上 七拾貳人

四十以上 四拾六人

六拾以上 貳拾三人

八拾以上 壹人

出生人 五人

入籍人 六人

出籍人 五人

死亡人 壹人

寄留人 十七人

右之通相違無御座候、上(以脱力)

第四拾七区五番組

明治五壬申

高市郡常門村

二月

副長

長谷川嘉市[㊦]

第四拾七区五番組

高市郡

常門村

職分表

僧侶 三人

農 六拾六人 農工商民 七十八人

大工 貳人

呉服商	壹人
酒造稼	壹人
油稼	壹人
野直医	壹人
筆学所	貳人
藍染職	壹人
木挽職	五人
雑業	拾五人
水車	壹人
機職	壹人
植木作	壹人
材木商	壹人
樽職	壹人
綿打職	壹人
米穀商	壹人
白米商	壹人
瓦職	壹人

新沢地区

床髮結 壹人
 煙亡 壹人
 右之通り相違無御座候、以上、

第四拾七区戸長
 弓場平太
 同副長
 長谷川嘉市
 年春
 岡本伊平
 森田源七
 岡本与七

奈良県
 御役所様

○区内戸籍取調書上帳

明治五年二月

(天図近世文書)

明治五年
 区内戸籍取調書上帳
 申二月
 大和国
 高市郡
 萩本村

新沢地区

第四拾七区四番組

高市郡

萩本村

戸數四拾四軒

内社壹ヶ所

寺貳ヶ寺

家持卅八軒

借家三軒

人員百廿三人

内男五拾八人

十四以下 拾九人

十五以上 五人

貳拾一以上 廿壹人

四十以上 拾人

入籍 貳人

死亡 壹人

出生無御座候

平均壹人増

女六拾七人

内十四以下

廿六人

十五以上

貳拾五人

四拾以上

十四人

六拾以上

貳人

人籍入

貳人

人籍出

壹人

死亡

貳人

平均 壹人減申候

右之通相違無御座候、以上、

第四拾七区四番組

高市郡萩本村

副長

明治五年 壬申二月

吉田三重郎

第四拾七区四番組

高市郡萩本村

職分表

僧侶

貳人

農 拾五人

雑業 四人

機織職 五人

大工職 三人

醤油造 壹人

出稼人 拾人

右之通相違無御座候

第四拾七区

戸長

弓場平太[㊦]

副長

吉田三重郎[㊦]

年寄

越知治三郎[㊦]

百姓代

松村庄三郎[㊦]

奈良県
御役所様

合併反別明細表

大和国四大区三小区高市郡

常門村
萩本村

一、改正反別百拾七町壹反壹畝廿二分

内訳ケ

一、田反別七拾五町六反三畝十八分

一、畑反別八町九反七畝五分

一、宅地反別六町四反七畝十四分

一、山林反別拾壹町八反八畝拾分

一、藪反別五反八畝廿七分

一、堤防拝借地壹反七畝拾七分

一、社地壹町六畝廿分

一、池敷壹町八反三畝拾壹分

一、芝地壹町五反廿分

一、塚地壹反六畝九分

一、墓地三反九分

一、川敷貳町四反八畝廿一分

○常門、萩本村合併反別明細表

明治十二年四月二十一日

(弓場豊文書)

新沢地区

- 一、井路敷三反十五分
- 一、道路敷三町五畝十八分
- 一、溝敷七反壹畝十五分
- 一、堤防式反八畝廿八分
- 一、畦畔壹町六反五畝分

合計百拾七町壹反壹畝廿式分

内訳ケ

- 百三町六反壹畝廿式分 常門村分
- 拾三町五反分 萩本村分

右之通り取調仕候処相違無之候也、

明治十二年四月廿一日

常門村総代

弓場宗十郎 ㊦

萩本村総代

越知治三郎 ㊦

堺県令税所篤殿

○常門、萩本村合村御願写

明治十二年七月

(弓場豊文書)

明治十二年卯七月
合村御願
大和国四大区三小区高市郡
合併常門村
萩本村
改称一
村

合村御願

大和国四大区三小区高市郡常門村

一、改正反別 百三町八反八畝拾式步

一、戸数 百式拾戸

一、人員 六百拾人

同区全郡 萩本村

一、改正反別 拾三町五反步

一、戸数 三拾三戸

一、人員 百六拾人

改称一
村

改正反別 百拾七町三反八畝拾式步

合戸数 百五拾三戸

人員 七百七拾人

右村々之儀者耕宅ニ及、飛地錯雜罷有リ諸事不弁利ニ付、地租御改正ノ際村民協議之上、前記之通合併改称仕度積ヲ以テ、既ニ地押願番ヲ附シ実地丈量反別帳等調製仕度候儀ニテ、願意御許被為成下候得者、冗費ヲ減シ至極宜ヲ得候儀ニ付別紙繪図面相添、村民一同連署ヲ以此段奉願上候、以上、

明治十二年七月

常門村方

弓場平四郎

(他百十九人略)

觀音寺村入作

辻本久次

(他八人略)

寺崎村入作

川端源次

(他五人略)

萩本方

吉中定次郎

(他三十一人略)

百姓惣代萩本方

前書之通相違無之依テ奥印仕候也

右区戸長

花井弥吾平

書面合村改称之儀聞届候事

明治十二年十一月五日

堺県

(*朱書、朱印)

堺県令税所篤殿

竹村弥十郎

吉田市平

吉田吉五郎

組頭 吉田寅造

総代 吉田三重郎

百姓惣代常門方

森田勝次

竹村弥七郎

組頭 森田源太

弓場平三郎

長谷川嘉市

総代 弓場宗十郎

○歳々御免定之写

(欠年)

(天図近世文書)

高市郡萩本村吉田□

一、文録^(禄)四歳御檢地御牧勘兵衛殿御改役人、

常門村萩本村一所ニ而御座候而、本水帳常門村ニ御座

候、萩本村ハ右之写本ニ而御座候、其節本田因幡守様

御知行所、寛永拾貳年^(アトフデ)及四年迄小野宗左衛門様御代官

^(アトフデ)

所御支配 江州大津御役所

一、寛永十六年卯年

常門村萩本村分ル

千百七拾壹石貳斗四升六合之内

一、高百五拾六石六斗七升四合

萩本村持高

内拾五石四斗七升壹合

荒高有

四石六斗壹升七合

屋敷高

四石七斗三升六合

畑高

一、寛永拾七辰年 七拾三石六斗三升七合

植村出羽守様御知行所

一、同拾八巳年 百拾四石三斗七升貳合 同断

一、同拾九年 九拾八石七斗五合 同断

一、同貳拾未年 九拾八石七斗五合 同断

一、同貳拾壹申年 九拾石八斗七升壹合 同断

一、正保貳酉年 九拾八石七斗五合 同断

一、同三成年 九拾九石壹斗五升五合 同断

一、同四亥年 八拾八石九斗壹升壹合 同断

一、慶安元年 百壹石貳斗八升六合 同断

一、同貳年 (記入ナシ) 同断

一、同三年 九拾六石貳升貳合 同断

一、同四年 八拾七石七斗三升八合 同断

一、承応元年 八拾七石七斗三升八合 同断

一、同貳年 八拾七石七斗三升七合 同断

一、同三年 七拾石八斗三升貳合 同断

一、明暦元年 八拾八石七升 同断

一、同貳年 八拾五石七斗七升 同断

一、同三年 九拾壹石四升四合 同断

一、万治元年	八拾六石六升八合	同断	一、同三年	九拾四石四合	同断
一、同貳年	九拾五石五斗七升	同断	一、同四年	八拾九石三斗五升四合	同断
一、同三年	七拾七石貳斗三升八合	同断	一、同五年	九拾八石七斗五合	同断
一、寛文元年	九拾四石五合	同断	一、同六年	九拾八石七斗五合	同断
一、同貳年	九拾六石四斗五升六合	同断	一、同七年	八拾八石三斗七升五合	同断
一、同三年	七拾貳石四斗貳升貳合	同断	一、同八年	八拾六石七斗壹升壹合	同断
一、同四年	九拾四石五合	同断	一、天和元年	九拾貳石五斗壹升六合	同断
一、同五年	九拾石八斗七升壹合	同断	一、同貳年	九拾五石五斗七升壹合	同断
一、同六年	八拾三石九斗五升九合	同断	一、同三年	九拾五石八斗六升七合	同断
一、同七年	八拾石六斗八升壹合	同断	一、貞享元年	九拾六石四斗壹升八合	同断
一、同八年	八拾九石六斗三升六合	同断	一、同貳年	九拾八石七斗五合	同断
一、同九年	八拾六石九斗九升六合	同断	一、同三年	九拾七石九斗貳升壹合	同断
一、同拾年	九拾石四升五合	同断	一、同四年	九拾七石九斗貳升壹合	同断
一、同拾壹年	八拾八石四斗五升八合	同断	一、元録 <small>(巻)</small> 元年	九拾壹石壹斗九升八合	同断
一、同拾貳年	八拾六石八斗壹升壹合	同断		御代官所竹村八郎兵衛様御支配	
一、延宝元年	九拾四石六斗七合	同断	一、同貳年	九拾壹石四升三合	同断
一、同貳年	八拾石八斗六升八合	同断	一、同三年	八拾四石八斗貳合	同断

- 一、同四年 七拾貳石七斗貳合 同断 一、宝永貳年 七拾九石九斗四合 御代官所西与市左衛門様御支配
- 一、同五年 七拾七石六斗八升三合 同断
- 一、同六年 四拾壹石四斗壹升三合 同断 一、同三年 八拾三石三升七合
- 一、同七年 七拾壹石貳斗七升 同断 御代官所石原新左衛門様御支配
- 一、同八年 七拾五石貳斗四合 同断 一、同四年 七拾貳石八斗五升四合 同断
- 一、同九年 五拾貳石五斗六升 同断 一、同五年 六拾四石八斗三升六合 同断
- 御代官所大庭清左衛門様御支配 一、同六年 六拾壹石九斗貳升八合 同断
- 一、同拾年 六拾九石八斗壹合 同断 一、同七年 六拾貳石七斗五升 御代官所石原新重郎様御支配
- 一、同拾壹年 七拾三石八斗五升六合 同断
- 一、同拾貳年 七拾二石九斗壹升六合 同断 一、正徳元年 六拾貳石貳升六合 同断
- 一、同拾三年 七拾五石貳斗 同断 一、同貳年 六拾三石三斗四升七合 同断
- 御代官所辻弥五左衛門様御支配 一、同三年 七拾石三斗八升貳合 同断
- 一、同拾四年 七拾壹石貳斗三升 同断 一、同四年 四拾壹石八升四合 同断
- 一、同拾五年 六拾四石六斗九升九合 同断 一、同五年 七拾貳石三斗五合 同断
- 松平美濃守様御知行所ニ成申候 一、享保元年 五拾五石六斗壹升四合 同断
- 一、同拾六年 七拾九石九斗四合 同断 一、同貳年 七拾三石壹斗壹升八合 同断
- 一、同拾七年 八拾三石三升七合 同断 一、同三年 三拾四石四斗貳升八合 同断

- 一、同四年 四拾六石九斗九升五合 同断
- 一、同五年 六拾九石三斗三升六合 同断
- 御代官所室七郎左衛門様御支配
- 一、同六年 六拾七石三斗九升 同断
- 御代官所間宮三郎左衛門様御支配
- 一、同七年 四拾貳石九斗七升八合 同断
- 御代官所会田伊右衛門様御支配 南都御役所
- 一、同八年 五拾七石二斗九升七合 同断
- 此年方初而永荒御引
- 一、同九年 拾八石壹斗五合 同断
- 一、同拾年 三拾三石七升 同断
- 一、同拾壹年 六拾七石七斗三升五合 同断
- 是方定免六拾七石七斗三升五合
- 一、同拾貳年 六拾七石七斗三升五合 同断
- 御代官所幸田善太夫様御支配 今井御役所
- 一、同拾三年 貳拾三石壹斗九合 同断
- 一、同拾四年 六拾四石六斗五升壹合 同断
- 一、同拾五年 六拾四石六斗五升壹合 同断
- 一、同拾六年 六拾四石六斗五升壹合 同断
- 御代官所近山清右衛門様御支配 今井御役所
- 一、同拾七年 三拾四石九斗五升三合 同断
- 一、同拾八年 六拾四石六斗五升壹合 同断
- 一、同拾九年 四拾八石六斗貳升八合 同断
- 一、同貳拾年 四拾三石四斗六升五合 同断
- 御代官所石原清左衛門様 御立会御支配 南都御役所
- 平岡彦兵衛様
- 一、元文元年 四拾壹石八斗四升貳合 同断
- 御代官所花井庄九郎様御支配 今井御役所
- 一、同貳年 六拾四石六斗五升四合 同断
- 一、同三年 五拾壹石八斗貳升 同断
- 一、同四年 六拾五石九斗九升五合 同断
- 一、同五年 四拾貳石五斗壹升四合 同断
- 一、寛保元年 六拾五石九斗貳升八合 同断
- 藤堂和泉守様御預所 古市御役所
- 一、同貳年 六拾七石壹斗三升五合 同断

一、同三年 六拾八石七升五合 同断

一、延享元年 七拾五石八斗三升三合 同断

一、同貳年 七拾石五升貳合 同断

この年神尾若狹守廻村

一、同三年 七拾三石四斗壹升五合 同断

一、同四年 五拾五石壹斗貳升七合 同断

一、寛延元年 六拾八石七斗九升五合 同断

一、同貳年 七拾五石九斗四升七合 同断

一、同三年 七拾四石四斗七升七合 同断

一、宝曆元年 七拾壹石四斗四升五合 同断

一、同貳年 七拾五石九斗三升五合 同断

一、同三年 六拾六石五斗七升壹合 同断

一、同四年 六拾四石貳斗三升壹合 同断

一、同五年 六拾六石七斗貳升六合 同断

一、同六年 六拾五石貳斗壹升六合 同断

此年江戸方御檢見

一、同七年 七拾壹石壹斗五升四合 同断

一、同八年 六拾七石貳斗六升六合 同断

一、同九年 七拾石七斗四升四合 同断

一、同拾年 六拾八石四斗六升五合 同断

一、同拾壹年 六拾九石五斗九合 同断

一、同拾貳年 七拾石貳斗五升 同断

一、同拾三年 六拾七石五斗八升六合 同断

一、明和元年 六拾九石壹斗五升壹合 同断

一、同貳年 六拾六石九斗四升壹合 同断

一、同三年 六拾石九斗三升三合 同断

一、同四年 六拾三石壹斗七升九合 同断

一、同五年 六拾四石壹斗五升四合 同断

一、同六年 六拾五石三斗壹升 同断

植村出羽守様御預所罷成申 高取役所

一、同七年 四拾八石六斗九升八合 同断

一、同八年 貳拾貳石壹升六合 同断

一、安永元年 六拾四石九斗壹升 同断

一、同貳年 六拾五石六斗三升三合 同断

一、同三年	六拾五石七斗貳升七合	同断
一、同四年	六拾五石七斗七升八合	同断
一、同五年	六拾五石九斗四升	同断
一、同六年	六拾壹石三斗六升九合	同断
一、同七年	六拾五石五斗三升六合	同断
一、同八年	六拾貳石五斗貳合	同断
一、同九年	六拾六石壹斗四升三合	同断
一、天明元年	六拾石五斗七合	同断
一、同貳年	四拾六石四斗七升四合	同断
一、同三年	六拾貳石六斗六合	同断
一、同四年	六拾四石五斗五升壹合	同断
一、同五年	五拾八石貳斗壹升貳合	同断
一、同六年	五拾八石三斗五升四合	同断
一、同七年	六拾六石七斗貳升三合	同断
一、同八年	六拾六石八斗三升七合	同断
一、寛政元年	六拾七石八合	同断
一、同貳年	六拾三石八斗三升六合	同断

一、同三年 六拾三石壹斗六合 同断

○常門村支配者變遷覺

(久年)

(弓場豊文書)

第五大区拾小区

高市郡常門村

一、文禄四乙未年迄之儀ハ不詳

一、常門村御檢地奉行御牧勘兵衛殿、文禄四乙未年秀吉公御治世高取本田因幡守殿知行所万治元戌年迄九拾八年相成候、

但シ檢地帳之儀ハ先々ヨリ聞伝有之ニハ、紛失相成更ニ見当リ不申候、

一、万治元戌年方享保五子年迄六拾三年之間、高取植村内記録知行所其時之代官衆井川市左衛門、井川吉之丞、田原權兵衛、吉川角兵衛殿夫々御名前略之、
一、享保六丑年方同十三年迄七ヶ年之間、植村刑部様御知行所之事、

一、享保十四酉年右戌年迄貳ケ年之間、御料相成幸田善太夫様御支配御座候、

一、享保拾六亥年右同寅年迄四ケ年之間、近山清左衛門御代官所ニ御座候、

一、享保廿卯年右辰年迄貳ケ年之間、石原清右衛門殿御支配所ニ御座候、

一、元文貳巳年右同酉年迄五ケ年之間、大和国今井町代官所花井庄九郎様御支配所ニ御座候、

一、寛保二戌年右明和八寅年迄三拾ケ年之間、古市御預り所ニ御座候、

一、明和八寅年中右安政五年迄八十七年之間、高取植村駿河守殿御預り所ニ御座候、

一、(アキ)
一、安政五年年右同年迄三ケ年之間、五条代官松永善之助様御支配所内藤本左衛門様、鈴木源内様

一、万延元申年右元治元子年迄五ケ年之間、植村殿御預り所、

一、元治元子年右五条陣家再建ニ相成、明治三未年迄九ケ年之間五条御代官所、

一、明治四年右正改(マツ)ニ被成、高取出張所ニ相成、明治六年奈良県一廳ニ御座候以上、

〔川西〕

○川西六家由緒記

天正九年一月

(梅本晴久文書)

古書貳卷扣

於是清和天皇十二代後胤越知右馬允親家者住宇野庄而属源家、元曆年中戰源平於西国顯働功、元治之春販和州、于時為加增賜越智根成柏原之三箇領、故為住所於越智而改苗字ヲ、于然根成之里者往昔菅公御在世之砌、于爰有遊覽而哥会之泊地也、為我領地者神護厚所矣、然後菅公御遠請(カ)及元久元年三百年故、建立一寺而以菅公配所之縁号安樂寺、其上境内造立石碑為二男光惡法師住寺、就中為川西増田口寺役者而以來從越智家住僧及為相統云々、

其後至文明三年春赤痘流行而諸民不穩曾及命者不少、越智伊予守家榮公欲救此難而使誑法華千部、依之民家穩靜也、然後至永祿三年根成近郷因作相重而民家悴之、於是越智伊賀守家盛公起懇慈恩而欲レ祠守護神而近郷寄反十銅而、同七年甲子十一月五日始而使為造宮、則從越智之宮奉勸請於天滿宮、就中川西六家者越智家代々由緒有之故、名乘岸田増田前川生川橋本梅本等、今度依命而務於造宮隨役尤抽丹誠、不斜御感而后領主家重宝土佐光益因画天神一軸賜於六家中、以之為宮本婦之証規（註）也、于爰根成柿中久保氏者從而近郷長成神務而從無神事怠愆^二、郷民渴仰而悉得神德而民家□昌、于然慈明寺左門二男藤原定次者可為筒井家相統雖有之、由緒虛弱而難遂本意、向後欲（頭力）神加護而為祈願根成天神宮百日參籠、則私領箸喰邑新造仮家籠居、於是其上從本宮東去於拾余町而、於北野筑科所每朝為獻備於御膳（佐力）祈之、是地為川西領者成□之六家中、且又賜從領主天神画像□拝借旨応命而送之於仮家每朝自拝而滿百度然後身心健而為筒井家相統、依

之仮屋敷者反忝敵之除地者為天神画像神事□謝而賜六家中依之及六家老年者居之而為役事云々、於是越智紀伊守家林公之三女子富局者為畠山尾張守政長之家臣丹下次郎左衛門広則之妻、于然明応元年四月、河州正覺寺合戰夫広則討死ス、依之婦古郷越智而后薙髮而称宗春、地名金剛院建立自庵連婢女二人住、於是而后為二人共尼改妙真妙清、為川西六家之者補佐役事而使貢大石井路布施米、六家之一家每年相代而主井役曾尽於懇誠、于時明応八己未年正月十一日、宗春行年四十九而卒、則号玉台院雲峯宗春大禪定尼、雖然兩尼為庵相統而如先例使貢布施米、于時永正六己巳年十月廿一日、妙真行年五十一歲而死、号霜岳妙真禪定尼、就中日辺地独身難居故任勇山娘多美為妙信之弟子、薙髮而称妙春、依之自庵無滯相統、于然天文式癸巳年四月十六日、妙清行年六十三而死、号円応妙清禪定尼、依之橋本伊九郎娘喜代為尼而称妙贊、為妙春弟子自庵相統、于時天文十九庚戌年八月廿日妙春行年卅一而死、則号龜光妙春禪定尼、就中独身雖難居、

六家中可為尼者無之故、生川宇平太之後室多津女四十八

才成故□□而使居妙贊 与而后雍髮而稱了覺故自庵漸相

続、于時永錄十二年己巳五月二日妙贊行年三十四而死、

号聖覺妙贊禪尼、雖然可為庵主者無之故六家老婆為留主

居、于時天正二年申戌正月七日了覺行年七十一歲而死

別、号雪山了覺禪定尼、然後欲難統自庵而祈庵地改之旨

処有免許而以來六家中被下置、依之自庵邑地卒而為納布

施米而限六家中為永支配而、使出於他家反別式合五夕

云々、

右為後証者也、天正九巳年正月 越智玄番御書判

.....(継紙アリ、紙質並筆致ヲ異ニス).....

右為後証者也

天正九巳年正月

越知玄番頭(花押)

(継目裏印)

和陽 川西千塚山下
梅本姓 一信庵滿生

○川西郷祠布施米覺

天正九年一月

(梅本晴久文書)

於是川西之郷者往昔川西梟師、蘇我稻目同心而於此地雖

筑於千首塚、□業而□其佘徒百六騎越智家繁榮之砌、号

六家地士而免許於苗宇而、菅公之旧地根成柿鎮守兩社御

造立勸請之節、抽丹誠賜御家重宝一軸卯書添、就中箸喰

領役地者從藤原定次公為祈願滿座卯書添而給之、然後宮

座講及大石井路御神酒之儀式者、越智紀伊守家林公之三

女子雖嫁丹下治郎左衛門広則、河州合戰討死後、雍髮而

受越智公之命建立金剛院、春日社地自庵而媒女二人連而

于爰住而、大石井路米反壺升宛惣而取之、布施米五升從

出作取之、每年使為貢於春日庵為六家此役事、故復反式

合五夕為出集之而為役事給米而后三尼没、于時從越智公

春日庵并大石井路米等及役米共卯書添而賜六家中、依之

庵主御命日正月十一日獻備御神酒於大石井路為相伴、九

月十四日者越智公之秘日故、謂式日而同烈座而為具敬礼

矣、故一族外家者使為出於式合五夕云々、
右為後証者也、

天正九年己正月 越智玄番頭判

○元禄九年村山協定絵図裏書

元禄九年六月廿三日

(前川彦左久文書)

指上申絵図裏書之事

一、双方立会論所吟味絵図面少茂相違無御座候、為其連
判如此御座候、以上、

元禄九年子六月廿三日

和高市郡川西村

庄屋 権三郎

年寄 九兵衛

同 源五郎

同 太兵衛

同 孫兵衛

同国同郡北越知村

庄屋 助三郎

新沢地区

年寄 清次郎

同 善四郎

京三条大宮町

絵師 六右衛門

○川西村年貢銀皆濟目錄

文政十三年四月

(前川彦左久文書)

丑歲御年貢銀皆濟目錄

一、米五百貳拾三石三斗九升六合

高市郡 川西村

此納訳

五拾貳石三斗四升

十分一大豆銀納

此銀貳貫七百六拾貳匁貳分四厘

但 壹石二付

銀五拾貳匁七分七厘五毛

四百七拾壹石五升六合

九分米銀納

此銀三拾貳貫五百七匁壹分

但 壹石二付

銀六拾九匁九毛

外

一、米三石六斗七升五合

小物成米

一、銀貳匁八分

醬油造冥加銀

五七五

一、米拾五石八斗壹升貳合 口米

一、銀八厘 口銀

一、米壹石九斗三升貳合六夕 六尺給

一、米五斗七升九合八夕 御依馬宿入用

一、銀百四拾四匁九分四厘貳毛 御藏前入用

外 米 貳拾壹石九斗九升九合四夕

此銀壹貫五百拾八匁分六厘 但九分米同直段

納合銀三拾六貫九百三拾五匁三分貳厘貳毛

右者去丑年本途并小物成品々令皆濟ニ付、度々相納候、

請取通ひ与引替如斯候、重而手形類差出候共可為反古者

也、

文政十三寅年四月

村田丈四郎 ㊦

右村

庄屋
年寄

└

辰年御成箇免状

一、高九百六拾六石貳斗七升七合

内

貳石壹斗五升八合 辰砂入引

四拾五石五斗八升 当辰稻作旱損皆無引

殘高九百拾八石五斗三升九合 毛付

此取米三百四拾九石四斗壹升五合

高三つ六分壹厘六毛余
毛付三つ八分四毛余

納訖

三拾四石九斗四升壹合 十分一大豆銀納

三百拾四石四斗七升四合 九分米銀納

外

米三石 山年貢

米六斗七升五合 藪年貢

銀貳匁八分 醬油造冥加銀

米拾石五斗九升三合 口米

銀八厘 口銀

○川西村御成箇免状

天保三年十二月

(前川彦左久文書)

米壹石九斗三升貳合六夕

六尺給

米五斗七升九合八夕

御伝馬宿入用

銀百四拾四匁九分四厘貳毛 御藏前入用

右之通御預所当辰御成箇相極候、村中大小之百姓出作之者迄茂立会此免状を以無相違致割合、当十二月十五日限

急度皆済可仕者也、

天保三辰年十二月

吉川三右衛門[㊦]

村田丈四郎[㊦]

瀬尾権兵衛[㊦]

駒井孫太夫[㊦]

村瀬丈左衛門[㊦]

右村

庄屋

年寄

惣百姓[㊦]

○家主引請証文

天保七年九月

(前川彦左久文書)

新沢地区

天保七歲申九月

家主引請証文

去ル巳三月從高取御役所様御出役様御出被遊、当村借家ニ無宿人住居致し候様御糺ニ付、家主ども一言之申訳無之候ニ付、無宿人早々為立退、以來無宿人ハ不及申、於在方百姓不致候ものハ決而差置間敷旨被仰渡候、尚又借家貸候節、其もの出所家業之様子聞届、隣家組頭江相談之上、慥成請人手形取之、村役人江一札差入、借家可貸、借家人共百姓之儀ニ候ハ、農行專一ニ為致、御法度筋ニ少茂相携不申候様、常々家主方申渡シ置可申事
右之趣被仰渡承知奉畏、請書奉差上候上ハ、以來心得違無之様、急度相守可申候、然ル上ハ家主方夫々連印ニ而、村役人江差入候一札左之通り

御出役

新沢地区

沢井伴治様

川田与市様

差入申引請一札之事

一、借家貸候節御出役様被仰渡之趣、急度相守貸可申候、然ル上ハ借家人共百姓之儀ニ候ハ、村地作り候共、御年貢納米ハ無滞為相納可申候、万一不納仕候ハ、本人ニ不拘家主ト急度相納可申候、其外不依何事、如何様之六ヶ敷儀出来候共、家主江引請、御村方江少茂御損難相懸ケ申間敷候、為後日引請依而如件、

借家持川西村

家主彦重郎[㊦]

同断をとよ[㊦]

同断八良兵衛[㊦]

同断源右衛門[㊦]

同断彦兵衛[㊦]

家主三重郎[㊦]

同断嘉助[㊦]

同断長右衛門[㊦]

五七八

同断嘉七[㊦]

同断又兵衛[㊦]

同断七兵衛[㊦]

川西村 御役人中

○川西村御成箇免定

天保八年十二月

(前川彦左久文書)

酉年御成箇免定

一、高九百六拾六石式斗七升七合

高市郡

川西村

内

式石壹斗五升八合

辰砂入引

残高九百六拾四石壹斗壹升九合

毛附

此取米四百六拾八石七斗壹升六合

高四ツ八分五厘壹毛内

毛付四ツ八分六厘貳毛内

納訳

四拾六石八斗七升式合

十分一大豆銀納

四百式拾壹石八斗四升四合

九分米銀納

外

村瀬丈左衛門[㊦]

米三石

山年貢

右村

米六斗七升五合

藪年貢

庄屋

銀貳匁八分

醬油造冥加銀

年寄

米拾四石壹斗七升貳合

口米

○子年御取箇懸札

惣百姓

銀八厘

口銀

米壹石九斗三升貳合六夕

六尺給

欠年丑三月

(前川彦左久文書)

米五斗七升九合八夕

御伝馬宿入用

銀百四拾四匁九分四厘貳毛

御蔵前入用

毛附高九百六拾四石壹斗壹升九合

高市郡

右之通御預所当酉御成箇相極候、村中大小之百姓出作之

者迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日

一、米四百八拾六石六斗四升八合

川西村

限、急度皆済可仕者也、

一、十分一大豆直段

銀六拾壹匁七分八厘三毛

天保八酉年十二月

一、九分米直段

銀六拾七匁四分八厘八毛

吉川三右衛門[㊦]

村田丈四郎[㊦]

右之通可相心得もの也、

小物成とも

瀬尾権兵衛[㊦]

丑三月 高取役所

林 小左衛門[㊦]

○辰年御取箇懸札

(前川彦左久文書)

欠年巳四月

五七九

新沢地区

五七九

辰御取箇懸札

一、米三百四拾九石四斗壹升五合 高市郡 川西村
免三つ八分四毛余

一、十分一大豆直段 銀六拾五匁三厘六毛

一、九分米直段 銀七拾壹匁分貳厘三毛

小物成とも

右之通可相心得もの也、

巳四月 高取役所

○川西村年貢可納割附之事

安政二年十二月

(前川彦左久文書)

卯御年貢可納割附之事

檢見取
一、高九百六拾六石貳斗七升七合 大和高市郡 川西村

此訳

田高八百七拾壹石八斗貳升九合

此取米四百六拾七石五斗貳升

外米拾九石九斗壹升壹合 檢見去寅減

畑高九拾四石四斗四升八合

内高貳石五升八合 前々砂入引

殘高九拾貳石三斗九升

此取米貳拾八石貳斗壹升三合 去寅同

内訳

高九拾貳石貳斗九升

此取米貳拾八石貳斗九合

雜毛屋敷

高壹斗

此取米四合

天保十四卯年 取下

一、取米合四百九拾五石七斗三升三合

外米拾九石九斗壹升壹合 檢見 去寅減

外

一、米三石 山年貢

一、米六斗七升五合 戴年貢

一、銀貳匁八分 無年季 醬油造冥加銀

一、米五斗八升 御伝馬宿入用

一、米壹石九斗三升三合 六尺給米

一、銀百四拾四匁九分四厘 御蔵前入用

納合 米五百壹石九斗貳升壹合

銀百四拾七匁七分四厘

右者当卯検見取御取箇書面之通相極条村中大小之百姓入
作之もの迄不殘立会無高下割合、来ル極月十日限急度可
令皆済者也、

安政二卯年十月 内藤左衛門

右村

庄屋

年寄

惣百姓」

家数合

無印共

七拾貳軒

内寺

貳軒

道場

壹軒

煙亡

貳軒

人数合

貳百九拾五人

内男 貳人
女 百三拾八人

百五十三人

(中略)

右之通当村家数寺其外前書之名前之もの牛馬ニ至迄相改
候処、書面之通相違無御座候、以上、

大和国高市郡

川西村

○川西村宗門惣帳

安政四年三月

(前川彦左久文書)

安政四巳三月

安政四年

宗門惣帳

巳三月 大和国高市郡

川西村

百姓代 七兵衛
年寄 嘉平治
同断 重兵衛
同断 彦兵衛
兼帯庄屋 長兵衛

内藤奎左衛門様御役所

○川西村年貢皆済目録

文久二年三月

(前川彦左久文書)

西御年貢皆済目録之事

高九百六拾六石貳斗七升七合

大和国高市郡
川西村

一、米五百拾七石三斗壹升九合

本途

内

米五拾壹石七斗三升貳合

十分一大豆銀納

此銀五貫九百七拾壹匁貳分七厘

但大豆壹石二付

銀百拾五匁四分貳厘七毛

米四百六拾五石五斗八升七合 九分米銀納

此銀五拾五貫八百拾五匁五分

但米壹石二付

銀拾九匁八分八厘貳毛

一、米三石六斗七升五合

小物成

此銀四百四拾目五分七厘

但右同直段

一、銀貳匁八分

醬油造冥加銀

掛米五百貳拾石九斗九升四合

一、米拾五石六斗三升

口米

此銀壹貫八百七拾三匁七分六厘

但右同直段

一、銀八厘

口銀

一、米五斗八升

御伝馬宿入用

此銀六拾九匁五分三厘

但右同直段

一、米壹石九斗三升三合

六尺給米

此銀貳百三拾壹匁七分三厘

但右同直段

一、銀百四拾四匁九分四厘

御藏前入用

寅方亥迄拾ヶ年賦

一、銀三百六拾四匁

困窮相統拝借返納

一、銀七貫五百拾七匁七分五厘貳毛

当酉方丑迄五ヶ年賦

申御年貢石代間銀

納合銀七拾貳貫四百三拾壹匁九分三厘貳毛

右者去西御年貢本途小物成其外書面之通令皆済ニ付、小
手形引上一紙目録相渡上者、重而小手形取出候共、可為
反古者也、

文久二戌年三月 松善之助㊦

右村
庄屋
年寄
百姓代

未^レ西迄三ヶ年定免
一、高九百六拾六石貳斗七升七合

此訳

田高八百七拾壹石八斗貳升九合

内高五石九斗六升三合 床掘石砂入引

残高八百六拾五石八斗六升六合

此貢米三百七拾七石三升八合

畑高九拾四石四斗四升八合

内拾石四升五合 床掘砂入引

「外高拾貳石六斗八升九合 当未起返」(後筆)

残高八拾四石四斗三合

此貢米貳拾壹石貳斗三升

貢米合三百九拾八石貳斗六升八合

米四拾七石 田米正納

内 米三百三拾石三升八合 田米石代

此永千百三拾九貫貳百九拾壹文貳分

米貳拾壹石貳斗三升 畑米石代

此永七拾三貫貳百三拾七文壹分

○宗門改帳

明治三年

(米集計ノミ)

浄土真宗方

一、家数廿一軒

道場壹ヶ寺

一、人数七拾九人

僧 壹人
男 四拾壹人
女 三拾八人

外ニ牛三疋

浄土宗方

一、家数五拾七軒

寺貳ヶ寺
煙亡貳軒

一、人数貳百五拾三人

僧 壹人
内男 百三拾五人
女 百拾八人

○川西村租税免定之事

明治六年十二月

(前川彦左久文書)

未年租税免定之事

大和国高市郡
川西村

新沢地区

一、米三石六斗七升五合 小物成

此永拾貳貫六百七拾七文六分

掛米四百壹石九斗四升三合
一、米拾貳石五升八合 口米

此永四拾壹貫五百九拾六文五分

納合 米四拾七石

金千貳百六拾六兩三分

永五拾貳文四分

右者去々末年租稅書面之通致皆濟候付於先臬可相渡処廢
臬相成候ニ付此度小手形引替一紙相渡者也、

明治六年 十二月 奈良臬 奈良臬 (朱印)

右村

戸長

副戸長

総百姓

┌

金橋地区

〔東坊城〕

○箸喰村領内当村田地ニ付取替書

寛文三年八月二十一日

〔村島兵治文書〕

取替申一札之事

一、箸喰村領之内ニ坊城村之新通湯預ケ申田地合八畝貳

拾歩

内

長サ五拾貳間
横式間半 田方四畝拾歩

此米壹石八升二合
但シ壹反ニ付式石五斗ツ、

長サ五拾貳間
横式間半 畠方四畝拾歩

此米八斗六升四合
但シ壹反ニ付式石ツ、

米合壹石九斗四升六合 斗切永代無高下預ケ申候事

一、新通湯之下ニ而川堤成不申候ハ、此方之田地無異

金橋地区

儀預ケ申候事、

一、坊城村横井方砂堀留迄川表ニ加多と無御座候、以来
新儀堀申間敷候、

右之通川西村喜兵衛殿、同村総右衛門殿、出村久三
郎殿、兩三人御出被成出入候を喰、右之通相濟申
候、仍後日之証文如件、

寛文三年卯ノ八月廿一日

箸喰村庄屋

源右衛門 ㊦

同村年寄

弥 介 ㊦

同村

甚七 郎 ㊦

同村

甚右衛門 ㊦

坊城村庄屋

吉介殿

同村

御百姓中

同庄や

久介殿

御百姓中

○箸喰村領内永代預ケニ付相定証文

寛文十年二月十八日

(村島兵治文書)

相定証文一札之事

一、坊城村井手通湯之堤被成候ニ付、箸喰村領三反畠と申所、東ノ岸長拾九間ニテ八歩ヲ、永代坊城村へ預ケ申候、此御年貢米納舛八升宛毎年無相違御納所可被成候、右相定之通ニ以来相違申分無御座候、自然岸ノ内破損仕候者、其方方御普請被成候御約束ニ御座候、為後日一札如件、

寛文拾年戌二月十八日

箸喰村庄屋

源七郎印

同年寄

甚七郎(花押)

同村

喜三郎(花押)

坊城 又介殿

同 久介殿

○たま女請状之事

延宝八年二月二十六日

(村島兵治文書)

請状之事

一、大和之国高市郡之内東坊城村太良介殿へ、山城国相楽郡和束郷湯舟村之内上戸口村重右衛門むすめたまと申女子、申ノ二月戌ノ暮迄拾五年ノ年之切御奉公致させ申候、則給分として銀子四拾目被下慥ニ請取、御定米ニ指上ケ申候、此者取にけ欠落仕候ハ、其品々ヲ改主をも尋出シ、急度返并可申候、若尋出シ申義不罷成候ハ、御目付人代ヲ相立、御約束之通無相違御奉公相勤させ可申候、若人代御氣ニ入不申候ハ、右之給銀ニ式割之利足ヨクわへ、年々倍ニ仕候而銀子相済可申候御事、

一、此者宗旨浄土宗ニ而西願寺旦那ニ而御座候、若御法度之宗旨と申者御座候ハ、此判形之者罷出早束埒明可申候、御事則外ニ寺請状も遣ニ申候、

一、此者御公儀様方も又ハ村中方も少も構無御座候、右之通我等共御請ニ相立申候御約束之通、無相違御奉公相勤させ可申候、若年季之内如何様之義出来仕候共、此判形者急度埒明可申候、仍而後日之請状如件、

延宝八年

湯舟上戸口村
奉公人親

重右衛門

申ノ二月廿六日

同小橋村
請人

左 吉

東坊城村
太良介殿旨

○てかいと坊城村田島覺

天和元年十二月二十五日

(村島兵治文書)

てかいと坊城村田島之覺

一、字名みそ川田壺ヶ所

御年貢高壺石式斗五合

一、同小西田壺ヶ所

同 九斗三升式合

同 壺斗六升

金橋地区

一、同弓場南口屋敷壺ヶ所

同 四升八合

同 式斗九升

同 三斗六升四合

一、同西かと島壺ヶ所

同 五斗式升八合

同 六升四合

一、同北川島壺ヶ所

同 式斗七升九合

一、同屋敷壺ヶ所

同 壺升六合

右之田島前々々出作高^(引)地ニ而御座候、外ニ畝高之田島拾壺ヶ所有之候ヨ、銀子三百匁付永代此方へもらい申候ニ付、相残り候其方之田地永代御免諸役、又ハ村諸事小入用本作上田^{百姓}ナミニ致算用申約束ニ御座候、此上段いかやう之義出来仕候共、於此田地へ互ニ申分無御座候、為後日証文如件、

坊城もらい主

庄右衛門

天和元年

同 もらい主

酉ノ極月廿五日

源 助

五八七

同村役人

弥一郎

元禄元年

御下和東郷上戸口村

重右衛門

同村同

甚太郎

巳三月廿七日

同村

左吉

今井細井戸屋

弥兵衛殿参

┌

同村庄屋

利左衛門

同村年寄

覚兵衛

小堀仁右衛門様

┌

○たま女不奉公ニ付指上ケ済状

元禄二年三月二十七日

(村島兵治文書)

指上ケ申済状之事

一、御下山城国和東郷上^{湯舟}戸口村重右衛門娘たまと申女銀

子ヲ借シ年季を切抱申候処に、当正月^夕奉公勤不申候

付、御訴訟申上御裏判頂戴仕有難奉存相斗重右衛門ニ

相渡シ申候へハ、驚入内証ニ而彼女年季之通帰シ奉

公勤させ可申与詮言申候故、内証ニ而相済シ申候、此

上双方互ニ申分無御座候、以後奉公無^{無沙汰仕候、口探とも可}悉勤可申と申候、

仍而済状指上ケ申候、以上、

和州高市郡坊城村

六 助

○借金銀並質物利金ニ付大目付廻状

元禄六年十月

(村島兵治文書)

西十月廿八日大御目付中^方

至来廻状之写、此御書付水野

和泉守様御渡被成候

一、元禄年中金銀吹替以来米穀高直ニ候処、近年下直ニ

相成候得共、借金銀并質物利金前々之通りニテ諸人致

難儀候由相聞候、依之元禄十五年午ノ年以来之借金銀

を、向後利金五分以下たるべし、今暮前ニ之借金は追

越シ手形を致なおし借用候茂、是又利金同然之事、

一、唯今迄元利不相濟分ハ、今度利分減少シ不及沙汰ニ候事、

一、右之趣双方相違無之様ニ急度可相守、此上返弁滞候

ハ、借シ元々□体所へ可相届候、若又右定々利金下

さるにおゐてハ借リ主々可訴出事、

一、新規の借金銀者尤相戦次第たるべし、(対カ) 猥に高利ニす

べからざる事、

(元禄六年)
西十月

┌

○しゅうけ川水車ニ付取替状

享保八年九月一日

(村島兵治文書)

取替状

一、しゅうけ(生花)川筋近年水少ク成、上下共水車不働ニ付、

互ニ相止居申候処、此度相談之上此方所持之水車当卯

ノ十月方来ル丑ノ五月迄拾ヶ年之間かし分ニいたし、

此方之車相止申ニ付、借シ料として壹ヶ年ニ新銀百五

金橋地区

拾匁宛ニ相究、毎年霜月中ニ請取申管ニ而、其方車働

申候、

一、此方水車うけとゆ口ノそこ、是迄之通りニ分抗を立

合付置申候、其方之車ハまきとゆ之尻ニ而、そこを改

分抗打置申候、右相究之年通此方水車しけ申候者、右

分抗之通りしかけ可申候、

右之通り相談之上相定申儀、互ニ申分無之候、仍而後日

状如件、

享保八年卯九月朔日

六 助

兵 助 殿

┌

○坊城村御取ケ覚

寛保三年十一月十九日

(村島兵治文書)

坊城村御取ケ覚

一、畑綿高四拾石五斗三合四夕

此御取り拾七石五斗

五八九

右之外残高御定免以庄屋年寄惣百姓立会陸ニ致免割、
来極月十日限ニ急度皆済可致者也、

- 一、米拾石五斗 御救米被下

寛保三亥ノ年十一月十九日

高木兵太夫[㊦]

庄屋

年寄

惣百姓中「」

○差上ケ申砂留証文

寛保四年三月

(村島兵治文書)

差上ケ申砂留証文之事

- 一、毎年度々被仰付候山方川筋砂留之儀、弥以無油断急度奉相守候事、

- 一、山方はけ申所者筋芝を付、萱葭木苗何ニ而も其所之地心相応之物植付、土砂流不落様可仕事、

附り、山方土砂流可出方角、焼畑切畑新規不仕候事、

- 一、川面杭柵等仕川茹致シ、水行少茂滞不申様ニ仕候事、

- 一、川筋川原ニ新開之儀ハ不及申、藪開或ハ藪生出シ堤築出シ、其外何ニ而も新規成儀仕、川面せはめ申間鋪

夏、

附り、川筋川端田畑之かこひニ成可申所ハ、御願申上ケ御檢分之上御差図請可申事、

- 一、川筋破損并山方崩レ所并手つゆ崩等迄、其筋早速注進可仕候、少茂隠置申間敷候事、

右之条々毛頭相背申間鋪候、若相違成儀御座候ハ、如何様ニも可被仰付候、為後日庄屋年寄連印証文仍如件、

寛保四年甲子三月

藤堂勝兵衛殿御知行所
高市郡坊城村

庄屋 兵 助

年寄 弥 三郎

金春大夫殿御知行所
同郡同村

庄屋 治 兵衛

年寄 吉 三郎

植村三蔵様御内

土砂留御役

築山半平殿

内藤九郎兵衛殿

○辰年御年貢申渡覚

寛延元年閏十月

(村島兵治文書)

○庄屋役跡目申渡覚

延享二年十一月

(村島兵治文書)

申渡之覚

今般庄屋兵助儀急病ニ而相果候、二三年之乍役儀殊外
実躰ニ相勤候ニ付、跡庄屋役則悴其方江被仰付候、未
年若ニ候間、今年^〆五ヶ年之間後見新平江被仰付候、
尤儀右衛門相談ニ相加里候様ニ被仰付候間、諸事御用
向太切ニ相守、少茂御後闈儀不仕、実躰可相勤候、万
端勤方只今迄親兵助相勤候趣ニ心得可申候、以上、

延享二己丑年十一月

難波茂左衛門[㊤]

高木兵太夫[㊤]

坊城村前庄屋兵助^悴

吉助江[」]

当辰御年貢申渡覚

高六百九拾貳石三升九合

米六百三石五斗三升九合四夕

坊城村定免七ツ六步ニ^〆
定式之口米夫代駄賃加へ
私共ニ定納[」]

米八斗壹升九合

毎年井手江被下

米壹斗四升

毎年かへ井ニ被下

内 米貳斗七升九合

右同断

米九拾石

(当辰綿作虫付檢見
引被下候)

小以九拾壹石貳斗三升八合

残テ米五百拾貳石三斗壹合四夕

当辰納[」]

右者当年綿方格別不作之上、又候虫付候ニ付定免之内た
りといへとも檢見被仰付、帳面吟味之上以御慈悲過分之
引方被下置候間難有奉存、收納之儀十一月十五日限急度
可令皆済者也、

難波茂左衛門[㊤]

寛延元^戊辰年閏十月

高木兵太夫[㊤]

坊城村

庄屋

後見

惣年寄

┌

米三拾貳石六斗八合

残而五百七拾石九斗三升壹合四夕 当午納辻

右者当午年御年貢米定免之通相定候条十一月晦日切急度可令皆済者也、

寛延三庚午年十一月

高木兵太夫

坊城村

庄屋

年寄

惣百姓

┌

○午年御年貢申渡之事

寛延三年十一月

(村島兵治文書)

当午御年貢申渡之事

高六百九拾貳石三升九合

一、納米六百三石五斗三升九合四夕

坊城村定免七ツ六分ニ

定式之口米夫代駄賃

加江弘共定納辻

内

米八斗壹升九合

毎年并手へ被下

米壹斗四升

同かへ井へ被下

米貳斗七升九合

右同断

米拾壹石三斗七升

稲方不作へ被下

米拾石

畑綿方へ被下

米拾石

虎并手掛り度々水かへ致出情候御百姓分斗へ為御救被下置

○向ウ廿四ヶ年御田地作徳支配申付覚

寛延三年十二月

(村島兵治文書)

覚

字東地黒

一、壹反九畝五歩

上高壹石九斗九升

東伯

一、壹反九畝九歩

上高貳石九斗壹升六合

桶ノ口

一、三畝貳拾歩

上高七斗六升六合

同所

一、五畝三歩

上高八斗壹升六合

花ノ木
一、七畝拾五歩

上高巻石式斗

高六百九拾貳石三升九合
一、納米六百三石五斗三升九合四夕

こもいけ
一、貳畝

上高三斗貳升

坊城村定免七ツ六分ニ
定式之口米夫代駄賃
加払共定納辻

川原

高三斗八升八合

内

垣内田

高六斗四升

米八斗壹升九合

毎年井手へ被下

一、四畝
屋敷新平預り之内

高巻斗四升四合

米壹斗八升

同かへ井へ被下

川久保
一、七畝

(下記アキ)

米貳斗七升九合

右同断

右之御田地作徳凡拾九石三斗、当庚午年十二月カ癸巳年

米百三拾貳石

当年綿不作へ被下

十二月迄貳拾四ヶ年之間、坊城村年寄支配申付候条相改

百三拾三石貳斗三升八合

メ引渡シ可申候、尤年数相立候ハ、江戸表江相伺可申者

残而四百七拾石三斗壹合四夕 当未之納辻

也、

右者未年御年貢米定免之通申付候条十一月晦日切急度可
令皆済者也、

寛延三庚午年

高木兵太夫㊦

十二月

庄屋吉助方㊦

寛延四辛未年十月

中野平学㊦

○未年御年貢申渡之事

坊城村

寛延四年十月

(村島兵治文書)

庄屋

当未御年貢申渡之事

年寄

惣百姓

金橋地区

五九三

○起請文前書之事

(欠年) 巳ノ八月

(村島兵治文書)

起証文前書之事

一、当七月上旬方大旱ニ蒸セ強ク候ニ付、綿方黍虫(ママ)附申候、其外大豆小豆粟等まで殊外悪敷候、因茲綿方不作ニ付、此度両村惣役人江本検見同然之内検見被為仰付奉畏候、然ル上ハ銘々心ニ及候尺見分仕、第一御為之処奉存、次ニ者為百姓之毛頭依怙(カ)負仕間敷事、

一、惣而検見之節、昼食之外所々休処瘡賑之休足仕間敷候、休足者葎蓆斗ニ可仕候、却而検見之節御百姓大勢附随ヒ訴訟ケ間敷義口々不申様ニ前々急度申付罷出可申夏、

右之趣、検見ニ出候節、両村年寄共江可申聞者也、

巳ノ八月

曲川村庄屋

孫

七墨印

坊城村庄屋

吉

助同断

午王書様之次第

梵天

帝釈

大日本

神祇

少し茂

後闇儀(ママ)

依怙

鼻負

仕候ハ、

蒙御罰

者也

巳ノ八月

村嶋 新平 同断

曲川村庄年寄 忠次郎 血判

同 長右衛門 //

坊城村庄年寄 清五郎 //

同 弥三郎 //

同 彦七 //

同 善次郎 //

同 甚平 //

曲川村庄屋 孫 七 //

坊城村庄屋 吉助 //

次兄 村嶋 新平 //

塩井儀右衛門 //

○雨乞願滿行事ニ付重而非礼御詫一札

八月二十一日

(村島兵治文書)

請書之事

一、米貳拾石

坊城村綿作り
御救米被下

一、米八拾石

御延米
來ル寅五月廿日切

一、当月十七日坊城村

八幡宮ニ而雨乞願滿シ仕候儀、御役所江御届茂不申

上、今春太夫殿下役人共と相談之上俄ニ相勤、勿論孫

太郎江茂不及相談之儀重々私申訳無御座候、

一、同月袴村ニ而雨乞之願滿之相勤、御役所ニ茂御出被

成候所、私シ心得違ニ而伺御機嫌ニも罷出、御婦之

節も罷出御暇乞も不仕候段、重々奉誤入、一言之申訳

無御座候、以上、

酉八月廿一日

坊城村年寄

兵右衛門

右躰之証文年寄役人三人差上ル

┌

○御用捨米ニ付請書

天明元年十二月五日

(村島兵治文書)

金橋地区

ニ御座候、

一、此度願筋ニ付、彼是と申候儀、御上様御構之段、毛

頭無之候様ニ我等請合申候、為後日之依テ如件、

天明元年丑十二月五日

坊城村庄屋

新左衛門(花押)

坊城村年寄

半 平(花押)

同断

与市郎(花押)

曲川村年寄

孫右衛門(筆印)

坊城村

百姓中

┌

(天明二年)
寅七月十三日

和州高市郡坊城村

願人百姓惣代

兵右衛門 ㊦

同 平 八 ㊦

久兵衛 ㊦

善治郎 ㊦

作兵衛 ㊦

源 介 ㊦

弥三郎 ㊦

佐 助 ㊦

高井徳左衛門様

○関所通行手形之事

天明二年七月十六日

(村島兵治文書)

御関所通り手形之事

一此者百姓八人、右者大和国高市郡坊城村迄差遣候条、

御関所無相違御通可被下候、以上、

天明二年寅七月十六日

金橋地区

藤堂将監内

高井徳左衛門

碓水御関所御番士衆中

○年寄二名退役御願い

天明二年九月

(村島兵治文書)

乍恐書附ヨ以御願奉申上候

一当度御延米取立之頃、百姓ニ難義為致候堀梁助殿おな
かどの方迄年寄甚六、弥右衛門朝夕人目を忍入込梁助
殿同心之由、依之百姓不帰依ニ御座候間、右両人のも
のとも退役被為仰附被下候、且又坊城ニおゐて御逗留
中梁助殿并善太郎、甚六、弥右衛門右四人新右衛門門
内江入込之儀、御差留メ被下候而、丹下様御慈悲御賢
慮を以、御取忝成被下候ハ、難在仕合ニ奉存候、以
上、

天明貳年寅九月

坊城百姓六十八人印

西山丹下様

五九七

○綿たばこ大不作ニ付御用捨御願

天明二年十月十九日

(村島兵治文書)

乍恐書付を以奉願上候

一当年綿たばこ両作皆損之大不作ニ付、御收納銀差上ヶ申手立少茂無之、依之当年之儀ハ米納斗ニ而、御收納可致様ニ与、年寄中江段々相願候得共、何之御返答も無之、剩当十九日切ニ御收納可致旨被相触候儀、我々

共願ヲ捨置、皆損之大不作ニ何ヲ売、御收納銀調達可

致哉、御心得違之様ニも乍恐奉存上候、將又百姓方御

願ニ付、御毛見被為遊候通、来春之種綿程茂無之、何

ヲ以御收納銀調達可致哉、何卒御堅慮を以、米納斗ニ

而納所被為仰付候得者、御收納早速可致候、

一たばこ之儀、当度大風ニ付、荒作ニ相成、又々干上ヶ

之頃雨降続、腐葉ニ相成、大不作ニ而御座候間、先達

而年寄中江御願申上置候事、右之品得与御存乍在、願

を捨置被成候事、ふしぎニ奉存候、依之^(マメ)乍恐御願奉

申上候、我々共格別大損ニ相成候、綿作同前ニ御用捨

米御願奉申上候、

一稲作之儀、中作ニ存居候間、近年者御定免被下置候者、太^(右カ)昧^(左カ)之不作ニ而者、御用捨米も御願不申上、是迄

御毛見願指控^(差カ)へ稲取入仕候処、取味甚無數、此節ニ相成当惑仕候、何卒御憐愍与被為思召、稲作ニ御用捨米御願奉申上候、以上、

天明貳年寅十月十九日

坊城村百姓

太兵衛[㊦]

- | | | | | | | |
|------------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|
| 善 | □ [㊦] | 平 | 八 | 孫 | 七 | 長五良 [㊦] |
| 利 | □ [㊦] | 弥平次 [㊦] | 兵右衛門 [㊦] | 彦四良 [㊦] | | |
| 半 | 助 [㊦] | 久 | 助 [㊦] | 源四郎 [㊦] | 弥市良 [㊦] | |
| 彦四郎 [㊦] | 源 | 助 | 清 | 七 | 弥三郎 [㊦] | |
| 太 | 助 [㊦] | 源 | 八 | 武兵衛 [㊦] | 仁兵衛 [㊦] | |
| 彦兵衛 [㊦] | 忠右衛門 [㊦] | 久兵衛 [㊦] | 六兵衛 [㊦] | | | |
| 弥 | 七 [㊦] | 久 | 治 [㊦] | 惣 | 七 | 嘉助 [㊦] |
| 和 | 助 [㊦] | 幸 | 助 [㊦] | 清 | 助 [㊦] | 宗七 [㊦] |

儀兵衛 源 助 文 七 清五郎
 小兵衛 平 七 孫 助 弥兵衛
 佐 助 安兵衛 小右衛門 伊兵衛
 源兵衛 長兵衛 作兵衛 源助他出無印
 平次郎 武 助 長三良 伝 七
 伊兵衛 半 七 伊右衛門 勘 七
 善次良 新四良 善次良 佐 七
 清 七 又治郎 平 助 吉右衛門

西山丹下様

(*但シ連名ハ四段組ニ改メク)

○曲川役所出入ニ付江戸表下向日書覚

天明二年十二月

(村島兵治文書)

天明元丑年霜月乃曲川役所

出入乱ニ付、日書之覚

一、丑ノ十二月五日 百姓五拾三人江戸下之積ニ而萩原

迄行、同六日不残帰村

一、寅ノ五月廿八日 組頭十三人曲川長屋江入、同六月

五日ニ帰村

一、ク六月廿六日 百姓八人江戸下リ、七ツ時乃発足

ニ而桜井泊リ

一、七月八日 百姓江戸品川江着、九日五ツ時ニ

屋舖江参リ、同九ツ時ニ宿江着

一、ク七日 丹下様江戸発足ニ而御登リ

一、ク廿六日 丹下様曲川江着

一、八月六日 百姓江戸乃帰村、江戸七月十六日

立

一、ク十六日 新左衛門乃金三両さし上

一、ク廿八日 新左衛門殿慎ミ御免

一、ク七日 孫太郎、曲川又七閉門被仰付

一、九月十六日 曲川梁助殿退役被仰付

一、ク廿八日 右両人共閉門御免

一、十一月十八日 伊助殿江年寄役被仰付

一、十二月朔日ニ 丹下様御下リ発足被成候

○困窮百姓書附ヲ以奉願上候写

天明二年十一月

(村島兵治文書)

書附ヲ以奉願上候

一、從先年御田地沽却之百姓^カ、村支配ニ為致候浮地と申田地者、御上江奉差上ル御年貢ニ而預リ支配仕候者無之、依而村役人^カ下免ニいたし小百姓江割付支配為致候所、損米多是^カを百姓^カ惑イニ相成ル事甚難儀仕候、依而先年曲川治左衛門殿江此一件相願候所、其節為損米四拾石宛年々ニ被下、難有存居候所、中古^カ是を下被下候、然候て近年者沽却百姓多ク先年とは浮地も弥増而、損米者不申及多ク相成此節困窮之百姓^カ損米を惑イ御上納仕候義者、我々共格別之極難とも^カに沽却仕様ニ相成、以後は村方退転仕候事眼前ニ奉存候、何卒浮地損米御殿様^カ御隣愍と被及思召、以前之通り年々ニ被為下候様、御願相申上候、御慈悲と思召、村方者相続之もといと広大難在奉存候、以上、

天明式壬寅歲十一月

坊城百姓

西山丹下様

○兵右衛門隠居被為仰付ニ付願上写

天明三年十月

(村島兵治文書)

乍恐書附ヲ以奉願上候

一、去年六月^カ百姓惣代八人江戸表江御願申上候事、百姓一統ニ江戸江下り御頼申上候旨御座候得共、近年困窮之我々共路錢ニ差詰リ致し方無之、百姓寄合玉鬪致し、取当ル者右八人御願ニ江戸江下り候、夫ニ付、右惣代之者ニ難儀為致間敷由、証文取為替仕其後御願ニ下り申候、不調法之処、此度御免被為成候儀、難在奉存候、

一、当村兵右衛門儀、右願筋ニ付、隠居被為仰付、未ダ引込慎ミ罷居候兵右衛門玉鬪取当り、無是悲御願ニ江戸表江下り候、其節八人之者御殿様御籠ニ附御直訴可仕候処、御上下之為を存じ御屋舖江出所仕候儀、何之兵右衛門私歎野心ニ無御座、皆我々共之為ニ御座候、殊ニ右申上候惣代ニ下り候節、証文為取替難儀為致間

敷相對仕置候、兵右衛門老入隱居仕込居候得者、老入之迷惑ニ無御座、百姓一統之難儀ニ御座候、取訊兵右衛門忤無御座独身ニ而慎ミ居候、損難乍恐御賢察被為下、百姓一統之難儀ニ御座候間、我々共連印之以兵右衛門隱居御免之段、御願奉申上候、何卒御免被為仰附被下候得者、百姓一統ニ広太之御慈悲と難在奉存候、以上、

天明三癸卯年十月

惣百姓

付印

都合六十三人

西山丹下様
高井徳左衛門様

○諸事見物残敷之定

寛政四年九月

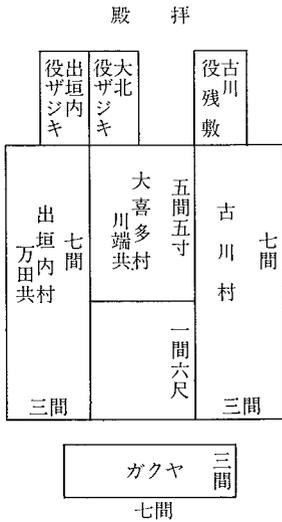
(村島兵治文書)

諸事見物残敷之定

一、当社ニ願滿シ操芝居之儀者、六拾六ヶ年以前享保拾

金橋地区

式年ニ有之、尤其砌者当御宮入用弓場村春日明神入用致一所ニ、坊城中惣高ニ割懸候ニ付、^(礎カ)鋪等も五ツニ割村々居所定有之候得共、事昔ニ替り候、然ル処去ル亥年雨乞ノ願開ニ操芝居上り候へ共、同八月廿日之夜大風ニ付森木吹折、社内ニ横たえ并村方損毛多ク大難之時節ニ而、沙汰致ス者無之ニ付、明ル子ノ八月迄延引相成候所、右願滿シ操芝居仕ニ付、^(礎カ)残敷之異論及候所、古河村喜平治、出垣内兵右衛門兩人右之論取曖被致候而事相濟、此度芝居見物之残敷者三ッ割にして、村々居所相定左ニ記畢、



一、八幡宮御残鋪之儀者別当神宮寺一人ニ而、余人決而相成リ不申事

一、拝殿座席之儀者古來之通三割村々居所、繪図左ニ記

古川村	出垣内村	大喜多村 川端共
-----	------	-------------

右之通ニ而後々残敷論無之筈ニ而、三方役人并噺人立会致印形、三通を村々へ沓通ツ、持歸リ、以後申分無之様定書仍而如件、

寛政四壬子年九月

取噺人古河村 喜平次

同 出垣内村 兵右衛門

川端庄屋 次 助

大北年寄 太右衛門

以上、

○大凶作ニ付御歎御願奉申上候写

寛政十一年十二月二十二日

(村島兵治文書)

御歎御願奉申上候

坊城村願人

役人

同 惣代 平 八

出垣内年寄 利兵衛

同 年寄 新 平

万田年寄 武兵衛

出垣内惣代 彦四郎

古川年寄 与七郎

同 年寄 安右衛門

同 惣代 勘兵衛

┌

百姓

一、古今ニ稀成大凶作ニ付、百姓之銘々共失途方何と可相成前後之失弁ヲ居候ニ付、身之置所を案し暮し必至ニ御座候処、段々御用捨米厚ク广大無量之御慈悲末長ク不忘難有仕合ニ奉存候、然レ共親妻子共ニ食物ニ可喰もの無御座候、哀ニ被為思召御上納米百貳拾余石御延米御願奉申上候、是を以相統百姓仕度何卒御憐愍篤ク御願奉申上候、御上々様江御歎奉申上候茂恐多奉存候へ共、必至ニ相極候間、御助御願申上候、以上、

寛政十一年

極月廿二日

坊城村

庄や新 平印

年寄 兵右衛門印

庄や与市郎

年寄源 介

〃 武兵衛

庄や作兵衛

年寄源 介

惣代 貳 人

御役所様

〇代々庄屋替り役地元支配之覚

文化頃

(村島兵治文書)

坊城村代々庄屋替り役地元支配之覚

覚

寛永三寅ノ年ニ冥加金百兩収納仕候而家屋敷田畑久助江被下候

但シ久助ハ先役人ハ無調法ニ付一國御払被仰付候

寛永三卯宝永五子歳九月迄八拾三歳之間庄屋役勤之事

右之内 寛永三卯 拾式ケ歳之間 久助

寛永十四年卯 拾八ケ歳之間 又助

明暦二年^乙

八ヶ歳之間

吉助

寛文四年^乙

四拾五ヶ歳之間

又助

吉助

助七

八拾三ヶ歳也

宝永五子歳九月十七日ニ又助弟源助江田畑三拾ヶ歳之間

御預ヶ被成候

但シ宝永六丑ノ五月五日ニ無調法又助被成候、依之

田畑家屋敷被召上候、其後源助江御預ヶ被成候

寛保三亥歳迄

源助

三拾三ヶ歳之間

伊助

寛保三亥歳十月十七日ニ兵助江被仰付冥加金百両差上三

拾ヶ歳之間田畑御預ヶ被下候

子ノ年三月十四日□□
金三拾両

〃 六月十一日下ス

右百両之内 金貳拾両

〃 六月廿一日下ス
金貳拾両

〃 十一月十一日下ス
金三拾両

延享貳丑ノ歳十一月廿五日ニ弟吉助江跡敷被仰附候、宝

曆三酉歳八月廿九日ニ御免

宝曆三酉ノとし迄

兵助

拾ヶ歳之間

吉助

宝曆三酉歳九月^乙明和九年辰ノ五月迄新平悛新左衛門両

人相勤申候

宝曆三酉ノ年^乙

新平

貳拾ヶ歳之間

新左衛門

明和九辰ノ歳五月ニ後ノ伊助江被仰付候、安永五丙申歳

十月十四日退役被仰付候

明和九辰ノ年^乙

伊助

五ヶ歳之間

安永五申ノ歳^乙天明三卯ノ歳迄新左衛門川はた孫太郎両

人ニ而相勤候

安永申年^乙

新左衛門

七ヶ歳之間

川はた 孫太郎

天明三卯歳七月二日ニ伊助江帰役被仰附天明七丁未歳十一月朔日ニ退役

天明三卯ノとしカ

五ヶ歳之間

伊 助

天明七丁未歳十一月カ甚六江被仰付候、右之田畠村役人支配ニ相成候、

天明八戌申八月十二日夜退役

十ヶ月之間

甚 六

天明八戌申八月十二日カ孫兵衛江被仰付候

一、文化三丙寅年十二月十日ニ

長五郎

退役

一、同断

孫三郎^(カ)

○古河村分村由来覚写

文化・文政頃

(村島兵治文書)

覚

一、古河村之儀古来カ吉田村之内ニ而御座候故、元禄拾

年丑ノとし、御公儀帳面茂相訳リ、夫カ古川村と申来リ候、

但シ寛政八辰年迄

百年ニ成夫迄ハ

吉田村之枝郷

覚

一、寛政九丁巳年八月十四日ニ改、古河村芳兵衛持小物

成、年々式匆宛出垣内江上納致筈ニ相成候、則辰とし

分式匆請取庄屋利兵衛殿江相渡ス、巳ノ八月十四日御

役所大崎文蔵様江願相済申候、

一、古河村カ小物成拾三匆五分古来カ上納之外ニ芳兵衛

カ上ル筈、

○百姓一同困窮多大ニ而御歎之事

天保三年十一月

(村島兵治文書)

百姓一同御歎之衷^(巻)

一、近年百姓困窮弥増候所、当年者稀成凶作ニ付百姓取

統難出来候、依之奉御歎願上候村役人度々御願被下候所、七部作被成下有難頂戴仕候得共、当年之義者而作共五歩又者皆無數多有之候、依之百姓相統難成候旨、何卒く厚ク御憐愍御免米被下置候様、段々奉願上候得共、御聞届ケ無御座候、仍御手共なしニ被成下無抛江戸表江御殿様江御歎奉願上、百姓一同連印仍而如件

天保三年

辰十一月日

出垣内
源 四郎㊦
(以下七十一人ノ人名ヲ略ス)
七拾貳人

○神宮寺本堂大破ニ付御願

天保七年五月

(村島兵治文書)

乍恐御願奉申上候

一、当御領下坊城村氏神八幡宮境内ニ有之候神宮寺本持仏大日如来ハ御祈願所ニ而有之候、然ル所本堂近年大破におよひ有之候処取繕仕居候得共、去末四月中旬之大風ニ而殊之外大破損相成、右本堂ハ年来相立候義ニ

有之候得者、柱等根腐此儘ニ而ハ難捨置奉存候、依之組替普請仕度色々心配仕候得共、近年來米石高直ニ付困窮之百姓必至ニ相成居候得者、右前文奉申上候通普請之義御上様之慈恩ニ奉縋り候、此儘罷有候得者無勿体茂御殿様之御祈願所ニ御座候へ者、御領分百姓一同此儘捨置候義ハ重々歎ケ敷奉存候、依之普請仕度此段緋而御願奉申上候、何卒右之趣御聞届ケ被成下候得者、如何斗難有仕合ニ奉存候、以上、

天保七年

申五月

高市郡坊城邑

満田山神宮寺住僧

教 春㊦

出垣内村年寄

平 兵衛㊦

同村庄屋

新右衛門㊦

大喜多村年寄

孫 三郎㊦

同村庄屋

平 八㊦

古川村年寄

清右衛門[㊦]

同村庄屋

甚 助[㊦]

右名前之者其他領分ニ
御座候得共氏子ニ付奉

大喜多村惣代

政右衛門[㊦]

連印候以上

河端村惣代

七 兵衛[㊦]

御地頭様

○綿作不作ニ付御歎奉願上候

天保十三年九月

(村島兵治文書)

乍恐以書付御歎奉願上候

坊城村

惣百姓

一、今般御願奉申上候義ハ当年作方生立之義夏以来雨統

キ宣敷、依之稲作方者青毛見事ニ出来、百姓方一同安

心仕居候処、盆後追々雨統ニ而稲作方も突入悪敷相見

へ、此節何共相分リ不申候、右ニ付綿作方者雨生立故

木柄斗ニ而玉杯朽腐、唯今ニ至耄反分ニ拾斤又者上之

金橋地区

分式拾斤斗方吹不申、誠ニ当惑仕居候、然ル処当年之

義者肥代銀込茂格別高直ニ而昼夜心配仕候処、右前代

稀成不作ニ付是迄結構ニ御定免被下置難有仕合ニ奉存

候得共、中々行届キ不申候ニ付、格別之御慈悲ヲ以綿

方之義早々御毛見被為成、厚御憐愍之御沙汰奉繼而者

此儘ニ罷在候而ハ、百姓取統出来兼候ニ付、不願恐ヲ

御願奉申上候、何卒右之趣被為聞召訊御聞濟被成下候

ハ、広太之御慈悲与千万難有仕合ニ奉存候、以上、

天保拾三年

寅九月日

百姓惣代

兵右衛門[㊦]

年寄

孫三郎[㊦]

同

新右衛門[㊦]

同

作兵衛[㊦]

庄屋

平兵衛[㊦]

同

文七[㊦]

同

平八[㊦]

六〇七

御地頭様

○藤堂采治郎知行坊城村割付帳

天保十四年九月

(村島兵治文書)

天保十四卯九月日
藤堂采治郎知行

大和国高市郡寅割附帳

坊城村

一、高六百九拾貳石三升九合

内

高五石五斗

田畑反別不知川成引

高三斗壹升

同断出水引

高六石三斗壹升

同断高引

残テ高六百九拾貳石三升九合

此反別四拾六町壹反拾貳步

此取

┌

田高五百七拾八石四斗七升八合九勺

此反別三拾七町八反壹畝廿貳步

此取米三百拾五石四斗壹升九合七勺

畑高六拾五石三斗八升九合

此反別五町六反四畝拾五步

此取米三拾七石九斗壹升六合六勺

屋敷高三拾壹石三斗九合七勺

此反別貳町六反六畝步

此取米拾八石壹斗五升五合四勺

高 四石七斗壹升九合四勺

此取米貳石貳斗三升三合五勺

取米三百九拾四石貳斗貳升五合三勺

一、米拾五石五斗壹合七勺

一、米貳拾壹石五斗

納合四百三拾貳石貳升七合

一、上田貳拾六町四反壹畝三歩 石盛壹石六斗

此分米四百貳拾貳石五斗七升六合

大和国
東坊城村

田畑反別不知
不足村方弁納

夫米

一、中田六町七反拾步 石盛壺石四斗

此分米九拾三石八斗四升六合七勺

一、下田四町七反拾四步 石盛壺石三斗貳升

此分米六拾貳石五升六合七勺

一、上畑三町壺反貳畝拾五步 石盛壺石貳斗

此分米三拾七石五斗

一、下畑貳町五反貳畝步 石盛壺石壺斗七合

此分米貳拾七石八斗八升九合

一、屋敷貳町六反六畝步 石盛壺石壺斗七升八合

此分米三拾壺石三斗九合七勺

分米四石七斗壺升九合四勺 田畑反別不知
高不足村弁也

右者去ル寅年御年貢割附其外書面之通違無御座候、以上、

卯九月日

右村

百姓代

兵右衛門

年寄

文七

同

平八

金橋地区

庄屋 新右衛門

新右衛門

築山茂左衛門様

竹垣三右衛門様

御立会

御役所

天保十四卯閏九月六日方大坂□木町御役所様江罷出、
右之通帳面奉差上同十四日帰村仕候、

兵右衛門 参上

供重藏

○東坊城村明細帳

天保十四年九月

(村島兵治文書)

天保十四年卯九月日

大和高市郡東坊城村明細帳

藤堂榮治郎知行所

一、惣高八百九拾貳石三升九合

大和国 東坊城村

六〇九

分郷

高貳百石

今春大春知行

高六百九拾貳石三升九合

藤堂榮治郎殿知行

此反別 四拾六町壹反貳拾貳步

一、出垣内屋敷地

東西貳丁余
南北壹丁余

但四方小竹藪

一、万田垣内同断

東西壹丁余
南北

一、大北垣内同断

東西壹丁余
南北壹丁半余

但今春太夫殿御高札場御座候

一、川端垣内同断

東西拾五軒余
南北貳丁半余

一、弓場垣内同断

東西壹丁余
南北貳丁余

一、袴垣内同断

東西壹丁余
南北貳丁余

一、御高札場 壹ヶ所

字寅井手植村出羽守様御預所同郡吉井村ニ御座候

一、用水門樋 壹ヶ所

但、普請諸入用不残地頭を御下渡相成、尤人足夫

代村高掛り仕候

字小花

一、用水門樋 壹ヶ所

右同断

字(磯力)井(三手) 神保 治郎様知行

同郡箬喰村領ニ御座候

一、川口樋 壹ヶ所

右、同断

字同所

一、通并筋中樋 壹ヶ所

但、同断

字井貴

一、用水門樋 壹ヶ所

字宮ノ下

一、用水伏樋 壹ヶ所

一、捨樋 壹ヶ所

字虎井手

一、用水伏樋 拾九ヶ所

但、普請諸入用銀村高懸り仕候

一、用水小門樋 七ヶ所

但、普請諸入用村高懸り仕候

一、重坂筋 川幅平均拾五軒余、流六百六十軒余

但、杭柵料之儀ハ地頭を下渡相成候

一、板橋 四ヶ所

但、右重坂川ニ懸リ御座候

一、石橋 貳拾ヶ所

一、用水涌池 四ヶ所

一、用水替戸 三ヶ所

一、重坂川筋兩側共小竹藪ニ御座候

一、字川端垣内御座候

一、水車 壹軸

一、郷藏 壹ヶ所

一、土地真土砂地 榎行貳間
桁行六間

一、田畑肥し 油粕干粕

一、田畑種入 壹反ニ付平均 麦 四升五合
初 三升五合

一、田畑入立 平均米貳石

一、作間稼方 男 繩莖 俵捲
女 木綿織 糸より

一、小竹十四束 但、小物成御年貢として大津御役所江上納

一、高取土砂役御順在 (見カ) 春秋兩度御檢分ニ付御証文
差上申候

一、家数 九拾九軒

一、人数 合五百四拾五人 内 男 貳百七拾九人 女 貳百六十六人 牛三足

一、米九石八斗 庄屋并肝煎給米

但、村惣高割ニ仕候

坊城氏神 一、八幡宮境内 東西 壹丁余 別当
南北 貳拾軒余 神宮寺

一、八幡宮境内 東西 壹丁余
南北 貳拾軒余

一、京都兩本願寺下曾根村名称寺預り金剛寺

一、同断名称寺末寺 光明寺

一、同與正寺下磯野村順照寺末寺 浄栄寺

一、同寺下 俱戸羅村 曾我村末寺 正覚寺

但西坊城領御座候

一、墓地 菴ヶ所

一、同 菴ヶ所

一、南都若宮御用木

但、拾ヶ年毎三三拾五本宛 坊城村国役高二懸り申候

一、金銀銅鉄砥硫黄朋(明盤カ)市場

一、關所、御取上、牢屋、古切支丹類族、古城、名所旧

跡、早道者、水練者、浪人、行人、虚無僧、山伏

右之類村方ニ無御座候、

一、隣村江道法

東、古川村江村続キ御座候

西、西坊城村八丁

南、菟之本村式拾丁

北、曲川村江式十五丁

一、諸方江道法

同国高田江 菴里

同当麻江 貳里

同今井江 貳拾五丁

同初瀬江 四里

同高取江 貳里

同郡山江 五里

同南都江 七里

同多武峯江 貳里半

同吉野江 七里

大坂江 九里

京都江 拾八里

堺江 八里

江戸江 百貳拾里

右之通村方明細吟味仕候所、書面之通り相違無御座候、以上、

卯九月

百姓代 浜右衛門印
年 寄文 七印
同 平 八印
庄屋 新右衛門印

築山茂左衛門様
竹垣三右衛門様

御立会 御役所

天保拾四年卯閏九月六日お大坂□木町御役所様迄罷出
右之通帳面御調預り同十四日帰村仕候

兵右衛門
供 重 藏

○村方所持田地売渡停止ニ付申渡覚

弘化四年六月

(村島兵治文書)

申渡之覚

坊城村
庄屋
年寄
惣百姓中

金橋地区

其村方銘々所持之田地村地共元来高下ケを以売渡し候儀ハ停止ニ候処、心得違いたし候者も有之趣ニ相聞へ候、向後右様之売渡し致し候者於有之者、家財取上ケ買戻し被仰付候上、急度御答被仰付候間、嚴重に御趣意之趣相守可申もの也、

弘化四丁未年六月

御地頭所印

○拝借金年賦上納御証文

嘉永四年一月

(村島兵治文書)

奉差上年賦上納拝借御証文之事

一、銀拾貫目也

但し壹ヶ年ニ壹貫目宛上納

内

弓場村
一、銀五百目 武右衛門印
同村
一、々五百目 新三郎印
同村
一、々五百目 五兵衛印

六一三

- 一、〃五百目 川端村 武右衛門[㊦]
- 一、〃五百目 大北村 利右衛門[㊦]
- 一、〃五百目 同村 与 七[㊦]
- 一、〃五百目 同村 与 七[㊦]
- 一、〃五百目 同村 甚兵衛[㊦]
- 一、〃五百目 万田村 佐 助[㊦]
- 一、〃五百目 同村 与 助[㊦]
- 一、〃五百目 出垣内村 伊兵衛[㊦]
- 一、〃五百目 同村 伊 助[㊦]
- 一、〃五百目 同村 忠次郎[㊦]
- 一、〃五百目 同村 源 四郎[㊦]
- 一、〃五百目 袴村 孫 助[㊦]
- 一、〃五百目 同村 長三郎[㊦]
- 一、〃五百目 同村 善 助[㊦]
- 一、〃五百目 同村 宇兵衛[㊦]
- 一、〃五百目 同村 源 助[㊦]

- 一、〃五百目 同村 源四郎[㊦]
- 一、〃五百目 出垣内村 伊右衛門[㊦]

ノ拾貫目

右者坊城村近年諸式高直ニ付、肥代等数多入用相掛リ、一同必至与困窮罷成、此儘ニ而罷在候而ハ行々百姓相統も難出来罷成、歎ケ敷奉存候ニ付、此度御拝借之儀相願、是迄無利足之御拝借被仰付候得共、右振合ニ而ハ余リ恐入候間、此度之儀者為冥加銀拾貫目ニ付壹ケ年四百目宛之御利足相添、十ケ年ニ割上納仕度段奉願候処、格別之以御慈悲願之通御拝借被仰付、難有仕合御拝借仕候処実正ニ御座候、右之上ハ返上納之儀当亥年方来ル申年迄年々六月十五日限り十ケ年ニ割壹ケ年銀壹ノ目宛御利足相添急度無相違割合ヲ以御上納可仕候、万々一御上納方延引仕候ハ、連印仕候村役人共ノ急度弁上納可仕候、右御年限中水早之患違作等有之候共御収納之儀者不及申上、年賦御上納於筋少茂無遲滞急度御上納可仕候、且又御用之節并凶作等ニ而臨時御入用之節者何時ニ而も

被仰出次第皆上納可仕候、依之御拜借証文連印ヲ以、奉
差上候処仍而如件、

和州高市郡坊城村

嘉永四年

年寄 作兵衛[㊦]

亥ノ正月日

同断 与右衛門[㊦]

同断 喜兵衛[㊦]

庄屋 文次郎[㊦]

同断 平右衛門[㊦]

同断 平八[㊦]

御地頭所様

前書之通坊城村困窮ニ付格別之御憐愍ヲ以願之通御聞
濟ニ相成、於私共難有仕合ニ奉存候、右之上ハ御証文
之通り聊無相違御年限通り元利共御上納為仕可申候、
若又御年限中万一滞候者有候ハ、連印之者共へ申
付、急度無相違上納為仕可申候、為後念奥印仕候処仍
而如件、

前田 武兵衛[㊦]

吉田 平八[㊦]

金橋地区

○御領下取締書

嘉永七年二月十一日

(村島兵治文書)

嘉永七年寅二月十一日、三方庄

屋年寄一統中野善助宅江集会、

評談之上御領下取締書左ニ

一、井司役当寅卷ヶ年、出垣内村伊右衛門相預リ、諸井
手筋其余普請破損等、成丈費不相立様心懸ヶ、勤中
(正カ)
情直ニ致事、

一、郷内年中用水之儀、是迄甚々不取締ニ付、格外之多
入用ニ而、御下為方ニ不宜故、以後相改メ、大略年中
入用之諸材木其年元ニ買入、出垣内村郷藏江請置、尤
鍵者同村兵右衛門預リ、入用之節者多少ニ不拘、井司
伊右衛門^ハ逸々^ハシ^ハ手形ヲ以為出可申事、

附リ、鍵預リ方壁平生入用□、洪水ニ而俄入用之
節、迎も昼夜ヲ不厭、自身と郷藏迄出張、用木出入
共丁寧ニ帳合可致、但シ右為世話料玄米貳斗可遣
事、

一、今井木佐材木代而季弘方之節者、ノ高老歩引ニいたし、金中相場ニ而勘定可致遺事、

一、從当年嚴重相改、村々役人手元ニ於て、郷取替銀、

且歩代等迄も立会算用之節銘々投入之微細書頭シ、一統互ひニ相調、延合明細ニ致候上、小入用帳迄附出シ

可申事、

一、当寅年、郷入用諸取替方、弓場村新四郎相勤可申事、

右之条目、此度役人一統列席評議之上、嚴重ニ取極メ候ニ付、以後堅ク相守可申、寔是迄者諸万端不取締ニ付、上下混乱致、第一郷入用夥敷相成、困窮之百姓尚更過分之小入用相懸リ、至極難渋仕儀ニ付、今般前件之通改革致候事故、一統銘々ニ深ク相守、何事も御殿様江之忠勤ト相心得、廉直ヲ宗トシ、上ヲ尊ミ小前ヲ憐ミ、無益之諸費不相立様心懸ケ、万事御領下之為方ニ相成候様相勤可申寔、

嘉永七甲寅二月十一日

○違作ニ付御免定ノ事

文久元年四月

(村島兵治文書)

御免定事

一、米三拾四石式斗五升四合

右者其邑方去申年稲作違作ニ付、書面之通被下置者也、

文久元酉年四月

御地頭所[㊦]

坊城村

庄屋

年寄 中

惣百姓

○違作ニ付御免定之事

文久二年十月

(村島兵治文書)

御免定之事

一、米六拾石也

右者其村方兩作違作ニ付、書面之通被下候置者也、

文久二戌年十月

御地頭所㊦

坊城村

庄屋

年寄 中

惣百姓

○出水欠損井手普請料覚

文久二年十月

覚

一、銀壹貫目也

右者其村方当六月六日出水ニ付、田畑并井手損右普請為
手当書面之通被下候置者也、

文久二戌年十月

御地頭所㊦

坊城村

庄屋

年寄 中

惣百姓

(村島兵治文書)

〔新堂〕

○新堂村檢地帳 (本帳)

文祿四年九月十六日

文祿四年

和州高市郡新堂村御檢地帳

九月十六日

(堀部卓治文書)

(前略末尾ノミ)

以上

合五百四拾六石貳斗六升六合

四拾一石五升六合

永荒

内荒九拾四石九斗二升五合

五拾三石八斗六升九合

当荒

此御帳畝違算用違何茂百姓方理申處、悉改御帳百姓ニ写
させ候間、重而申分在之候間敷候者也、

文祿四年九月十六日

御牧勘兵衛 在判

○喜三跡田畠永代売渡シ状

寛文八年二月十一日

(堀部卓治文書)

永代売渡シ喜三ノ跡田畠之事

一、御未進御座候付、村中不殘寄合村へ売渡シ申候処実正也、於此田地ニ一言違乱妨申間敷候、縦天下一同之徳政馬借地起等出来候共、此儀ニおいて申分無御座候、此判形之者罷出埒明可申候、為其後日証文如件、

寛文八年

申ノ二月十一日

庄屋

新堂村

庄介

三郎二郎(略押)

次郎九郎(略押)

宗兵衛(略押)㊦

太兵衛(略押)

仁兵衛㊦

与兵衛(略押)

庄兵衛(略押)

庄二郎(略押)

弥三郎㊦

善四郎(筆㊦)

喜兵衛㊦

彦兵衛(略押)

九兵衛(略押)

久五郎㊦

加兵衛(略押)

善五郎

吉兵衛

○新堂村田畑屋敷年貢高帳

貞享五年五月二十二日

(堀部卓治文書)

貞享五年

新堂村田畑屋敷年貢高帳

五月廿二日

(前略)

惣高合四百八拾五八升五合(右九)

内

八拾六石五合

御料方

七郎兵衛方

百拾四石七斗七升壹合

右衛門佐方

四郎三郎方

貳百七拾九石三斗九合

百助様

小兵衛方

以上

外二

永荒高不足切地間

高六拾八石壹斗八升七合

三拾九石七斗七升五合

小衛方

拾六石三斗壹升壹合

四郎三郎方

拾貳石壹斗壹合

七郎兵衛方

惣高合五百四拾八石貳斗七升貳合

高辻

但堀田新田共

右之外敷年貢之覚

米合七斗壹升五合

内

貳斗八升

小兵衛方

金橋地区

貳斗六升

四郎三郎方

壹斗七升五合

七郎兵衛方

右者貞享五戊辰之歲新堂村分地ニ罷成候節、植村右衛門様御役人衆より相渡リ候、三方之帳面取合、田次ニ書写也、肩付之名者本帳之写、下之名者當時地主を顯し候、

以上、

(中略)

于時元禄十四辛巳歲

七月吉日

堀部才五郎

○新堂村免定之事

延享四年十一月

(江南房次郎文書)

卯年免定之事

一、高百貳拾九石七升六石

新堂村

内拾壹石壹斗四升

田綿当御用捨引

残百拾七石九斗三升六合

毛附

此取米五拾四石八斗四升

四ツ六分五厘

一、高貳石六合

新田

此取米九斗

本高並

米五拾五石七斗七升三合

一、米貳斗六升

此取米九斗三升三合

藪年貢

一、米貳斗六升

藪年貢

一、米三石九斗三升貳合

夫米

納合米五拾六石三升三合

一、米壹石八斗三升六合

口米

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会無甲乙致割合、来ル極月十日已前、急度可皆済者也、

納合米六拾六石九斗八升壹合

檢地文祿四年九月十六日 御牧勘兵衛

延享四年卯十一月

但し 本高五百四拾六石貳斗六升六合五之処

鈴木忠太夫㊦

九拾八石壹斗六合 外記録

御分地

中川平助㊦

三百拾九石八升四合 主殿様

柴田久左衛門㊦

但シ貞享五年辰五月廿三分る

中谷新兵衛㊦

外記録分者同年御料ニなる

新堂村庄屋年寄惣百姓

除地葛下郡勝目村領也

○寺尾勤録、新堂村明細

一、鎮守 牛頭天皇

田井村
新堂村

延享年間

(広吉寿彦藏)

一、用水樋貳ヶ所

雲梯村ニ有之

一、高百貳拾九石七升六合

新堂村

此取米六拾石貳升

四ツ六分五厘

一、高貳石五合

新田
本高並

○新堂村明細帳

宝曆十年十月

(堀部卓治文書)

宝曆十年
 村明細帳
 辰十月日
 大和高市郡新堂村

文祿四年御牧勘兵衛様御檢地

元高五百四拾六石貳斗六升六合

去ル卯ノ御改帳之通

一、高九拾八石壹斗六合

此反別七町貳反八畝五歩

道法

江戸迄百四拾四里半
 京都迄十六里
 大阪迄九里

田高七拾九石九斗四升貳合

此反別六町六反壹畝拾四歩石盛

畑高六石六升三合

此反別六反六畝貳拾壹歩 石盛

村弁高拾貳石壹斗壹合

上 石六斗
 中 石四斗
 下 石貳斗
 上 石壹斗
 中 無御座候
 下 八斗
 屋舖 石貳斗

大和高市郡
 新堂村

此反別

一、人数三拾三人 内 男 拾三人
 女 貳拾人

一、家数七軒

一、牛壹疋 馬無御座候

一、村内い屋川 長八町

是ハ水上葛下郡御所村ハ高市郡曲川村領ニ而、葛城川

江落合、当村ハ川上江凡五拾町川下江拾貳町程

一、水車 壹輪御座候

一、山林原野并秣場無御座候

一、小物成米壹斗七升五合 藪年貢

一、他村江納候小物成 分米壹斗貳升四合六勺

是ハ雲梯村江納申候

一、他村ハ取納候小物成、無御座候

一、溜池 無御座候

一、堰 式ヶ所

是ハ御入用被下候御普請所ニ御座候

一、川除 無御座候

金橋地区

一、樋類 四ヶ所

庄屋和 助[㊦]

一、御林 無御座候

年寄善五郎[㊦]

一、町場市場 無御座候

百姓代 次郎兵衛[㊦]

一、金銀銅鉄鉛山 無御座候

一、耕作之間 男^ハ纏^建 女^ハ木綿糸 かせぎ仕候

一、米津出し 無御座候

一、牢屋并郷藏 無御座候

乍恐口上書を以御届奉申上候

一、田方凡五分通り木綿作仕候

一、水損場 無御座候

一、当村氏神勝目村領ニ御座候倉之宮守弟子靈源と申僧、当月九日之夜出奔仕候ニ付、靈源兄八釣村彦七方

一、旱損場 御座候

一、小作直段凡壹反ニ付

上 壹石五斗^方 壹石七斗^迄
中 壹石三斗^方 壹石五斗^迄
下 壹石^方 壹石式斗^迄

上 壹石壹斗^方 壹石三斗^迄
中 壹石^方 壹石斗^迄
下 九斗^方 九斗^迄

右者此度村役人共立会、吟味之上書上申処相違無御座候、以上、

候、以上、

宝曆十年辰十月 大和国高市郡新堂村

倉之宮守出奔ニ付御届状
明和三年十一月二十三日
(江南房次郎文書)

宮寺へ相渡シ申候御事、

右倉之宮と申候者宮元ハ田井村にて当村者寄郷ニ而御座候、乍恐右之段御届奉申上候也、

明和三戌年十一月廿三日

新堂村年寄

弥三郎

同村庄屋

重兵衛

寺社

御奉行様

御役所様

米四石壹斗八升壹合三勺

御口米

米九石五斗七升貳合五勺

夫米

米貳斗八升八合四勺

藪年貢御口米共

四口米合六石九斗五升九合四勺

内

米三拾五石六斗五升三合壹勺

御壳米

代銀貳貫百三匁五分三厘

十一月^{十五日}十八日^{廿四日}高取様御直段平均石二五拾九匁替

米三拾五石六斗五升三合壹勺

代銀貳貫百三匁五分三厘

御壳米

十一月高取様御直段平均石右同断

米三拾五石六斗五升三合壹勺

御壳米

代銀貳貫百三匁五分三厘

十一月高取様御直段平均石右同断

四口銀合九貫百六拾七匁七分九厘

新堂村御物成銀

銀四貫四百四拾五匁九厘

秋吉村御物成銀

二口銀口拾三貫六百拾貳匁八分八厘

殘米九拾貳石九斗壹升七合貳勺

米四拾六石四斗五升八合六勺

三分一

代銀貳貫八百五拾七匁貳分

石二六拾壹匁五分替

殘米九拾貳石九斗壹升七合貳勺

○御物成勘定目錄

安永二年二月三日

(堀部卓治文書)

明和九壬辰歲御物成御勘定目錄

和州高市郡新堂村

一、高三百拾九石八升四合

御取米百三拾九石三斗七升五合五合九勺

内

米四拾六石四斗五升八合六勺

代銀貳貫八百五拾七匁貳分

殘米九拾貳石九斗壹升七合貳勺

銀壹七匁貳分

右ハ御膳米銀両村兩人頂載

銀五匁五分

勢州成願寺頂載

銀三拾九匁四分壹厘

秋吉村御普請ニ頂載

銀五拾壹匁九分

新堂村柳田御普請ニ頂載

銀三匁八分三厘

同所人足扶持米代銀ニ頂載

銀八拾九匁九分

辰年中状賃頂載

銀百壹匁

辰年御調物代ニ頂載

銀百八匁七分四厘

右ハ愚父扶持米代銀ニ頂載

銀拾貳貫八百四匁八分六厘

辰年金納代銀ニ頂載

九口銀合拾三貫貳百貳拾貳匁三分四厘

両村御物成銀ニ而

内

上引残而

銀三百九拾匁五分四厘

辰暮上ケ不足

銀五貫三百六拾匁六分三厘

卯暮返上

此利銀九百四拾四匁九分壹厘 但辰ノ利

元利二口合六貫三百貳拾五匁五分四厘

内

銀三百九拾匁五分四厘

辰ノ暮上不足引

残而銀五貫九百三拾五匁

辰暮惣返上

右五貫九百三拾五匁

此銀来巳年御勘定目錄江出

右皆済

右之通 壬辰年御物成ケ御勘定申所尤而如件、

安永貳巳三月

堀辺庄次郎

鈴木五右衛門殿

前書之通相違無之候、仍如件、

安永二癸巳年四月廿七日

鈴木五右衛門

堀辺庄次郎殿

(裏書)

「表書之通無相違者也」

(横村) 人

○御支配代々書覚

明和年間

(堀部卓治文書)

文祿四年御檢地之節本多因幡守様御知行

寛永貳年方十四年迄小野宗左衛門様御支配

寛永拾五年方貞享五辰ノ年植村出羽守様御知行

元禄元歳ヨリ同八亥歳迄竹村八郎兵衛様御支配

同九子ノ歳ヨリ十二歳大庭清左衛門様御支配

同十三辰ノ歳ヨリ十四巳歳迄辻弥五左衛門御支配

同十五年歳方十六未歳迄松平美濃守御知行

宝永元申ノ歳方貳酉ノ歳迄西与市左衛門様御支配

同三戌歳方七寅歳迄石原新重郎様御支配

正徳元卯歳方享保四亥歳迄宝七郎左衛門様御支配如何

同丑六歳間宮三左衛門様御支配

同七寅ノ年方十一歳迄会田伊右衛門様御支配

同十二未ノ歳方十六歳迄石原平岡彦兵衛様兩人御領御支配

同十七子ノ歳方式拾歳迄近山清左衛門様御支配

元文元辰歳方 花井庄九郎様御支配

寛保元酉歳方当御役所様御支配 古市也

明和六丑ノ歳方三拾歳之間古市藤堂和泉守預也

金橋地区

同歳方九月ニ預リ替 高取植村出羽守様御支配

○諸色値下ゲ御預所一統申合書

文政二年九月

(堀部卓治文書)

文政二年
御預所一統申合書
卯九月

一、酒造方

何村誰印

諸白壹升是迄百式拾文売申候処、此度相改以來壹割半下ケニ而百五文ニ売出シ申候、并酒壹升是迄百文ニ売申候処此度相改以來壹割半下ケニ而八拾壹文売出申候、

一、請売酒屋

新堂村 甚 七

右ニ準シ以來壹割半下ケニ而売可申候、

一、酢造方

何村誰印

右酒造方同断、

六二五

一、酢請売

同断

右酒請売ニ準シ売可申候、

一、醬油造方

同断

右酒造方同断、

一、醬油請売

同断

右酒請売準シ売可申候、

一、味噌造方

同断

右味噌之儀ハ錢百文ニ付懸目は迄五百目売申候処、此
度相改壺割半増ニ而以來五百七拾五匁売出可申候、

右之外

一、荒物売人

同断

仕入元可成丈取輪此度相改以來壺割半下ケニ而売可申
候、

一、小間物売人

同断

右同断、

一、木綿類売人

同断

右同断、

一、絹類売人

同断

右同断、

一、金物売人

同断

右同断、

一、青物類売

同断

右同断、

買元取輪可成丈以來相下ケ売可申候、

一、金し子屋

同断

是迄之直段者諸色品々壺割半相下ケ可申候、

一、まんちう焼餅屋

同断

是迄五ッ拾文ニ御座候処、此度相改以來五ッ八文ニ相
下ケ可申候、

一、旅籠宿并茶屋

同断

是迄者老人壺宿百五拾文ニ御座候処、此度相改以來百
式拾文ニ相下ケ申候、并一膳めし拾式文ニ御座候処、

此度相改以來十文ニ相下ケ申候、

一、宇登んそば切

同断

是迄一膳ニ付拾六文ニ売申候処、此度相改以來拾四文

同断

同断

ニ売可申候、

一、とう婦こんにやく屋

同断

とうふ壺丁是迄拾六文之処、此度相改以来十四文ニ相下ケ申候、并油阿希三文之処、式文ニ相下ケ申候、こんにやく壺丁六文之処、五文ニ相下ケ申候、

一、大工職

同断

是迄壺人一日式匁八分ニ御座候処、此度相改以来式匁五分ニ相下ケ申候、

一、木引職

同断

右同断、

一、左官

同断

右同断、

一、石切職

同断

是迄壺人一日三匁五分ニ御座候処、此度相改以来三匁ニ相下ケ可申候、

一、屋禰屋

同断

是迄壺人一日式匁式分ニ御座候処、此度相改以来壺匁

八分ニ相下ケ申候、

一、綿打之職

同断

是迄綿綿壺貫目ニ付賃錢百六拾四文ニ御座候処、此度相改以来百四拾八文ニ相下ケ可申候、

一、桶之輸入

同断

是迄壺人一日式匁五分ニ御座候処、此度相改以来式匁ニ相下ケ申候、

一、鍛冶屋

同断

仕入之可成丈取綸之品々直段相下ケ可申候、

一、たゝみ屋

同断

是迄壺人一日式匁五分ニ御座候処、相改式匁式分直段相下ケ申候、

一、阿んまけん引 十六文之処相改十四文、

一、髪月代 壺度廿四文之処相改廿式文、

一、日用働 壺人一日壺匁五分ノ処相改壺匁式分、

一、奉公人男女給銀是迄方以来式割相下ケ候筈ニ村方申合候、

○宗門御改寄帳

文久四年三月

(江南房次郎文書)

甲文久四年	高市郡
宗門御改寄帳	新堂村
子三月	

宗門御改式冊之寄帳

本家者惣人数合百五拾式人 内男七拾九人 女七拾三人

浄土宗五拾式人 内男式十七人 女式十五人

浄土真宗百人 内男五十三人 女四十八人

竈数式拾五軒

当村寺院無御座候

(中略)

御領分者下人覚

一、弥三郎下男太助 出村人別ニ御座候

一、同人 下女みね 根成柿村忠右衛門娘

一、齊五郎下男平吉 出村かめ翁

ノ三人 内男式人 女壹人

御他領者下人覚

一、齊五郎下女いち

吉野郡南国栖村仁兵衛 娘浄土宗ニテ同村清名寺旦那

ノ女壹人

右之通御他領者召抱罷在候主人方ニテ相改候処、鳥乱成ものニテ無御座候、尤寺手形類族手形取置申候間御用之節者差上可申候、為後日仍而如件、

右宗門御改帳式冊之寄書面之通相違無御座候、

元治元甲子年三月

新堂村

年寄 重兵衛 印

同断 弥三郎 印

庄屋 齊五郎 印

宗門御改奉行

川本為三郎殿

渡辺官兵衛殿

○新堂村五人組帳

元治元年三月

(江南房次郎文書)

甲元治元年
五人組之帳
子三月
高市郡 新堂村

五人組之帳

組頭

甚 七印

長次郎印

小兵衛印

弥 七印

↙ 四人

組頭

治兵衛印

市郎兵衛印

弥重郎印

久五郎印

金橋地区

組頭

林兵衛印

藤五郎印

治 助印

↙ 三人

組頭

齐五郎印

武 八印

勘右衛門印

治郎兵衛印

↙ 四人

組頭

藤兵衛印

九兵衛印

甚五郎印

久右衛門印

↙ 四人

人数↙ 貳拾五人

右之通り相違無御座候、以上、

元治元年甲子年三月

新堂村年寄 重兵衛印

同断 弥三郎印

庄屋 齐五郎印

宗門御改奉行

川本為三郎殿

渡辺官兵衛殿

さ よ印

↙ 五人

組頭

弥三郎印

弥市郎印

太四郎印

清 八印

安兵衛印

↙ 五人

○子年免定之事

元治元年十一月

(江南房次郎文書)

子年免定之事

一、高百貳拾九石七升六合

新堂村

内

拾三石六斗四升四合

引方平均引

拾六石九斗四升六合

田綿当御用捨引

殘九拾八石四斗八升六合

毛附

此取米四拾七石貳斗七升三合

四ツ八分

一、高九拾八石壹斗六合

毛附

此取米四拾石四斗四升四合

四ツ壹分貳厘貳毛五糸

一、高貳石六合

新田

此取米九斗六升三合

本高並

米八拾八石六斗八升

一、米四斗三升五合

數年貢

納合米八拾九石壹斗壹升五合

右之通当御取箇相定候間、村中惣百姓立会、無甲乙致割

合、極月十日迄急度可皆濟者也、

元治元甲子年十一月

○銀借入覚写

元治元年十二月

覚

一、銀拾三貫九百目也

内

銀五貫目

同五貫目

同壹貫四百目

同壹貫貳百目

同七百目

同六百目

嶋甚左衛門

田中織衛門

万喜力四郎

吉川厚 見

多羅尾儀八

新堂村庄屋年寄惣百姓

(江南房次郎文書)

月五朱

新堂村

齊五郎

弥三郎

重兵衛

藤兵衛

治兵衛

甚七

右者御勝手方要用ニ付御借入銀髓ニ受取申候、返済之儀者来ル丑方来ル戌年迄拾ヶ年賦ニテ、年々十二月廿五日限、元利共急度可及返銀候、為後日証文依而如件、

元治元年甲子年十二月

前書名前之者共江

嶋甚左衛門
田中織衛門
万喜力四郎
吉川厚見
多羅尾儀八
中谷栄治郎
林 伝八郎
内藤伊織

」

○宗門御改寄帳

慶応四年三月

(江南房次郎文書)

金橋地区

戊慶応四年
宗門御改寄帳
辰三月
高市郡
新堂村

宗門御改式冊之寄帳

本家者惣人数合百四拾四人 男七拾四人
女七拾人

浄土宗五拾六人 内男貳拾七人
女貳拾九人

浄土真宗八拾八人 内男四拾七人
女四拾壹人

竈数貳拾九軒

当村寺院無御座候

(中略)

御領分者下人覚

一、弥三郎下男兵助 出村人別ニ御座候

一、同人 下男忠兵衛 当村人別ニ御座候

一、齐五郎下男房吉 当村人別ニ御座候

三人男

御他領者下人覺

一、齊五郎下女いち

吉野郡南園栖村仁兵衛
娘浄土宗にて同村清名寺旦那

ノ女壹人

右之通御他領者召抱罷在候主人ニテ相改候処、烏乱成も
のニテ無御座候、尤手形類族手形取置申候間、御用之節
者差上可申候、為後日之仍如件、

右宗門御改帳式冊之寄書面之通相違無御座候、但し丑式
疋、

慶応四戊辰年三月

新堂村

年寄 弥三郎[㊦]

庄屋 重兵衛[㊦]

宗門御改奉行

遠山栄次殿

萩原膳多殿

○質素儉約取締令達書

明治元年十月

(江南房次郎文書)

先年方質素儉約之儀、且男女衣類其外奢ケ間敷儀相慎候

様、度々申触候処、年久敷相立候得者、自然相馳^(馳)御制

度を取失ひ、花美之風俗ニ押移り、御領内之□衣食住と
も驕奢不少、自然農商売等疎ニ相成、不実不法之所業致

し候ものも有之哉ニ相聞候、依而此度改左之通被仰出
候、銘々分限を悟り、御趣意無違失、聊費無之様相心
得、孝道職業可相励候、

一、男女共衣類下着ニ迄木綿ニ限り可申事、
但シ他出之節茂可為同様事、

一、婦人髪髻り儀并井かんさし^(マヤ)本ニ櫛一數限り、きれ
類織候堅停止之事、

一、羽織木綿ニ限り夏向麻勝手次第之事、

一、日傘是迄停止之処、婦人者白張不苦紺蛇目等者決而
不相成候事、

一、御家中役人初其外江賄賂之儀、是近年寄を以相贈候
もの有之趣相聞候、以来別而嚴敷被仰出候間、聊たり
共相贈申間敷、受納致し候者者勿論、相贈候ものも急
度咎可申付事、

一、音信ニ付贈答土産賤別等も増長致し、猥ニ相成候哉
ニ相聞候、以来真之作り草ニ而聊之野菜物等者別段、
其余り者堅停止之事、

一、酒宴遊興ケ間敷儀堅ク停止之事、

一、博奕之儀御法度者申迄も無之処、心得違之者多く有
之哉ニ相聞、不埒之事ニ候、以来一際嚴敷御穿鑿有之
候間、其旨可相心得事、

附り万一見遁候者有之候節者、其村役人共可為越度
事、

右之通被仰出候間、町在役人共より精々申聞取締堅為相
守、不相用者有之候ハ、早々可申出、猶折々郷廻り差出
候間、停止之品相用候者見咎候ハ、其品取上ケ急度咎
可申付候、

辰十月

右之条々被仰出候ニ付、当村小前末々迄御趣意之通、無
違失急度相守可申候、万一心違之もの有之候ハ、如何様
ニも可被為仰付候、依之一同連印仕御請書奉差上候、以

上、

明治元辰十月日

高取御役所様

当老通

○村庄屋心得条目

明治三年三月

(江南房次郎文書)

村庄屋心得条目

庄屋重兵衛写

村庄屋心得之条々

一、庄屋役之儀者一村之長として、百姓共江伝達之事件
を初め、平生諸世話駈引等其役務たり、時ニよ里村中
之惣代に相立事ニ付、謹而御仁政之御趣意を奉ジ、可
遂精勤事、

一、役威に傲り尊大驕奢之所行堅く誠て、村内百姓共方
申出る儀を是非をもわかつさし押へ、精実を上達せ

ず、或者可奉詔ニ付、賄賂を請依怙之取斗等いたすまじく方正廉直を旨とし、条里明らかに可取斗事、

一、都而布告する趣、急度相守旨趣審かニ村内江可申聞事、

一、百姓離散せざるやう相心懸ケ、難波之者あらば困窮

ニ迫らざる内扶助の手立をなすべし、自然下^(ママ)にておい

て心を不仕程の事ハ、速に可申出、常に華美の奢を警め無益之費を省き、農業を勸メ諸人成立之道可心懸事、

一、田畠不荒様、堤防溝川道橋等修補に怠るべからず、

自然水損等にて及大破下々におゐて普請難調程之事

者、速ニ可申出、荒場起し返し之儀も村中申合、精々可尽心を、百姓の力に不及事者は又速ニ可申出事、

一、田畠用水筋山林等境界を正し評論不起様兼而心を付

可申事、

一、御用人馬者不及申、往来之者人馬繼立昼夜に不限無

滞様兼而其仕法すべき事、

一、御米蔵之儀常々心懸ケ、雨漏等無之様可加修復者勿論、番人等緩せにすべからざる事、

一、収納米其外諸上納もの、念ヲ入聊龜忽無之様可心懸事、

一、役所用と号し、村内江不審之出金いたさせ間敷、村

内諸入費可成丈ケハ相減じ明細に書記し置、百姓中疑

を不生様其訳具ニ申聞セ清廉之取斗可為肝要事、

一、水利を起し、土地ヲ開キ、良木ヲ植付、物産を盛にし永世村里之榮を計るべき事、

一、村内懇和善を勧め、悪を誡め、風議を宜に導候事

ハ、村役人の勤方ニあり、心得方不宜ものあらば殷勤

に教諭を加へ行状を改め志むべし、且又諸人に抽、心得宜しきものあらば逐一に可申出事、

一、常に戸籍之取調不怠、村内ニ不審之者不可留置事、

一、凶年飢歳之手当無怠常々可心懸事、

右之通可相心得者也、

明治三年

庚午三月

寺籍制法

高取藩

○消防規則

明治三年三月

(江南房次郎文書)

消防規則

庄屋重兵衛写

消防規則

一、大中小村差別之事

大村百式拾五家以上百七拾五家以下

中村七拾五家以上百式拾五家以下

小村五拾家以上七拾五家以下

右の割合ニ準し可申事

一、消防人□当様之事

毎年人別帳調之節、男十五歳ヨリ四十歳迄消防人名帖

金橋地区

へ書載テ、加入之もの江右年令中消防相勤可申旨、村々役人ヨリ申付、掟書為読聞可申事、

但し、忝家ニテ年齢相応之者幾人有人有之候共消防ヲ勤ルハ一人ニ限り可申事、

生得柔弱ニテ勤メ難キ者ハ用立候程ノ代人為差出、若柔弱ニ而極貧之者ニ候ハ、右帖面名ノ上江何々之訳ニ而除之ト書記置免シ遣シ可申事、

平常病身有、亦ハ出稼及ヒ奉公稼有人別ニ候共、前同断、

入稼ノ者ハ其訳郷政局江届済ニ候ハ、為□加入届無之分ハ加入不相成事、

消防人之内人撰之上、大村五人、中村四人、小村三人ト定村役人ヨリ一ヶ年限リ取締方可申付衷、

十五歳方四十歳迄、消防相勤候ハ、百家ニテ四五拾人モ可有之、右之内百家三拾人ノ割合ヲ以、強弱ノ者取交当番ト定置、出火之節鐘太鼓ヲ鳴シ候ハ、当番之者草鞋ニ而非番之者モ百消防道具備置者之場所江無速

駄付可申、他村出火之節ハ当番之者斗リ差出し、非番
之ものハ残し置、消防人引取候迄臨時掛リ屋村役人之
差図ニ随ヒ可申事、

村内出火之節ハ、当番之者前同断ニ而非番之者ハ出火
場江駄付、家財取片付紛乱盜難等無之様心掛ケ可申事、

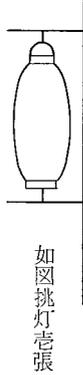
一、纏之事、

大中小村共



一、高張挑灯之事、

大中小村共



但し、蠟燭ハ村役人ヨリ相渡可申事

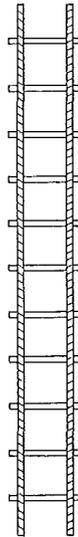
一、手挑灯之事、

銘々有合之挑灯持參可致事、

但し、蠟燭ハ前同断

一、竹梯之事、

大村 三間杓挺式間杓挺
中村 同断
小村 三間杓挺



如图椶繩ヲ以、カラミ付之梯ニ仕立申べし

一、水籠之事大村

中村

小村

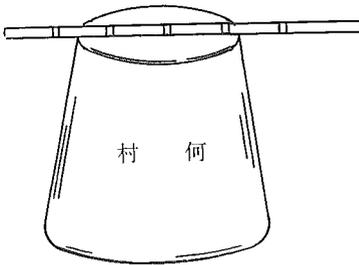
大水籠 三ツ或ハ四ツ
小水籠 四十五

大水籠 二ツ或ハ三ツ
小水籠 三十

大水籠 壹ツ
小水籠 十五

大水籠ノ凶

但小杓荷入



張桶ニテモ
然ルベシ

小水籠之図



一、鳶口之事、

大村六挺 中村四挺 小村二挺

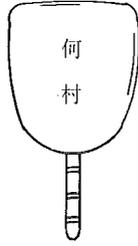
一、手鳶口之事、

大村九挺 中村六挺 小村三挺 但シ腰サシ

一、大团扇之事、

大村五本 中村三本 小村二本

図扇之図



一、釣繩之事、

大村三筋 中村二筋 小村壹筋

釣繩ノ図



中細引長六七間
爪四本ノホキイ
ロリ南

金橋地区

一、釣綱之事、

大中小村トモ壹筋

釣綱ノ図

綱長五六間



一、父斤之事、

大村三挺 中村二挺 小村壹挺

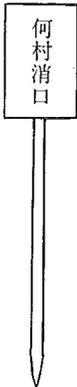
一、鍬之事、

大村小村共壹挺

一、消口札之事、

大中小村トモ式枚

消口札之図



板長サ半間中九寸 棒長半間或ハ壹間

一、竜吐水之事、

村栖相応ノ竜吐用ヒ可申事、

一、頭巾之事、

六三七

出火場江走付候ハ、先梯ヲ打カケ、第壹番纏持、二番手蔭口持ト続テ屋根江カケ上リ、纏持ハ諸人見ヘ安キ高キ場所火近キ所ニ^(ママ)立ベシ、水ヲ送ル者ハ屋根并水之手ニ列リ小水籠ヲ以、水ヲ送り竜吐水ハ裡ヨキ場所ニ居置、大水ノ水籠ヲ以、水ヲ送り可申事、

藁屋根江上ルニハ先梯ヲ打掛ケ、第壹番釣縄持、庇之上江カケ上リ、棟ヘ釣縄ヲ打カケ是ヲ力トナシテハイ上リ、又庇之上ヨリ梯ヲ屋根ナリニ打掛ケ、右之繩ニテ梯ヲ棟ノ屋根籠ヘ縛付可申事、其余前同断、

下火ノ時、水ヲ送ルニモ、纏持ハ真先ニ進ミ火近キ見ヘ安キ場所ニ立ベシ、

高張挑灯持ハ働人ノ足元、或ハ纏、或ハ水之手、見ヘ安キ様ニスベシ、

一、消口札建様ノ事、

消口札ハ諸人見ヘ安キ様高キ場所ヘ建置可申事、
壹ヶ村ニテ消候取候ハ、^(ママ)取締方之者村役人之差図ヲ受、早速消口札ヲ達、何村消口ト壹人大音ニ而呼ア

ゲ、一同手拍トキノコヘヲアグベシ、貳ヶ村、三ヶ村寄合ニ而消口ヲ取候ハ、村役人相互ニ挨拶之上、前同断、消口札ヲ建何村消口ト壹村壹人ツ、カワルガワル呼アゲ、一同手拍トキ之声ヲアグベシ、尤村役人差図無之内消候札、決テ建申間敷事、

一、雑当之事、

居残村役人火之手ヲ候ヒ時刻ヲ計リ、其村々より雑当差送候可申事、

但し、村内出火之節モ右ニ準可申事、

一、人数引揚方之事、

鎮火ノ上、壹村限り村役人取締方立会人数引揚ゲ、纏并高張挑灯ヲ建其場ニ休足為致置可申事、

一、大数調之事、

鎮火之上、出火村役人并取締方立会村々人数并消口及怪我人紛失物有無篤ト取調、其上消口取候村々人ヘ為心付酒一樽ツ差送り、村々役人消防人ヘ一札申述、一同為引取可申事、

附、消候取候村々ハ後ニ残り、差送り候酒樽ヲ竜吐(口?)

水ニ縛付、良暫見合村役人相互ニ及挨拶、纏并高張

挑灯ヲ先ニ進メ列ヲ正シ、遠キ村方方順ニ引取、途

中掛ケ声為致勇ミヨク引取可申事、

消口不取村々ハ引筋之節掛ケ声不相成

怪我人有之候ハ、早速致介抱為引取治療手加へ本人

ハ勿論、親妾子ニ至迄、決(?)而難儀ニ不成様村役人申

談、無手拔厚ク手当致し遣シ可申、出火村役人モ申合

儀、怪我人平愈致シ候迄、客休為見舞村々立越手当方之

儀、怪我人及其家内人村役人ニモ承合手当方不都合無

之様取計可申事、

一、焼跡居残人之事、

村内之者、居残ハ勿論、其余近村遲着ノ村方ニテ居残

可致事、

一、消口札場之事、

日数七日ノ間、建置右日限相立候ハ、出火村役人差図

ヲ以、取締方之者札ヲ掲先方村役人へ差戻シ可申事、

一、消口褒美之事、

御上方御褒美

上ノ消口酒七升

中ノ消口同五升

下ノ消口同酒三升

右消口上中下見立様ハ消口取候村々役人出火村役人立

会见分可致事、

御褒美ハ代料ニ限り可申事、

出火村役人ヨリ消口心付、速ニ差出可申事、御邸并御

城公麁向御家中出火ノ節、消口取候ハ、夫々格別ノ御

褒美可被下事、

御褒美并心付村内褒美トモ村役人ヨリ消口取候者へ割

符致シ遣シ可申事、

一、出火後挨拶之事、

出火村役人并取締方ノ者、忝人ツ、為挨拶駈着呉候、

村々役人及取締方へ立越一礼可申述事、

一、届之事、

新規消防手当相調候ハ、早速御政局ニ相届可申事、

一、消口取候村々并怪我人等向後巨細書載出火村役人ヨリ相届可申事、

一、消防道具修覆之事、

消防道具及破損候ハ、鎮火翌日ヨリ修覆ニ取掛リ必捨置間敷事、

一、怪我人手当入用之事、

諸入用巨細ニ書出シ、大割勘定ニ可致事、但し、御邸并御城公廨向御家事出火之節、怪我人手当入用ハ巨細ニ書出シ、御政局江相伺可申事、

一、諸入用之事、

雑当蠟燭様ノ諸入費ハ半通り、高掛リ半通り、家別割ニテ可然、消防道具入用ハ高及家別割、又ハ身元割、或ハ志ノ輩寄附等致シ村柄ニ応ジ如何様トモ取計、都テ困窮人難義ニ不成様取計可申事、

一、定約之事、定規一札、

一、其御村内出火之節ハ、消防規則の通相心得、人数差

出可申候間、当方村内出火之節ハ、御人数御差出可被

下候定約、依テ如件、

年号月日

何村

年寄名 印

〃 名 印

庄屋名 印

何村

御役人中

右案文之通最寄村々定約一札為取替置可申、尤消防手当無之村々へハ、都テ是迄之通取斗可申間、兼テ承知罷在候様申通シ置可申事、

外

一、御城山出火之節ハ、最寄村々は迄通相心得相応ノ人数差出可申事、

但、防方ニ応シ夫々御褒美可被下支、

右之条々常々心掛堅相守可申者也、

明治三年 庚三月 高取藩

○明治四年ヨリ前十ヶ年貢米書上帳

明治五年五月

(江南房次郎文書)

明治五年
 辛未年ヨリ 貢米書上帳
 前拾ヶ年 元高取県附
 壬申五月日 高市郡
 新堂村

一、反別拾六町九反五畝拾歩壹厘

高市郡
新堂村

此高貳百貳拾九石壹斗八升八合

内

高貳拾八石五斗四升貳合 無地高

田反別拾町五反七畝貳拾八步九厘

此高百三拾四石壹斗八升七合

畑反別三町六畝貳拾六步貳厘

此高六拾石三升五合

文久二年壬
一、戌米九拾四石八斗壹升四合

内 田米六拾七石三斗壹升壹合
畑米貳拾七石五斗三合

文久三年癸

一、亥米八拾九石貳斗四升七合

内 田米六拾壹石七斗四升四合
畑米貳拾七石五斗三合

元治元年甲

一、子米八拾壹石五斗八升

内 田米五拾四石七升七合
畑米貳拾七石五斗三合

慶応元年乙

一、丑米九拾六石五斗壹升九合

内 田米六拾九石壹升六合
畑米貳拾七石五升三合

慶応二年丙

一、寅米六拾七石九斗五升貳合

内 田米四拾石四斗四升九合
畑米貳拾七石五斗三合

慶応三年丁

一、卯米八拾七石四斗八升四合

内 田米五拾九石九斗八升壹合
畑米貳拾七石五斗三合

明治元年戊

一、辰米八拾四石三斗五升三合

内 田米五拾六石八斗五升
畑米貳拾七石五斗三合

明治二年己

一、巳米五拾四石四斗四升七合

内 田米貳拾六石九斗三升九合
畑米貳拾七石五斗三合

明治三年庚
一、午米七拾貳石八斗六合

内 田米四拾五石三斗三合
畑米貳拾七石五斗三合

明治四年辛
一、未米七拾貳石八斗六合

内 田米四拾五石三斗三合
畑米貳拾七石五斗三合

右之通相違無御座候、此段御尋ニ付奉申上候、以上、

明治五年 高市郡新堂村

壬申五月 百姓代 植田庄八郎

年 寄堀部齐五郎

元年寄 植田弥三郎

元庄屋 江南重三郎

奈良県

御役所

○高反別書上帳

明治五年五月

(江南房次郎文書)

明治五年

高反別書上帳

壬申五月

元高取県附

高市郡

新堂村

高市郡新堂村

一、高貳百貳拾九石壹斗八升八合

此反別拾六町九反五畝拾壹步壹厘

此畧

一、高百三拾壹石八升貳合

此反別九町六反七畝廿七步壹厘

(反)

同村南方

一、田高九拾三石七斗五升七合

此反別七町六反貳畝拾六步九厘

内

反別七丁四反貳畝拾步九厘

高九拾壹石七斗五升壹合

本田

此取米貳拾石貳斗六升五合

金橋地区

反別式反六歩

高式石六合

此取米九斗六升三合

小以田米式拾壹石貳斗貳升八合

一、畑高三拾七石三斗貳升五合

此反別式町四畝拾歩貳厘

此取米拾七石貳斗八升三合

内

反別壹町五反拾貳歩貳厘
高拾四石五斗六升八合

此取米六石三斗六升

反別三反九畝拾八歩
高四石六斗八升七合

此取米貳石貳斗五升

反別壹反四畝拾歩
高壹石六斗九升四合

此取米八斗壹升三合

無反別
高拾六石三斗七升六合

此取米七石八斗六升

取米合三拾八石五斗壹升壹合

新田本高並

免四ツ八分

本畑

屋敷

免四ツ八分

屋敷成

免四ツ八分

無地村弁

免四ツ八分

六四四

一、高九拾八石壹斗六合

此反別七町貳反八畝拾四歩

此取

反別六町貳反五畝貳拾八歩
一、田高七拾五石三斗九升六合

此取米貳拾四石七升五合

一、畑高式拾貳石七斗壹升

此反別壹町貳畝拾六歩

此取米拾石貳斗貳升

内

反別六反九畝五歩
高六石五斗四升六合

此取米貳石七斗四升八合

反別壹反六畝貳拾四歩
高式石壹斗七升貳合

此取米壹石四合

反別壹反六畝拾七歩
高壹石八斗貳升六合

此取米八斗四升四合

無反別
高拾貳石壹斗六升六合

同北方

本田

本畑

屋敷成

免四ツ六歩貳厘貳毛五糸

屋敷

免四ツ六歩貳厘貳毛五糸

無地村弁

此取米五石六斗貳升四合 免四ツ六歩貳厘貳毛五糸

取米合三拾四石貳斗九升五合

南北

取米合七拾貳石八斗六合

右之通相違無御座候、此段御尋ニ付奉申上候、以上、

明治五壬申年五月

高市郡

新堂村

百姓代 植田庄八[㊦]

年寄 堀部齊五郎[㊦]

同断 植田弥三郎[㊦]

庄屋 江南重三郎[㊦]

奈良県

御役所

○地祖賦課入費取調帳

明治八年

(江南房次郎文書)

金橋地区

明治八
亥年改
地祖賦課入費取調帳
第五大区七小区
高市郡新堂村

(帳)

明治五申年分
一、金二百八十六円五十八銭九厘

此訳

一、金五十三円 区戸長給料

一、同七円 番人給料貳石六斗

石二付二七かへ

一、同貳拾円 川宮膳費

一、同拾円 道路宮膳費

一、金拾五円 橋梁宮膳費

一、同七円 会議所給料

一、同貳拾貳円廿銭 戸長役所給料

一、同壹円拾銭 牢獄入費

一、同四拾銭 御布告代価

六四五

一、同三拾貳円六錢 村副戸長給料米九石五斗

(但し式石肝煎貳名)

一、同拾四円拾七錢 通井戻米四石貳斗代

一、同五円八拾錢 氏神社入費

一、同貳拾五円 用水門種營膳費

一、同百拾貳円

門樋老ヶ所普請入費
伏樋老ヶ所

一、同三拾七円五拾錢 村人足營膳費

(但し三百分一代)

一、同八円五錢九厘 大川国役掛費

代金少以^レ貳百八十六円五十八錢九厘

明治六酉年
一、金貳百九円五拾八錢

此訳

一、金五拾貳円 区戸長給料

一、同八円拾九錢 番人給料麦式石六斗

(但し三円十五カシ)

一、同拾八円七拾錢 川營膳費

一、同拾円八拾錢 道路營膳費

一、同貳拾八円 橋梁營膳費

一、同七円 會議所経費

一、同壹円五拾錢 牢獄入費

一、同五拾錢 御布告代価

一、同四拾五円 正副戸長以下給料

一、金廿貳円八拾錢 用水要水路費

一、同六円五拾錢 井堰森給料

一、同八円五錢九厘 大川国役掛費

小以^レ百四拾八円四錢九厘

民費人^(入少)

一、金貳円八拾九錢 徴役場牢獄舎營膳費

一、同三十六円廿三錢五厘 道路堤防橋梁修膳費

一、同三円八拾九錢貳厘 布達義達[□]入費

一、同拾円六錢 諸御用ニ付県庁江正副戸長等出

頭旅費

一、同廿三円拾七銭 区扱所諸費

一、同七拾三円七銭五厘 正副戸長以下給料

一、同九円四拾壹銭 郷村社營膳費

一、同三円五拾六銭 祭典遙拜式費

一、同七円廿貳銭 郷社神給料

検見下規及内見帳其外

一、同三円五拾七銭貳厘 一切費

一、同七円九拾壹銭 貢税金取集メ可納済上候(ママ)

諸費

一、同貳円三拾六銭 戸籍調費

一、同貳円八拾七銭三厘 徴兵下調費

一、同七拾三円五拾七銭七厘 学校費

一、同貳円九拾三銭 道路掃除費

一、同貳拾貳円壹銭九厘 用要水道費(ママ)

一、同六円拾五銭 井堰溜池守給料

一、同九円七拾銭四厘 番人給料并諸費

一、金八円五銭九厘 大川国役掛費

金橋地区

〔雲梯〕

○字下井井溝付替ニ付坊城村へ差入一札控

元和九年

(井上伊重郎文書)

〔ソデガキ〕
「字下井、井溝付替 坊城村へ差入一札扣」

しモ井の井手右之井ミそゆかみ申ニ付、坊城領畠を預り
新儀ニほり申候、此井ミその畠の高參石貳斗也、坊城百
姓なミの算用ニ万約束がかり御年貢每年上可申候、いか
やうの国替御座候共一言違乱申間敷候、若又惣国御檢地
御座候共、御年貢不可留候間、其心得可有之候、為其後
日の証文如件、

元和九年朔日

うなて

孫兵衛(書印)

まがり川の

又右衛門(書印)

〔ほしやう〕
□らしやう

吉兵衛殿

六四七

大きな

久 助殿

○劍先船々賃ニ付乍恐謹而言上

宝永二年二月

(井上伊重郎文書)

乍恐謹而言上

訴訟人 和州葛下郡御料私領百姓共

相手 御当地大和川船問屋拾四人

一、和州百姓肥荷物之儀、先前大和川通用国分方上り船

賃古来壹駄ニ六分七リン宛ニ相定、御当地舟問屋拾四

人、銘々我勝ニ大坂中大和問屋を掛廻り、荷物聞立日

々積勝ニ致候ニ付、大和川劍先船三百拾六艘昼夜無間

改上下仕、和州肥荷物少も互滞不仕候御事、

一、今度新川御普請出来、船路勝手能和州肥荷物等舟賃

下直ニ差可申与、国中惣百姓末々迄難在奉存候、然所

ニ御番地舟問屋右拾四人一党致中間(仲力)を極、此度新法ニ

国分迄上り船賃壹駄ニ壹匁りん五毛九□□宛ニ相極、且又拾四

人銘々我勝ニ大和問屋を懸廻り、荷物聞立積勝ニ仕候

儀、向後堅停止ニ申合、剩拾四人日々寄合之会所を
定、高□ニ而罷在荷主を会所へ引付、此荷物御積給れ

と荷主ニ手をすらせ、其上劍先船三百拾六艘順ニ番積

ニ相定申候、依之非番之船ニ働不申候ニ付、和州肥荷

物大分遅滞仕候事、

一、和州耕作肥仕之儀、其季節至候得ハ一朝一夕も遅速

難成儀ニ御座候処、今度船問屋新法之儀申合、肥荷物

段々遅滞、和州耕作肥仕之時節相違仕、末々立毛不熟

可仕儀、国中惣百姓迷惑至極ニ奉存候御事、

一、古川通用国分方上り船賃、古来壹駄ニ六分七リンツ

、ニ御座候処、此茂新法ニ壹匁九分五リン宛ニ相極申

段、船問屋四人余り成我儘至極ニ奉存候、壹駄ニ壹匁

式分四リン宛之違、国中肥荷物壹ケ年を積り、凡金子

壹万両余之儀和州惣百姓永々迄痛ニ罷成、迷惑至極ニ

奉存候事、

一、新川船賃古川並ニ而ハ、御当地船問屋相続難成候由、

此度御訴訟ニ罷出、和州百姓共ニ船問屋掛廻り荷物聞

立船々積勝ニ仕、和州肥荷物遲滞不仕候様ニ相動可申候事、

右之趣毛頭偽リ不申、被為聞召上、右拾四人被為召出、上リ舟賃六分七リン、下リ舟賃三分四リン、先規之通被為仰付被下候ハ、難在可奉存候、以上、

宝永貳年酉二月

○劍先船々賃ニ付言上覚

欠年、宝永二年頃？

(井上伊重郎文書)

覚

- 一、劍先船之儀ニ付、大和国村々^ヲ願上候村数、郡付地頭付村切ニ願人数高書致シ庄屋蓮判^(連)可致ヌ、
- 一、船賃前々何程指出シ此上江此度何程増申事、
- 一、船隻艘ニ付、前々何程駄数積今程何程積候事、
- 一、船ニ而積申初ハ如何様成物ヲ積候哉、干鰯油粕迄ニ而有之哉之事、
- 一、此度江戸へ為惣代ト何人罷下リ申哉、尤其者各地頭

金橋地区

郡付村付之事、

右五ヶ条ハ帳面ニ仕差上ケ可申事、

一、江戸ニ而差上ケ候願書之下書持參可申候事、

右者南都^ヲ被仰出候

乍恐謹而奉願口上書

和州御領私領惣百姓

- 一、和州國中耕作肥シ荷物并諸色積上セ申、大和川筋之儀、古川ハ惣而川底高ク、殊砂川ニ而水渴^(や)し屋すく、舟之上下每度砂をは^(り)里難儀仕候、今度新川御普請結講^(講)ニ出来仕、川並水流風^(情カ)請迄能成、船之通路致安和州百姓共肥シ荷物之勝手能難有奉存罷有候処ニ殊之外大坂劍先船之間屋拾四人一党仕、理不尽ニ運賃大分高値ニ致申候、先年之舟賃之儀候、
 - 上リ船大坂^ヲ国分迄荷物壹駄付六分七リン
 - 下リ船国分村^ヲ大坂迄荷物壹駄付三分八リン
- 如此古来^(極)相究^(極)り候所、此度新法ニ

六四九

上り舟大阪の国分村迄菘駄ニ付 菘匆九分

下り船国分の大坂迄菘駄ニ付 菘匆

右之外亀瀬古市駒谷へも国分並之運賃ニ応し、増懸ケ

取被申候御事、

一、和州耕作肥シ之儀者、全国ニ違稲木綿麦作共ニ大分

ニ仕込申候所ニ大坂の外ニ而調申処無御座、年中ニ凡

三拾万駄余も取寄可申候、然者運賃之増菘年ニ金子六

千両余程も百姓之痛ニ罷成候、其上和州之地ニ而油屋

拵申、肥類大坂の着仕^(マヤ)ス直段引合売候故へ、是以舟賃

之増程損銀ニ相立申ス、此外荷物遅滞仕候故へ、堺へ

廻シ或大坂の牛馬ニ而取申、又ハ肥シ句はつれ申候

而、立毛不熟仕、彼是以無際限百姓之損ニ罷成候御事、

一、荷物滞之儀者、古川之時節ハ船菘艘式拾駄余も積上

七申候処ニ、問屋中申合拾三四駄の外ニ多積不申番積

ニ仕リ、新法ニ舟会所を拵、菘軒ニ而荷物捌申候、此

儀ハ永々船賃高値ニ相極可申ための謀ニ荷物志め積

仕、何時ニ而も船賃さへ高値ニ相極、和州河州同心仕

候上ハ、古来之通式拾駄余も積賃、銀倍徳仕工ニ眼前

ニ相見へ申様ニ奉存候、然共此節荷物多積候而ハ、運

賃高値ニ仕申立テ無之ニ付、わざと荷物減申候、然ハ

三百余艘之船一度登リ申^(マヤ)も、凡三十駄程も遅滞仕候

事、

一、和州肥荷物通船ハ劍先船三百拾菘艘之外ニ荷物運送

之便リ無御座候、依之船問屋中番船ニ相定荷物遅滞

仕、剩運賃大分高値ニ取被申、和州惣百姓迷惑仕候ニ

付、大坂御奉行所江当三月廿三日ニ書付以御訴訟申上

候へハ、重而御僉議可被為遊旨被仰出、夫方以来五月

廿六日迄相詰、数度御訴訟ニ罷出候、然処ニ五月四日

ニ問屋中の上り舟賃菘駄ニ付、三分下り舟賃菘駄ニ

付、菘分五リン向後下ケ可申由、此方へ断被申候、先

其通ニ而取引致候様こと被仰出候、此儀何共乍輕御請

申儀難罷成、迷惑千万ニ奉存御事、

一、先年方積来之荷物を掛候故へ、一度ニ三千駄程も滞

申候へハ、運賃高値之損銀斗ニ而無御座、肥シ向ニは

つれ申候へハ御田地不作仕、第一此儀迷惑仕候間、御慈悲以肥シ荷物通用仕ル新船和州惣百姓共ニ被為仰付被下^(マ)難在可奉存候、此度新船奉願儀候全渡世のため船上下可仕所存ニ而無御座候、先規^カ和州之荷物積申舟ニ而御座候故へ荷主と相對之上ニて運賃古來^カ相究置、是迄ハ何之子細も無之、五駄三駄之荷物も、問屋^カ我先と争ひ聞廻り積上セ自由仕候処、十四人之間屋我儘ニ新法ヲ以、舟賃大分取上、剩少々之荷物ハ積不申、恣ニ番船ニ而相妨候得共、此上も和州之百姓如何躰之難儀ニ罷成も難斗奉存、右船之儀奉願以御慈悲、以御赦免被下候者、和州之荷物積候得ハ永々迄何之申分無之通用可仕候間肥荷物運送仕ル新船、此度和州御料私料領之惣百姓共ニ被為仰付被下候者、広太之御赦と永々迄難有可奉存候、左候へハ御運上銀是迄被為召上候一倍指上、勿論舟賃古川並ニて荷物無滞運送可仕御事

右之趣御慈悲ヲ以被為聞食、上拾四人之間屋被為召出、

金橋地区

番積を相止メ古川並之船賃ニ而荷物運送仕候様ニ被為仰付被下候者難有可奉存候、御僉儀之上新川悪敷古川並ニ船積難罷成ニ[□]定仕無滞荷物通用仕、新船和州御料私領之百姓共へ御赦免被為成被下候者、広太之御救永々是難有可奉存候、以上、

年号月日

和州國中御料私領村々

庄屋連判

○大川筋御普請御入用割賦銀受取覚

享保十七年十月二十四日

(井上伊重郎文書)

覚

一、銀百三拾九匁七分五厘也

右者去亥之年大川筋御普請御入用御割賦銀儘ニ請取申候、以上、

京納役醍醐村庄屋

享保十七年子ノ十月廿四日

源右衛門[㊦]

孫兵衛殿

雲梯村庄屋

覚兵衛殿

六五一

○西応寺住職類族手形

寛保三年十月

(井上伊重郎文書)

類族手形之支

一、当国高市郡雲梯村西応寺住持文祖支出生者当国葛下郡良福寺村西方寺悱、宗旨者代々一向宗ニ而切支丹宗門又ハころひ者之末ニ而茂無御座候、

一、此僧之儀ニ付、如何様之六ヶ敷義出来仕候共、何方までも拙者罷出急度埒明可申候、

一、此文祖村方衆中之御機ニ入不申義御座候ハ、何時成共村方之御意次第ニ可仕候、且又勤方宜敷御座候ハ、いつまでも此手形御用ひ可被下候、為後日之類族手形仍而如件、

寛保三年亥十月

高市郡見瀬村請人

弥重郎印

高市郡雲梯村

庄屋

年寄中

○小前高反別名寄帳

宝曆十一年七月

(井上伊重郎文書)

<p>大和国高市郡 雲梯村</p>

右之寄

(*末尾集計のみ記す)

高九百貳石七斗九升貳合五夕

此反別六拾五町貳反壹畝六步

内

上田三拾壹町七反五畝拾六步 石盛壹石五斗六升壹合余代

此分米四百九拾五石八斗四升五合五夕

中田拾貳町七反貳畝廿四步 石盛壹石三斗七升七合内代

此分米百七拾五石貳斗六升四合

下田七町六反

石盛壹石九升三合余代

此分米八拾三石六升八合

上畑六町五反七畝廿四步

此分米八拾壹石三斗六升九合

中畑壹町三反八畝拾三分

此分米拾四石三斗貳升八合

下畑壹町八反八畝拾四步

此分米拾五石壹斗五升貳合

屋敷壹町三畝拾五步

此分米拾貳石四斗貳升七合

上畑荒壹町五反九畝十六分

此分米拾九石壹斗四升四合

中畑荒三反貳畝廿四步

此分米三石貳斗八升

下畑荒貳反七畝

此分米貳石貳斗五升六合五夕

上畑荒五畝拾步

此分米六斗五升八合五夕

右者当村御檢地帳之表、當時小前持主分米反別少茂相違
無御座ニ付印形仕差上ケ可申候、以上、

大和国高市郡雲梯村

百姓代 孫兵衛

同 断忠 助

年 寄甚 六

同 断伊兵衛

庄 屋伊右衛門

宝曆十壹年

巳七月日

芝村

御役所

○綿方売買ニ付願上

安永二年六月十三日

乍恐奉願上候

清水御領知山辺郡

拾八ヶ村惣代

式上郡惣代

山辺郡東井戸堂村

庄屋利右衛門

(井上伊重郎文書)

式上郡粟殿村

庄屋又三郎

一、此度綿方売買之儀、向後百姓手作綿手繰之外、無札

無株ニ而取引不罷成趣、御書付を以被為仰渡候、然ル

処当村之儀ハ、元来早損場ニ付、田畑之内多分木綿作

仕付罷在候、尤売払之儀ハ是迄京大坂并尾州三州濃州

河内其外遠国近国とわず、銘々手筋次第ニ注文を取、

又ハ直買人或ハ当国之内ニ而も、町人百姓金銀相貯候

もの共、買入ニ諸商人を引請、随分ニ手広売払仕而さ

へ、漸ク九十月之内、日數三四拾日斗大概売払、年々

十月中旬ニ初納ニ上納仕候儀ニ付、困窮強ク、百姓ハ

心外之売弁相立テ難儀仕候、勿論当村々之儀ハ無數貧

窮ニ付、前年御年貢銀納方指支候節、年々売払候買先

江手筋次第掛ヶ合、翌年之正綿前金等借請御年貢銀上

納仕儀、數多ニ而札持株之者之外取引不相成之趣ニ而

ハ、御年貢銀納方差支当国銘々手筋次第ニ売払候儀ニ

不相成、末々如何様成困窮之儀出来可申哉と千万歎敷

御儀ニ御座候間、御慈悲を以、当村々之儀ハ、先規之
通りニ被為仰付被下度奉願上候間、願之通御聞届ヶ被

為成下候ハ、難有奉存候、以上、

安永貳年己六月十三日

山辺郡惣代

東井戸村

庄屋 利右衛門

式上郡粟殿村

庄屋 又三郎

南都
御番所様

○綿売買ノ触書ニ付乍恐以書付奉願上候

安永二年七月六日

乍恐以書付奉願上候

織田丹後守御預り所

式下郡拾式ヶ村

山辺郡 三ヶ村

(井上伊重郎文書)

十市郡十八ヶ村

高市郡十式ヶ村

忍海郡 式ヶ村

葛上郡廿三ヶ村

宇智郡十七ヶ村

村々惣代

一、綿売買之儀、百姓手作手繰之外者、株札所持不仕無

札ニ而売買仕候儀不相成趣、御触書を以被為仰出奉承

知候、然処右御触之御趣ニ而ハ百姓甚々差支難儀之筋

ニ而歎舖奉存候ニ付、乍恐左ニ御願奉申上候、私共郡

々村々作綿之儀、御年貢上納銀宛専ニ而売捌方之儀、

当国買入ハ不及申上ニ、遠国他国之買入江手筋を以引

合注文を受手広売捌申候、勿論綿直段之儀ハ、前方と

ハ格別ニ而買人之多少進退ニより、直段甚甲乙有之候

義ニ付、随分勘弁仕無油断売払、御年貢御上納銀相納

申候、然ニ売買方新規之儀出来候而ハ、是迄之通自由

ニ売捌方難儀仕、自然と下直ニ相成候儀と奉存候、依

金橋地区

之百姓損毛多御年貢銀調達之差支ニ相成り、甚歎敷奉

存候、猶又至而困窮之百姓等綿屋之外、百姓之内ニ而

も勝手宜敷罷在候者ニハ手筋相求頼入御上納銀先借

仕、或ハ肥シ等相求兼候者共、肥シ借用仕置、作綿出

来次第直段ニ積り及返済候者も數多有之候へ者、彼是

百姓共差支ニ罷成候儀ニ御座候、前文ニ奉申上候通、

作綿之儀ハ御年貢上納銀第一之手当ニ仕候儀、右之外

往々如何様之差支出来仕候も難斗、甚当惑仕候ニ付、

乍恐以惣代御願奉申上候、何分ニも御慈悲を以、新規

之□^(企力)ハ御免被成下、前々ニ仕来之通被仰付被下候ハ、

村々惣百姓一統難有仕合奉存候、以上、

安永貳年巳七月六日

式下郡拾式ヶ村惣代

大安寺村年寄

幸助

為川村組頭 喜八郎

十市郡拾八ヶ村惣代

葛本村庄屋 治右衛門

六五五

高市郡拾式ヶ村惣代

雲梯村庄屋 伊右衛門

宇智郡十七ヶ村惣代

南岡村庄屋 清 八

葛上郡廿三ヶ村惣代

福西村庄屋 忠 四郎

御番所様

○下井関水利論ニ付申渡書

安永二年七月

(井上伊重郎文書)

申渡

織田丹後守御預所

藤堂主馬

藤堂庄兵衛

知行所

入組

和州高市郡

訴訟方 曲川村

一、用水論

織田丹後守御預所

同州同郡

相手方 雲梯村

藤堂和泉守御預所

植村出羽守領分 入組

植村隼人知行所

同州同郡

相手方 新堂村

右論所為地改、石原清左衛門手代篠田和助、角倉与一手代石原十右衛門差遣、遂吟味令裁許条々、

曲川村訴出候者高千三百五拾六石之所、用水掛リ百五拾石者字柳田井、百八拾石者字今井、残り千貳拾六石之分者字下井、用水取来候処、新法ニ雲梯村、曲川村用水井路江土俵を入、雲梯村新堂村之者共大勢附添、曲川村用水相妨申候、右下井之井手口坊城村領ニ而、川表式町程上江替リ候儀者先年曲川村、方相願、尤井路床荒年貢雲梯村、方差出、井手郷ニ加江、くれ候様相願候付、井路床年貢五石余、從雲梯村坊城村江相渡させ、右之内曲川村、方償米として毎年米壹石六斗余合力仕候、此謂ニ而曲川村者下井水元本郷ニ紛無御座候処、曲川村江茂不申聞、井路

年貢之内新堂村江茂割掛ケ申候、下井用水樋之儀、近来
樋抗木等者雲梯村請ニ片付御普請所ニ相成、土俵人足等
者曲川村^ノ差出候、曲川村者井手元江遠一入難儀仕候
間、相妨不申候様被仰付被下度旨申之候、

雲梯村答候者曲川村用水者大山川表ニ井堰有之、用水不
足之時者水貫ヒニ参り、雲梯村植附相濟次第水差遣、右
為謝礼樽肴相送り候儀古例ニ候前々曲川村江用水下シ候
節者田通シニいたし、水差遣候処水不足之由段々相頼候
付、字八反田四反田馬場三ヶ所之田地江井溝を附ケ遣候
由申伝候、右為井手米壺石六斗式升宛毎年曲川村^ノ相納
申候、右下井之井手口者坊城村領ニ有之候付、年々井手
年貢五石余相納、雲梯村用水ニ紛無之処、右井筋曲川村
^ノ相妨難儀仕候間、被仰付被下度旨申之候、

新堂村答候者字下井用水者毎年井手米壺石五升宛雲梯村
江相渡、領内水通り候節者用水引取候上、領下曲川村江

流し候仕来ニ候得者、曲川村雲梯村争論ニ少茂差構候儀
無之候、石用水堰上ケ候新堂村領通り井筋板井手式ケ
所、曲川村^ノ取払甚難儀仕候、将又字柳田井者新堂村用
水ニ而余水ニ相成候得者、曲川村^ノ水貫ヒニ参り水下シ
申候、勿論通り井筋も無之候付、田通シニいたし水遣来
候儀ニ候処、曲川村百五拾石之用水之由、曲川村^ノ相違
之儀書上ケ申候間、被仰付被下度旨申之候、

右出入遂吟味候処、柳田井今井下井右三ヶ所之外ニ曲川
村用水掛り者無之旨曲川村申立候付、遂見分候得共大山
川筋ニ用水樋式ヶ所有之候、且曲川村御料方庄屋年寄百
姓共連印を以御預所織田丹後守江延享元子年同三寅年差
出候村明細帳ニ川上雲梯村江つゆ年貢を斗り、貫ヒ水ニ
て稲作仕付候旨書出有之候、且又坊城村領重坂川表字下
井用水筋之儀、曲川村水元本郷ニ而井手年貢雲梯村より
坊城村江相納メ候ニ者謂有之趣曲川村申立候得共、其証
拠無之候得者曲川村一鉢之用水者明細帳書面之通不相心

得候而者難立事ニ候、既雲梯村者右下井筋正徳享保延享
 年中度々御普請申付候証拠有之自普請も致来、古来々井
 手年貢米五石三斗余其外困役高掛り銀茂右井路床高之分
 毎年坊城村江雲梯村より相納メ候証拠書物等有之候条下
 井筋者雲梯村之用水と相見江候、将又雲梯村江曲川村々
 相渡シ候井手米壹石六斗余者、字八反田四反田馬場右三

ケ所有之候儀を不申出不届ニ付申付方も有之候得共、此
 度者令用捨候右式ケ所之用水并下井柳田井之余水を請ケ
 田地相続可致候、双方共右之通堅相守可申候、田地養水
 之儀者耕作第一にて百姓相互之事ニ候間無別心申談此度
 出入ニ取結ヒ候意地を捨上下郷共無復蔵田地相続肝要之
 事ニ候、

ケ所之井手米ト相聞江候、勿論新堂村曲川村江余水下し
 候由ニ而通り井筋も有之候間、下井筋用水之儀雲梯村用

右之通令載許為後証双方江下置之条永不可違失者也、

水入仕廻候上、新堂村曲川村用水ニ引可申候、尤貫水之
 時分重坂川通り下井井手口堰上ケ候儀者雲梯村江申談仕
 来之通、土俵人足等差出可申候、且又柳田井之儀者樋杭

宝曆五乙亥年

三月

伊予御印

能登御印

木等新堂村御普請所ニ候得者新堂村養水ニ用ヒ、槽又仕

和州高市郡曲川村

来之通新堂村江申達候而曲川村江貫ヒ可申候、将又下井

庄屋

通り井筋ニ有之候新堂村板井手曲川村石井手之儀、前々

年寄

ハ實擾之旨双方々申争ヒ候得共双方共証拠無之候、両村

惣百姓

共雲梯村江井手米出し用水請ケ候村方ニ候得者右両井手

同州同郡雲梯村

同州同郡新堂村

共ニ仕来之通致置可申候、曲川村ニ者大山川筋ニ用水式

庄屋

年寄
惣百姓

右之通先年京都御奉行所様方頂戴仕置候御裁判書之写相
違無御座候、尤本紙之儀ハ当村之内御私領藤堂山城守様
御知行所庄屋方ニ所持仕罷有候間、此段御断奉申上候、
以上、

安永貳年

高市郡曲川村

巳七月

庄屋 長三郎[㊦]

年寄 治 助[㊦]

同断 彦 平[㊦]

芝村

御役所様

○前々以来雲梯村免書上帳

安永七年七月

(井上伊重郎文書)

安永七年
前々以来免書上帳
戊七月日
高市郡
雲梯村

覚

一、当村前々方之御免札所持仕候分御吟味ニ付七拾壹通
所持仕候段、先達而書付を以委細申上恭候、猶又此度
所持仕候御免札表御免相斗り書写差上候様被仰渡奉畏
左ニ相記申候

石原新左衛門様御代官

一、宝永四亥年 高免五ツ壹分三厘六毛
毛付免五ツ貳分八厘

右同断

一、宝永五子年 高免四ツ四分三毛
毛付免四ツ九分五厘

右同断

一、宝永六丑年 高免四ツ三分壹厘四毛
毛付免四ツ六分七厘

石原新重郎様御代官所

一、宝永七寅年 高免四ツ壹分八厘三毛
毛付免四ツ六分七厘

右同断

一、正徳元卯年

高免四ツ貳分貳厘四毛
毛付免四ツ五分七厘

石原新重郎様御代官所

一、正徳式辰年

高免四ツ壹分六厘内
毛付免四ツ七分

右同断

一、正徳三巳年

高免四ツ七分壹厘壹毛内
毛付免四ツ八分七厘

右同断

一、正徳四年年

高免四ツ五分三厘壹毛内
毛付四ツ五分三厘^(二カ)

右同断

一、正徳五未年

高免四ツ八分壹厘壹毛内
毛付四ツ九分七厘四毛

右同断

一、享保元申年

高免四ツ九分四厘九毛
毛付四ツ六分五厘

右同断

一、享保式酉年

高免四ツ七分五厘六毛
毛付免五ツ三厘

石原新重郎様御代官所

一、享保三戌年

高免四ツ六分貳厘五毛
毛付免四ツ八分三厘

右同断

一、享保四亥年

高免三ツ三分貳厘七毛
毛付四ツ八分

宝七郎左衛門様御代官所

一、享保五子年

毛付免四ツ八分

間宮三郎左衛門様御代官所

一、享保六丑年

高免四ツ壹分壹厘四毛
毛付免四ツ八分五厘

会田伊右衛門様御代官所

一、享保七寅年

毛免四ツ八分五厘

右同断

一、享保八卯年

毛付免四ツ八分五厘

会田伊右衛門様御代官所

一、享保九辰年

毛付四ツ八分五厘

右同断

一、享保拾巳年

毛付免四ツ八分五厘

右同断

幸田善大夫様御代官所

一、享保十二未年

高免四ツ壹分壹厘九毛
毛付免四ツ三分三厘五毛

右同断

一、享保十三申年

高免四ツ九厘壹毛
毛付免四ツ五分貳厘八毛

右同断

幸田善大夫様御代官所

一、享保十五戌年

高免四ツ四分四毛
毛付免四ツ五分貳厘八毛

近山清右衛門様御代官所

一、享保十六亥年

高免四ツ四分四毛
毛付免四ツ五分貳厘八毛

右同断

一、享保十七子年

高免貳ツ四分貳厘
毛付免四ツ五分貳厘八毛

右同断

一、享保十八丑年

高免三ツ四分六厘八毛
毛付免四ツ五分三厘八毛

右同断

一、享保十九寅年

毛付免四ツ五分貳厘八毛

平岡喜兵衛様
石原清左衛門様
両御代官所

一、享保貳拾卯年

毛付免四ツ五分貳厘八毛

花井庄九郎様御代官所

一、元文元辰年

毛付免四ツ五分貳厘八毛

右同断

一、元文貳巳年

毛付免四ツ五分貳厘八毛

右同断

一、元文三午年

毛付免四ツ五分貳厘八毛

右同断

一、元文四未年

毛付免四ツ六分五厘三毛

右同断

一、元文五申年

毛付免貳ツ八分八厘壹毛

当御預り所

一、寛保元酉年

高免五ツ三分八厘九毛
毛付免五ツ五分四厘

当御預り所

一、寛保貳戌年

高免五ツ五分五厘四毛
毛付免五ツ七分壹厘

右同断

一、寛保三亥年

毛付免五ツ七分壹厘

右同断

一、延享元子年

毛付免五ツ七分壹厘

右同断

一、延享貳丑年

毛付免五ツ七分壹厘

右同断

一、延享三寅年

毛付免五ツ七分壹厘

右同断

一、延享四卯年

毛付免五ツ七分壹厘

当御預り所

一、寛延元辰年

毛付免五ツ七分壹厘

右同断

一、寛延貳巳年

毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、寛延三午年

毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆元未年

毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆貳申年

毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆三酉年

毛付免五ツ七分壹厘七毛

当御預り所

一、宝曆四戌年 毛付免五ツ七分式厘七毛

右同断

一、宝曆五亥年 毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆六子年 毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆七丑年 毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆八寅年 毛付免五ツ七分壹厘七毛

右同断

一、宝曆九卯年 毛付免五ツ七分式厘三毛

当御預り所

一、宝曆十辰年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、宝曆十一巳年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、宝曆十式午年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、宝曆十三未年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、明和元申年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、明和貳酉年 毛付免五ツ七分式厘三毛

当御預り所

一、明和参戌年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、明和四亥年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、明和五子年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、明和六丑年 毛付免五ツ七分式厘五毛

右同断

一、明和七寅年 毛付免五ツ九分八厘壹毛

右同断

一、明和八卯年 毛付免三ツ壹分九厘七毛

当御預り所

一、明和九辰年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、安永貳巳年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、安永参午年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、安永四未年 毛付免五ツ七分式厘三毛

右同断

一、安永五申年

毛付免五ツ七分式厘式毛

右同断

一、安永六酉年

毛付免五ツ七分式厘式毛

右七拾壹通御免札之表御免相之写相違無御座候、何時成

共御免札本紙可奉入御覽候、以上、

戊七月

雲梯村年寄

甚 六㊦

同断

伊兵衛㊦

庄屋

伊右衛門㊦

」

芝村

御役所

○宗門帳惣べり帳

天明二年三月

(井上伊重郎文書)

天明貳年	宗門帳惣べり帳
寅三月	高市郡 雲梯村

金橋地区

高市郡雲梯村

一、家数七拾七軒

内 道場 壹軒

堂 壹軒

外社式ヶ所

人数合三百式拾六人 (左合計ニ合テマ)

内

男百六拾七人 七拾才以上三人 七才以下拾七人

女百五拾式人 七拾才以上六人 七才以下十三人

但シ去丑年と増減無御座候

一、牛八疋

御座候

但シ去丑年と増減無御座候

一、馬

無御座候

一、天神社 壹ヶ所

御座候

但シ社人社僧無御座候

一、権現社 壹ヶ所

御座候

右同断

一、道場 壹軒

御座候

但し当時僧無御座候

一、堂 老軒

御座候

但し僧老入御座候

一、庵

無御座候

一、八乙女

無御座候

一、称宜

無御座候

一、医師

無御座候

一、山伏

無御座候

一、座頭

無御座候

一、占者

無御座候

一、焼亡

無御座候

一、穢多

無御座候

右ハ当村家数人数寺社堂庵其外前書名目之者牛馬等迄相
改候処書面之通相違無御座候、以上、

高市郡雲梯村

天明貳年

庄屋 伊右衛門[㊦]

寅三月

年寄 甚 六[㊦]

同断 伊兵衛[㊦]

芝村

御役所

○飢饉ニ付公儀より被仰出候薬方写

天保八年五月二十六日

(井上伊重郎文書)

天保八酉年五月廿六日

公儀より被仰出候薬方写

雲梯村

庄屋 伊右衛門

時疫流行候節此薬を用て其煩をのがるべし

一、時疫にハ大つふなる黒大豆をよくいりて、耆合かん
ぞふ耆匆水にてせんし出之時ニ吞てよし、右医[□]ニ出
る、

一、時疫にハ茗荷の根と葉をつきくたき、汁をとり多く
吞てよし、右時後備る方に出る、

一、時疫には牛房をつきくたき汁をしぼり茶碗半分ツ、

二度吞て、其上桑の葉を一握ほど火にて能あぶり、黄色に成たる時茶碗に水四盃入二盃ニせんして一度飲て汗をかきてよし、若桑の葉なくハ枝にてよし、右孫真人食着ニ出る、

一、時疫にてねつ殊の外つよくきちがひのことくさわきてくるしむにハ芭蕉乃根をつきくだき汁をとりて飲てよし、右時後備多方ニ出る、

一切の食物毒にあたり又色々の草木きのこ魚鳥獸なと喰煩ニ用て其死をのかるへし、

一、一切の食物の毒にあたりくるしむにハいつたる□をなめてよし、又ハぬるき湯にかきたて飲てよし、

但、草木の葉を食て毒あたりたるニハいよくよし、右農政全書に出る、

一、一切の食物の毒に当りてむね苦しく腹はり痛にハ苦參を水にて能せんじ飲食を咄(マヤ)いたしてよし、右同断、

一、一切の食物に当り苦むにハ大麦の粉をこふはしくいりて、さ湯にて度々飲てよし、右本学綱目(第九)に出る、

一、一切の食物にあてられて口鼻より血出てもたへくるしむにハ、ねぎを刻て壺合水にてよくせんしひやし置て幾度も飲べし、血出やむ迄用ひてよし、右衛生易等に出る、

一、一切の食物の毒にあたり煩ふニ大つぶなる黒大豆を水にてせんし幾度も用て吉し、魚に当りたるにハいよくよし、

一、一切の食物の毒に当り煩ふに赤小豆の黒焼を粉にしてはまくり貝に一ツ程も水にて用べし、獸の毒ニあたりたるにハ弥々よし、右千金方ニ出る、

一、菌を喰あてられたるに忍冬の萱葉とも生ニてかミ汁をのミてよし、右夷賢志ニ出る、

右之薬方凶年之節辺土の者雑食の毒に当り又凶年之後必疫病流行の事有、其為に簡便方を撰むへき旨、依被仰付諸書之内より致吟味出也、

享保十八辛丑十二月 望月三英

丹羽正伯

右者享保十八辛丑年飢饉の後時疫流行いたし候処、町奉行所へ板行被仰付御領所村々江被下写

右者当時諸国村々疫食の毒に当り相煩難義いたし候趣相聞候、天明四辰年御薬方為御赦相触候処年久敷事故村々にて違失いたし候儀をも可有之候ニ付、此度為御赦右之写猶又村々江領主地頭より可被相触候、右之通可被相触候、

四月

右之趣従公儀被仰出候間村々不洩様承知仕、此触状村下ニ請印いたし月日刻付并何村より至来何村江順達之訳下ケ札ニ相認早々相廻シ留り邑より可差戻もの也、

西五月廿二日 高取

卯刻出 役所 印

○雲梯村檢地帳

天保十四年八月

(井上伊重郎文書)

天保十四年
檢地帳
卯八月日
和州高市郡
雲梯村

(米末尾集計のみ記す)

右之寄

一、反別六拾五町貳反貳畝廿七步

此分米九百貳石九斗七升七合五勺

此訳

石盛壺石五斗六升壹合

上田三拾壺町七反五畝拾六步

此分米四百九拾五石七斗四勺内

石盛壺石三斗七升七合内

中田拾貳町七反貳畝貳拾四步

此分米百七拾五石貳斗六升四合五勺

石盛壺石九升三合

下田六町七反七畝貳拾六步

此分米七拾四石九升三勺余

内

壹畝拾五步 文政四巳年起婦リ免八分

石盛壹石貳斗三升八合八勺内

此分米壹斗五升五合貳勺

上畑八町壹反八畝五步

貳反七畝七步 永荒川成高

此分米百壹石三斗五升三合九勺

此分米貳石八斗壹升三勺九才

内

石盛八斗四合内

六畝步 寛政四子年起婦リ免三分

下畑貳町貳反壹畝七步

此分米七斗四升貳合貳勺

此分米拾七石七斗八升七合

壹畝步 寛政五丑年起婦リ免壹ツ八分

内

此分米壹斗貳升三合七勺

九畝九步 文政四巳年起婦リ免八分

壹畝步 文政四巳年起婦リ雜木立

此分米七斗四升七合七勺

此分米壹斗貳升三合七勺 免八分

三反壹畝廿四步 永荒川成高

壹町三反壹畝貳步 永荒川成高

此分米貳石五斗四升五合四勺六才

此分米拾六石貳斗三升壹合五才

石盛壹石貳斗四合余

石盛壹石三升五合余

屋敷壹町六畝拾五步

中畑貳町五反貳拾四步

此分米拾貳石八斗貳升貳合六勺

此分米貳拾五石九斗五升九合三勺九才

反別六拾五町貳反貳畝廿七步

此分米九百貳石九斗七升七合五勺

一、享保拾八丑年 家敷人数相知レ不申候
ニ付此段御断奉申上候

一、延享元子年 右同断

一、宝曆二申年 右同断

一、明和元申年 家敷人数相知レ不申候
ニ付此段御断奉申上候

一、寛政元酉年 右同断

一、天保十三寅年 相知レ申候ニ付奉書上候

一、家数合八拾五軒

内

道場壹軒

地藏堂壹軒

一、人数合三百五拾人

内

僧貳人

男百七拾六人

女百七拾四人

○綿方之儀ニ付七郡村々惣代方願上口上書

(欠年) 七月二十九日

(井上伊重郎文書)

乍恐奉願上口上書

織田丹後守殿御預り所

七郡村々惣代共

一、綿方之儀ニ付、御歎願奉申上候処、口書御取被為印

形仕候様、被為仰付候処、私共惣代之事故、村人江申

達[]印形差上申度奉願候処、御聞届被成下難有

奉存候、依之村方向寄江申返し候処、右御吟味口書ニ

惣代共方願不申上候処、相洩有之候事共御座候へ共、

何卒御書入被成下候処、幾重にも御願申上候様申越ニ

付、不奉願恐をも口書江御書入被下度趣意奉申上候、

一、男女ニ不限村々百姓稼も相成兼、至而困窮之もの共

ハ、綿時節ニハ所々作綿外方格別下直ニ而賃繰仕候者

共、又ハ昼中ハ百姓稼仕、夜分ハ少々ツツ賃繰下直ニ

而、稼詰メ貧窮之助ニ仕候得ハ、是等之儀以来無抛而

稼と不相成候様罷成候段、是以夥敷奉存末々迄と差支

ニ罷成申候、

一、村々小百姓共綿纒ニ拾斤、貳拾斤程ツツ作り候綿
ハ、綿中買之外、借用主又ハ肥代銀其外買掛リ□、夫
々江相渡勿論是迄多クハ古手古金買ニ相廻リ候者共売
払候処、無札ニ而綿売買不相成候而ハ、右□取斗難
成古手売候もの共ハ、猶心得買不申、末々小百姓共
迄、甚タ差支ニ罷成申候、

一、元禄年中御奉行所妻木彦右衛門様御勤役之節、綿屋
共新規組合之儀願出候故、國中百姓共方差支ニ相成趣
願上御聞届被成下、綿屋共江已來綿方ニ付、新規組合
等之儀相願不申様被仰付、其趣御文書迄取被成下候御
事、

一、拾七年已前宝曆六子年、御奉行山本紀伊守御勤役之
節、当国買次問屋十七人方綿歩引、込目并人数定之儀
願出候処、是又百姓方差支候趣、願上御聞届被成下、
尚又例年之通綿買出シ、百姓方差支不申候様致為成下
候御事、

一、三年以前明和八卯年、当御奉行江平群郡今国府村大
倉直右衛門儀大和綿名印ニ付、国々ニ而も賞美仕候
故、大和綿大倉改ト申差札仕度願上候処、是又百姓差
支ニ相成候段願上候処、右直右衛門儀病氣ニ而願書御
下ケ願下ケ願上候故、御下ケ被成、古來之通ニ罷成、
百姓一統重々難有奉存罷有候、

一、鍋屋町宇右衛門儀不得止事、又々綿方之儀願出、惣
百姓共迷惑仕相歎罷有候ハハ、何分是迄之通ニ被成
下、重而宇右衛門ハ不及申、外々方綿方ニ付願出候
共、御取上被為成下候様仕度、此段奉願上候、

右之趣奉申上奉存候ハハ、嚴敷御吟味之上、口書御取被
遊候故、恐入得止申上候、依之村人江口書之様子相通シ
候処、右相洩候儀、口書ニ御書入被下候様幾重ニも御願
申上候様申越候間、以御慈悲何卒口書ニ右ケ条共御書入
被為成下、御憐愍之程奉願上候、此段御聞届ケ被為成下
候ハハ、重々難有可奉存候、以上、

七月廿九日

七郡惣代

御番所様

(惣代共名前付、略)

一、百石以上高持
右之通相違無御座候、以上、

無御座候

〔忌部〕

○御糺ニ付書上帳

文政七年二月

(雲梯・井上伊重郎文書)

文政七年
御糺ニ付書上帳
申二月
高市郡
忌部村

覚

一、檢地帳

無御座候

一、田畑名寄帳

御座候

一、百姓持山

無御座候

一、老町八反式畝拾六步

惣村作地 式拾三石式斗六升三合御座候

高取
御役所様

〔曲川〕

○興福寺一乘院領曲川麴室座文書

五月二十四日

(京大文書)

先日者、乍御報御状令拝見候、仍麴室津主之儀、去年以來度々承候之趣、曲川ニ申聞候処、自高天殿者助太郎理運之旨被申事候之間、難申付由候、彼書状者、高天殿へ取返被申由候、於其方御尋候者、不可有其隠候、菟角御奉行衆各々ニ候之条、此方ニてハ不可相濟候、急度助三

郎助太郎上申、高天殿へも同前ニ以書状可申入候之条、被成其御心得、御一途肝要存候、我等指引不入事候、前々姿可沙汰候、即曲川返条進置候、我等非疎意候、猶期後音候、恐々謹言、

五月廿四日

為成(花押)

(宛書)

「北大路大膳大夫殿

高田參河守

二条法眼御房

御返報

為成

○源左衛門へ麴室座支配申付書

十二月十八日

(京大文書)

就麴室錢之儀、委細被仰出候、是者曲川座之儀候歟、此段者從前々致紛者、源左衛門支配仕候条令取沙汰、可運上旨可申付候、敵方之者ハ爰元出入成間敷之間、以其御分別御披露所仰候、恐々謹言、

極月十八日

行政(花押)

二条法眼御房

」

○一乘院門跡御教書案

(欠年)

(天國保井文書)

自是可被仰出思召刻御返事被申入御本望之至候、仍麴室役錢無沙汰之儀被相尋候者之へ共、座中申事依在之、右役錢拘置由申候哉、座中申事者、合手在之儀候間、面之公事にて可相果候、然間國中麴室役錢皆々運上仕候、其外今度曲川郷麴室座錢事、曲川方は使津主儀相紛被申ニ付而、彼郷役錢無沙汰由注進申候条、先度高田三河守へ被仰出候□□ニ、曲事旨則曲川へ被申届候間、如在來運上候、然ニ□□双役錢無沙汰、曲事次第思召候、所詮如在來運上可任旨、御下知可為御本意候、尚難被候者遣責使可被入候、其方御領中□□条先重而被仰出由所候也——猶々麴室役錢相出面々方々ニ在之候処、先書被仰出兩人斗無沙汰仕候、曲事無是非候、以上、

(※五位庄の飯室、輕庄・八木庄の煎米屋史料は「飛鳥誌」參看。)

」

○曲川向原山徳寺縁起

天文十三年一月

(天図近世文書)

高市郡金橋村大字曲川
向原山徳寺縁起

便垂跡於六合也久矣今世現靈於此号自在王如来外則守護
国家安全内則護持仏陀之靈場吾俱与皇太子引出火宅有情
為導於清涼地故和光同塵乎於茲乎皇太子立写造翁像以建
廟于此即崇信八幡大菩薩終為当地鎮守者也、

予案スルニ向原之鎮守八幡ハ人皇十六代応神天皇誉田
是也所々之託宜ヲ考ルニ皆此本地仏菩薩化身ナリ石清
水杜本地ハ阿弥陀如来也以是向原寺本尊今之善光寺三
尊ト等シ太子亦觀音薩埵也大悲□化ヲ隱シテ神顯レ給
歟向原寺七堂之伽藍アリ三尊堂薬師堂釈迦堂大日堂旧
地亦カウシガ池アリ

春日謁安閑帝廟

祠廟草深曲径通

風光此地千年古

人日謁八幡宮

古廟空林裏

山鳩鳴枯水

丹堦神灯側

徘徊池潢上

伝聞往昔万乗公

雲樹春來更鬱葱

春寒花未開

夕日没蒼苔

荒庭狐穴頽

寂寞客無來

于此人王八十八代後深草院御宇康元年中此地領主佐竹刑
部左衛門尉源末方之舍弟右衛門尉源末兼親鸞聖人闕下向
受化導成弟子即聖
折節入道後來于此再興向原寺或日向原之宅亦
入法名於賜兼誓也向原之道場世俗号新向原寺一向專念之(香)然宗風日日繁昌
而老若男女不問遠近貴賤側溢門前如市遍蒙化導者不知幾
(間カ)

千万嘗兼誓夢見白髮之老翁告兼誓云吾者遠祖八幡大自在
王也即此地之地主矣汝今弘通妙法則吾本懷也親鸞聖人即
善光寺如来是也然則汝者神末師者仏本矣(采カ)竟宋遺一鉢之像
皇太子直作之八幡像末兼有一女三男兄兼俊是也次男則義
是也故永為當寺宝物是也次男則義
号慈円

臨産之時父母感一夢既爾之宅迎柁樹数千株生須更繁群蓋
人屋而則義出生名称松樹丸或改性於柁群

末兼 則当 安光 兼氏

末兼 則義 則安 則近 政行 重為

重正 重長 則当 安光 兼氏 定則

則次 義政 義定 則基 宗義 義綱

行光 則浦 則行 則信

右則行本願寺相承信証院蓮如上人第八代当国下向之節于

将文明十九年未二月松村苗裔源左衛門則行出家而法名誓可坊敷一

向念仏ヲ弘ム向原寺取立向原山徳応寺ト号或ハ云フ聖徳

ノ徳ノ字ト応神ノ応ノ字、故ニ当寺ハ往古ヨリ八幡神之

鑑ヲ所持スル今ハ其義ナシ八月十五日放生会式アリ

蓮如上人延徳元年当寺ニ越歳シ給フ和歌

トシハクレケフマデツモルシハセツキヲヒノハルニハマ

タヤヲ、ヘキ

天文十三甲辰

正月 誓雲

金橋地区

○曲川村宗旨御改帳

安永九年五月

(天図近世文書)

安永九年
和州高市郡曲川村宗旨御改帳
子五月
浄土年扣
(貼紙)

一、從此以前度々被仰付候切支丹宗門御改之儀、如毎年

当村中庄屋年寄五人組惣百姓借屋借地之者、年季一季

半季居之下男下女迄吟味仕候処、疑敷者無御座候事、

一、切支丹宗門之者抱置候敷宿を借シ候ハ、宿主者不

及申、庄屋年寄五人組迄從御公儀被仰出候通御仕置ニ

可被仰付候、借家借地之者たりといふとも於致宿ハ右

同事之御仕置ニ可被仰付旨、常々被仰渡奉得其意候事、

一、他所方參田畑を買、家を求或者養子、或者入簣ニ參

候者、其外借屋借地之男女ニ至迄当村ニ住宅仕候ハ

、彼者之先祖承届且那寺江茂断を申、其上宗旨相改

寺請立させて可申事、

右之通毎年御改被仰付無油断村中吟味仕候、勿論切々寺
参仕候者にてても其者之身持作法少成共不審成義於有之者
早束可申上候、切支丹宗門之者村中ニ有之候ハ、庄屋
年寄五人組可存所御高札之趣違背仕不申上、脇方相知レ
候ハ、御穿鑿之上庄屋年寄五人組随料之輕重、御公儀方
之御仕置可被仰付之旨奉承知候、為後日村中連判仕差上
申候、

浄土宗知恩院末寺和州高市郡五井村

一、且那寺称名院

宇次郎

同寺

弟清吉

同寺

母

一、且那寺称名院

宇兵衛

同寺

女房

同寺

女子もよ

一、且那寺称名院

利助

同寺

男子利兵衛

同寺

女房

一、且那寺称名院

伝兵衛

同寺

姉はや

一、且那寺称名院

五兵衛

同寺

女房

同寺

男子万五良

浄土宗知恩院末寺和州高市郡今井村

一、且那寺西光寺

喜平次

同寺

母

一、且那寺称名院

甚三郎

同寺

半兵衛

一、且那寺称名院

母

同寺

長兵衛跡妙

一、且那寺称名院

妹か

同寺

彦次郎

一、且那寺称名院

女房

同寺

女房

一、且那寺称名院

藤助

同寺

女子すて

同寺

男子藤九郎

同寺

女房

同寺

男子藤九郎

惣人数合式拾七人拾四人男
拾三人女

右印形仕候者共、拙僧共且那寺ニ紛無御座候、切支丹之儀者不及申、ころひ之類族ニ而茂無御座候、宗旨之儀ニ付訴人御座候ハ、且那寺罷出可申披候、此帳面之者共之内切支丹宗門之者於有之者、且那寺如向様之曲事ニ茂可致仰付候、為後日依而如件、

浄土宗知恩院末寺和州高市郡五井村

称名院[㊟]

洞誉(花押)

浄土宗知恩院末寺和州高市郡今井村

西光寺[㊟]

現誉(花押)

前書之帳面宗旨御改之儀村中者不及申、枝郷新家持借屋借地之者、年季一季半季居之下人下女迄人別ニ念を入相改候所、不審成者無御座候、依之村中判元并且那寺住持之判形私共見届申候、無本寺印判者勿論代僧之判形茂取不申候、先年より宗旨御改被仰付、毎年吟味仕被仰出候趣、口上ニ而茂能々為申聞判形為致申候、此外帳面ニ

金橋地区

洩候者亾人茂無御座候、若疑敷者御座候ハ、早束可申上候、切支丹宗門之者村中ニ有之脇方相知レ候者、私共如何様之曲事ニ茂可致仰付候、為後日奥書連判仕差上申候、依而如件、

安永九年

曲川村庄屋 喜右衛門[㊟]

子五月

年寄 権次郎[㊟]

同断 甚兵衛[㊟]

同断 善右衛門[㊟]

藤掌山城守様

御役人中様

○秤改メ料受取証

(享和頃) 八月八日

(天國近世文書)

ま印

曲川村

九百四拾五

合正銀 [㊟]此銀濟 百拾式匁壹分五厘

内訳

[㊟]渡濟 一千木 廿七挺

六七五

右修覆改料

銀四拾九匁分六厘

諸穴積リニ付棹かへ

一、壹貫目掛千木 七挺

代銀壹挺ニ付貳匁六厘ツ、

渡濟 壹番

渡濟 拾番

渡濟 十七

渡濟 廿貳

渡濟 廿三

渡濟 廿四

渡濟 卅貳

此代

銀四匁四分貳厘

目消紛敷ニ付棹かへ

一、三貫五百目掛リ千木貳挺

代銀壹挺ニ付四匁八分六厘ツ、

此代

渡濟 卅壹

渡濟 五番

銀九匁七分貳厘

目消さらへゆかみ木ニ付棹かへ

一、六貫目掛リ千木三挺

代銀壹挺ニ付七匁分九厘ツ、

渡濟 廿六

渡濟 卅三

渡濟 卅六

此代

銀廿壹匁五分七厘

目消紛敷ニ付棹かへ

一、廿三貫目掛リ千木

渡濟 三拾番

代銀 拾七匁分ツ、

棹かへ料

銀六拾貳匁九分九厘

右難用ニ付棹かへニ相成候間、出来之上此書付を以可相渡、以上、

八月八日 御秤改役所 印

○堀梁助同心三人退役願ニ付追訴奉言上候

(欠年) 九月十九日

(東坊城・村島兵治文書)

乍恐追訴奉言上候

一、善太郎、甚六、弥右衛門三人儀者堀梁助殿同心之由、依而百姓不帰依ニ御座候趣者、先達而奉言上候至(通カ)ニ而梁助殿役儀御除キ被為仰付候得ハ、差講(擧カ)も無之様ニ被上察候而、年寄中和談之相拶致し被呉候得共、兼而百姓之難儀を不願被相動心諸ニ御座候間、百姓至而不帰依ニ御座候、両村治リ不宜奉存候、右三人是悲退(非カ)役被為仰付被下候得ハ、両村相続之基も難在奉存候、以上、

寅九月十九日

坊城曲川

百姓惣代

(二十名略)

曲川村

惣八郎

新助

喜助

西山丹下様

┌

金橋地区

○大川筋普請入用銀請取覚

天保十五年一月二十四日

(天図近世文書)

請取申上納銀之事

一、銀四拾壹匁八分四厘貳毛

役高七百六拾石四斗七升八合
百石ニ付五匁五分貳毛掛

右者去ル丑年城州河州撰州大川筋御普請御入用銀掛改

髓請取申所如件、

天保十五年辰正月廿四日

三井三郎助

和州高市郡曲川村

庄屋

年寄中

┌

○村役人勤申渡覚

弘化五年三月

(天図近世文書)

申渡覚

一、村方扶持集近来猥リ之取集ニ付、已来本人相迫り代人無用之事、

一、村方時打惣申受之義者、其時々翌日ニ申受、尤水旱

六七七

之節者村方之取締ニ準シ、差図ヲ受候事、

一、婚礼又者死去之節、何連ニ不限代人無用、本人罷出
当人之差図次第可致事、

一、火難盜難洪水其外、臨時之節者、早速村役人方江欠
付、役筋無油断相勤可事、

一、年中時折ニ村迫り、非人ヲ付置候義無用、無油断本
人相迫り候事、

一、近年田畑并山林ヲ荒し候者有之、甚以始末不行届有
之、已後昼夜ニ心付荒し不申様可致事、

一、村方人寄之義出来候歎寺社并村内ニ而多人數集り候
節者、本人刻々ニ村方相迫り候事、

一、村方若キ者江友達ケ間敷附合者勿論、村役人江都而
遠慮可致事、

一、近年身持以之外不作法之義有之、向後身上相慎可申
事、

一、村方已來博奕法度之義申渡候上、万一右様之取目論
見仕候者有之候ハ、見付次第早速可訴出事、若又見

捨置候歎、又者其場之者共迄同腹致、見のがし候事後
日及露頭候ハ、其時之振合ヲ以取斗方有之候間、急
度相慎可申事、

右之通申渡置候間、此ケ条之内言ケ条ニ而も不法之義出
來候ハ、其時ヲ限り、村役人方取斗方有之候間、向後
心底相改万事無油断相勤可申事、

弘化五年

三方役人

申三月

○若輩者博奕に携り候詫書

弘化五年三月

(天図近世文書)

差入申詫書之事

当村組頭一流

一、当村若輩之者、春來御法度之博奕ニ相携り、追々増
長仕候ニ付、今般三方御役人中村方一流博奕ニ打寄
候者、御調掛ケニ相成、調詰ニも相成候而者、何共申
開様無之、甚難渋仕、其迷惑ニ付組頭一流立出、糴濟
之義御詫申入候所、人躰夫之御支配之義ニ付、種々御

勘談之上被申渡候趣意者、三ヶ年已前博奕仕候ヲ御見咎之上、詫書取之其上過料取立可仕所、一応者別段仁慮ヲ以過料之義者差赦し、穩ニ仕舞置候記柄も有之候所、又候趣意違背仕候義ニ付、承知相濟兼候所、被申聞至極御尤ニ奉存候得共不得止事、押々詫談申入候所、左候得者、組頭一流、已後村方ニテ博奕聊之勝負事ニ而も取目論見及聞候ハ、早速ニ訴出候様之義被申渡、承知仕候、此度博奕取調一条ニ付、村内ニ而不入惡悦共不竟調致候者出来候ハ、締方取崩し候道理ニも相当り候ニ付、過料として其人前ニ錢拾貫文宛可取筈ト申聞、是又承知之事ニ候ハ、此度者組頭一流へ差任せ、事済可仕様ト申聞其段右ニ相携候者へ悉及申聞候所、少し違背仕間敷候間、何分御詫申給り度旨、追々申立候ニ付右次第村役人中へ組頭一同方申遣候所、御聞訊被成ト已来組頭一同無油断心付、重而右躰之義不仕様為相情可申候、万一及違背博奕仕様候ヲ隣家表裏之者見捨置、不訴出、村役人中方察留ヲ受候

金橋地区

様之義出来候ハ、宿同様之過料御取立被下候共違背難成義是又組内ヲ限り申渡候義、御差図通り申合可仕候、為後日詫書連印一札如件、

弘化五年

申年三月日

組頭 権右衛門◎
(以下十七名略ス)

三方

御役人中

○村方儉約取締書

嘉永三年一月

(天図近世文書)

村方儉約取締書

- 一、博奕諸勝負之儀、是迄取締之通り過料可取事、
- 一、水難ニ而村方困窮弥増候ニ付、向後村内江肴屋菓物類其外儉約可成之商人立入候ヲ、三方之肝煎三人江申付置、見附次第村外江送り出し可申事、無拋世事入用之品者差置、右者肝煎三人江申渡し置事、
- 一、夜中ニ打寄酒飯ト相捨候ハ、見附次第意味相糺無扨誤合之酒飯者格別、不用之酒飯相捨呑喰致候ハ、

六七九

見付次第老人前ニ過料^カ文宛可取事、

一、三月五月節句參宮都而悦物之儀者、五ヶ年之間無拋親類者格別、近縁たり共他人同様ニ致候様是迄相觸置候得共、近年亡却又者押隠シ、他人向^カ取締^ヲ取崩シ候道理ニ相成、已來親類之外悦物取遣し致者、見聞次第遣方受方共過料^カ貫文宛、尚又參宮之節足休ノ杯と酒飯相拵打寄候事、儉約中停止之事、

附リ、三月五月初節句座明重箱物親類限リ無用之事、

一、老人又者若輩者ニも已後口論応対手纏筋、都而違却之筋たり共、精々無音敷引合ニ而相片付候分ハ格別、不相濟節者役方江申出、意味相糺貫可申事、不依何事ニ前広ニ役方江不申儀大業ニ仕候ハ、忝人前ニ過料三貫文宛可取事、

一、部屋住之者親之目^ヲ掠作物取出し、内証ニ而売払候者之在之候趣ニ付、向後右躰之儀在之候ハ、見聞次第世話人并ニ過料^カ兩方共三貫文宛、若他領^カ入込買取候就世話致候もの之在之候ハ、其所村役人方江引合可申

事、

一、村方之者茶屋ニ而呑喰致候者間々在之、以後者一切致間敷事、若違背之者有之候ハ、過料^カ貫文宛、呑喰為致候者右同断之事、

一、年中伊勢講之儀者年兩度ニ相當、二月十五日、十一月十六日右兩度限リ、此外ニ一切致間敷事、尚又□事之儀も銘々勝手ニ致候而者、余分之責も相掛候ニ付、毎年三月十一日相定、半日仕舞之事、

一、諸寄進奉加帳都而他村^カ被願、又縁者^カ之願筋ニ而村方廻り候儀、儉約中五ヶ年之間一切相断可申事、

右ヶ条之儀都而言分詰^(ママ)応対ニ而茂相成候^(ママ)、就自然喧嘩口論等も出来候哉之儀ニ茂相心得候ハ、早速取締役方江申出、委細咄合相尋候ハ、毛頭依怙最負無之様真法之取斗可致候、

御取納并御鎮地所^カ被仰出候趣意者不及申、其外地法向之儀者方□仕舞之事、当役所之者情々^(情々)取斗仕事柄ニ寄、手余候筋合之儀、三方役人立合申談、其上取斗可申度、

一、已來他領向キ不依何衷、三方役人惣代ニ而罷出、精々始末可致事、老若共万事思案ニ不叶儀者前々当役方江相談可申衷、違背仕都而利不尽ニ無躰之事仕出し候ハ、過料前同斷之事、

一、用水之節水仕向ケ之儀者、村役人差図之通り番役之始末ニ任セ、始法之可致事、

一、婚禮水悅之儀者一切不相成、万一不法之者在之候而右様ニ相誓候者在之候ハ、過料壹人前ニ壹ノ文宛、

尚又村方葬式之節、役方方当人江相談之上、分限相応

ニ致、野菜其外買物入用之品外無益之品物者勿論、儉約第一ニ致、相互之儀ニ付、役方之当人家内下宿至迄見廻リ、無益之費致候衷見附候ハ、三方役人相糺方有之候ニ付、役方方差図之通り相守可申事、

一、他所方參リ候下男下女不□道之儀不仕様平生可申聞事、万一下人違背致役界筋相掛候ハ、其主人方仕舞可

致事、

一、諸規進物實非人等之儀者、番人半助江申附、取締不

変様為致候事、

右之条々堅相守可申衷

嘉永三年戊正月改

三方役人

○御勸学料銀拝借並返上之事

嘉永三年十二月

(天図近世文書)

奉拝借御勸学料銀之事

一、保字銀合壹貫目也 御利足月壹歩之御定

右者

御公儀様御代々御勸学料銀速ニ被為御貸附、永代御法會御修行御座候様御支配宮様御下知銀之内奉拝借候処実正明白御座候、然上御返上納儀者来亥十二月五日限り、如何様之新儀難洩出来仕候共御日限之通、元利無遲滯急度御返上納可仕候、為其御銀為御引当、

字石田

一、上田四畝

高六斗四升

此有畝式反四畝

右之質物吟味仕、判人共方江請取置候上者、自然本人

不埒難洩出来仕候共相殘連印之者共、右質物引受銀子ヲ以急度御返上納可仕候、尤御法会御修行料之御儀御座候得者、元銀者勿論村利分茂一向欠減仕間鋪候、為後証奉拝借証文依而如件、

高市郡曲川村拝借人

久 助

嘉永三庚戌年十二月

引受人 善右衛門

年寄 源 治 郎

〃 權 兵 衛

庄屋 喜右衛門

日光御役寺談山

両御執行代様

右之銀子本証文之通奉拝借候処実正明日也、

宮様御下知銀之外御公儀様御名目銀等一切拝借無御座

候、勿論地頭用ニ而茂無御座、銘々共要用ニ紛無御

座候、万一本人不埒難洩出来仕候節者、連印之者共

右質物引受、銀子ヲ以証文之通急度御返上納可仕

候、為後証奉拝借証文依而如件、

嘉永三庚戌年十二月

高市郡曲川村拝借人

久 助

引受人 善右衛門

年寄 源 治 郎

〃 權 兵 衛

庄屋 喜右衛門

口入 弥 四 郎

日光御役寺談山

両御執行代様

○異国船渡来出役夫ニ付願上書

嘉永六年十月三日

(天図近世文書)

乍恐書附ヲ以奉願上候

一、江戸表近海江異国船渡来ニ付、此後万一渡来之節者

從御公辺御沙汰次第御殿様ニも御出張ニ相成、其節御

供又者御用向ニ付、御知行所ニ而夫役人足御高百石ニ

付三人宛御定之所、格別之思召ヲ以百石ニ付式人宛、

十五方四十才迄之者相撰置、江戸表方御沙汰次第差立

候様被仰渡恐入奉畏候得共、番百姓之内ニ而右人数差出候而者農方荒作ニ茂相成、甚難波仕候ニ付、右被仰出候夫役人足ハ乍恐御買上ケニも相成候様、左候得者御買上給銀可奉差上之所、近来水難又者昨年当年引続凶作ニ取合セ、乍恐兩様共甚難波仕候ニ付、何卒格別之御憐愍ヲ以、右人足御買上、給銀半銀丈者御沙汰次第ニ奉差上候間、前段之誤合厚く御憐察被為成下度、此段御願奉申上右御聞届被為成下候ハ、難有奉存候、已上、

嘉永六年丑十月三日

曲川村

年寄 源次郎[㊦]

年番 堀 久 助[㊦]

同 井上権兵衛[㊦]

庄屋 北棗喜右衛門[㊦]

御地頭様

┌

○綿作不凶ニ付田葉粉作御願状

嘉永六年十月三日

(天図近世文書)

金橋地区

乍恐御願奉願上候

一、当年早魃ニ付、御出役之上作方御檢分被為成下、格別之御憐愍ヲ以御用拾米被為下置候ニ付、難有奉頂載候、然ル所是迄雜毛作御差留ニも被仰付、恐入奉畏罷有候処、近年来綿作方引続不作仕、甚難波ニ付御差留被仰付候義ニ者御座候得共、綿方打続凶作ニ而実以迷惑仕候ニ付、向後田葉粉作之義者格別之憐愍ヲ以、綿方同様ニ被為成置度、左候得共百姓共一流融通為方ニも相成候義ニ付、幾重ニ茂御頼奉願上候、

右御聞届被為成下候ハ、難有奉在候、以上、

曲川村

嘉永六年 年寄 源治郎[㊦]

丑十月三日 年寄 堀 久 助[㊦]

” 井上権兵衛[㊦]

庄屋 北松嘉右衛門[㊦]

御地頭様

┌

六八三

○春日若宮御祭礼ニ付請合証文

嘉永六年十一月

(天図近世文書)

御請合申証文之事

一、春日若宮御祭礼ニ付、当年之御掛ケもの一式并渡リ之節、人馬共御定之通ニ而、私迄請負被仰付奉畏候、然ル上ハ右掛もの人足馬共決而差支不為仕、急度御用相勤可申候、依而御請合申証仍如件、

嘉永六丑年十一月

北袋町

八百屋庄

吉^印

椿井町

山城屋庄

七^印

曲川村

庄屋久

助様

同 惣

八様

┌

○若キ者共心得違ニ付御詫一札

嘉永七年十二月二十二日

(天図近世文書)

乍恐御詫奉申上候

一、村方ニ嫁取聳取之節ニ若キ者共水悦び杯と致候ニ付、毎々村役人方取締りも在之候ニ付、相慎ミ申聞セ置候得共、去ル十七日助七郎方江聳引取為近付之足洗被いたし候ニ付、若キ者共打寄水祝杯ト申掛ケ、心得違致候ニ付、村役人も出帳^取リ被下候所江、御上様^{モカ}江御聞掛ケニ相成候ニ付、御苦勞様ニ御出役被為成下、御呵ヲ受、重々奉恐入候、右若キ者共心得違致候ニ付、何とも一言之申訳ケ無御座候、此度之儀ハ何卒厚ク御慈悲ヲ以御赦免被為成下度、組頭一統連印ヲ以御詫奉申上候、以来者右様之心得違無之様申聞、急度相慎ミ可申候、偏ニ御詫奉申上候、

右之趣御聞濟被為成下候へハ、広太^大之御慈悲難有仕合奉存候、以上、

嘉永七寅年十二月廿二日

曲川村組頭

権三郎^印

(以下十名連印、略)

年寄 源治郎

年番 久助

権兵衛

庄屋 喜右衛門

御役所様

○曲川村納銀之事

万延元年十二月廿一日

申年納銀之事

(天図近世文書)

藤堂主馬殿 知行

藤堂次郎殿

大和高市郡 曲川村

高三斗七升五合 高四ツ取
一、米 壹石五斗五升

一、米 三斗五升九合四夕

藪役

小以米 壹石九斗九合四夕

此銀 三百三拾九匁九分四厘

一、米 五升七合

口米

金橋地区

此銀 拾匁四分三厘三毛

合銀 三百五拾目三分七厘三毛

右小物成銀上納ニ付請取候、以上、

大津御役所

万延元年十二月廿一日

葉山順右衛門

(以下欠)

○宮座約定記

明治十八年八月十四日

(新堂・堀部卓治文書)

宮座約定記

宮座中堅定之事

一、座中心得之義近年座席追々乱ニ相成候処今般明治十八年八月十四日改正仕候事

第一条

一、養子入席料之儀者現米該年ニシテ七升五合該年ニシテ七升五合都合式ケ年ニシテ壹斗五升可相納候事、

第二条

一、新宅入席料之義者現米該年ニシテ壹斗後年壹斗都合式ケ年ニシテ式斗可相納筈之事、

二、座席老年至ル迄座席退座不可致候事、

第三条

一、座席老年至ル迄座席退座不可致候事、

第四条

一、座中之内他所江出宅仕候処、他所ヨリ帰宅相成迄座中出席相不成、若一代ノ内帰宅仕候ハ座中連入可致候事、

第五条

一、分家ノ義者実兄弟(姉)姉妹其他之者入席禁製之事(制)、

第六条

一、新分家ノ儀者座中入席後五ケ年未滿ノ内ニ当屋相勤メ可候事、

今般前記載之通現米納方之儀ハ、年行衆ト当屋トヘ可

相納、若万一式ケ年限リニ至リ現米不納ノ節ハ座席連入不相成、右之堅定可相守候依テ座中一統連署仕候事、

明治十八年

西八月十四日改之

安田宗次郎

西川助七郎

西川清八郎

辻久吉

新口甚次郎

徳村徳平

西川彦四郎

松村甚吉

小川平四郎

安田幸四郎

綿井源三郎

高橋孫七郎

小川伊十郎

堀内喜平次

小川長三吉

綿松弥八郎[㊦]
 西川安平[㊦]
 大川藤五郎[㊦]
 森本善五郎[㊦]
 新口弥市郎[㊦]
 竹村彦平[㊦]
 植田源四郎[㊦]
 (姓名抹消)
 増井市五郎[㊦]
 吉田卯次郎[㊦]
 西川榎造[㊦]
 安田幸次郎[㊦]
 植田善造[㊦]
 中川嘉十郎[㊦]
 西川勘三郎[㊦]
 森本定吉[㊦]
 野田奈良松[㊦]
 吉田伊三郎[㊦]
 栗木弥平[㊦]

座中人数

総計四拾三人

年行

西川清八
 新口甚次郎
 安田宗次郎
 宮座連中

小川兵次郎[㊦]
 竹村浅次郎[㊦]
 新口弥次郎[㊦]
 駒井善三[㊦]
 今中重三郎[㊦]
 松村善四郎[㊦]
 (森九)
 □本伝 □[㊦]
 (姓名抹消)
 安田庄九郎[㊦]
 綿松捨松[㊦]